

# SAP01E

## SAP eAcademy 基礎課程

日付 \_\_\_\_\_  
会場 \_\_\_\_\_  
講師 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
Web サイト \_\_\_\_\_

受講者用ハンドブック  
コースバージョン: 62



*An SAP course - use it to learn, reference it for work*

## 著作権

著作権 © 2003 SAP AG. All rights reserved.

本書のいかなる部分もSAP AG の明確な許可なく複製、転記を行うことは形態を問わず禁じられています。本文書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。

SAP AG、またはその販売代理店が販売するソフトウェア製品には、他のソフトウェア会社が所有権を有するソフトウェアコンポーネントが含まれています。

## 商標

- Microsoft®、WINDOWS®、NT®、EXCEL®、Word®、PowerPoint® および SQL Server® は、Microsoft Corporation の登録商標です。
- IBM®、DB2®、OS/2®、DB2/6000®、Parallel Sysplex®、MVS/ESA®、RS/6000®、AIX®、S/390®、AS/400®、OS/390® および OS/400® は IBM Corporation の登録商標です。
- ORACLE® は、ORACLE Corporation の登録商標です。
- INFORMIX®-OnLine for SAP および INFORMIX® Dynamic ServerTM は、Informix Software Incorporated の登録商標です。
- UNIX®、X/Open®、OSF/I®、Motif® は Open Group の登録商標です。
- Citrix®、Citrix のロゴ、ICA®、Program Neighborhood®、MetaFrame®、WinFrame®、VideoFrame®、MultiWin®、およびその他の Citrix 製品名は Citrix Systems, Inc. の登録商標です。
- HTML、DHTML、XML、XHTML は、Massachusetts Institute of Technology、World Wide Web Consortium W3C® の商標または登録商標です。
- Java® は、Sun Microsystems, Inc. の登録商標です。
- JAVASCRIPT® は Netscape の開発および実現技術をライセンスを受けて使用した Sun Microsystems, Inc., の登録商標です。
- SAP、SAP のロゴ、R/2、RIVA、R/3、ABAP、SAP ArchiveLink、SAP Business Workflow、WebFlow、SAP EarlyWatch、BAPI、SAPPHIRE、マネジメントコックピット、mySAP.com のロゴ、および mySAP.com は、ドイツおよび世界各国における SAP AG の商標または登録商標です。本文書に記載されたこれ以外の各製品は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

## 免責事項

これらのマテリアルは、'現状のまま' 提供されるものであり、SAP は、これらのマテリアルとサービス、情報、テキスト、グラフィック、リンク、およびここに記載された他のすべてのマテリアルと製品に関し、限定されない製造物責任と特定の目的への適合性の保証を含め、明示か默示かを問わず、いかなる保証もいたしません。これらのマテリアルまたは含まれるソフトウェアコンポーネントの使用により発生した、無制限の営業利益の損失や不利益を含め、いかなる種類の直接損害、間接損害、もしくは特別の損害、偶發的損害、懲罰的損害についても、一切の責任を負わないものとします。

# 使用上の注意

このハンドブックは、このコースにおける講師の説明を補足することを目的としています。このハンドブックは自習用に作成されたものではありません。

## 凡例

このガイドで使用する書体の凡例を以下に示します。

| 書体             | 説明   |
|----------------|--|
| サンプルテキスト       | 画面上に表示される語や文字列。これらのテキストには、項目名、画面の表題、押ボタン、メニュー名、メニューパス、およびオプションが含まれます。<br>これらのテキストは、他の文書へのクロスリファレンスとして内部的(この文書中)にも、外部的(SAPNetなどのほかのロケーションなど)にも使用されます。 |
| サンプルテキスト       | 本体テキスト、グラフィックの表題、および表における強調された語または語句。  |
| EXAMPLE TEXT   | システムにおけるエレメント名。本体テキストで囲まれた場合、プログラミング言語の各キーワード(SELECT、INCLUDEなど)や、レポート名、プログラム名、トランザクションコード、テーブル名などが含まれます。   |
| Example text   | 画面出力。ファイルやディレクトリ名とそのパス、メッセージ、変数名やパラメータ、およびプログラムのソーステキストの一部などが含まれます。  |
| Example text   | 正確なユーザエントリ。これらの語や文字は、文書で表示されているとおりシステムに入力します。  |
| <Example text> | 可変のユーザエントリ。括弧<>は、その中の語および文字が適切なエントリで置き換えられることを示します。  |

## 本文で使用される記号の凡例

このハンドブックでは次のアイコンが使用されます。

| アイコン | 凡例                   |
|------|----------------------|
|      | 追加情報、ヒント、または背景説明     |
|      | 前述の注記または追加説明         |
|      | 例外または注意事項            |
|      | 手順                   |
|      | 講師のプレゼンテーションで表示される項目 |

# 内容

|                                   |     |
|-----------------------------------|-----|
| コースの概要 .....                      | vii |
| コースの目標 .....                      | vii |
| コースの目的 .....                      | vii |
| 1 章: 概要 .....                     | 1   |
| SAP: 会社概要 .....                   | 2   |
| 製品概要 .....                        | 14  |
| 2 章: ナビゲーション .....                | 37  |
| SAP システムへのログオン .....              | 38  |
| SAP システムでのナビゲーション .....           | 42  |
| ヘルプの使用とユーザインターフェースのパーソナライズ .....  | 54  |
| 3 章: システム共通のコンセプト .....           | 69  |
| システム共通のコンセプト .....                | 70  |
| 4 章: ロジスティクス .....                | 87  |
| ロジスティクス概要 .....                   | 89  |
| 販売管理 .....                        | 93  |
| カスタマリレーションシップマネジメント .....         | 103 |
| 生産 .....                          | 119 |
| サプライチェーンマネジメント .....              | 127 |
| 調達 .....                          | 138 |
| サプライヤリレーションシップマネジメント .....        | 146 |
| その他のプロセスとプロダクトライフサイクルマネジメント ..... | 156 |
| 5 章: ファイナンシャルズ .....              | 189 |
| ファイナンシャルズ .....                   | 190 |
| 6 章: ヒューマンキャピタルマネジメント .....       | 211 |
| ヒューマンキャピタルマネジメント .....            | 212 |
| 7 章: 分析および戦略的計画立案 .....           | 235 |
| レポート、分析、および戦略的計画立案 .....          | 236 |
| 8 章: SAP NetWeaver .....          | 255 |
| SAP NetWeaver: 概要 .....           | 256 |
| ピープルインテグレーション .....               | 265 |

|                                  |            |
|----------------------------------|------------|
| インフォメーションインテグレーション .....         | 280        |
| プロセスインテグレーション .....              | 291        |
| <b>9 章: カスタマサービスネットワーク .....</b> | <b>303</b> |
| SAP サービス .....                   | 304        |
| <b>目次 .....</b>                  | <b>329</b> |

# コースの概要

SAP01E はすべての SAP コースの前提条件となるコースです。SAP01E の目的は、受講者に SAP のソリューション、アプリケーション、コンポーネント、用語に関する基礎知識を提供することです。このコースは概要コースであるため、SAP アプリケーションおよびコンポーネントの詳細については後続のコースで扱います。

## 対象グループ

このコースの対象者は、以下のとおりです。

- SAP 導入の企画および計画に関わるプロジェクトチームメンバー
- SAP のソリューションおよびアプリケーションコンポーネントに関する基本知識を身につけたいと考える SAP ビギナー

## コース受講のための前提条件

### 前提条件

- Microsoft Office およびインターネットブラウザの操作に関する知識

### 推奨条件

- ビジネスプロセスに関する知識

## コースの目標



このコースの目標は、以下のとおりです。

- SAP で使用する用語の説明
- SAP のビジネスソリューションの背後にある概念についての説明
- より詳細な SAP コースを受講するために必要な SAP 基礎知識の説明

## コースの目的



このコースの目的は、以下のとおりです。

- SAP ソリューションの範囲の識別
- より詳細な SAP クラスへの参加
- SAP 用語の有効な使用



# 1 章

## 概要

### 章の概要

この章では、SAP の会社概要および SAP が提供する製品とアプリケーションについて説明します。



### 章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- SAP のマイルストーンと沿革についての説明
- SAP が提供する製品の説明
- SAP の中核をなすアプリケーションの紹介
- ERP システムの概念と歴史の解説
- アプリケーションとコンポーネントとの相違の説明

### 章の内容

|                      |    |
|----------------------|----|
| レッスン: SAP: 会社概要..... | 2  |
| レッスン: 製品概要 .....     | 14 |

# レッスン: SAP: 会社概要

## レッスンの概要

このレッスンでは、SAP の沿革と企業としてのマイルストーンについてとりあげます。



## レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- SAP のマイルストーンと沿革についての説明

## ビジネスシナリオ

SAP の沿革に興味を持っているとします。

## SAP 会社沿革

**1972:** IBM の 5 人の元従業員、Hasso Plattner、Dietmar Hopp、Claus Wellenreuther、Klaus Tschira、および Hans-Werner Hektor が SAP (Systems Analysis and Program Development) という会社を設立しました。設立のビジョンは、リアルタイムのビジネスプロセスのための標準アプリケーションソフトウェアを開発することでした。私企業で、会社の本社はドイツの Weinheim、メインオーフィスはすぐ近くの Mannheim にありましたが、5 人の創始者はほとんど顧客のコンピュータセンタ (Östringen にある ICI など) にいました。最初のソフトウェアプログラムは、主として夜間や週末に作成されました。最初の事業年度末の時点で、すでに 9 名の従業員がおり、売上高は DM 620,000 でした。

**1973:** 最初の財務会計ソフトウェア RF システムが完成しました。このソフトウェアは、R/1 システムとして知られるソフトウェアコンポーネント開発の基盤となりました。Lahr のタバコメーカー Rothändle や Ludwigshafen の製薬会社 Knoll など、地方の新規顧客が SAP ソフトウェアを導入するようになりました。これらの新規顧客は IBM コンピュータと DOS オペレーティングシステムを使用していました。

**1974:** SAP がその柔軟性を最初に示した年です。8 週間の間に RF システムは DOS から OS に変換されました。照会先リストにはすでに 40 社が記載されていました。

**1976:** 販売とマーケティングの有限会社として、SAP GmbH Systeme, Anwendungen und Produkte in der Datenverarbeitung (Systems, Applications, and Products in Data Processing) を設立しました。5 年後の 1981 年、1972 年に設立した私企業 (Systems Analysis and Program Development) を解散し、その権利を SAP GmbH に移転して現在の社名 (Systems, Applications, and Products in Data Processing) を付けました。従業員数は 25 名、売上高は DM 381 万になっていました。

**1977:** 本社を Weinheim から Walldorf に移転しました。2 社のオーストリア企業が SAP ソフトウェアの導入を決定し、SAP は初めてドイツ国外の得意先サイトにシステムを導入しました。SAP は実際の販売管理をサポートするために再編成されました。

**1979:** SAP は最初の自社所有サーバ Siemens 7738 を使用し始めました。それまで、SAP 従業員は各企業のデータセンタですべての開発作業を行っていました (ICI、Thermal、Knoll、Grünzwig + Hartmann、Freudenberg など)。SAP の最初の "開発センタ" はまだ賃貸スペースにありました。本社ビル建築作業の第一段階がすでに進行中でした。IBM のデータベースおよびダイアログ制御システムとの徹底的な取組が SAP ソフトウェアの新しいアプローチの推進力となり、**SAP R/2** が誕生しました。

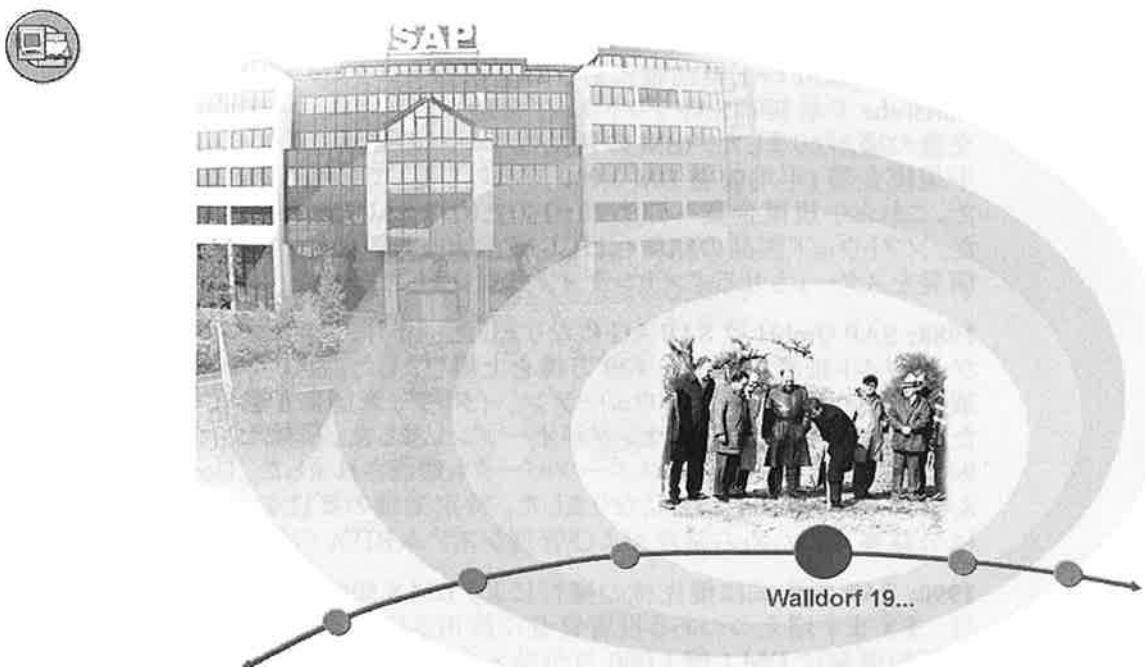


図 1: SAP: 5人の元 IBM 従業員によって 1972 年に設立

**1980:** SAP は Walldorf の工業団地の Max-Planck-Strasse にある最初のビルに移転しました。ソフトウェア開発分野と 50 台のコンピュータは、ついに 1 か所に集結することになりました。新しいデータ処理インフラストラクチャも構築されました。Siemens 7738、IBM/370-148 が導入され、その年の終わりにはより高性能の 4341 に取り替えられました。この IBM モデルのメモリは 4 MB でした。製品のパレットも増加しました。RV オーダー処理ソフトウェアが製品範囲に追加されました。

**1982:** SAP は 10 周年を迎きました。オフィスはすでに手狭になっていたため、最初のビル増築が行われました。ドイツ、オーストリア、スイスの 250 を超える企業が SAP ソフトウェアを導入していました。従業員数は 100 名で、収益は約 DM 2,400 万に達しました。創始者の 1 人が会社を去りました。

**1984:** SAP は 48 名の新規従業員を採用しました。この人員増強は、特に SAP モジュール (RK, PPS, RP) の開発のために行われました。SAP (International) AG をスイスの Biel に設立しました。その目的は、この場所を拠点として国際市場に取り組むことでした。この時点で、従業員数は 163 名、収益は DM 4,600 万でした。

**1986:** オーストリアに最初の子会社を設立しました。ドイツ Düsseldorf の近く Ratingen に最初の支社も設立しました。資本金を DM 500,000 から DM 5,000,000 に増資しました。従業員が増えたため、各部門マネージャのもと、複数の組織ユニットに細分化されました。新しい金融規制によりオーダーが殺到し、SAP 資産会計ソフトウェアは約 100 件の新規オーダーを受けました。3 年の開発期間の後、SAP は新しい人事管理ソフトウェアを世に送り出しました。ドイツ Hanover で開催された CeBIT ソフトウェア見本市に、初めて出品しました。収益は、当初の見込よりも早く DM 1 億を記録しました。

**1987:** Walldorf の工業団地にある SAP 研修センタでの研修が始まりました。Karlsruhe で最初の SAP ソフトウェア会議が開催され、ユーザと関係者の情報交換の場となりました。IBM の新世代サーバの登場により、SAP ソフトウェアは中規模企業 (平均収益 DM 3,000 万から 2 億) でも利用できるようになりました。これら中規模企業へのサポートのために SAP Consulting が設立されました。ソフトウェア製品の標準化は、SAP にとって新世代ソフトウェア SAP R/3 の開発をスタートさせるインセンティブになりました。

**1988:** SAP GmbH は SAP AG になりました。10 月、フランクフルトおよびシュツットガルト証券取引所に 120 万株を上場しました。SAP の国際ビジネスは発展を遂げ、デンマーク、スウェーデン、イタリア、米国に子会社が設立されました。Walldorf に国際研修センタがオープンしました。研修センタには、SAP の 940 名の従業員のためのスポーツパークも建設されました。Dow Chemicals が SAP の 1000 番目の顧客になりました。特定業種の要件を満たすために、SAP は公益事業のための請求および管理システム RIVA の開発を開始しました。

**1990:** SAP の株式は優先株の発行により DM 8,500 万に達しました。増資分は、ますます増えつつある投資資金に流用されました。R/2 の追加開発と R/3 の新規開発に DM 1 億 1,000 万が投入されました。この時点で、従業員数は 1700 名を超え、収益は DM 5 億を超えました。

**1991:** SAP は Hannover の CeBIT に初めて R/3 システムを出品しました。R/3 システムは、クライアント/サーバコンセプト、統一されたグラフィックインターフェース、リレーショナルデータベースの一貫した使用、さまざまなプロバイダからのコンピュータの実行により、圧倒的な賞賛を受けました。収益と従業員数は増え続け、この年の終わりには、従業員数はドイツ国内と子会社に 2685 名、収益は DM 7 億 700 万になりました。

**1992:** 選択したパイロット顧客への導入に成功した後、SAP R/3 は一般市場に投入されました。これは、SAP の新しいステージの幕開けとなりました。20 周年を迎える、SAP は R/3 の高い期待導入数量に伴ってパートナ戦略を強化し、独立したコンサルティング会社が R/3 の導入をサポートするようになりました。

**1995:** SAP はドイツ国内で、システム再販業者と協力して、中規模企業への売上高を伸ばしました。米国企業 Burger King, Inc. が 1000 番目の人事管理ソフトウェアの顧客になりました。Microsoft も SAP を使用し始めました。その後すぐに、ドイツの *Manager-Magazin* がカンパニーオブジイヤーに SAP を選びました。Deutsche Telekom AG が R/3 を導入しました。30,000 台の R/3 ワークステーションが導入され、SAP 史上最大の契約となりました。

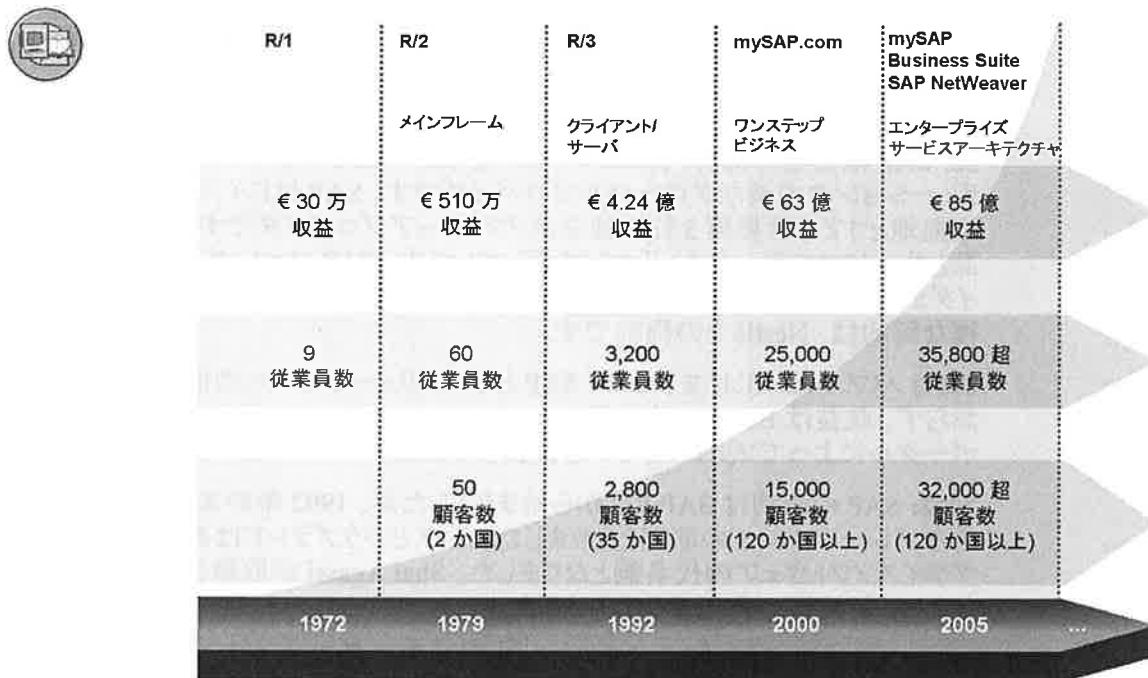


図 2: SAP の継続した成長

**1996:** SAP と Microsoft はインターネット共同戦略を発表しました。世界最大のソフトドリンクメーカー Coca-Cola が SAP R/3 の導入を決定しました。SAP の顧客イベント数は新記録を樹立しました。Vienn で開催された European SAPPHIRE '96 には 4,300 人の顧客および関係者が訪れて SAP の製品および戦略に関する情報に触れ、American SAPPHIRE には 8,000 人を超える参加者が訪れました。SAP はこの年、*Manager-Magazin* によって 3 度目のカンパニーオブジイヤーに選ばれました。

**1997:** SAP は 25 周年を迎えました。公式祝賀会にはドイツ首相 Dr. Helmut Kohl も列席しました。税引前利益は、初めて 10 億 DM を超えました。Daimler-Benz や General Motors などの顧客が SAP R/3 の導入を決定し、SAP 製品を使用するユーザは全世界で 2 百万人を超えるようになりました。

**1998:** SAP の 2 人の創始者 Dietmar Hopp と Klaus Tschira は、取締役会を去り、監視委員会に移行することを発表しました。Dietmar Hopp は会長を引き継ぎました。Hasso Plattner と Henning Kagermann は取締役会の共同会長に任命されました。8 月より、SAP の株式はニューヨーク証券取引所でも買えるようになりました。

りました。Los Angeles で開催された第 10 回 SAPPHIRE USA には 15,000 人を超える参加者が訪れました。主要議題は “EnjoySAP” でした。この年、世界中で 6,500 名の新しい従業員が SAP に加わり、従業員数が 50% 増加しました。

**1999:** 5 月に共同会長兼 CEO の Hasso Plattner が mySAP.com 戦略を発表し、SAP とその製品範囲の新路線の幕開けとなりました。mySAP.com は最新の Web テクノロジーを利用して e-コマースソリューションと既存の ERP アプリケーションを結びつけます。同年、Hewlett-Packard や製薬会社 Hoechst Marion Roussel など多数の mySAP.com ユーザを獲得しました。収益 EUR 51 億のうち 15% 近くが研究開発に使用されました。

**2000:** ユーザ 1,000 万人、導入数 36,000、パートナ 1,000、業種ソリューション 22: SAP は企業の境界内外のプロセスを統合する e ビジネスソフトウェアソリューションの主要なグローバルプロバイダです。SAP はドイツの Walldorf を本拠地とする、世界第 3 位の独立系ソフトウェアプロバイダです。絶え間なく製品とサービスのポートフォリオを拡張していく中、SAP はコンポーネントプロバイダからソリューションプロバイダへと変化しました。これまで締結した最も大規模な契約は、Nestlé との契約です。

**2001:** バブルははじけましたが、SAP とそのソリューションへの信頼は破綻しておらず、収益は EUR 73 億に達しました。SAP は TopTier 社を買収し、企業ポータルによってソリューションを拡張しました。

**2002:** SAP の成功は SAP R/2 から始まりましたが、1992 年の SAP R/3 は国際的なブレークスルーの原因となりました。SAP というブランドは高品質エンタープライズソフトウェアの代名詞となりました。Shai Agassi が取締役会のメンバに加わり、新技术の責任者になりました。

**2003:** 1 つの時代が終わりました。SAP 創始者の最後の 1 人 Hasso Plattner が取締役会を去り、監視委員会の代表に選出されました。1 月、SAP は mySAP Business Suite ソリューションの背後にあるコンセプトを発表しました。mySAP.com から mySAP Business Suite に名前が変わっただけでなく、新しい ERP ソリューション mySAP ERP が投入されました。上海にある SAP Labs China に、Walldorf 以外では 9 番目の開発拠点がオープンしました。インド、日本、イスラエル、フランス、ブルガリア、カナダ、米国にある研究センタは、SAP の IT 知識に貢献しています。

**2004:** エンタープライズサービスアーキテクチャは SAP NetWeaver 04 の最初のバージョンを送り出しました。この新しい統合とアプリケーションのプラットフォームの反響はすさまじいものでした。2004 年末までに、1000 以上の顧客がこの新製品を導入しました。合計では、120 か国以上で 24,000 を超える顧客が 84,000 の SAP ソフトウェアを実行しています。SAP はエンタープライズサービスアーキテクチャの将来について、年度中に SAP のすべてのエンタープライズアプリケーションがサービスベースになり、顧客に最大限の柔軟性を提供する予定であると発表しました。

## SAP AG の支社と子会社

SAP は開発センタ、研修センタ、サービス子会社のネットワークを持っています。たとえば、Palo Alto (米国)、Sophia Antipolis (フランス)、Bangalore (インド)、Tokyo (日本) など、世界各地に開発センタ (**SAP Labs**) があります。SAP は 50 か国以上に販売、コンサルティング、研修、サービスを担当する現地子会社があります。

米国には、Newton Square (Philadelphia)、Atlanta、San Francisco、Dallas など、多数の研修センタがあります。ドイツには Walldorf (Baden)、Berlin、Berlin、Ratingen (Düsseldorf) に研修およびコンサルティングセンタがあります。



図 3: 支社と子会社

**SAP Hosting AG & Co.KG** はドイツの St. Leon-Rot を拠点とする SAP AG の完全所有子会社で、グローバルに活動しています。Walldorf、Philadelphia、Palo Alto、Tokyo、Sydney、Singapore、Bangalore にも支社があります。SAP Hosting は、最新の SAP ソリューションへの迅速かつ有効なアクセスを可能にする、包括的なホストサービスを提供します。評価ホスト、導入ホスト、アプリケーションホスト、リモートアプリケーション操作、アプリケーション管理、ホストラーニングなどのサービスが、mySAP Business Suite ユーザの要件に合わせて最適にカスタマイズされます。

**SAP Manage** では、中小企業 (SMB) 向けに開発された製品 **SAP Business One** を提供しています。SAP Manage はイスラエル向けの製品も販売およびサポートしています。

**Steeb** は、中規模企業向け SAP システムのドイツの主要プロバイダです。企業の将来の課題に備えるための、高性能な ERP、e ビジネス、および業種固有ソリューションを提供します。Steeb は 1974 年以来、中規模企業を対象として SAP システムと自社製品 SC/400 両方の完全なソリューションを提供してきました。提供するプログラムには、ソフトウェア製品と対応するサービス(コンサルティング、導入、サポート)、ハードウェアとネットワークなどがあります。Steeb が対象とする業種は製造業、卸売取引、およびサービス業界です。Steeb の先進的なソリューション (as//) シリーズは、自動車サプライヤ、機材製造業者、金属、木材、プラスティック産業の注文仕様生産業者に事前設定された SAP ソリューションを提供します。

## SAP の従業員

SAP 独特の雰囲気は、来社したときに印象に残ります。初めて SAP を訪れた応募者は、なぜ SAP が評判がよいのかすぐに気づくはずです。従業員はフレンドリーでリラックスしており、社内のエネルギーッシュな雰囲気は、大学のキャンパスに入ったような気分になります。



図 4: SAP の従業員

## 模範的な企业文化

新しい従業員は、特別なオリエンテーションイベント、研修生プログラム、メンタリングコンセプトを通じて SAP ワールドに入っていきます。研修期間中、各従業員は実践的なガイダンスを受けることになります。SAP ではチームメンタリティが重要視されているため、すべての従業員は同僚を完全に信頼することができます。特に新しい従業員にとっては、経験豊富な同僚から与えられるヒントや情報が役に立ちます。

## 達成度オリエンテーション、創造性、革新

SAP の文化は、個人の自由を大幅に尊重します。この自由が、アイデアの創造および実現の動機付けとなり、発奮材料となります。創造的で革新的なコンセプトは、チーム内で常に歓迎され、新しいアイデアは応援されます。このような支援が、すべての従業員を勇気付け、チーム内および部門の境界を越えて生産性を向上させます。官僚主義やヒエラルキーによる制約が存在しないため、情報が必要な場所にすばやく行き渡ります。

## 人材開発による研修

SAP 従業員は、変化に柔軟に対応し、常に最新の情報を把握する必要性を認識しています。このため、個人の自主性は、会社の代表として責任感を持って行動することと同様に、当然のこととされます。この考え方が SAP 従業員の特徴となっています。SAP の文化では、フレキシブルな勤務時間を最大限に活かし、実行のインセンティブとして初期段階で責任を受け入れることがインセンティブとして捉えられています。

## 参照顧客およびパートナ

参照顧客とは、SAP ソリューションの導入を完了し、これから導入プロジェクトと本稼動操業を経験しようとしている顧客です。参照顧客への訪問、電話、プレゼンテーション、インタビューを通じて情報交換が行われます。



図 5: 参照顧客およびパートナ

SAP と関連ソフトウェアプロバイダとの協力により、SAP のビジネスソリューションとその他のアプリケーションシステムは円滑に対話することができます。

SAP のソフトウェアパートナプログラムにより、ソフトウェアプロバイダに定義済の標準インターフェースが提供されます。これらのインターフェースを使用して、SAP ソリューションに追加製品をシームレスに統合することができます。

SAP 製品の選択、導入、運用の各段階でサービスパートナーが顧客をサポートします。サービスパートナーは通常、長年の SAP 経験があり、SAP Alliance Partner Service と SAP Partner Service に属しています。パートナー企業は資格プロセスに参加して、特定の SAP 製品またはソリューションに対する知識や能力を証明し、Special Expertise Partner (SEP) ステータスを受けることができます。

## 社会との関わり

エンタープライズソフトウェアの世界的な主要プロバイダとして、SAP はビジネスプロセスの円滑性と透明性を確保する責任があります。その一方で、SAP は、顧客やパートナーに対する責任だけでなく、社会全体に対する責任も負っています。このことから、社会との関わりは SAP の企業戦力の重要な要素の 1 つとなっています。



図 6: SAP の社会との関わり

### 企業市民

SAP は、すべての人々に利益を与える生産的で透明性のある環境の創造に貢献したいと考えています。また、この目的を尊重するすべての社会組織とのパートナーシップと協力を奨励しており、社会的、学術的、文化的な活動に積極的に参加しています。

### 地域との関わり

"開発の促進 - イノベーションを通じて将来の好機を捉える。"このモットーのもとに、SAP は支社のある各地域の組織や産業をサポートしています。

### 政府との関係

SAP は適格なパートナーおよびアドバイザ、思想的なリーダー、開発リーダーとしての責任を真剣に受け止めています。それゆえに、SAP はカスタマフレンドリで、信頼性の高い、市場経済にもとづいた公正な国内外のプログラムをサポートしています。

### スポーツのスポンサーシップ

SAP のエンタープライズソフトウェアプロバイダとしての世界的なリーダーシップの理由は、スピード、正確さ、明確な結果です。このため、SAP は競争の激しいスポーツイベント、および所定の分野で一番になるという望みを応援しています。

## インターネットポータル

このレッスンの情報のほとんどは、SAP のインターネットポータルから取り込んでいます。詳細については、[www.sap.com](http://www.sap.com) にアクセスしてください。SAP の会社概要、製品、サービス、パートナに関する情報を参照することができます。



<http://www.sap.com>

図 7: [www.sap.com](http://www.sap.com)

ポータル内のメニュー パスは簡単にたどることができます。選択メニューから直接情報を見つけられない場合は、検索機能を使用することができます。

多くの顧客は、各地域のオファー や情報を母国語でも受け取りたいと考えています。顧客は、数多くの国固有の SAP ポータルから選択することができます。

ポータル内の数多くの領域から情報をダウンロードすることができます。製品内容説明を“ソリューション 詳細”または“ホワイトペーパー”として無料でダウンロードすることができます。

教育領域には、SAP が提供するトレーニングコースに関する情報と現在のトレーニングカタログがあります。受講しようと考えているコースのコース説明を照会することができます。得意先コードを持っている場合は、コースをオンライン予約することもできます。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- SAP のマイルストーンと沿革についての説明

## 関連情報

SAP パートナーの詳細については、[www.sap.com](http://www.sap.com) にアクセスしてください。ナビゲーションメニューからパートナーを選択します。

詳細については、インターネットサイト [www.sap.com](http://www.sap.com) → 会社概要、または [www.sap.com](http://www.sap.com) → SAP Community を参照してください。

## レッスン: 製品概要

### レッスンの概要

このレッスンでは、多岐にわたる企業に SAP が提供しているさまざまな製品、および企業規模に応じて提供している各種ソリューションについて学習します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- SAP が提供する製品の説明
- SAP の中核をなすアプリケーションの紹介
- ERP システムの概念と歴史の解説
- アプリケーションとコンポーネントとの相違の説明

### ビジネスシナリオ

社内に新しいソフトウェアを導入する必要があります。このため SAP が提供するソリューションおよび製品に関する情報を収集する必要があります。

### 製品

#### ERP (統合業務パッケージシステム) の歴史

1970 年代には、ERP (統合業務パッケージシステム) という概念はありませんでした。SAP は R/1 システムとして、プロセスデータをリアルタイムで処理し、中央のデータベースに保存するソフトウェア製品を開発しました。これにより、企業は自社のデータに迅速にアクセスし、管理および透明性を向上させることができました。

1980 年代になると、このようなシステムは標準 ERP システムと呼ばれるようになりました。SAP は、この領域で新分野を開拓し、市場のリーダーになりました。プロセスの統合化により、効率性が向上し、予期せぬ事態への対処の時間が減少しました。

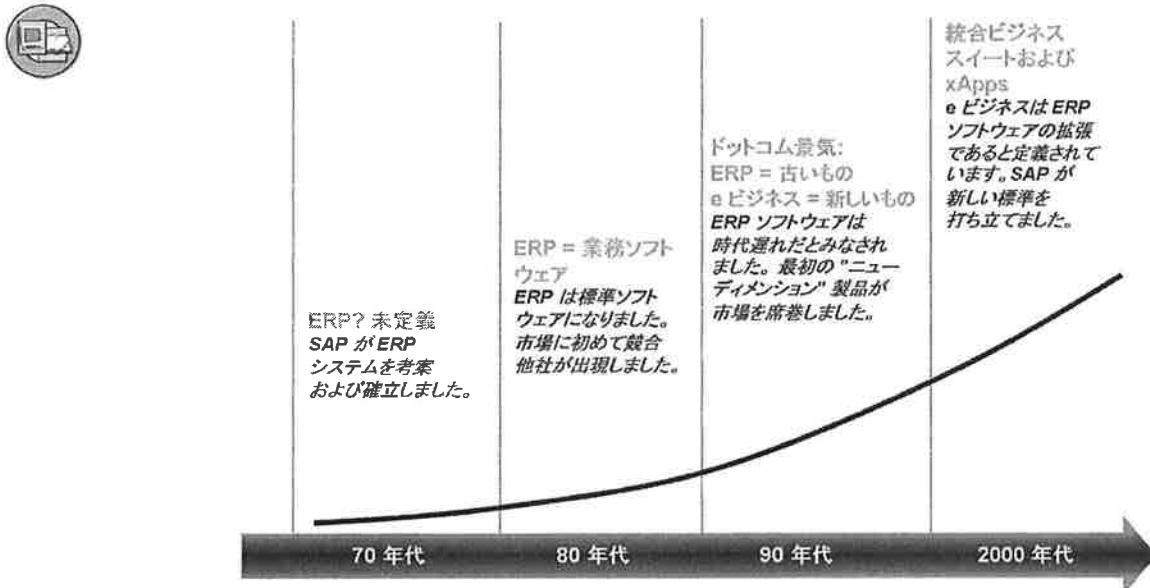


図 8: ERP システムの歴史

1990 年代には、インターネットの急速な発展が始まりました。新しい企業がインターネット向けの新しいアプリケーションを開発し“新しい経済”が発生しました。これらの企業は、“ドットコム”企業と呼ばれるようになりました。一般に、この種の企業は従業員数が少なくインターネット市場でのみ事業を運営しています。インターネットの成長により市場に変化がもたらされました。新しい顧客グループが定義され、新たな取引の手段が出現しました。企業間相互の直接取引が重視されるようになりました。この結果、企業の境界を超えて広がるビジネスプロセスが定義されました。企業のサプライチェーンの最適化にビジネスパートナの計画データが使用されるようになりました。受注は ERP システムに直接入力されるだけではなく、社外でもフィールドサービス要員がモバイルデバイスから入力できます。このような新しい機能から新しい製品が開発されます。このような“ニューディメンション製品”によって ERP 機能も拡張されました。

SAP では、インターネット購買 (SAP Enterprise Buyer)、カスタマーサービス (SAP Customer Relationship Management)、および包括的な計画機能 (SAP Advanced Planning and Optimization) などのシステムを開発しました。インターネットとは別に、企業の財務データには総合的な会計ツールが必要になりました。ERP システムのときとは異なり、データを単にデータベースに保存するだけでは済まなくなりました。これに応じるため、SAP では SAP 戦略的企業経営 (SEM)、および SAP Business Information Warehouse を開発しました。

2003 年初頭、SAP は ERP システムの概念を定義しなおしました。ERP システムは、データベースを備えたシステムという定義から、購買、販売および生産などの基本的なプロセスを処理する製品の結合するものであるという定義に変わりました。人事管理、会計管理およびベーステクノロジーの領域では、ニューディメンション製品の拡張ソリューションに対応します。この mySAP ERP ソリューションは、追加コンポーネントとの互換性があり、会社間レベルでのビジネスプロセスの定義を実現します。

## 製品概要

SAP はあらゆる規模の企業に適した、多様な製品を提供しています。規模に応じて調整でき、企業の絶え間ないプロセスの変化に対応できるスケーラブルな製品を提供しています。

**SAP Business Suite** は、企業のバリューチェーン全体を管理することができる包括的なビジネスアプリケーションファミリです。この一連のビジネスアプリケーションは、企業ネットワーク全体で一貫性のある結果をユーザーに提供するとともに、現代の変化の激しい市場状況に対応するための柔軟性を企業に提供します。SAP Business Suite は会社間プロセスを実現する多数の多様な製品で構成されています。

SAP Business Suite は、ユーザ数が多くプロセスが恒常的に変化しつづける、規模の大きな企業向けのフレキシブルなソフトウェアソリューションを提供します。

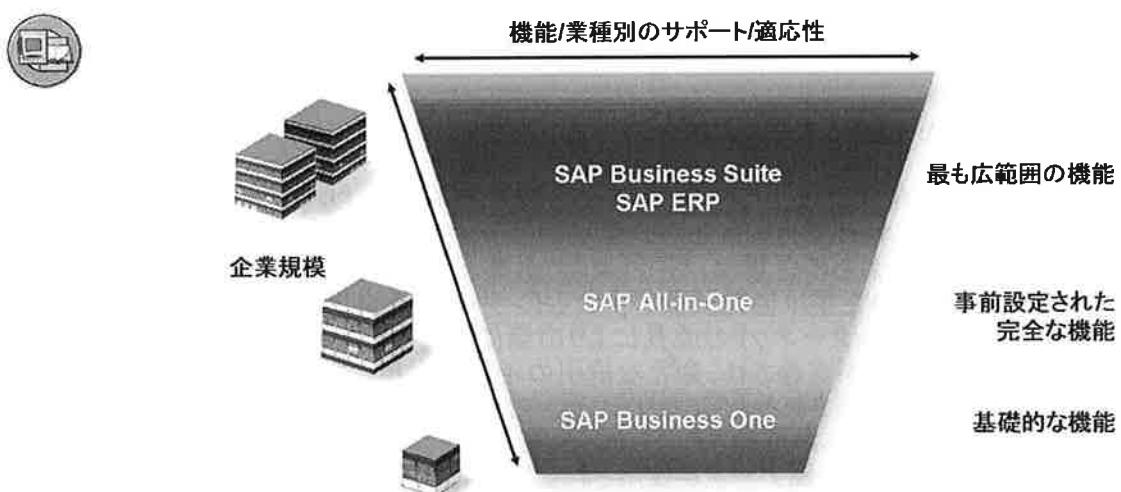


図9: 規模に応じたさまざまな製品

会計管理、人事管理およびロジスティクスは、すべての企業の心臓部分です。**SAP ERP** は、企業におけるこの非常に重要なビジネスプロセスすべてを対象とし、企業の本部および小規模な子会社の双方に対応した機能を提供します。SAP ERP はすべての企業に利益をもたらします。

ソフトウェアはすべて、各企業に合わせて調整する必要があります。少数の従業員でプロセスが比較的安定した小規模な企業では、事前設定された SAP システムを使用することができます。SAP All-in-One は、SAP Business Suite のテクノロジーを基盤とした垂直型(業種別または国別)ソリューションのブランド名で、SAP パートナとの協力で開発されています。SAP All-in-One のパートナソリューションはすべて、SAP の認定のもとに、SAP パートナによって提供および導入が行われます。

**SAP Business One** は、包括的な統合 ERP アプリケーションで、Microsoft Windows と同様のインターフェースを備えています。ナビゲーションおよびドリルダウンオプションの容易性、革新的なドラッグ & ドロップ機能、Microsoft Word および Excel との統合などで特徴づけられます。

## SAP アプリケーション

SAP Business Suite は、個別の SAP アプリケーションで構成されます。アプリケーションのそれぞれに独自の対象エリアがあり、各アプリケーションがその対象エリアを柔軟かつ包括的な方法でマッピングする機能を備えています。これらのアプリケーションは、SAP Business Suite としてまとめて、または個別にお買い求めいただけます。すべてのアプリケーションが SAP NetWeaver テクノロジープラットフォームを基盤にしています。SAP NetWeaver は、IT ランドスケープ全体の TCO (総所有コスト) を削減し、サービスベースのアーキテクチャへの SAP Business Suite の進化を促進する統合およびアプリケーションプラットフォームです。

## アプリケーションとコンポーネント

SAP アプリケーションは、プロセスと機能をビジネスプロセスの観点から表現しています。

アプリケーションとは、お客様から見た SAP の製品です。この場合、アウトサイドイン (外→内) の視点で企業のプロセスを捉えています。一方、コンポーネントは、インサイドアウト (内→外) の視点で、ソフトウェアを技術的に見たときの表現です。コンポーネントは実際の企業ソリューションではなく、単なる技術的な構成単位です。SAP ソフトウェアには、これまでの事業から得られた経験、戦略およびノウハウが組み込まれています。柔軟かつ包括的な統合および調整機能を備えた SAP ソフトウェアから、パフォーマンスにすぐれた、業種別および全業種共通の e ビジネスマネジメントアプリケーションが生み出されます。

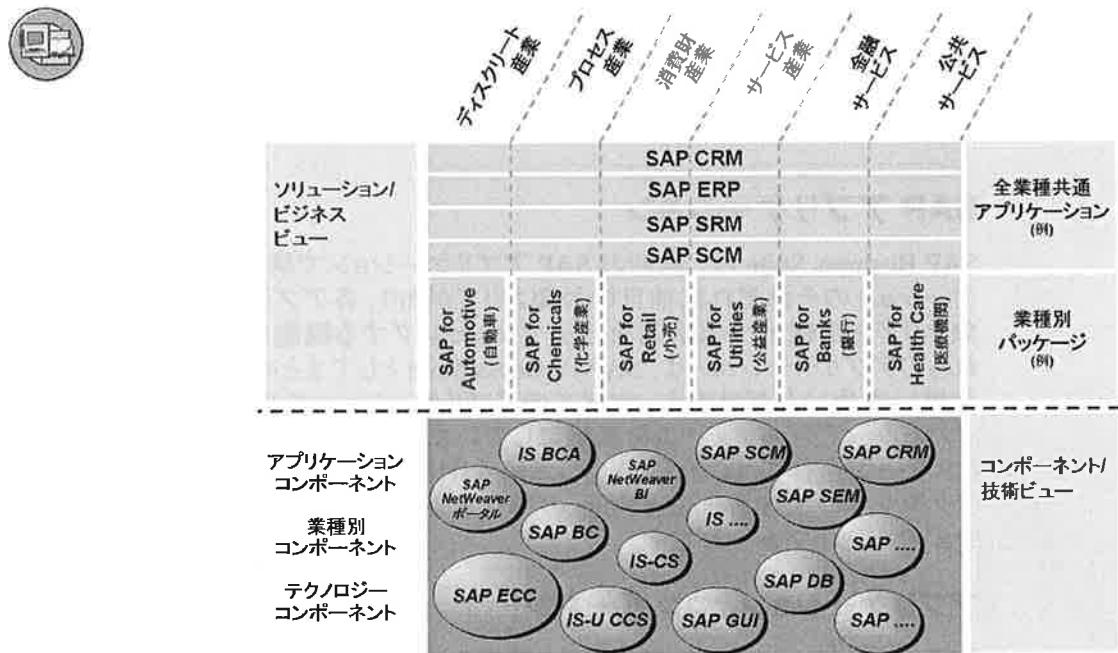


図 10: SAP アプリケーションと SAP コンポーネント

アプリケーションとコンポーネントを区別するため、アプリケーションは SAP {全業種共通アプリケーション} または SAP for {各業種/業種区分} という名称で呼ばれ、詳細な技術的表現であるコンポーネントには SAP という接頭辞が付きます。たとえば、SAP Customer Relationship Management (SAP CRM) をソリューションとして導入する場合、このアプリケーションの技術的な構成要素は、SAP ERP Central Component、SAP NetWeaver Portal、SAP NetWeaver Business Intelligence、および SAP Customer Relationship Management です。

### SAP NetWeaver

SAP のアプリケーションおよび統合のプラットフォームであり、SAP Business Suite、SAP 業種別パッケージ、および SAP xApps の技術基盤です。SAP NetWeaver は、完全でオープンかつフレキシブルなインフラストラクチャを備え、SAP および非 SAP コンポーネントを容易に統合することができます。

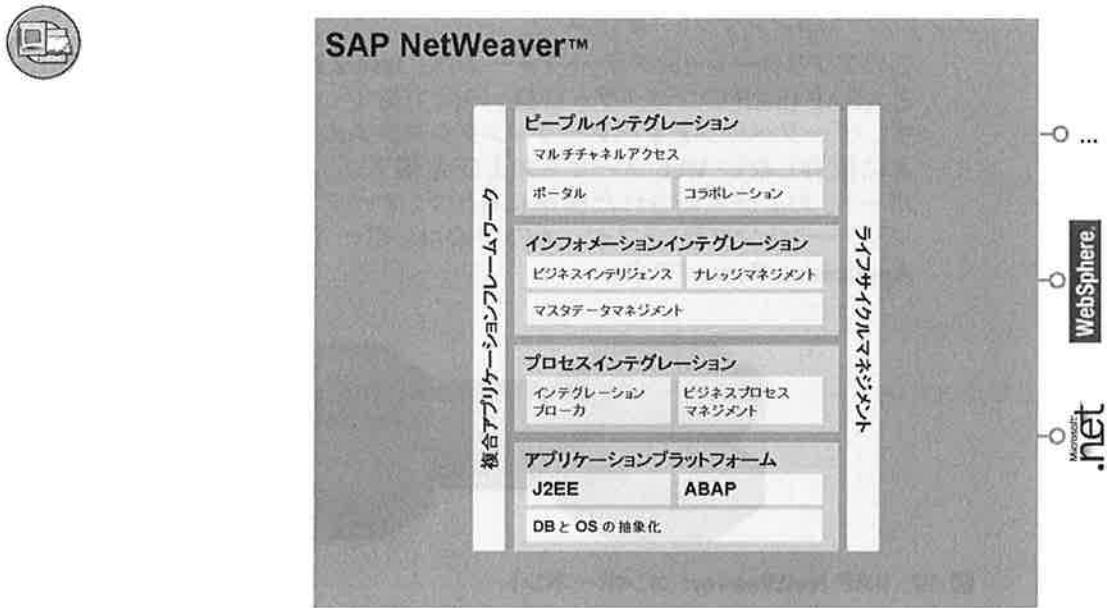


図 11: SAP NetWeaver

SAP NetWeaver は以下の 4 つの領域に分けられます。

#### ピープルインテグレーション

ピープルインテグレーション(人の統合)によって、従業員に、作業をできるだけ早く効率的に実行するために必要な情報と機能を確保することができます。ここでは SAP NetWeaver Portal の機能が中心的な役割を果たします。

#### インフォメーションインテグレーション

インフォメーションインテグレーション(情報の統合)は、企業に関連するすべてのデータの管理に使用されます。これには、自社のデータとサードパーティ関連のデータがあります。

#### プロセスインテグレーション

プロセスインテグレーション(プロセスの統合)では、異種システムランドスケープでのシステムの境界を越えたビジネスプロセスの実行が可能になります。これは、XML データパッケージやワークフローシナリオなどによって実現されます。ここでは、SAP NetWeaver Exchange Infrastructure (SAP NetWeaver XI) が中心的な役割を果たします。

### アプリケーションプラットフォーム

このアプリケーションプラットフォームは、Java 2 Enterprise Edition (J2EE) と ABAP (SAP のプログラム言語) の両方を 1 つの環境でサポートします。データベースとオペレーティングシステムの独立性、プラットフォームに依存しない Web サービスおよび企業アプリケーションの完全なサポート、および承認された標準にもとづくオープン環境を保証します。アプリケーションプラットフォームの中心コンポーネントは SAP etWeaver Application Server です。

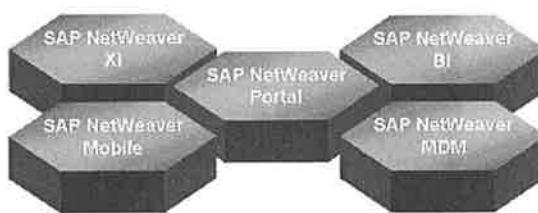


図 12: SAP NetWeaver: コンポーネント

### SAP ERP

今日は、組織内のビジネスプロセスの統合、合理化および透明性を保証することが従来になく重要になっています。SAP ERP は企業の管理および事業環境の統制の向上、および効率性と収益性の強化を実現します。さらに、収益発生までの期間の短縮および既存の IT 環境の活用をとおして、統合および展開のコストを削減します。

SAP ERP は、企業が必要な時点に必要なビジネス機能のみを導入できるようにし、アップグレードの単純化および総保有コストの軽減を可能にするように設計されています。

SAP は、SAP ERP により、他に先んじて ERP システムに新しい標準を示しました。このアプリケーションには、**SAP ERP Financials**、**SAP ERP Human Capital Management**、**SAP ERP Operations**、および **SAP ERP Corporate Services** ソリューションが組み込まれています。

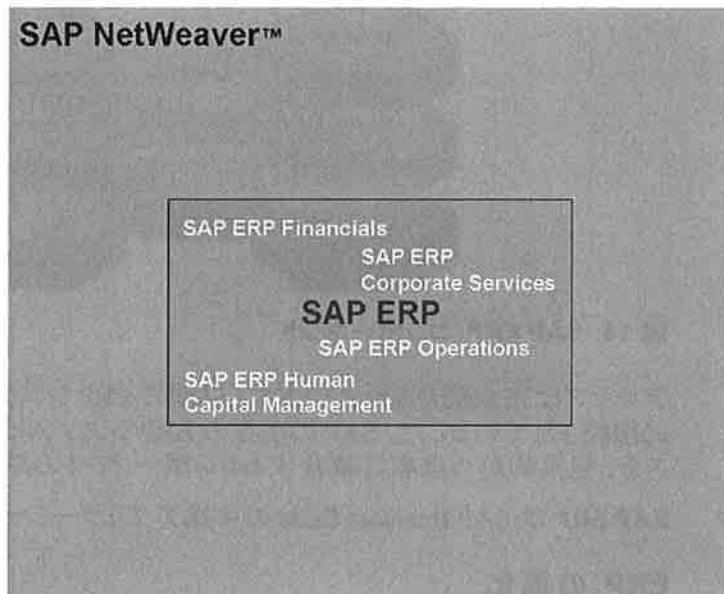


図 13: SAP ERP

#### SAP ERP Financials

このソリューションの目的は、企業の資金を効率的に活用し、長期の収益性を拡大することにあります。

#### SAP ERP Human Capital Management

企業には従業員がいます。従業員は重要な資源です。SAP ERP HCMは、企業の成功に向けて従業員を効果的に活用できるようにします。このソリューションは、採用管理や、トレーニングから給与管理まで、人事管理のあらゆる局面に対応しています。

#### SAP ERP Operations

SAP ERP Operations は、調達/物流管理、製品開発、製造、および販売/サービスの自動化と合理化を図るための広範な運用ソリューションです。

#### SAP ERP Corporate Services

Corporate Services は、従業員経費管理、環境安全衛生、および不動産管理の包括的なライフサイクルに対応するサービスソリューションを提供します。このセクションでは、効率的なインセンティブプログラムの開発にも対応しています。

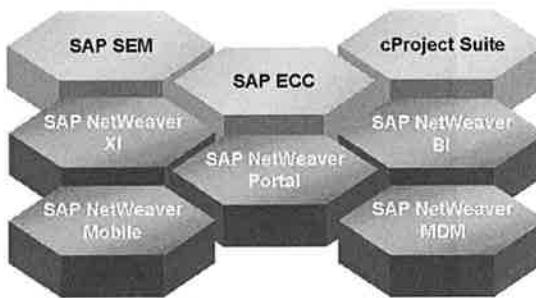


図 14: SAP ERP: コンポーネント

プロセスは完全統合されています。以前の ERP システムはデータベースのみに接続されていました。SAP の現在の ERP システムは、人、情報およびプロセスを、包括的かつ柔軟に統合するコンポーネントの結合です。

SAP ERP は SAP Business Suite の中核アプリケーションでもあります。

### ERP の進化

SAP は SAP R/3 システムによって、世界的な ERP 標準を確立しました。SAP R/3 には、多種多様な標準の統合機能があります。たとえば、販売、出荷、在庫管理のプロセスでは、会計管理の機能にデータが自動転送されます。

SAP R/3 は多数のリリースサイクルを経てきました。新しいリリースのたびに、機能の拡張、アプリケーションの最適化、他のソフトウェアコンポーネントとのインターフェースの向上が実現されてきました。SAP R/3 は、SAP 独自のプログラム言語である ABAP を使用して開発されています。

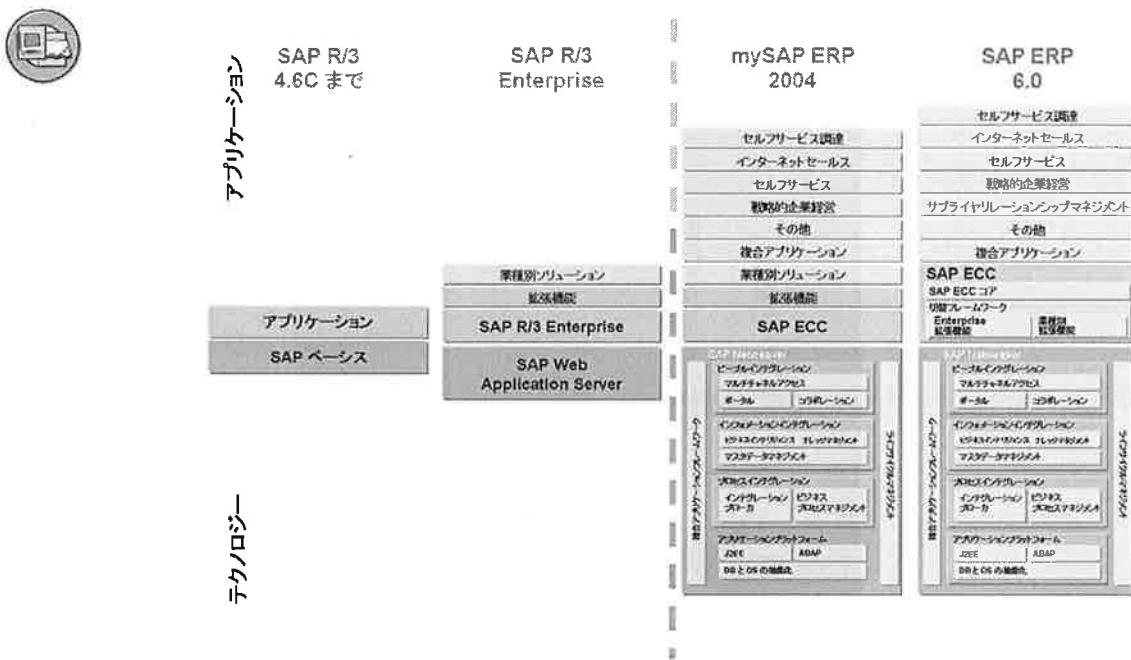


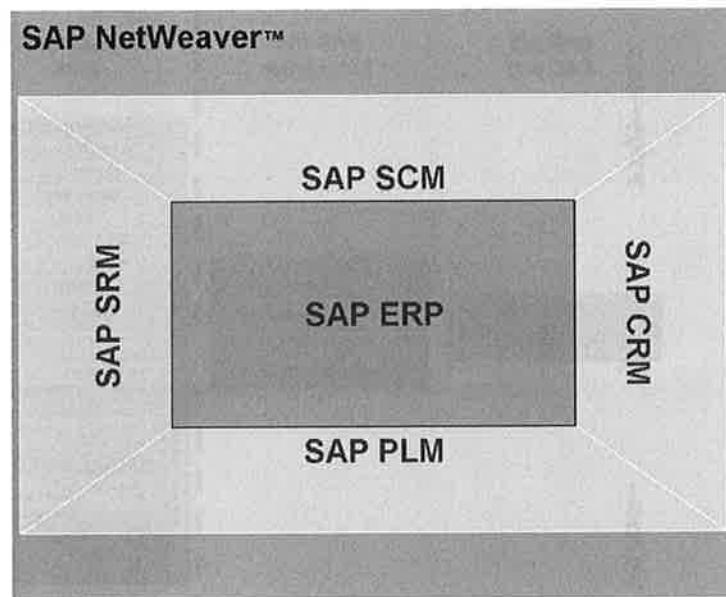
図 15: R/3 から ERP へ

SAP R/3 Enterprise のリリース以降、変更および機能強化は、拡張としてシステムに統合されています。そのため、アップグレードプロセスと各業種向けの調整を迅速かつ容易に行うことができます。

SAP ERP Central Component (SAP ECC) は、SAP R/3 の発展的な後継システムで、SAP ERP ソリューションの主要アプリケーションの 1 つです。

### SAP Business Suite

現在の経済情勢における競争力の保持を望むのであれば、絶えず変化しつづける顧客の需要に対応できるだけの柔軟性と変化に対応できる能力を備えている必要があります。SAP Business Suite はバリューチェーン全体に対応するオープンな統合アプリケーションの完全パッケージによってこの柔軟性を提供します。ほとんど時間をかけることなく、顧客、従業員、サプライヤ、パートナーが 1 つの単位としてプロセスに結合されます。



**図 16: SAP Business Suite**

SAP ERP の主要機能およびソリューションは、SAP Business Suite の以下のアプリケーションによって機能強化および拡張されています。

#### **SAP Customer Relationship Management**

SAP CRM は、顧客を重視したアプリケーションです。顧客は、多様なコミュニケーションチャネルによって企業と接触します。

#### **SAP Product Lifecycle Management**

このアプリケーションは、製品開発、製品安全、品質および保全の機能を提供します。

#### **SAP Supply Chain Management**

サプライチェーンは倉庫で終わるのではありません。SAP SCM は、企業の境界を越えたサプライチェーンの計画と最適化に使用することができます。

#### **SAP Supplier Relationship Management**

インターネットおよびマーケットプレイスを使用した 2 つの方法による調達で、購買を最適化します。このアプリケーションを使用することで、従業員は、需要に関する情報を作業区から調達部門に迅速、容易かつ効率的に直接提供することができます。

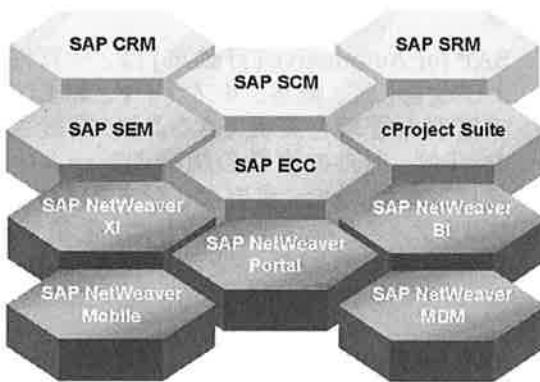


図 17: SAP Business Suite: コンポーネント

### 業種別パッケージ

SAP Business Suite は汎用的な全業種共通ソリューションですが、業種別の追加機能およびプロセスが特別に組み込まれたソリューションを必要とする業種も多数あります。SAP は、業種別パッケージによってこの要求に対応しています。

業種別パッケージの一部は、戦略的パートナとの共同開発から生まれました。これらの業種別パッケージでは、業種別機能が開発されました。

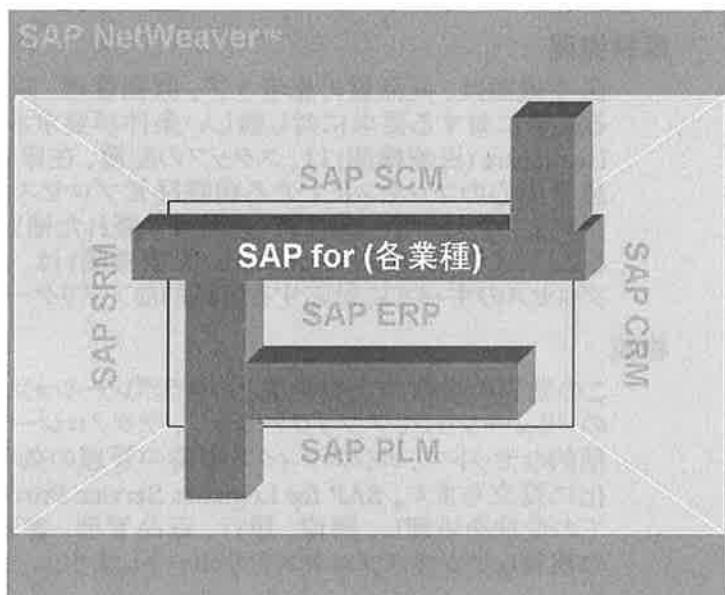


図 18: 業種別パッケージ

業種別パッケージは、現在、20 以上の業種に対応しています。以下に主なものを示します。

## 自動車

SAP for Automotive (自動車) は、一貫性のないビジネス活動を合理化および改善して、顧客、サプライヤ、およびパートナの多層的なネットワークの緊密な管理を実現できるように設計されています。このソリューションセットは、内外の複数の組織のシームレスな統合とコラボレーションを容易にします。また、重要なビジネスプロセスをサポートする組込みのベストプラクティスを提供するとともに、企業データの完全な可視性を実現し、世界規模でのスピードと柔軟性を強化します。

## 銀行

SAP for Banking (銀行) は、フレキシブルかつスケーラブルなインフラストラクチャを基盤とし、新しいテクノロジーの導入、主要銀行業務プロセスの制御、業務のインターネット拡張を実現するための堅固な環境を提供します。革新的な主要銀行業務機能により、フロントオフィスの活動とバックオフィスシステムのシームレスな統合、主要財務取引の低コストでリアルタイムの処理、需要指向市場のニーズに応じるマルチチャネル商品およびサービスの開発の迅速化を実現します。

## 化学産業

SAP for Chemicals (化学産業) には、販売事業計画、品質管理、レシピおよびロット管理、およびサプライチェーン業務の機能があります。プロセス制御システムと生産実行監視を一元化する統合ハブとともに、得意先、製品、セグメント別の詳細な収益レポートも組み込まれています。

## 医療機関

医療機関は、高品質の患者ケア、原価管理、政府の規制および激化する競争に対する要求に対し厳しい条件が要求される業種です。SAP for Healthcare (医療機関) は、スタッフの配置、在庫管理から財務管理および患者中心のプロセスにいたる病院経営プロセスを、成長を見込んだオープンなプラットフォームに統合します。優れた補完コンポーネントと統合することにより、SAP for Healthcare (医療機関) は、経営管理プロセスと診療プロセスのすべてに対応する包括的なアプリケーションとして機能します。

## 物流

この業界の多数の主要企業とのコラボレーションにより設計された実証済のソリューション、アプリケーション、テクノロジー、およびサービスの包括的なセットで、ロジスティクス事業の管理の効率化および収益性の強化に役立ちます。SAP for Logistics Service Providers (物流) は、すべての受注を処理し、調達、履行、返品管理、倉庫管理、付加価値物流の複雑なビジネスプロセスをサポートします。

## 鉱業

鉱業は複数のプロセスで構成されますが、各プロセスに固有の問題があり、鉱業では、これらのプロセスを最適化してコストを削減する必要があります。さらに、鉱業では、商品価格が世界の需給によって変動する中で、規制への遵守、環境維持への取組を保証する必要があります。SAP for Mining (鉱業) を使用すると、資産と事業の管理、およびグローバルなサプライチェーンネットワークの活用の支援を通じて、鉱業に固有の問題に対応することができます。これによって、効率の向上およびコストの削減を図ることができます。

## 石油およびガス

今日の石油およびガス産業では、石油価格の高騰と顧客および規制機関からの圧力の増大に直面しています。生産および流通コストの削減に全力で努力しても、収益性と株主に対する責任への要求は拡大する一方です。SAP for Oil and Gas (石油、ガス) ソリューションでは、コストと収益性の問題に真正面から取り組むことができます。このソリューションセットは包括的なツールを提供し、主要なデータの活用、資産の効率的な管理、キャッシュフローの最大化を実現することができます。

## 官公庁、公共機関

SAP for Public Sector (官公庁、公共機関) は、インターネットで公共機関を市民、事業体、サプライヤおよび他の組織と電子的に結び、高速性、柔軟性および反応性の高い電子政府を創設し、コミュニケーションの強化、サービスの合理化およびコスト削減を実現します。このソリューションセットは、官公庁、公共機関に固有の要求に合わせて調整された豊富な機能によって、今日の公共サービスが直面する問題を解決します。

## 小売

今日、消費者をかつてないほど力を持っています。消費者は、最高の品質、品揃え、サービスを期待するようになり、これに応じることのできない小売業者を完全に見捨てることもいといません。今日の市場では失策は許されません。SAP for Retail (小売) は、需要予測や計画から配分や補充にいたる小売バリューチェーンのすべての面で、顧客の期待以上の対応を実現することが求められる新しい小売環境に合わせて設計された包括的なソリューションです。

## SAP xApps

SAP xApps は、社内の改善および改革を容易に推進できるようにするための新しいタイプのアプリケーションです。SAP xApps は、既存の異種システムを一体化して機能横断的なプロセスを形成する機能により、人、情報、ビジネスプロセスを結合して企業の活力と競争力を高めます。この柔軟性によって、事業全体の戦略を容易かつ効率的に実現することができます。SAP xApps は、主要事業領域における既存の投資の価値を拡大し、従業員、知識、製品、事業関係、および情報テクノロジーなどの戦略的資産価値を最大化します。

SAP xApps では、社内の従業員、データ、およびプロセスを 1 つのインターフェースにまとめるという、かつてない機能を使用して戦略を実現することができます。SAP xApps は連続性と不連続性の両方を備えています。連続性は、有効性の強化と本稼動ビジネスランザクションの改善という形で提供され、非連続性は、企業がきわめて柔軟な方法で変革を実施できるという意味合いで提供されます。

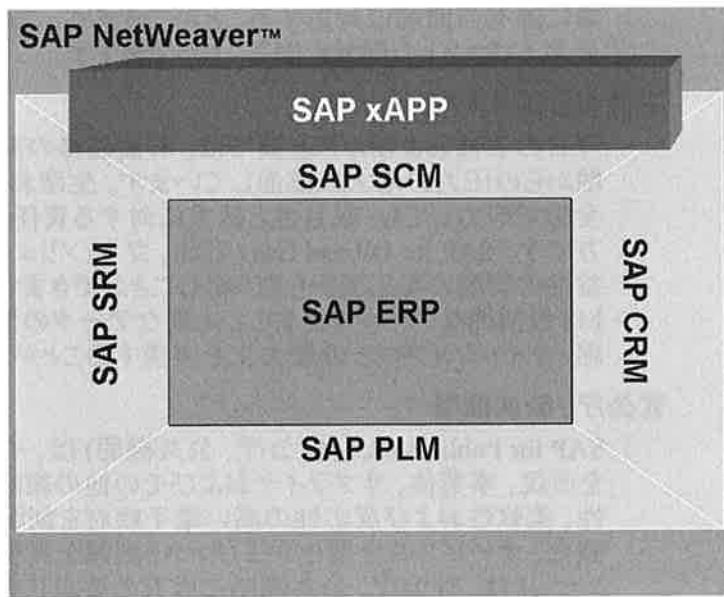


図 19: SAP xApps

xApps の使用により、企業は複数のシステム間の販売プロセスを最適化することができます。会計システムからの与信限度確認や、ロジスティクスシステムからの納入時間や利用可能在庫確認 (ATP) などの機能を使用して、統合販売プロセスが設計されます。これまで、従業員は 3 つの別々のシステムでこれらのチェックを実行していましたが、1 つのインターフェースだけで作業が行えるようになります。

SAP xApps を特徴づける特性は以下のとおりです。

#### 機能の非依存性

SAP xApps は、多数のアプリケーションおよび情報ソースとともに実装することができます。これにより、社内の事業方針に従って異種システムにまたがる重要な統合プロセスを実行することができます。

#### 複合性

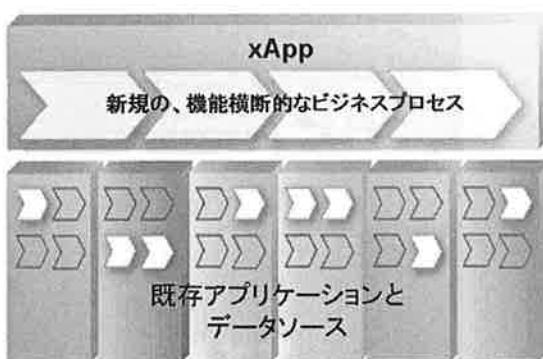
SAP xApps は、基盤のインフラストラクチャとは無関係に、フレキシブルなワークフローおよびビジネスプロセスを実行します。さらに、SAP xApps は、既存のビジネスプロセスとの同期や、プロセスの改善を行います。これにより、企業はよりフレキシブルになり、既存の投資の使用が改善されることによって投資収益率 (ROI) が増加します。

### システム間機能

SAP xApps は、情報（コンテキスト、関連性）の複雑な転送、および業務自体の通信をサポートし、ワーキンググループのコラボレーションや信頼性の高い意思決定を容易にします。

### 情報主導

SAP xApps は、意思決定関連のビジネス情報によるインテリジェントプロセスを実現します。これにより、情報にもとづく戦略決定、継続的な評価、および必要に応じた修正が可能になります。



**図 20: SAP xApps**

使用できる xApps の例の一部を紹介します。

#### SAP xApp Cost and Quotation Management (SAP xCQM)

このソリューションは、部品表/配合表 (BOM) のアップロードによる見積の登録、既存構成品目の自動価格設定、新規構成品目の eRFQ 处理、連結原価レポートの実行を可能にします。

#### SAP xApp Resource and Portfolio Management (SAP xRPM)

SAP xRPM は、既存のプロジェクト管理、人事管理、財務会計システムの情報を統合して、プロジェクトポートフォリオの概要を提供します。ポートフォリオマネージャ、プロジェクトマネージャ、リソースマネージャおよびプロジェクトメンバーはこのポートフォリオの詳細に容易にドリルダウンできます。

#### SAP xApp Product Definition (SAP xPD)

SAP xPD は、アイデア管理、コンセプト開発などの製品開発プロセスの重要なフロントエンドにおける障害および非能率性を解決する、シンプルで使いやすいソリューションです。

#### SAP xApp Emissions Management (SAP xEM)

エネルギー消費および二酸化炭素を排出しているすべての企業にとって、京都議定書や米国大気汚染防止法などの環境規制に準拠するため、排出管理が必須となっています。SAP xEM は、世界的な新しい排出規制に対するコンプライアンスを改善し、温暖化ガス排出権の取引による収益を拡大します。

## SAP 中小企業向けソリューション

### SAP All-in-One

認定された SAP All-in-One パートナソリューションは、組込みコンテンツ、ツール、および短期間で低コストの導入が可能な方法論を含む、事前パッケージ化された SAP Business Suite の業種別バージョンです。SAP All-in-One パートナソリューションが提供する SAP のワールドクラスのビジネスアプリケーションは、出荷時の状態ですぐに使用できる柔軟性を備えています。

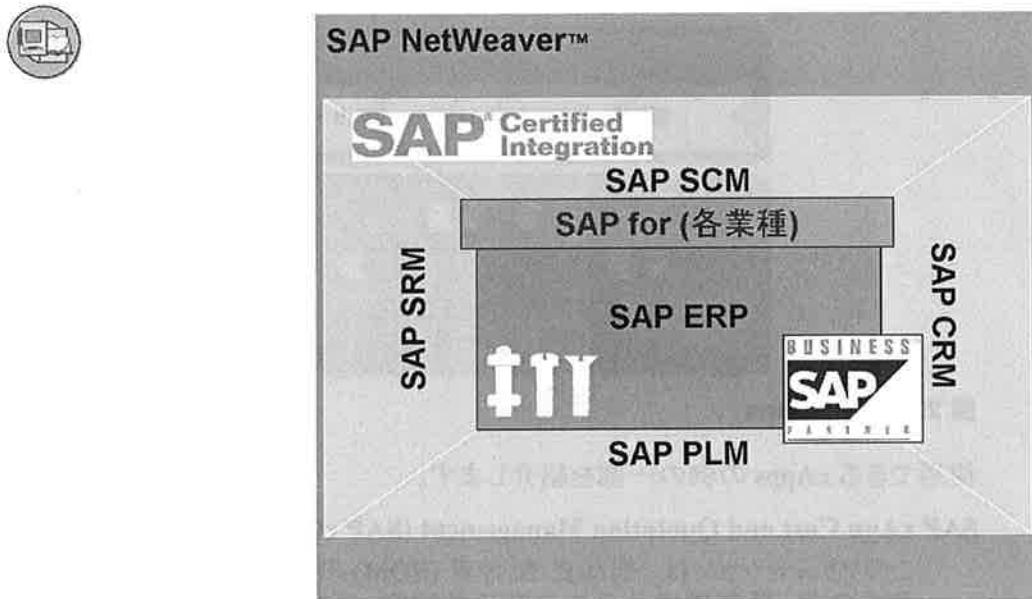


図 21: SAP All-in-One

認定された SAP All-in-One パートナソリューションには、以下の利点があります。

#### 迅速な導入とコストの透明性

SAP All-in-One は、各市場セグメントおよび業種の問題に習熟する、認定された特定のパートナによって提供されます。ソフトウェアは、世界で 20 種以上の業種の 15,000 以上のお客様へのインストールから得られた経験にもとづく独自の導入方法を使用して導入されます。従来の導入プロジェクトと比較して、コストの 40% の節減、導入期間の 30% の短縮が可能です。このスケーラブルなエンタープライズソリューションは、企業の成長に合わせて容易に拡張できるため、企業におけるどのような変化にも対応できます。

#### 生産性の増強と経費節減

包括的で、事前設定されている SAP All-in-One 業種別ソリューションは、財務会計、人事管理、ロジスティクス、およびカスタマーレーションシップと統合されます。そのため、透明性の強化および管理プロセスの簡略化という利点をもたらします。これは、社内だけではなく、パートナおよび仕入先の効率性も向上することを意味します。

### 信頼性の高いパートナ

ここ数年間、SAP のテクノロジーのノウハウは認定された特定のパートナの各業種に関する知識によって補完されてきました。SAP All-in-One パートナソリューションにはこの貴重な経験が反映されています。SAP パートナは、ハードウェア、ソフトウェアおよびコンサルティングから成る総合的なソリューションを提供しており、これらのすべてが中小規模の事業のニーズに合うように最適化されています。

### スケーラビリティ

フレキシブルで強力なシステムテクノロジーは、大企業でも使用されますが、中小企業の成長もサポートします。この理由は簡単です。SAP All-in-One は、絶え間なく変化する事業の要件に合わせて容易に調整することができるからです。

### SAP Business One

SAP Business One は、従業員規模が 10 名から数百名の、勢いのある新興企業をターゲットとする、使いやすい業務および作業管理アプリケーションです。シンプルでありながらすぐれた機能を持つこのアプリケーションでは、基幹業務と顧客管理の双方の迅速かつ完全なビューが提供されます。

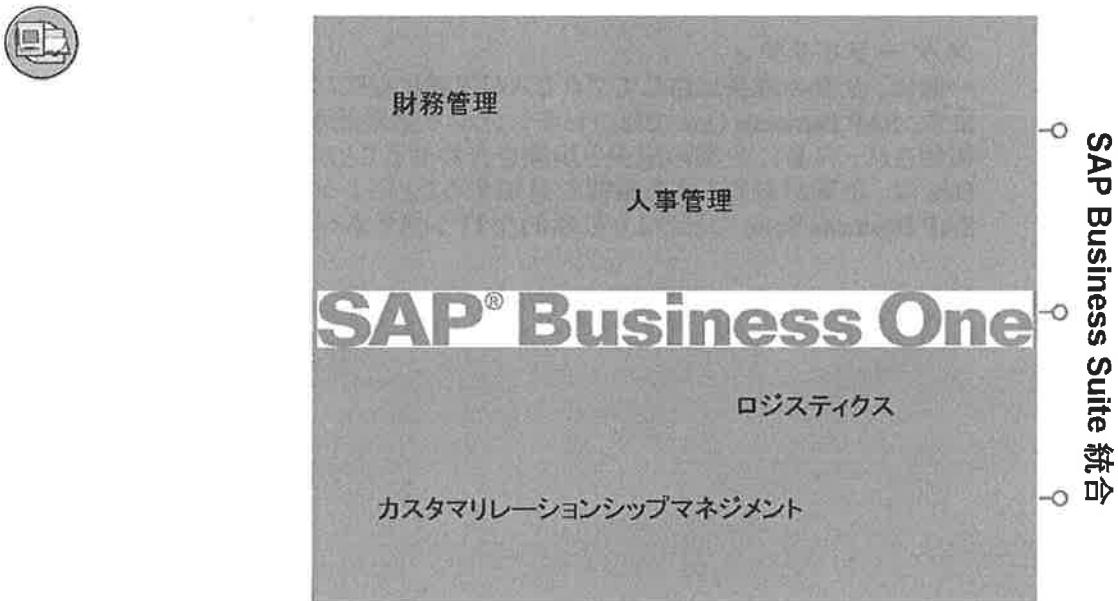


図 22: SAP Business One

SAP Business One には以下の利点があります。

#### 導入の迅速性

SAP Business One は、数日で導入することができ、運用管理も容易です。さらに、広く使用されている Microsoft Office 環境で作業できるため、一時ユーザ

もソフトウェアの使用方法をすばやく習得できます。このアプリケーションはオープンなテクノロジーを基盤とし、必要に応じて個別機能の追加によって容易に拡張することができます。

#### 低成本

SAP Business One はコスト効率が高く、統合データ処理に関して広範囲の機能を備えています。そのため、中小企業の意思決定者は、予算を超過せずに新しい潜在的価値を見出すことができます。

#### 生産性の向上とコスト削減

SAP Business One のユーザインターフェースはシンプルでわかりやすいため、ユーザはシステムの使用方法をすばやく習得できます。これにより、生産性が向上し、コスト削減を図ることができます。ドラッグ & ドロップ技術によって、ビジネス情報にフレキシブルにアクセスすることができます。たとえば、見積ウィンドウの得意先やアイテム番号項目のコンテンツをクリックし、別の画面にドラッグすると、対応するデータが評価されます。この技術では、各データが相互に関連付けられます。

#### 堅実なビジネスの意思決定

SAP Business One を使用すると、マネージャはすべての企業エリアの戦略的情報に迅速かつ効率的にアクセスすることができ、対応する情報やアクティビティを完全に管理することができます。

#### スケーラビリティ

一般に、企業の成長に応じてプロセスが複雑になりソフトウェアの要件が変化します。SAP Business One ではフレキシブルで効率的なシステムテクノロジーが使用され、容易に企業の成長と歩調を合わせることができます。SAP Business One は、企業が必要とする機能を追加することによって拡張できます。また、SAP Business Suite などのより包括的な IT システムへの移行も容易です。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- SAP が提供する製品の説明
- SAP の中核をなすアプリケーションの紹介
- ERP システムの概念と歴史の解説
- アプリケーションとコンポーネントとの相違の説明



## 章のまとめ

以下について学習しました。

- SAP のマイルストーンと沿革についての説明
- SAP が提供する製品の説明
- SAP の中核をなすアプリケーションの紹介
- ERP システムの概念と歴史の解説
- アプリケーションとコンポーネントとの相違の説明

## 関連情報

- 関連する用語集リンクについては、次のサイトを参照してください。  
[help.sap.com/content/additional/glossary](http://help.sap.com/content/additional/glossary)
- 詳細については、次のインターネットサイトを参照してください。  
[www.sap.com/solutions](http://www.sap.com/solutions) または [www.sap.com/industries](http://www.sap.com/industries)



## テスト

1. SAP はソリューションを提供する企業です。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
  
2. SAP NetWeaver アプリケーションプラットフォームは、オープンでフレキシブルなプラットフォームです。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
  
3. 全業種共通ソリューションおよび業種別アプリケーションを 3 つ以上挙げてください。

---

---

---

4. SAP アプリケーションはすべてロールベースです。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤



## 解答

- SAP はソリューションを提供する企業です。

解答: 正

事業経験、戦略、ノウハウは実体のないものです。これらを、SAP ソフトウェアの強力な柔軟性、統合およびカスタマイジング機能で結合することによって、業種別および全業種共通の強力な e ビジネスソリューションが提供されます。

- SAP NetWeaver アプリケーションプラットフォームは、オープンでフレキシブルなプラットフォームです。

解答: 正

SAP NetWeaver アプリケーションプラットフォームは、ほぼすべての主要ベンダのデータベース、アプリケーション、オペレーティングシステム、およびハードウェアウェアに対応しています。

- 全業種共通ソリューションおよび業種別アプリケーションを 3 つ以上挙げてください。

解答: 全業種共通アプリケーション: SAP Enterprise Portal、SAP CRM、SAP SCM、SAP SRM、SAP PLM、SAP ERP HCM、SAP ERP Financials  
業種別パッケージ: SAP for Aerospace and Defense (航空宇宙、防衛)、SAP for Automotive (自動車)、SAP for Banking (銀行)、SAP for Chemicals (化学)、SAP for Consumer Products (食品、消費材)、SAP for Engineering, Construction and Operations (エンジニアリング、建設)、SAP for Healthcare (医療機関)、SAP for High Tech (ハイテク)、SAP for Higher Education and Research (教育、研究機関)、SAP for Insurance (保険)、SAP for Media (メディア)、SAP for Mill Products (金属、製紙、繊維、建材等)、SAP for Mining (鉱業)、SAP for Oil and Gas (石油、ガス)、SAP for Public Sector (公共機関)、SAP for Retail (小売)、SAP for Telecommunications (通信)、SAP for Utilities (公益事業)

- SAP アプリケーションはすべてロールベースです。

解答: 正

SAP システムのプロセスはすべて、ユーザロールにマッピングされます。SAP NetWeaver Portal では、各自のロールに割り当てられたタスクを実行できるようにインターフェースをカスタマイズすることができます。

# 2 章

## ナビゲーション

### 章の概要

この章では、ログオン、ナビゲーション、および SAP ヘルプ機能の使用について説明します。



### 章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- SAP Logon ウィンドウでの新規ログオンエントリの登録
- SAP システムへのログオン
- SAP Easy Access 画面のレイアウトについての説明
- SAP 標準メニューとロールベースのユーザメニューの相違についての説明
- ユーザ定義機能の使用とユーザ定義メニューへのトランザクションの追加
- いくつかのナビゲーションオプションを使用した、SAP Easy Access 画面でのナビゲーション
- 複数の有効セッションの開始
- SAP システムの各ヘルプ形式に関する説明
- SAP システムでの各種ヘルプ方式を使用した役立つ情報の検索とヘルプの起動
- ユーザインターフェースのパーソナライズ

### 章の内容

|  |    |
|--|----|
| レッスン: SAP システムへのログオン .....             | 38 |
| レッスン: SAP システムでのナビゲーション .....          | 42 |
| レッスン: ヘルプの使用とユーザインターフェースのパーソナライズ ..... | 54 |

## レッスン: SAP システムへのログオン

### レッスンの概要

SAP システムには、各種デザインのさまざまなフロントエンドプログラム（グラフィックユーザインターフェース）からアクセスすることができます。たとえば、ビジネスエクスプローラ（BEx）は、SAP Business Intelligence の SAP Business Information Warehouse コンポーネントのフロントエンドです。このレッスンでは、一般的なログオンフロントエンドである SAP Logon を使用して SAP システムにログオンする方法を説明します。また、各自のユーザインターフェースをカスタマイズする方法もいくつか紹介します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- SAP Logon ウィンドウでの新規ログオンエントリの登録
- SAP システムへのログオン

### ビジネスシナリオ

新しいユーザが SAP システムを効率的に使用するには、SAP システムの画面とナビゲーションに慣れる必要があります。

### SAP GUI と SAP Logon

SAP システムには、各種デザインのフロントエンドプログラムからアクセスすることができます。ただし、ほぼすべての SAP コンポーネントについて、汎用的なフロントエンドプログラム、SAP グラフィカルユーザインターフェース（SAP GUI）からのアクセスが可能です。SAP GUI にはいくつかのタイプがあります。これらのグラフィックはすべて同じですが、さまざまな使用環境に対応できるように調整されています。便宜上、以下の説明では、SAP GUI for Windows 環境を対象としています。

SAP GUI プログラムによって、フロントエンドコンピュータが特定の SAP システムと接続されます。SAP GUI の起動には、専用のプログラム SAP Logon があります。SAP Logon を呼び出すと、ログオンプロセスを開始できる SAP システムの一覧がウィンドウに表示されます。この一覧はフロントエンドコンピュータ上のファイル、saplogon.ini から読み込まれます。通常、このファイルは管理者により事前設定され、エンドユーザーが使用できるように設定されています。ログオンの際に、SAP Logon プログラムでは、選択したシステムで利用可能なリソースによるログオン負荷分散も可能です。

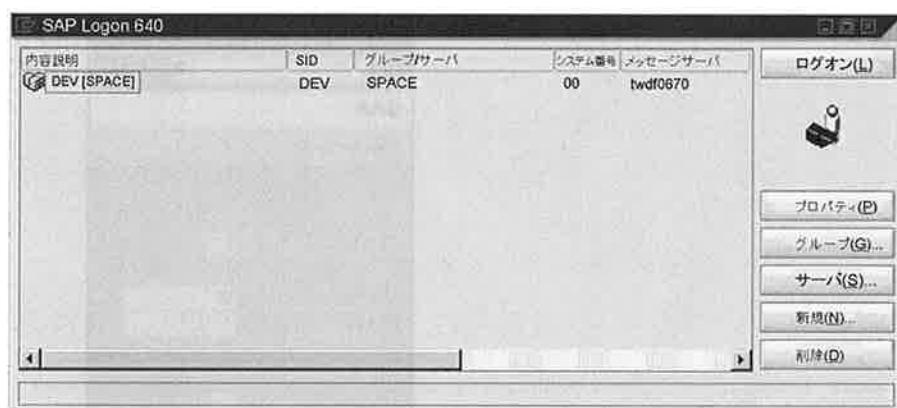


図 23: SAP Logon プログラム

## ログオンプロセス

初めてログオンする際は、事前にシステム管理者から初期パスワードが指定されます。ログオンプロセスで、自分だけが知っている新規のパスワードを入力する必要があります。その後のログオンでは、常にこの各自固有のパスワードを使用します。

→ **注記:** この手順は、会社ごとに若干異なる場合もあります。詳細については、担当のシステム管理者に問い合わせてください。



図 24: SAP システムへのログオン



**ヒント:** 項目にデータを入力してから、**Tab** キーを選択すると、次の項目の先頭にカーソルが移動します。ただし、項目に最大入力可能文字数まで入力したときは、**Tab** キーを選択する必要はありません。たとえば、*Client* 項目の場合、最大入力可能文字数は 3 です。*Client* 項目に 100 を入力すると、次の項目の先頭にカーソルが自動的に移動します。

システム共通のメッセージがある場合は、システムメッセージダイアログボックスが表示されます。このメッセージ読み終わったら、続行を選択するか、**Enter** を選択してダイアログボックスを閉じます。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- SAP Logon ウィンドウでの新規ログオンエントリの登録
- SAP システムへのログオン

## レッスン: SAP システムでのナビゲーション

### レッスンの概要

SAP システムへのログオン後は、トランザクションを開始して日常の業務を実行します。この業務の遂行は、複数の方法で行うことができます。このレッスンでは、基本的な画面レイアウトを紹介し、日常の業務の実行に必要なシステム内のナビゲーション方法を説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- SAP Easy Access 画面のレイアウトについての説明
- SAP 標準メニューとロールベースのユーザメニューの相違についての説明
- ユーザ定義機能の使用とユーザ定義メニューへのトランザクションの追加
- いくつかのナビゲーションオプションを使用した、SAP Easy Access 画面でのナビゲーション
- 複数の有効セッションの開始

### ビジネスシナリオ

新しいユーザが SAP システムを効率的に使用するには、SAP システムの画面とナビゲーションに慣れる必要があります。

### 画面構造

SAP Easy Access 画面は、SAP システムの標準設定の第一画面です。画面の左側には、SAP システムで使用可能なメニューのツリー階層が表示されます。画面の右側には、自社のロゴを表示することができます。このグラフィックはシステム管理者によって集中設定されているため、個々のユーザがカスタマイズすることはできません。

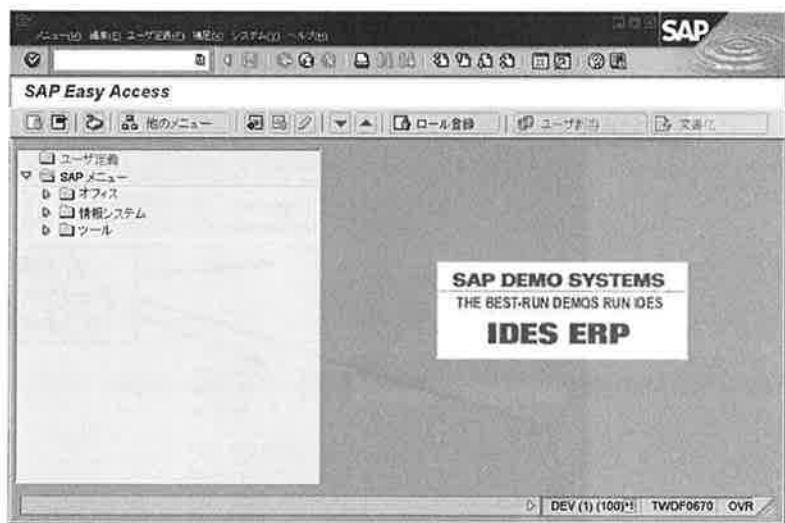


図 25: SAP Easy Access



**ヒント:** SAP Easy Access でグラフィックを設定する方法の詳細については、[補足 → 管理情報を参照してください](#) (対応する権限が必要です)。グラフィックはシステムに保存されており、ユーザーがログオンするたびにフロントエンドに転送されます。グラフィックは圧縮形式で転送されますが、20 KB を超えないようにしてください。SAP Logon プログラムで低速接続を選択するか (SAP ノート 161053 を参照)、または SAP Easy Access 画面で[補足 → 設定](#)を選択して、このグラフィックが表示されないように設定することもできます。

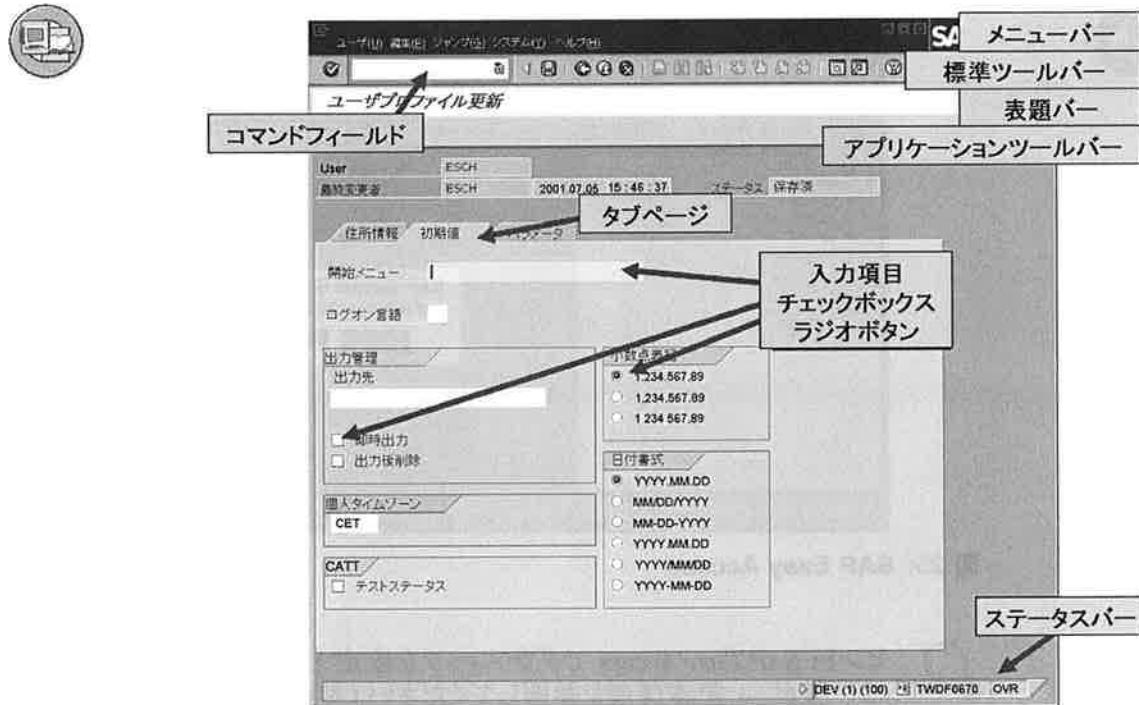


図 26: 画面構造

SAP 画面は、以下の画面要素などで構成されます。

#### コマンドフィールド

コマンドフィールドに直接、トランザクションコード入力して、アプリケーションを開始することができます（この項目は初期設定では非表示になっています）。アプリケーションのトランザクションコードは、SAP Easy Access 画面の概要メニュー、ステータスバー（下記を参照）、またはアプリケーション自体（システム→ステータスを選択）で確認することができます。

#### メニューバー

メニューバーは、SAP システムの主要画面の 1 行目 있습니다。表示されるメニューは、使用するアプリケーションによって異なります。このメニューにカスクードメニューが組み込まれていることもあります。

#### 標準ツールバー

SAP 画面のすべてで、標準ツールバー上にボタンが表示されます。そのアプリケーションに適用されず、使用できないボタンは無効化されています。ボタン上にカーソルを置くと、そのボタンの名称および機能を示すフラグが表示されます。該当する場合は、対応する機能キー設定も表示されます。

#### 表題バー

表題バーには、現在使用している機能の名称が表示されます。

### アプリケーションツールバー

アプリケーションツールバーには、現在使用しているアプリケーションで利用可能なボタンが表示されます。

### チェックボックス

チェックボックスでは、項目のグループから複数のオプションを選択することができます。

### ラジオボタン

ラジオボタンでは、オプションの中から1つだけ選択することができます。

### タブ

タブによって、複数の画面領域のデータがわかりやすく整理された形で表示されます。

### ステータスバー

ステータスバーには、警告やエラーメッセージなど、現在のシステムステータスに関する情報が表示されます。表示バリアントを変更すると、たとえば現在使用中のトランザクションのトランザクションコードを表示することもできます。

その他のエレメントには、入力項目やボタンなどがあります。

## ロールベースのユーザメニュー

SAP では、トランザクション、レポート、または Web ベースアプリケーションのメニューを表示する形式として、SAP 標準メニューとロールベースのユーザメニューの2つの形式があります。SAP 標準メニューは、システムで使用可能なすべてのトランザクションとレポートを網羅した一覧です。

ロールベースのユーザメニューは、ビジネスシナリオで使用される活動のコレクションです。ユーザはロールベースメニューを使用して、トランザクション、レポート、Web ベースアプリケーションにアクセスすることができます。ユーザは、各自のユーザ設定一覧を登録するなどして、割り当てられたロールの表示方法を変更することができます。

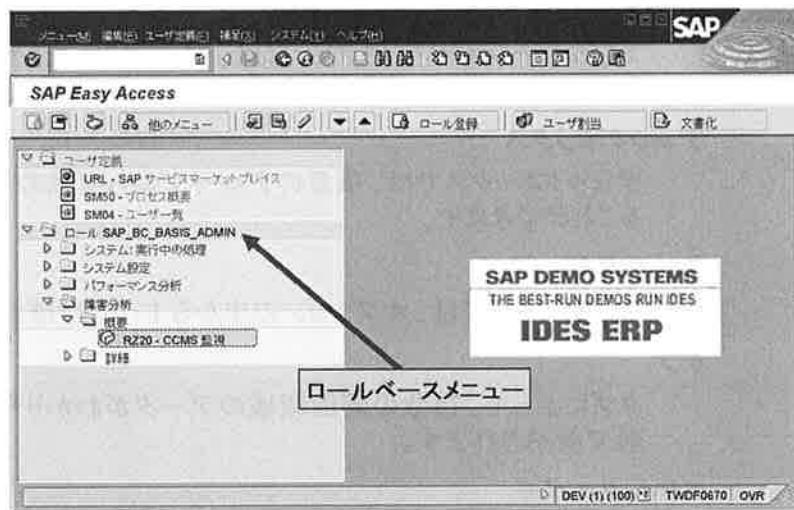


図 27: ロールベースのユーザメニュー



**ヒント:** システム管理者は、テーブル USERS\_SSM を使用して、SAP メニューとロールベースメニュー間の切替をユーザーに許可するかどうかを設定することができます。両方のメニューが許可されていない場合は、ユーザーのロールベースメニューが表示されます。ユーザーが SAP メニューを表示できない場合でも、トランザクションや機能に対する適切な権限が付与されていれば、トランザクションコードを使用してトランザクションや機能を開始することができます。

ロールが割り当てられる場合は、メニューだけではなく情報へのアクセスに必要な権限もユーザーに割り当てられ、ビジネスデータのセキュリティが保証されます。ロールに組み込まれた活動にもとづいて権限プロファイルが生成されます。それにより、SAP システムにおける各ユーザーの権限は、そのユーザーのロールに組み込まれた活動に対する権限のみに制限されます。

SAP Enterprise Portal では、必要なタスクおよび活動の照会や実行に Web ブラウザを使用します。この場合も同様にロールを割り当てることができます。

システム管理者は、メニューエントリを追加または削除することで、各ユーザー固有要件に応じてロールベースメニューを調整することができます。



**注意:** システム管理者はロールベースメニューの設定を担当する場合があります。このメニュー設定はフロントエンドに転送されます。したがって、ロールはできるだけ小さくするようにお奨めします。ロールが大きいと、フロントエンドへの転送に長時間を要することがあります。



**ヒント:** 1人のユーザに複数のロールが割り当てられている場合、一部の機能がロールベースメニューに複数回表示されることがあります。この現象を防ぐには、SAP ノート 357693 (およびこのノートに関連するその他の SAP ノート) で重複の検出と削除に関する情報を参照してください。

## ユーザ定義の使用

SAP Easy Access では、以下の項目を組み込んだユーザ定義一覧を登録することができます。

- トランザクション
- ファイルへのリンク
- インターネットアドレス

ユーザ定義一覧は、最初は空の状態です。それぞれのユーザが、各自の選択に従って編集することができます。表示することができるのは、各自のユーザ定義一覧に限られます。



**ヒント:** ユーザ定義は、フォルダ構成にすることができます。ユーザ定義は、SAP Easy Access 画面でユーザ定義メニューを使用して編集することができます。

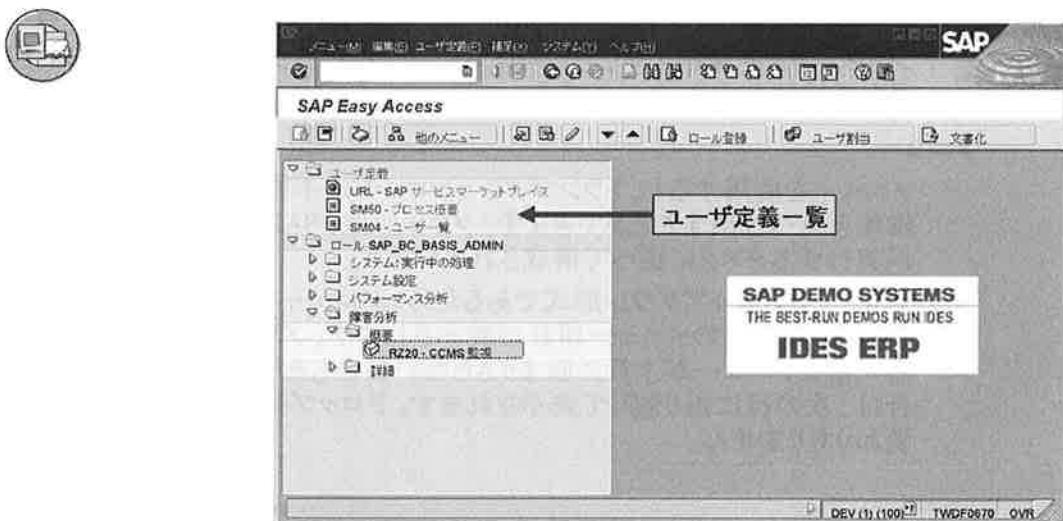


図 28: ユーザ定義メニュー

## ナビゲーションオプション

SAPシステムでのナビゲーションには、以下のようなさまざまな方法があります。



- コマンドフィールドにトランザクションコードを入力
- メニューバーのメニューから項目を選択
- ユーザ定義一覧またはロールベースのユーザメニューから項目を選択



図 29: ナビゲーションオプション

### トランザクションコード

システムのトランザクションや機能のすべてにトランザクションコードがあります。コマンドフィールドにトランザクションコードを入力すると、トランザクションを開始することができます。これはトランザクション開始の最も直接的な方法の1つです。

### メニュー

メニューを使用すると、トランザクションコードが不明の場合に特定の機能を見つけることができます。メニューは、SAPシステムでユーザが実行するタスクに従って構成されています。

メニューはドロップダウン形式であるため、メニュー項目を選択すると、さらにその下位のメニュー項目が表示されます。メニューバー上で使用可能なメニューが1行に収まりきらない場合もあります。このような場合は、次の行に折り返して表示されます。ドロップダウンの原則には変わりありません。

### ユーザ定義およびユーザメニュー

ユーザ定義やユーザメニューを設定する機能があります。これを使用すると、使用頻度の高いトランザクション、機能、レポートに直接移動することができます。

### トランザクションコードの使用

コマンドフィールドにシステムのトランザクションコードを入力すると、トランザクションや機能に直接移動することができます。使用するトランザクションや機能のトランザクションコードを知っている場合には非常に便利です。トランザクションコードを確認するには、トランザクションに移動してから、システム → ステータスを選択します。

以下の規則は、トランザクションコードの使用時に無駄な手間を省くための重要なヒントです。

| 入力値    | 結果                                    |
|--------|---------------------------------------|
| /n     | 現在のトランザクションを中止します。                    |
| /nXXXX | 別のトランザクションから、指定したトランザクションを直接開始します。    |
| /o     | セッションの概要を表示します。                       |
| /oXXXX | 指定したトランザクションを新しいセッションとして開始します。        |
| /nend  | 確認のポップアップウィンドウを表示して、ログオンセッションを終了します。  |
| /nex   | 確認のポップアップウィンドウを表示せずに、ログオンセッションを終了します。 |
| /i     | 現在のセッションを終了します。                       |

### ステータスバー

ステータスバーには、SAP システム、および作業中のトランザクションやタスクに関する一般的な情報が表示されます。ステータスバーの左部分には、システムメッセージが表示されます。ステータスバーの右端には項目が 3 つあり、その 1 つにはサーバ情報が、残りの 2 つにはステータス情報が表示されます。

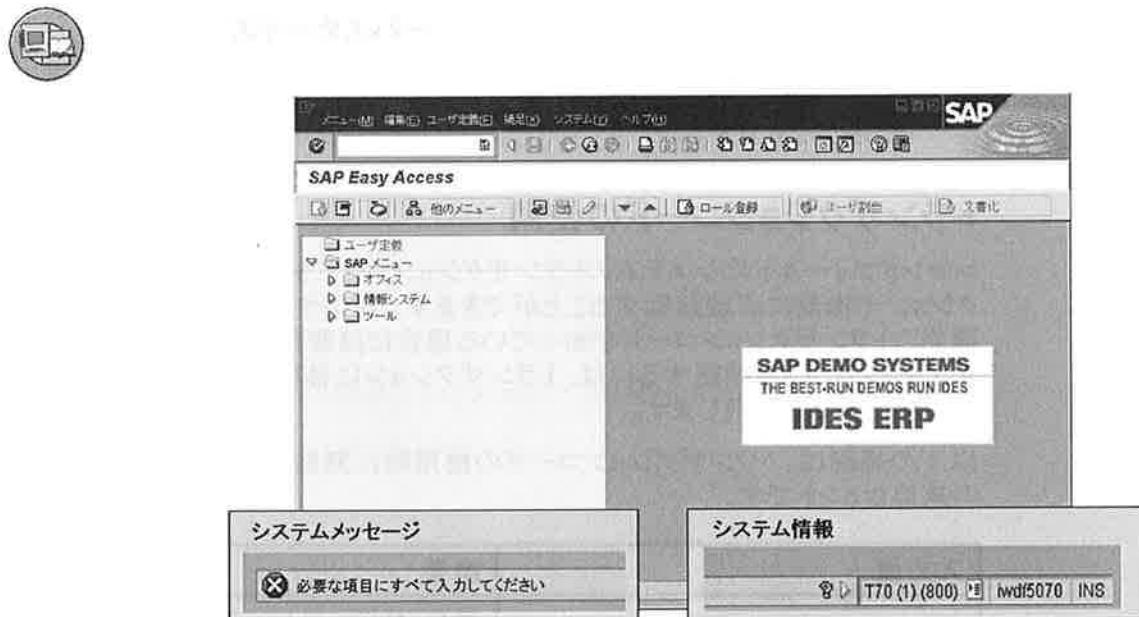


図 30: ステータスバー

ステータスバーの左端は以下の情報が表示されます。

- エラーメッセージの確認
- その他のシステムメッセージの確認

ステータス項目を非表示にするには、項目の左側の矢印を選択します。

以下のシステム情報を照会するには、1つめのステータス項目でそれらを選択します。

- システム
- クライアント
- ユーザ
- プログラム
- トランザクション
- 応答時間

2つめのステータス項目には、接続先のサーバが表示されます。3つめのステータス項目には、データ入力モードが表示されます。この項目をクリックすると、挿入モード(INS)と上書きモード(OVR)を切り替えることができます。

## 多重ログオンとマルチセッション

2つのSAPシステムを開く方法は、多重ログオンの使用とマルチセッションの使用の2つあります。多重ログオンを使用した場合、実際には新しいログオンが開始されます。複数のウィンドウを表示する必要がある場

合は、各 SAP システムに対してログオンは 1 回のみにして、マルチセッションを使用してください。マルチセッションを使用すると、同一コンピュータ上で同時に複数のウィンドウを開くことができます。

SAP R/3 4.6 以降は、多重ログオンのログが記録されるようになりました。多重ログオンのログを記録する主な理由は、セキュリティとライセンスです。1 人のユーザが 2 回以上ログオンした場合、2 回目以降のログオン時に、次の 3 つのオプションがある警告メッセージが表示されます。

1. このログオン手順を続行し、システムへの他のログオンを終了する。
2. このログオン手順を続行し、システムへの他のログオンを終了しない(これはログ記録の対象です)。
3. このログオンを終了する。



図 31: マルチセッション

いつでも新規セッションを開始することができます。これは、トランザクションの入力中にその入力を完了するために情報の確認が必要になった場合などに特に便利です。複数のセッションを開始することができ、各セッションはお互いに影響しません。すでに開いているセッションのデータが失われることはありません。たとえば、最初のセッションを終了しても、その他のセッションは終了しません。

開いているセッションが多すぎると、システムパフォーマンスが低下します。このため、システム管理者は開始可能なセッション数を制限することができます。セッション間を頻繁に移動しても、データが失われることはありません。

SAP システムにログオンしている限り、好きなだけセッションをそのまままで保持することができます。セッション間の移動は、いつでも通話を再開できる電話の保留に似ています。



**ヒント:** システム管理者は、システムパラメータを使用して、SAP システムへの 1 回のログオンで許可するセッション数を定義することができます。このパラメータ (`rdisp/max_alt_modes`) は、そのシステムの全ユーザに有効です。GUI および SAP WebAS のバージョンによって、このパラメータは 2 から 6、あるいは 2 から 16 に設定することができます。

あるセッションから別のセッションに移動するには、移動先のセッションが表示されているウィンドウの任意の場所をクリックします。また、ウィンドウ変更に指定されたキー **Alt + Tab** を使用することもできます。

選択したウィンドウが、画面上の全ウィンドウの最前面に移動してアクティブ ウィンドウになります。

複数のセッションを開いているときは、使用しないウィンドウを最小化することができます。最小化したウィンドウが必要になったときは、Windows のスタートメニューの適切なシンボルを選択して、有効セッションにして復元することができます。

セッションの使用が終了したら、終了することをお奨めします。セッションのそれぞれがリソースを消費し、要求に対する SAP システムの応答速度に影響する場合があります。セッションの終了前は、必要なデータをすべて保存します。



**ヒント:** セッションの終了時には、システムはデータの保存を確認しません。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- SAP Easy Access 画面のレイアウトについての説明
- SAP 標準メニューとロールベースのユーザメニューの相違についての説明
- ユーザ定義機能の使用とユーザ定義メニューへのトランザクションの追加
- いくつかのナビゲーションオプションを使用した、SAP Easy Access 画面でのナビゲーション
- 複数の有効セッションの開始

# レッスン: ヘルプの使用とユーザインターフェースのパーソナライズ

## レッスンの概要

システムで作業を行っているときには、それぞれの項目の入力可能値や項目の意味、トランザクションの実行手順などについて疑問に思うことがあります。このレッスンでは、システムで利用できる各種オンラインヘルプについて確認し、情報の検索方法に関する理解を深めます。



## レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- SAP システムの各ヘルプ形式に関する説明
- SAP システムでの各種ヘルプ方式を使用した役立つ情報の検索とヘルプの起動
- ユーザインターフェースのパーソナライズ

## ビジネスシナリオ

新規データをシステムに入力していると仮定してください。今まで使ったことがない項目に遭遇しました。この項目にはどのようなタイプのデータを入力したらいいか、また入力可能値が存在しているか、確認する必要があります。

## ヘルプ機能

SAP システムでは広範囲なオンラインヘルプを提供しています。ヘルプ画面はどの画面からでも照会することができます。ヘルプメニューまたは対応するアイコンを使用して、いつでもヘルプを呼び出すことができます。ヘルプメニューには、以下のオプションが含まれています。

### アプリケーションヘルプ

アプリケーションヘルプでは、現在のアプリケーションの包括的なヘルプが表示されます。初期画面でこのメニューオプションを選択すると、SAP 入門に関するヘルプが表示されます。

### SAP ライブドキュメント

ここにはすべてのオンライン文書があります。

### 用語集

用語集では、用語の定義を検索することができます。

### リリースノート

SAP システムのリリース間で行われた機能の変更について説明するノートが表示されます。

### SAP サービスマーケットプレイス

SAP サービスマーケットプレースにログオンすることができます。

### サポートメッセージ登録

サポートメッセージを使用することで、SAP システムから直接、SAP Solution Manager の担当サポートユニットに連絡を取ることができます。

### 設定

ヘルプの設定を選択することができます。



図 32: ヘルプの起動

### 項目ヘルプ

項目、メニュー、機能、およびメッセージに関するヘルプを表示するには、**F1** を使用します。F1 ヘルプでは、該当の項目の技術情報も表示されます。技術情報では、項目へのユーザ初期値の割当に使用できるパラメータ IDなどを確認できます。

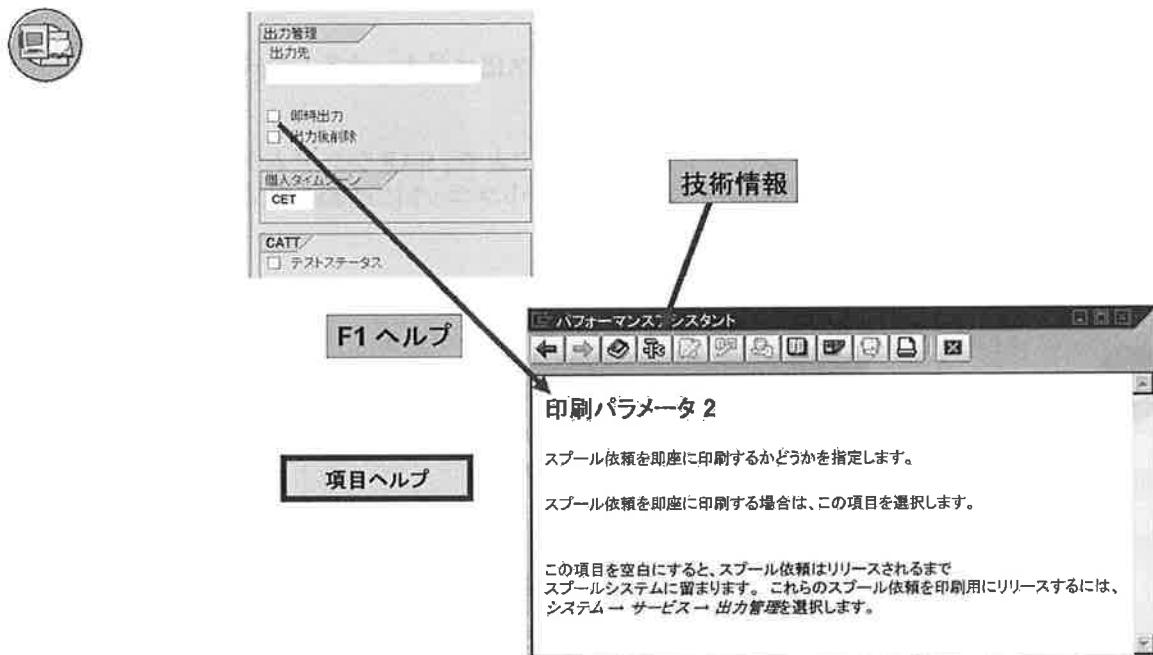


図 33: 項目ヘルプ: F1

入力可能値に関する情報を照会するには、F4を使用します。また、項目のすぐ右側にあるボタンを選択して、その項目に関するF4ヘルプにアクセスすることもできます。入力項目に小さなチェックマークアイコンが表示されている場合、その項目に許容値を入力しないと、現在のアプリケーションの処理を続行できません。

アプリケーション内の多数の項目を、必須入力項目または任意入力項目として設定することができます。また、トランザクションバリアントまたは画面バリアント、あるいはカスタマイジングを使用して項目を非表示に設定することもできます。

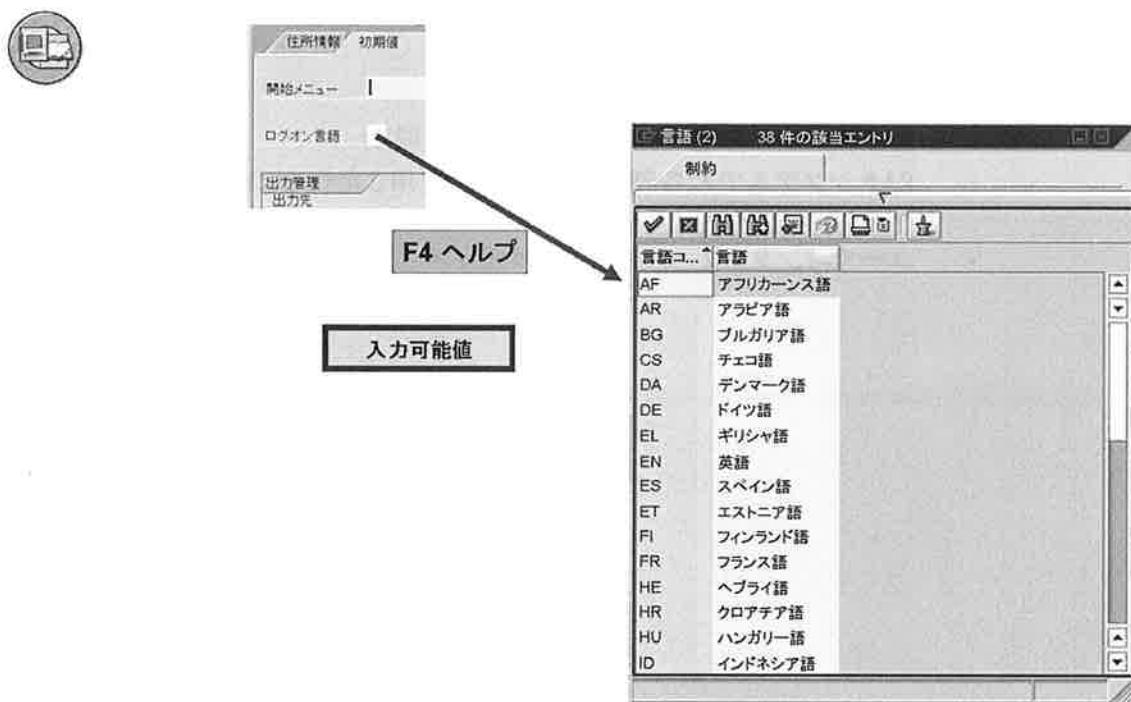


図 34: 項目ヘルプ: F4

## ユーザインタフェースのパーソナライズ方法

作業環境の設定に役立つ複数のパーソナライズオプションがあります。その一部を以下に説明します。



- SAP Easy Access 画面のレイアウトの変更
- 入力ヘルプを提示するための入力履歴の記録
- ステータスバーではなくポップアップウィンドウによるステータスマッセージの表示
- データ表示に関するユーザ設定の設定
- 画面および項目の色と動作の調整



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- SAP システムの各ヘルプ形式に関する説明
- SAP システムでの各種ヘルプ方式を使用した役立つ情報の検索とヘルプの起動
- ユーザインターフェースのパーソナライズ



## 章のまとめ

以下について学習しました。

- SAP Logon ウィンドウでの新規ログオンエントリの登録
- SAP システムへのログオン
- SAP Easy Access 画面のレイアウトについての説明
- SAP 標準メニューとロールベースのユーザメニューの相違についての説明
- ユーザ定義機能の使用とユーザ定義メニューへのトランザクションの追加
- いくつかのナビゲーションオプションを使用した、SAP Easy Access 画面でのナビゲーション
- 複数の有効セッションの開始
- SAP システムの各ヘルプ形式に関する説明
- SAP システムでの各種ヘルプ方式を使用した役立つ情報の検索とヘルプの起動
- ユーザインターフェースのパーソナライズ

## 関連情報

- 関連する用語集リンクについては、次のサイトを参照してください。  
[help.sap.com/content/additional/glossary](http://help.sap.com/content/additional/glossary)





## テスト

1. SAP システムへのログオンに必須の情報ではないものを答えてください。  
正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。  
 A 特定のクライアント番号の入力  
 B ユーザ ID の入力  
 C パスワードの入力  
 D 設定のカスタマイズ
  
2. SAP システムで同時に開くことができるセッションは 1 つだけです。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
  
3. すべての SAP 画面で表示されるメニューを選んでください。  
正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。  
 A システム  
 B ヘルプ  
 C A と B の両方  
 D 上記以外
  
4. SAP システム、および作業中のトランザクションやタスクに関する一般的な情報が表示されるものを選んでください。  
正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。  
 A ステータスバー  
 B メニューパス  
 C ロールバー  
 D 上記以外
  
5. SAP Easy Access メニューでは、以下の項目を組み込んだユーザ定義一覧を登録することができます。  
正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。  
 A Web アドレス  
 B トランザクション  
 C ファイルへのリンク  
 D 上記のすべて

6. 次の中から、コマンドフィールドのエントリとして有効でないものをすべて選択してください。確信がない場合は、選択する前にシステムで試してみてください。

正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。

- A /hend
- B /nex
- C ?sm04
- D /nsm04
- E sm04

7. これまで使ったことがないトランザクションを初めて使用します。すでに目的のトランザクションは呼び出してあります。このトランザクションの詳細と実行手順を確認する必要があります。探している情報を最も効率よく照会できるのは、次のうちどの形式のヘルプですか。

正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。

- A F1
- B F4
- C アプリケーションヘルプ
- D SAP ライブラリ
- E 用語集
- F リリースノート

8. SAP システムで利用できる 3 つの異なるオンラインヘルプを挙げ、それについて説明してください。

---

---

---

9. 頻繁に入力する必要がある項目に値を事前設定したいと考えています。そのためには、パラメータ ID が必要です。画面で対象の項目を選択しているときに、この項目のパラメータ ID について確認するには、どのヘルプ機能を使用したらいいですか。

正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。

- A F1
- B F4
- C システムヘルプ
- D F11
- E アプリケーションヘルプ

10. ヘルプメニューからアクセスできるアプリケーションヘルプは、状況依存型のヘルプです。そのため、システムのどのアプリケーションエリアで作業を行っている場合でも、現在作業中のアプリケーションエリアのヘルプを直接呼び出すことができます。

この文章の内容は正しいですか。

- 正
- 誤



## 解答

1. SAP システムへのログオンに必須の情報ではないものを答えてください。

解答: D

設定のカスタマイズは、SAP システムにログオンしてから行います。

2. SAP システムで同時に開くことができるセッションは 1 つだけです。

解答: 誤

16 セッションまで開始することができます。各セッションは他のセッションに依存しません。

3. すべての SAP 画面で表示されるメニューを選んでください。

解答: C

システムメニューには、セッション開始、ユーザプロファイル、ログオフなど、システム全体に影響する機能が組み込まれています。ヘルプメニューにはさまざまな形式のオンラインヘルプがあります。

4. SAP システム、および作業中のトランザクションやタスクに関する一般的な情報が表示されるものを選んでください。

解答: A

ステータスバーにはシステムメッセージに関する情報、およびクライアント、ユーザ、トランザクションコード、応答時間などのシステム情報が表示されます。

5. SAP Easy Access メニューでは、以下の項目を組み込んだユーザ定義一覧を登録することができます。

解答: D

ユーザ定義は、Web リンク、標準およびカスタマのトランザクションコード、Microsoft Word 文書や PowerPoint ファイルなどの他のファイルへのリンクで構成することができます。

6. 次の中から、コマンドフィールドのエントリとして有効でないものをすべて選択してください。確信がない場合は、選択する前にシステムで試してみてください。

解答: A, B, D, E

*SAP Easy Access* 画面では、有効なトランザクションコードを直接入力することができます。別の画面から入力する場合は、作業するトランザクションコードの前に /n を入力する必要があります。/nend と /nex は、2 種類のログオフオプションです。?sm04 は有効エントリではありません。

7. これまで使ったことがないトランザクションを初めて使用します。すでに目的のトランザクションは呼び出しています。このトランザクションの詳細と実行手順を確認する必要があります。探している情報を最も効率よく照会できるのは、次のうちどの形式のヘルプですか。

解答: C

SAP ライブラリにも目的の情報はありますが、最も効率的に情報を照会できるのは、状況に依存したヘルプが表示されるアプリケーションヘルプです。このヘルプでは、そのアプリケーションに関する包括的な情報が表示されます。

8. SAP システムで利用できる 3 つの異なるオンラインヘルプを挙げ、それについて説明してください。

**解答:** SAP システムで利用できるシステムレベルのヘルプのタイプは以下のとおりです。

#### アプリケーションヘルプ

アプリケーションヘルプでは、現在のアプリケーションの包括的なヘルプが表示されます。初期画面でこのメニューoptionを選択すると、SAP 入門に関するヘルプが表示されます。

#### SAP ライブラリ

ここにはすべてのオンライン文書があります。

#### 用語集

ここでは、用語の定義を検索することができます。

#### リリースノート

SAP システムのリリース間で行われた機能の変更について説明するノートが表示されます。

#### SAPNet

SAPNet にログオンすることができます。

#### サポートメッセージ登録

SAP サービスシステムである SAPNet フロントエンドにメッセージを送信することができます。

#### 設定

ヘルプの設定を選択することができます。

#### F1

F1 は、項目に関する情報を提供する項目レベルのヘルプです。

#### F4

F4 は、項目値の一覧か、一覧が長大な場合は情報検索オプションを提供する、項目レベルのヘルプです。

9. 頻繁に入力する必要がある項目に値を事前設定したいと考えています。そのためには、パラメータ ID が必要です。画面で対象の項目を選択しているときに、この項目のパラメータ ID について確認するには、どのヘルプ機能を使用したらいいですか。

#### 解答: A

F1 では、各項目の使用目的に関するヘルプが表示されるほか、技術情報が表示されます。この技術情報で、該当の項目のパラメータ ID を確認できます。

10. ヘルプメニューからアクセスできるアプリケーションヘルプは、状況依存型のヘルプです。そのため、システムのどのアプリケーションエリアで作業を行っている場合でも、現在作業中のアプリケーションエリアのヘルプを直接呼び出すことができます。

解答: 正

これは正しい説明です。状況依存のアプリケーションヘルプでは、特定のアプリケーションに関するヘルプをより簡単に呼び出すことができます。



# 3 章

## システム共通のコンセプト

### 章の概要

この章では、SAP ソフトウェアのシステム共通のコンセプトについていくつか説明します。SAP モデル企業 IDES 社についても説明します。



### 章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- SAP システムの組織要素の使用目的に関する説明
- SAP システムのマスタデータの使用目的に関する説明
- SAP トレーニングのトランザクションの使用目的に関する説明
- IDES の使用に関する説明

### 章の内容

レッスン：システム共通のコンセプト ..... 70

## レッスン: システム共通のコンセプト

### レッスンの概要

このレッスンでは、SAP システムの基礎となっているシステム共通のコンセプトを確認します。これらのコンセプト(組織要素、マスタデータ、トランザクション)は、個々の会社の企業構造とビジネスプロセスを SAP システム内で表現するための基本要素です。このレッスンでは、これらのコンセプトについて詳細に説明します。まず、各コンセプトの簡単な説明を以下に示します。

#### 組織要素

個々の会社の企業構造は、組織要素を使用して SAP アプリケーションにマッピングされます。

#### マスタデータ

すべてのアプリケーションで集中管理され、権限が与えられたすべてのユーザが利用することができます。また、マスタデータの情報はさまざまな組織要素に割り当てられた複数のビューで編成されることから、マスタデータには組織的な側面もあります。

#### トランザクション

トランザクションは、SAP システムでビジネスプロセスを実行するアプリケーションプログラムです。例として、受注登録、得意先マスタ変更、受注一覧レポートなどのトランザクションがあります。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- SAP システムの組織要素の使用目的に関する説明
- SAP システムのマスタデータの使用目的に関する説明
- SAP トレーニングのトランザクションの使用目的に関する説明
- IDES の使用に関する説明

### ビジネスシナリオ

一般に、企業におけるプロセスは複数の部門にまたがって発生します。グローバル企業の場合、このようなプロセスが複数の国や複数の会社にまたがって発生します。IDES AG 社の長期の成功を支えるものは、ビジネスパートナーとのコラボレーションとグローバルな展望です。IDES 社では、得意先からの新たな受注を SAP システムに入力する際に、データの入力を最低限に抑え、データの正確性を最大限に維持する必要があります。また、すべての業務を記録する必要があります。

### 組織要素

#### クライアント

クライアントはすべての組織要素の最上位レベルの要素であり、企業/本社グループを表します。

#### 会社コード

会社コードは、財務会計における中心的な組織要素を表す、法律上の独立した会計単位です。また、会社コードは、会社の税法(国内)のビュー、会計期間カレンダ、国内通貨、および税レポート要件の単位も表します。

#### プラント

プラントでは、製品の製造、製品の配送、またはサービスの提供を行うことができます。プラントは生産の中心的な組織ユニットです。

#### 保管場所

在庫管理の在庫品目は、1つのプラント内で、保管場所にもとづいて区別することができます。

#### 販売組織

販売組織は受注管理の中心的な組織要素であり、得意先への販売条件を管理します。

#### 流通チャネル

流通チャネルは、さまざまな製品が消費者の元にどのように届けられるかを定義する目的で使用することができます(例: 卸売)。

#### 組織ユニット

組織ユニットでは、企業内に存在するさまざまな事業単位が記述されます。多くの場合、ユニットは機能的または地域的な部門として大まかに定義されます。

#### ポジション

ポジションは企業における個々の従業員の役職です。

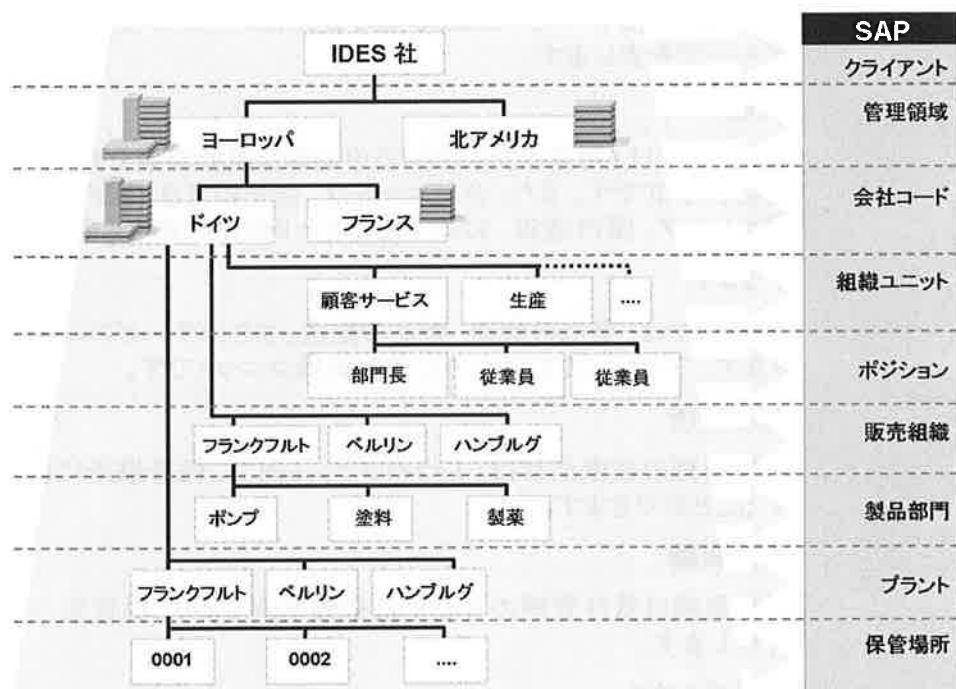


図 35: 組織体系図: 用語

## IDES 社

IDES (International Demonstration and Educational System) は、SAP が開発し、使用しているデモシステムですが、お客様にもご利用いただけます。国際企業である IDES の経営は、外部ビジネスパートナとのコラボレーションとグローバルな展望に支えられています。

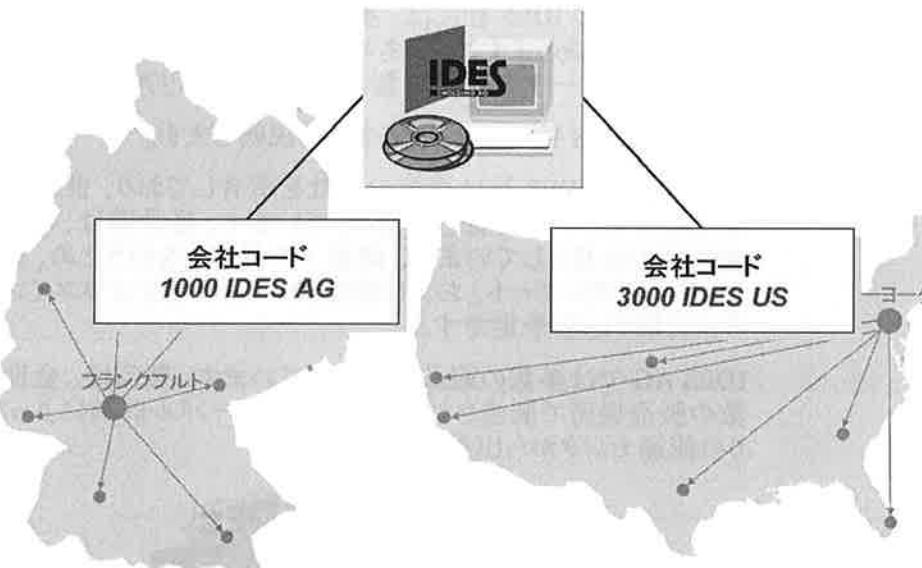


図 36: IDES 持株会社

IDES AG は製造企業です。世界規模で経営を展開し、多数の子会社を擁しています。このトレーニングコースでは、この会社のプロセスを例として使用して、SAP が提供するソリューションについて説明します。

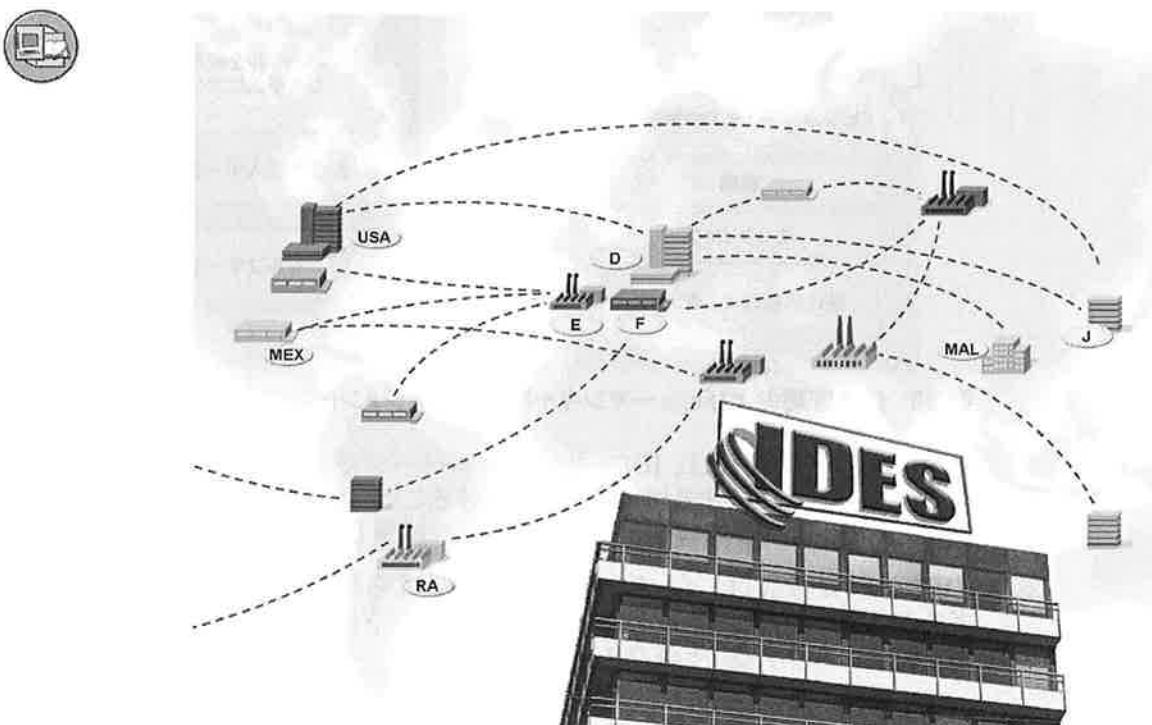


図 37: IDES AG

モデル企業の IDES 社には、多数の事業部門があり、それぞれの事業部門ごとに子会社があります。ビジネスプロセスは完全に設定されており、購買管理、販売管理、マーケティング、製造などのコアエリアをすべて含んでいます。

以下に、IDES 社のシナリオを詳しく説明します。

国際企業の IDES 社は複数の会社を所有しており、世界規模で株主への報告を行うための機能を必要としています。経営陣は、収益を上げることを来年度の目標としています。経営上の見直しを行うため、原価分析レポート、資金管理レポート、および間接費レポートをビジネスインテリジェンスシステムに取り込む予定です。

IDES AG では多数の製品を生産しています。製品は、全世界に散存する多数の製造場所で製造されています。グローバル計画によって、製品は最寄りの流通センタから出荷されます。

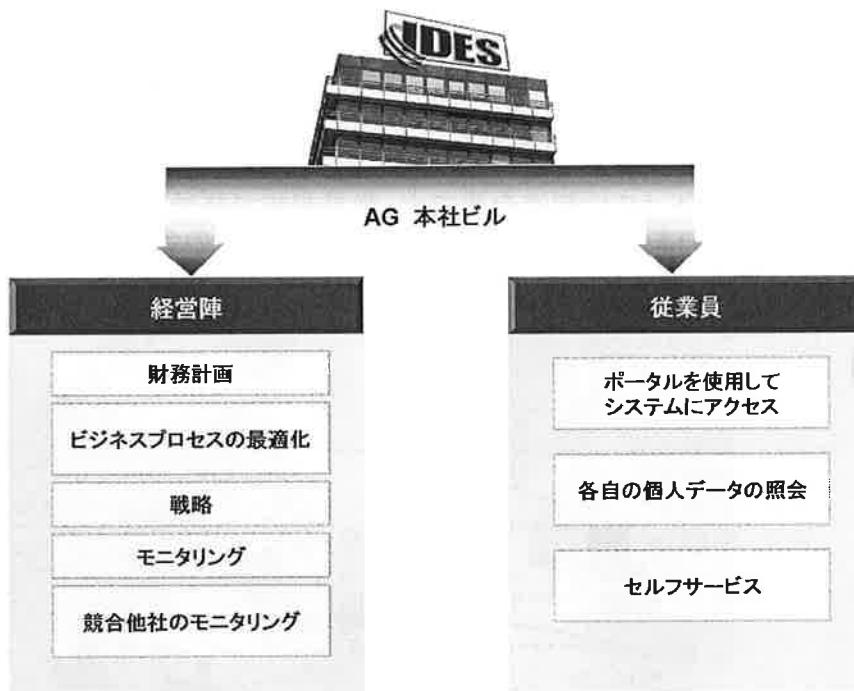


図 38: 会計管理およびヒューマンキャピタルマネジメント

得意先および関係者は、IDES 社のホームページで IDES 社の製品、付属品、およびサービスに関する情報にアクセスすることができます。使いやすいインターフェースと製品検索機能によって、得意先は購買依頼を簡単に登録できます。

IDES 社の従業員は、インターネットポータルから従業員レコードにアクセスして各自の給付金を変更したり、各自の原価センターに請求できる事務用品や資産を購入したりすることができます。

## システム共通のマスタデータのコンセプト

SAP システムにおいて、マスタデータはすべてのアプリケーションで集中管理され、権限が与えられたすべてのユーザがこれを利用することができます。このように集中保管されることで、マスタデータレコードは常に整合性が維持され、最新の状態に更新されるとともに、冗長性が回避されます。また、マスタデータの情報はさまざまな組織要素に割り当てられた複数のビューで編成されることから、マスタデータには組織的な側面もあります。マスタレコードはセグメント構造の形をとっているため、1つの処理に関するさまざまな組織構造を柔軟に表現することができます。

関連するすべてのデータ(得意先や品目に関するデータなど)が1つのデータベースオブジェクトに統合されるため、データの冗長性の問題から解放され、かつデータの完全性が強化されます。保管されているデータは、購買管理、在庫管理、品目計画、請求書照合、財務、人事管理などのすべてのエリアで使用することができます。

### 得意先マスタ

得意先マスタには、企業とその得意先との間の事業関係を定義する重要な情報が格納されます。会社コードデータでは、転記処理と、支払や督促処理などの後続処理が制御されます。販売組織データでは、受注登録、出荷、請求、支払処理などのビジネスプロセスの実行に対応するために、得意先に関する情報が提供されます。得意先マスタの“3階層構造”は以下の要素で構成されます。

1. **一般データ:** このデータは、各会社コードと会社内の各販売組織のすべてに関連する共通データです。
2. **会社コードに関するデータ:** このデータは、得意先との間の、それぞれの会社固有の契約を表します。
3. **販売データ:** このデータでは、個々の会社内の複数の販売組織および流通チャネルに関するさまざまな特性が示されます。

得意先マスタレコードのレイアウトには、特殊要件に関するデータを保管する領域もあります。



図 39: マスタデータ: 得意先マスター

## 品目マスター

品目マスターには、企業が社内での品目管理に必要とする重要な情報がすべて格納されます。品目マスターでは、特に、製品の販売の方法、製造の方法、製造に必要な品目の購買の方法、棚卸の方法、会計の方法、および原価計算の方法が定義されます。品目マスターの情報は、ビジネス機能によって分類されたさまざまなビューにグループ化されます。

→ 注記: 品目マスターのビューのほとんどは、プラントレベルのビューです。

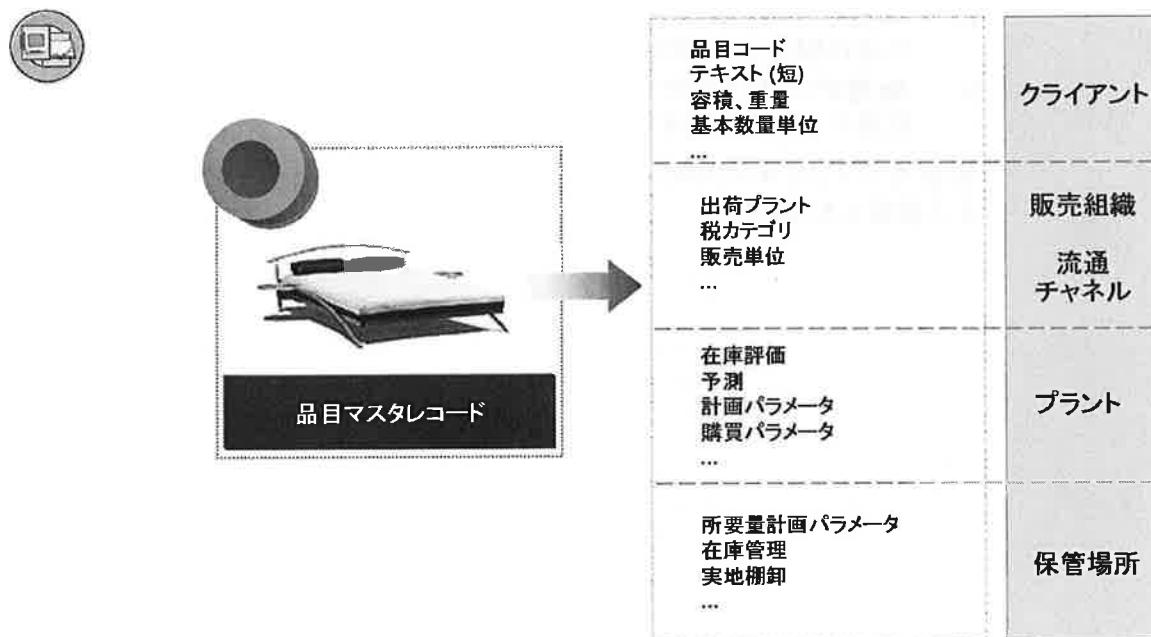
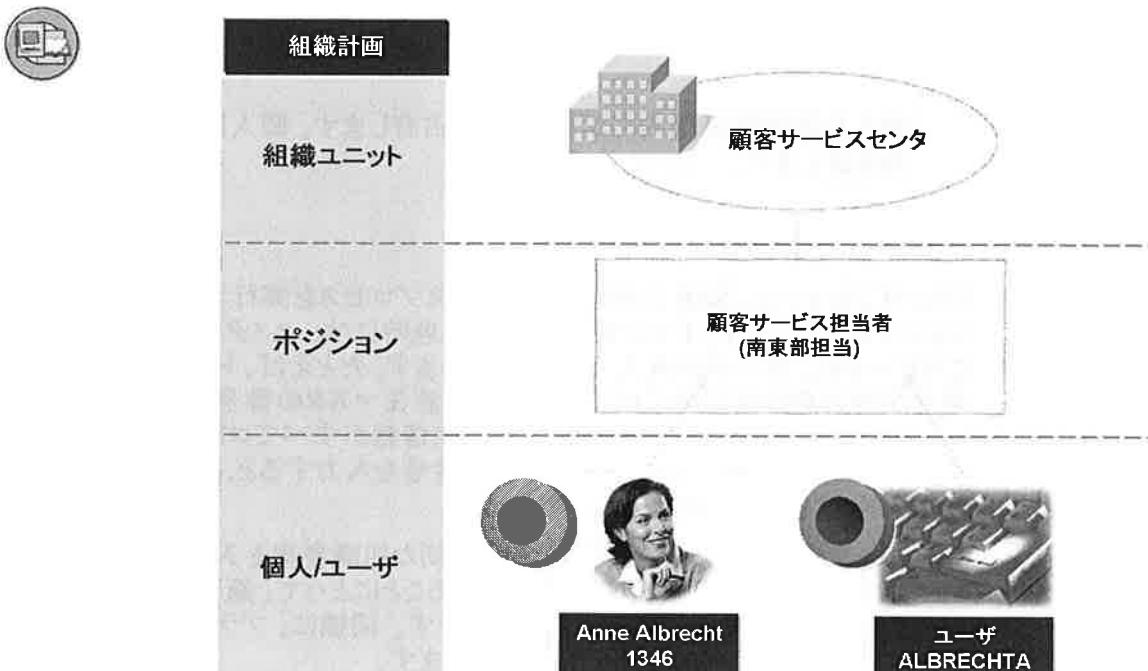


図 40: マスタデータ: 品目マスター

## 従業員ファイル

従業員ファイルは、主に SAP ERP Human Capital Management (HCM) で使用されるマスタデータレコードです。このマスタレコードは、他のマスタレコードと同じように、基本セグメント構造の形式にもとづいています。

SAP HCM で使用される組織要素は SAP HCM 固有のものであり、1 つのグループとして組織管理という名称で呼ばれています。



組織管理の機能では、組織ユニット、ジョブ、ポジション、タスクといった組織オブジェクトを使用して、現組織体系およびレポート構造を迅速かつ効率的にマッピングすることができます。

組織ユニットでは、社内に存在するさまざまな事業単位が説明されます。複数の組織ユニットとこれらのユニット間の関係によって組織体系図が形成されます。組織ユニットは、組織のタイプに応じて、機能部門や地域部門として大まかに定義するか、またはプロジェクトグループとして定義することができます。

### ジョブ

ジョブは、複数のポジションに適用される共通の要件、タスク、またはその他の特性の記述またはテンプレートとして機能します。

### ポジション

ポジションは企業における個々の従業員の役職です。ポジションは個人によって占有されます。個々のポジションはジョブの特性を継承しますが、そのポジション固有の追加特性を定義することもできます。

ポジションが具体的なものであり、保有者(例: マーケティング部門の管理アシスタント)によって占有されるのに対し、ジョブは、割り当てられた特性によって定義された、組織における機能の一般的な分類(例: 管理アシスタント)です。ジョブ記述書は同様の特性を持つ複数の異なるポジションに適用されます。

### 個人

個人は組織体系内のポジションを占有します。個人は社内の従業員を表します。

### トランザクション

トランザクションは、SAP システムでビジネスプロセスを実行するアプリケーションプログラムです。トランザクションの処理時には、マスターデータが最大限にコピーされ、データの再入力が回避されます。たとえば、トランザクション受注伝票登録の実行時には、ユーザは得意先マスタの番号を入力する必要があります。それにより、関連する得意先情報がすべてコピーされます。同様に、受注明細に対して品目マスタの番号を入力すると、関連する品目データが受注伝票にコピーされます。

また、各トランザクションの実行時には、適切な組織要素を入力する必要があります。たとえば、販売組織情報を指定することによって、適切な販売グループがその営業活動の担当として設定されます。同様に、プラント/保管場所を指定すると、製品の供給元として設定されます。

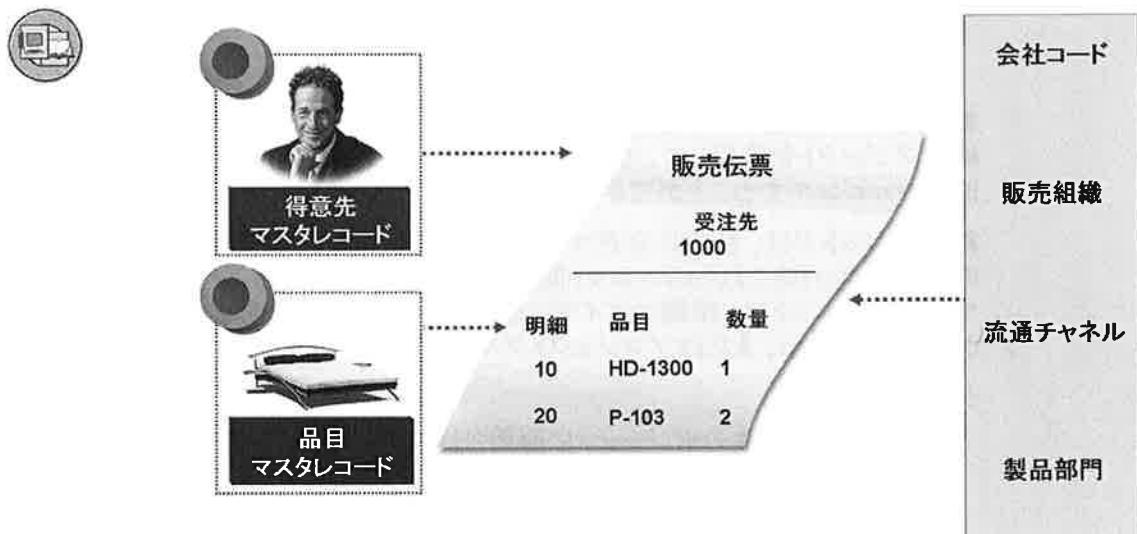


図 42: トランザクション

システムでトランザクションを実行すると、そのつど伝票が登録されます。トランザクションのデータレコードとなる伝票には、マスタデータと組織要素の事前定義された関連情報がすべて格納されます。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- SAP システムの組織要素の使用目的に関する説明
- SAP システムのマスタデータの使用目的に関する説明
- SAP トレーニングのトランザクションの使用目的に関する説明
- IDES の使用に関する説明



## 章のまとめ

以下について学習しました。

- SAP システムの組織要素の使用目的に関する説明
- SAP システムのマスターデータの使用目的に関する説明
- SAP トレーニングのトランザクションの使用目的に関する説明
- IDES の使用に関する説明





## テスト

1. 組織要素では、SAP システムにおける個々の会社の企業構造が、法律または業務に関連する目的で定義されます。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
  
2. 組織要素の例として正しいのは、次のうちどれですか(1つ選択)。  
正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。  
 A 会社コード  
 B クライアント  
 C プラント  
 D 上記のすべて  
 E 上記以外
  
3. マスタデータの説明として正しいのは、次のうちどれですか(1つ選択)。  
正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。  
 A すべてのアプリケーションで集中管理され、権限が与えられたすべてのユーザが利用することができる  
 B データの冗長性が軽減される  
 C さまざまな組織要素に割り当てられた複数のビューに編成される  
 D 上記のすべて
  
4. このレッスンで取り上げた2つのマスタデータタイプを挙げてください。  
正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。  
 A プラントと得意先  
 B 品目と得意先  
 C 品目と保管場所  
 D 上記以外

5. 得意先マスターの説明として正しいのは、次のうちどれですか(1つ選択)。
- 正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。
- A 企業とその得意先との間の事業関係を定義する重要な情報が格納される
  - B ビジネスプロセスの実行を支援する品目固有のパラメータが格納される
  - C その得意先に製品を販売することを計画している会社ごとにそれぞれ登録する必要がある
  - D 上記以外
6. トランザクションは、SAP システムでビジネスプロセスを実行するアプリケーションプログラムです。
- この文章の内容は正しいですか。
- 正
  - 誤
7. トランザクションを実行するたびに登録されるものは何ですか。
- 正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。
- A レポート
  - B ログ
  - C 伝票
  - D 棚卸
  - E 上記以外



## 解答

- 組織要素では、SAP システムにおける個々の会社の企業構造が、法律または業務に関連する目的で定義されます。

解答: 正

個々の会社の企業構造は、組織要素を使用して SAP アプリケーションにマッピングされます。組織要素は、SAP システムにおける個々の会社の企業構造を法律または業務に関連する目的で定義するためのメカニズムです。

- 組織要素の例として正しいのは、次のうちどれですか (1 つ選択)。

解答: D

組織要素には、法的企業実体、プラント、保管場所、営業所、利益センタなどが含まれます。組織要素は、1 つのアプリケーションに関連づけるか(例: 販売組織を受注管理に関連づける)、または複数のアプリケーションに関連づける(例: プラントを調達と生産計画に関連づける)ことができます。

- マスタデータの説明として正しいのは、次のうちどれですか (1 つ選択)。

解答: D

関連するすべてのデータ(得意先や品目など)が 1 つのデータベースオブジェクトに統合されるため、データの冗長性の問題から解放され、かつデータの完全性が強化されます。保管されているデータは、購買管理、在庫管理、品目計画、請求書照合、財務、人事管理などのすべてのエリアで使用することができます。

- このレッスンで取り上げた 2 つのマスタデータタイプを挙げてください。

解答: B

得意先マスタには、企業とその得意先との間の事業関係を定義する重要な情報が格納されます。品目マスタには、企業が社内での品目管理に必要とする重要な情報がすべて格納されます。

- 得意先マスタデータの説明として正しいのは、次のうちどれですか (1 つ選択)。

解答: A

得意先マスタには、企業とその得意先との間の事業関係を定義する重要な情報が格納されます。これらのパラメータは各得意先に固有であり、ビジネスプロセスの実行を支援します。

6. トランザクションは、SAP システムでビジネスプロセスを実行するアプリケーションプログラムです。

解答: 正

トランザクションは、SAP システムでビジネスプロセスを実行するアプリケーションプログラムです。トランザクションの処理時には、マスタデータが最大限にコピーされ、データの再入力が回避されます。

7. トランザクションを実行するたびに登録されるものは何ですか。

解答: C

システムでトランザクションを実行すると、そのつど伝票が登録されます。この伝票はトランザクションのデータレコードとなるもので、この伝票には、マスタデータと組織要素の事前定義された関連情報がすべて格納されます。

# 4 章

## ロジスティクス

### 章の概要

この章では、SAP Business Suite で提供されるさまざまなロジスティクスプロセスについて概説します。



### 章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- ・ さまざまな主要業務プロセスについての説明
- ・ 主要業務プロセス間の統合の実例紹介
- ・ 販売管理に関連するタスクの概説
- ・ SAP ERP がサポートする販売管理の主要プロセスに関する説明
- ・ カスタマリレーションシップマネジメントプロセスに関連するタスクの概要
- ・ SAP CRM アプリケーションがサポートするカスタマリレーションシップマネジメントの主要プロセスについての説明
- ・ 生産計画および製造実行に関連するタスクの概要に関する説明
- ・ SAP ERP がサポートする生産の主要プロセスに関する説明
- ・ サプライチェーンマネジメントプロセスに関連するタスクの概説
- ・ SAP SCM アプリケーションがサポートするサプライチェーンマネジメントの主要プロセスに関する説明
- ・ SAP SCM と他のコンポーネントおよびシステムとの統合についての説明
- ・ 調達サイクルに関連するタスクの概要説明
- ・ SAP ERP がサポートする調達の主要プロセスについての説明
- ・ サプライヤリレーションシップマネジメントプロセスに関連するタスクの概説
- ・ SAP SRM アプリケーションがサポートするサプライヤリレーションシップマネジメントの主要プロセスに関する説明
- ・ SAP SRM と他のコンポーネントおよびシステムとの統合についての説明
- ・ 受注管理、生産、調達、およびプロダクトライフサイクルマネジメントを支援するプロセスの関連タスクの概要
- ・ SAP ERP および SAP PLM が支援するプロダクトライフサイクルマネジメントの主要プロセスに関する説明

## 章の内容

|   |     |
|---|-----|
| レッスン: ロジスティクス概要 .....                   | 89  |
| レッスン: 販売管理 .....                        | 93  |
| レッスン: カスタマリレーションシップマネジメント .....         | 103 |
| レッスン: 生産 .....                          | 119 |
| レッスン: サプライチェーンマネジメント .....              | 127 |
| レッスン: 調達 .....                          | 138 |
| レッスン: サプライヤリレーションシップマネジメント .....        | 146 |
| レッスン: その他のプロセスとプロダクトライフサイクルマネジメント ..... | 156 |

## レッスン：ロジスティクス概要

### レッスンの概要

このレッスンでは、さまざまな主要業務プロセスの概要およびこれらの主要プロセスの統合例を紹介します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ・ さまざまな主要業務プロセスについての説明
- ・ 主要業務プロセス間の統合の実例紹介

### ビジネスシナリオ

IDES 社には広範囲の製品があり、世界の全域で生産および販売されています。IDES 社チームのメンバーとして、日常業務に関する多様な主要業務プロセスを理解する必要があります。

### 主要業務活動

生産、販売、調達は、それぞれ異なる機能部門が扱う主要業務プロセスですが、これらのプロセスのそれぞれが、他のプロセスの活動の引き金となります。たとえば、生産は受注や独立需要計画から開始され、調達の所要量は生産計画の所要量や在庫製品の販売などから連鎖的に発生します。これらのプロセスは相互に独立して発生することも、一連のグループとして発生することもあります。

社内の要件、製品、プロセスによって、業務活動のそれぞれが果たす役割およびその優先度が異なります。さらに、品質管理などのいくつかの付随プロセスが非常に重要な場合もあります。このようなプロセスが実際の販売プロセスなどより重要な場合もあります。



図 43: 主要業務活動

SAP ERP ソリューションには、企業に必要なこのようなプロセスすべてが組み込まれています。販売、調達、生産は、一次的な業務活動とみなされます。二次的な活動には、品質管理、プラント保全、得意先サービス、倉庫管理などがあります。プロセスの重要性は各企業のニーズにより異なります。主要業務プロセスのすべてが相互に統合され、中核的な ERP システム 1 つで実行することができます。これらのロジスティクスプロセスが相互に統合されるだけではなく、SAP ERP Financials および SAP ERP Human Capital Management とも統合されます。

## SAP Business Suite によるプロセスの拡張

SAP ERP が提供する業務プロセスは、SAP Business Suite のソリューションで拡張することができます。たとえば、SAP SCM で生産計画プロセスを最適化および集中化することなどができます。あるいは、SAP CRM を使用してマーケティングおよび販売機能を拡張することもできます。特定のソリューションのコンポーネントを追加し、それらのコンポーネントが提供する追加機能によって“基本”プロセスを強化および拡張することができます。

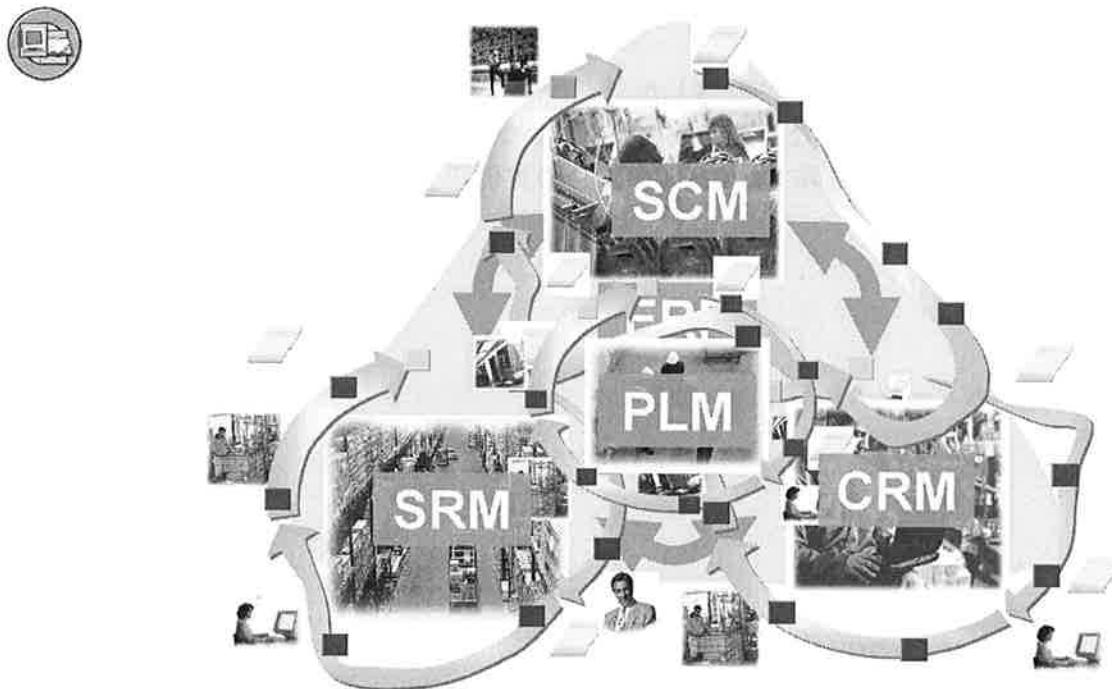


図 44: SAP Business Suite のロジスティクスプロセス

たとえば、SAP ERP と SAP SCM に組み込まれた生産の機能について考えてみましょう。SAP ERP では、販売および需要の計画から製造指図の登録、最終的な製造ステップにいたる生産プロセスの全体が対象とされます。ここでの計画のプロセスは、“MRPII”コンセプトに従い、品目計画に優先度が設定され、能力計画とそれに付随する日程計画は独立した後続機能として提供されます。このため、SAP SCM で提供される SAP SCM コンポーネントには、“Advanced Planning System”(APS)の機能が組み込まれています。品目と能力が同時に計画され、実行可能な最適化も行われます。また、販売計画を外部パートナーに公開して、計画が現実的かどうかを確認することもできます。実際の製造プロセス自体は今までどおり ERP システムの守備範囲です。つまり、SAP SCM は SAP ERP に置き換わるものではなく、コンポーネントの追加によって、追加および最適化された機能が提供されるものです。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- さまざまな主要業務プロセスについての説明
- 主要業務プロセス間の統合の実例紹介

## レッスン：販売管理

### レッスンの概要

このレッスンでは、受注プロセスについて、および受注管理が他のソリューションにどのように統合されているかについて学習します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ・ 販売管理に関するタスクの概説
- ・ SAP ERP がサポートする販売管理の主要プロセスに関する説明

### ビジネスシナリオ

IDES 社では、さまざまな得意先に製品を販売しています。事業の成功のためには、受注をタイムリーに処理して納入することが重要です。

### 販売プロセス概要

SAP ERP は引合、見積、受注生成、契約、請求管理など販売バックオフィスプロセスに関する詳細な情報を提供します。企業は、受注ステータス、請求、支払、与信管理など得意先ライフサイクルに関するすべての情報を把握することができます。バックオフィス機能のほか、SAP ERP はインターネットセールス、ハンドヘルドなどモバイルデバイスから入力された販売、基本的なコールセンタ機能もサポートしています。

受注プロセス (order to cash) シナリオでは、プリセールス活動から始まって受注登録、受注処理と続き、受注に対する請求で終了するすべてのプロセス、およびこれと並行した財務会計での転記プロセスを表しています。

サービスまたは品目の基本的な受注処理サイクルは、以下のフェーズで構成されます。

#### プリセールス活動

プリセールス活動とは、システムに入力された引合または見積などです。受注の登録時に、これらを参照として使用することができます。

#### 受注登録と利用可能在庫確認

受注には、プリセールス活動の伝票 (引合または見積) の情報を取り入れることができます。受注を参照して販売分納契約や販売契約 (長期販売契約) を登録することもできます。これらは、販売プロセスステップでサポートされています。

受注登録時には、品目の利用可能在庫をチェックして、得意先の指定納期に間に合うかどうかを確認することができます。

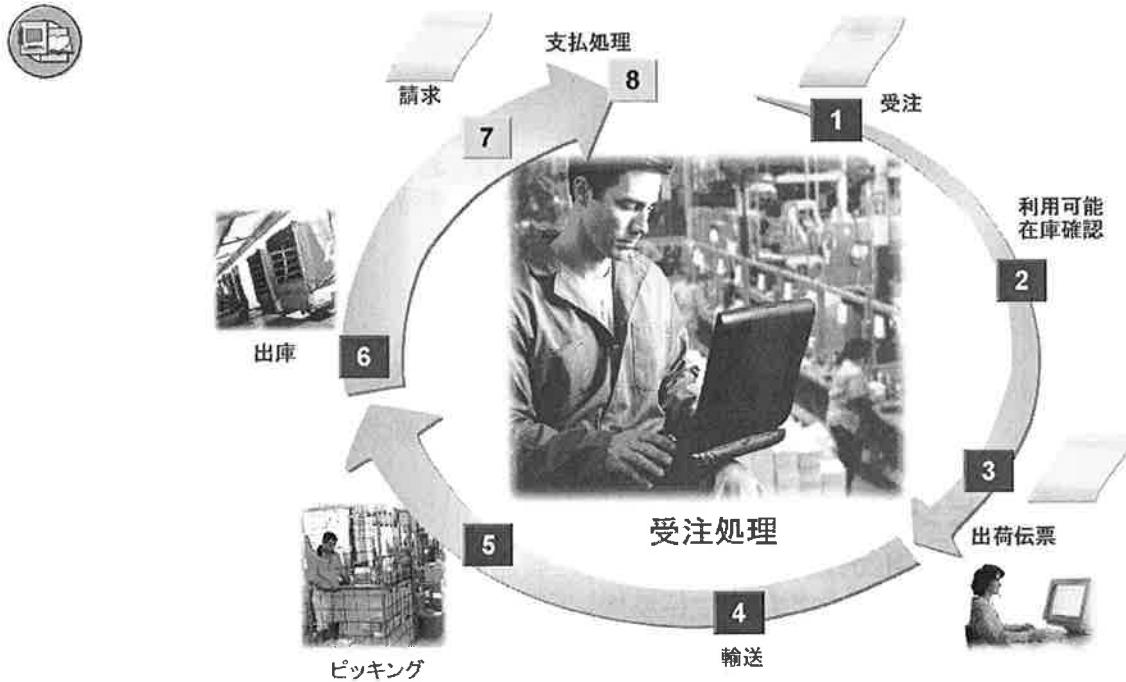


図 45: 受注管理

### 出荷と出庫

商品が物理的に移動するときの処理、および出庫転記は、出荷伝票にもとづいて行われます。倉庫管理システムを使用してピッキングを行い、輸送を計画および実行することができます。

### 請求

販売プロセスの最終ステップとして、請求書が発行されます。請求書は会計管理にも同様に反映させる必要があります。

## 受注

受注登録時に、システムで次の基本機能が実行されます。

- 販売取引の監視
- 利用可能在庫確認
- 資材所要量計画 (MRP) への所要量の転送
- 納入日程計画
- 価格設定と税の計算
- 与信限度確認
- 伝票の印刷又は電子的転送

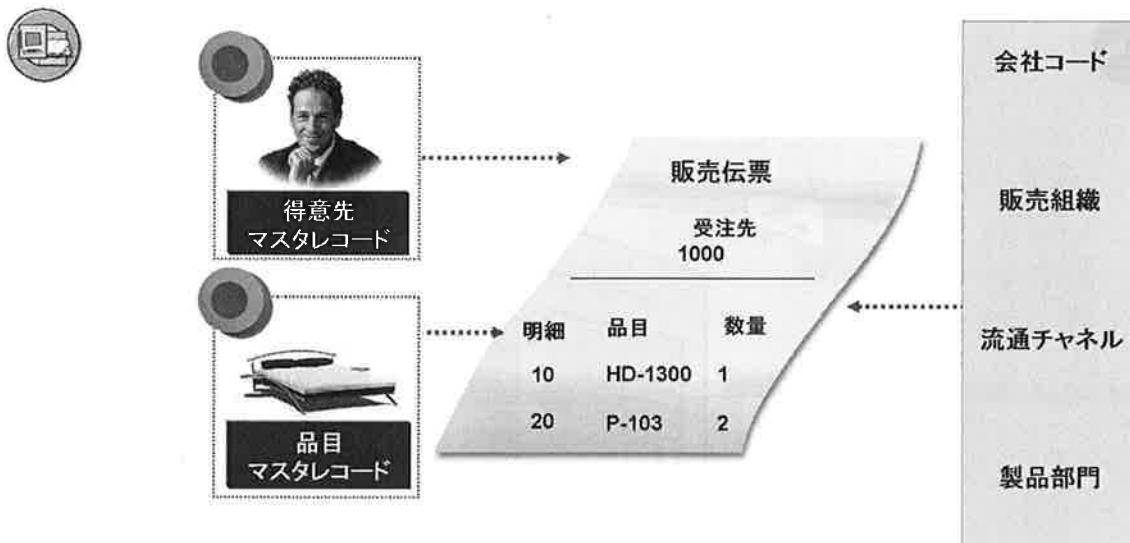


図 46: 受注

システムの設定方法によって、これらの基本機能は完全に自動化されているか、または一部マニュアル処理を必要とします。これらの基本機能によって生成されたデータ(出荷日付、確認済数量、価格、割引など)は、販売伝票に記録されます。ユーザは生成されたデータを照会することができ、場合によっては後続処理でマニュアル変更することもできます。

## 出荷

出荷はロジスティックスチェーンの重要な部分です。

出荷処理では、以下を実行して、すべての出荷手順を処理開始時に決定することができます。

- 得意先との一般業務契約の考慮
- 特別品目要求の記録
- 受注の出荷条件の定義

この結果、出荷処理の大部分が自動化されて効率化され、マニュアル変更は特定の状況においてのみ必要となります。

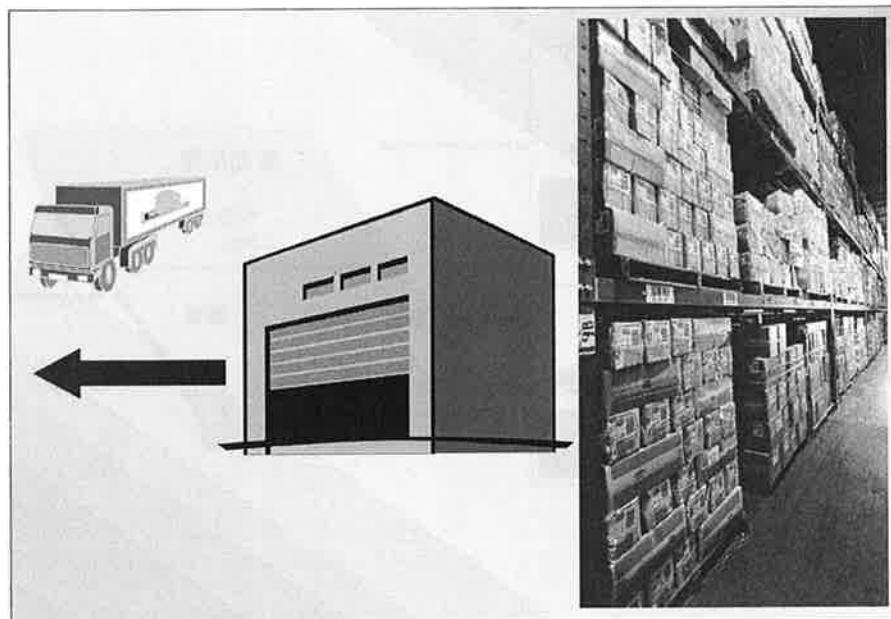


図 47: 出荷と出庫

### 出荷機能

出荷モジュールでは、以下の機能などをサポートします。

- 出荷期限の参照伝票(受注伝票、購買発注伝票など)の期限監視モニタ
- 出荷伝票の登録と処理
- 出荷梱包
- 輸送計画の情報サポート
- 貿易要件のサポート
- 出荷伝票の印刷および送付
- 出庫処理
- 出荷処理中
- 実行すべき活動
- 発生の恐れがあるボトルネックの発見

出荷処理に最も一般的に使用される伝票は、出荷伝票です。出荷伝票は出庫処理の中心的オブジェクトとして機能し、ピッキング、梱包、輸送、出庫などすべての出荷活動をサポートします。出荷処理では、出荷計画情報の記録、出荷活動ステータスの監視が行われ、出荷処理時に収集されたデータが文書化されます。出荷伝票を登録すると、ピッキングや出荷スケジューリングなどの出荷活動が開始され、出荷処理時に生成されたデータが出荷に組み込まれます。

### 機能の範囲

出荷伝票は、次のように登録することができます。

- 受注を参照
- 在庫転送オーダーを参照
- 外注発注を参照
- プロジェクトを参照
- 参照なし

要件に従って、出荷伝票を自動的にまたはワークリストを使用してマニュアルで登録することができます。得意先とは、一括納入および分割納入、および受注結合に関する契約を締結することができます。複数の出荷伝票を結合して、単一の出荷グループを構成することができます。

各種の倉庫および販売概要レポートにより、登録された出荷伝票や未処理販売活動を監視することができます。

### 出荷のピッキング

ピッキングプロセスには、保管場所からの商品の取得、出荷準備を行うピッキングエリアへの商品のステージングが含まれます。

#### ピッキング機能

システム設定により、次のようにピッキングを実行することができます。

- 自動的(出荷伝票登録時)
- 定期的(特定時期に)
- マニュアル(従業員の依頼により)

スケジューリングおよび監視のために、出荷明細ごとにピッキングステータスが記録されます。ステータスは、ピッキング手順内での明細の位置を表します。

システム標準設定では、関連する明細がピッキング済であることが出庫転記を実行する際の前提条件となります。したがって、出荷伝票において出荷数量はピッキング数量と同じになります。

倉庫管理システム(WM)は物流管理システム(LES)に完全に統合されています。たとえば、出荷伝票から直接、倉庫管理転送指図を登録することができます。倉庫管理プロセスの現行ステータスは、出荷または受注からも監視することができます。

### 出庫転記機能

出庫転記は出荷伝票にもとづいて行われます。出庫転記に必要なデータは、出荷伝票から出庫伝票にコピーされます。これらのデータをマニュアル変更することはできません。すべての変更は出荷伝票で行う必要があります。出荷伝票に対する出庫が転記されると、出荷伝票の変更可能範囲は大幅に限定されます。これにより、出庫伝票と出荷伝票間に差異が生ずるのを防ぐことができます。この方法により、出庫伝票は出荷伝票を正確に反映したものになります。

出荷伝票に対する出庫を転記すると、次の機能が実行されます。

- 出荷数量の分、品目の倉庫在庫が減少します。
- 金額変更が、在庫勘定の貸借対照表勘定に転記されます。
- 出荷数量の分、所要量が減少します。
- シリアル番号のステータスが更新されます。
- 出庫転記が伝票フローに自動的に記録されます。
- 仕入先の受託在庫に対して在庫決定が実行されます。
- 出荷証明のワークリストが生成されます。

出庫転記は、次の方法で実行することができます。

- 自動的(出荷伝票登録時)
- 定期的(特定時期に)
- マニュアル(従業員の依頼により)

## 請求

請求は、受注処理における業務トランザクションの最終処理段階です。請求に関する情報は、受注処理および出荷処理の各段階で利用することができます。

請求機能には次のようなものがあります。

- 出荷またはサービスにもとづく請求書の登録
- クレジット/デビットメモおよびプロフォーマインボイスの発行
- 料金計算処理区分の取消
- 包括的な価格設定機能
- リベートの発行
- 財務会計への請求データの転送

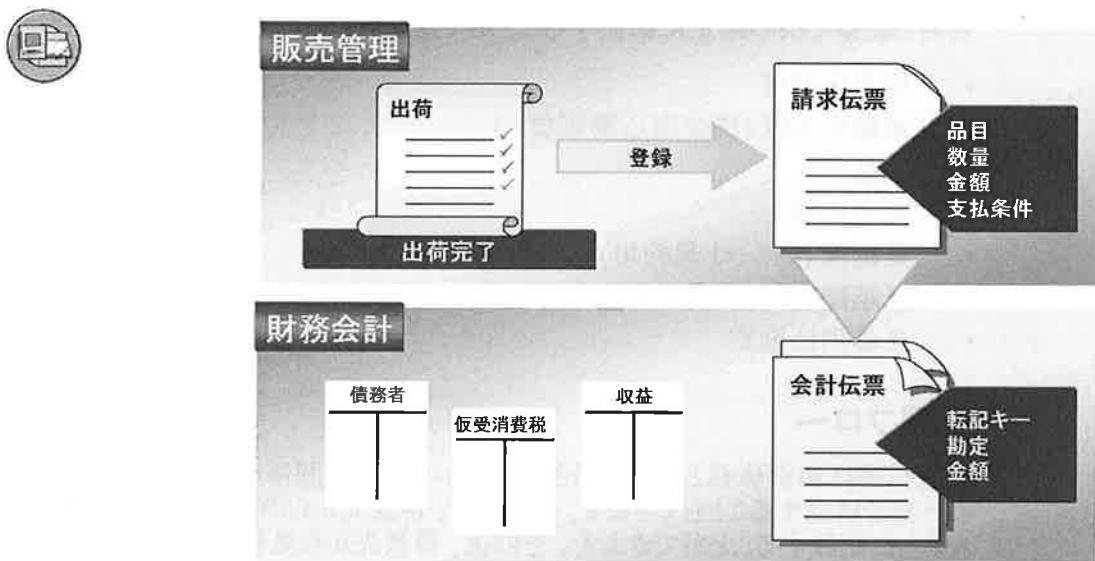


図 48: 請求

SAP ERP の他の受注処理と同様、請求は組織構造に統合されています。このため、請求トランザクションを特定の販売組織、流通チャネル、製品部門に割り当てることができます。請求には財務会計へのインターフェースがあるため、会計部門の組織構造(会社コードおよび会社コードに割り当てられた販売組織)は重要です。

請求処理時には、請求伝票を登録、変更、削除することができます。

請求伝票は以下のように登録することができます。

- 受注伝票を参照
- 出荷伝票を参照
- 外部取引を参照
- バックグランドタスクとして一括請求をシステムで自動処理
- ワーリストからマニュアル処理
- 請求伝票を明示的に登録
- 複数の受注伝票を一括請求伝票に統合
- 1つ以上の受注伝票を複数の請求伝票で請求(これは請求書分割と呼ばれます)
- 販売伝票ごとに個別請求伝票を登録

### 請求と財務会計

勘定設定によって、金額が適切な勘定に自動的に転記されます。

費用と収益を次の勘定に転記することができます。

- 得意先債権
- 総勘定元帳(現金消込勘定など)
- 収益
- 売上控除
- 見越額(リベート契約用)
- 見越勘定
- 見越消込勘定

## 伝票フロー

販売伝票は個別伝票として登録されますが、相互に関係のある伝票チェーンの一部を構成することもできます。たとえば、得意先からの電話による引合をシステムに記録することができます。その後、得意先から見積を依頼されると引合を参照して見積を登録します。得意先はその後見積にもとづいて注文を出し、ユーザは見積を参照して受注を登録します。そして商品を出荷して、得意先に請求します。これらの伝票はすべて、伝票フローで相互参照できます。

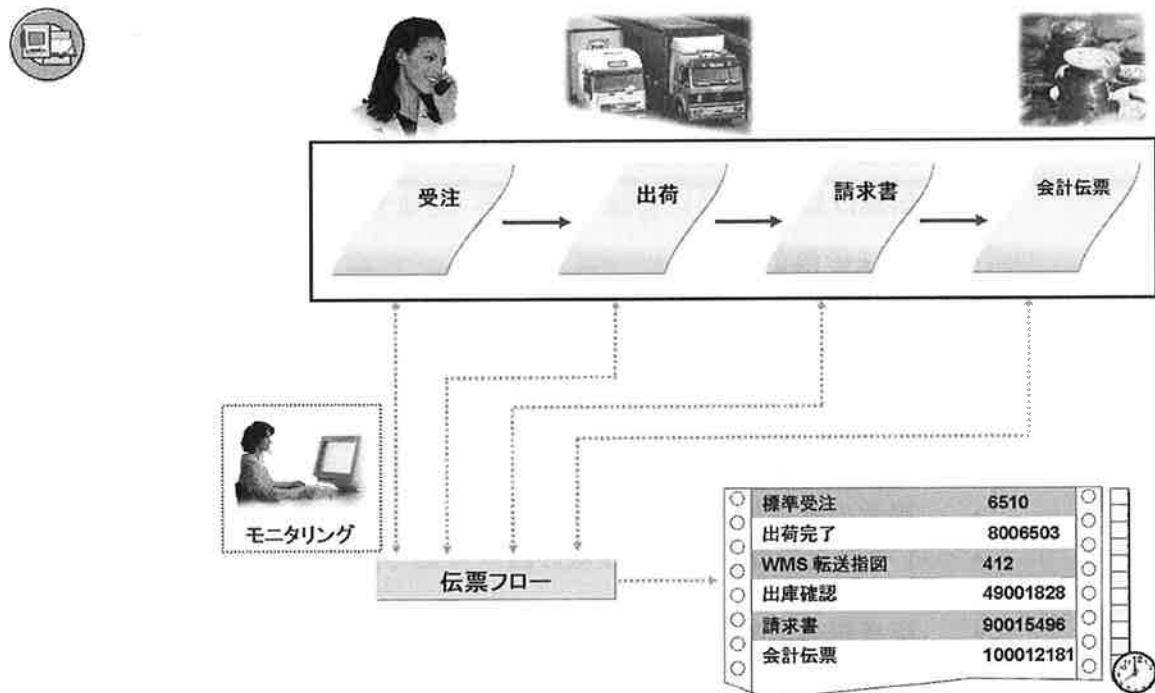


図 49: 伝票フロー

商品の納入後に一部の不良品が検出されたために、得意先のクレーム受付を行う必要がある場合は、受注を参照して無償出荷伝票を登録します。伝票チェーン全体(引合、見積、受注、出荷、請求書、それに続く無償出荷伝票)で伝票フローまたは履歴が構成されます。伝票間のデータフローによって手作業が減り、問題解決が容易になります。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 販売管理に関するタスクの概説
- SAP ERP がサポートする販売管理の主要プロセスに関する説明

## レッスン：カスタマリレーションシップマネジメント

### レッスンの概要

このレッスンでは、SAP Customer Relationship Management (CRM) ソリューションの概要を説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- カスタマリレーションシップマネジメントプロセスに関連するタスクの概要
- SAP CRM アプリケーションがサポートするカスタマリレーションシップマネジメントの主要プロセスについての説明

### ビジネスシナリオ

IDES 社では、顧客に複数のコンタクトオプションを提供することを望んでいます。集中的な得意先管理を構築したいと考え、SAP Customer Relationship Management の導入に関心を持っています。

### カスタマリレーションシップマネジメント

営業員を最も苛立たせるのは、必要な情報を利用できないことが原因で顧客との取引を逃すことです。たとえば、次のような情報です。その顧客がすでに購入している製品は何か。その顧客からの利益率はどれくらいか、必要な数量を納入できるか。

取引において顧客を最も苛立たせるのは、自社のニーズが満たされないことです。満足度が低い顧客は、再度の取引をもはや望みません。

カスタマリレーションシップマネジメントは、企業が成功するための重要な要素となっています。大企業にとっての問題は、地元の小売店の精神を全部門および全従業員にあまねく普及させることです。

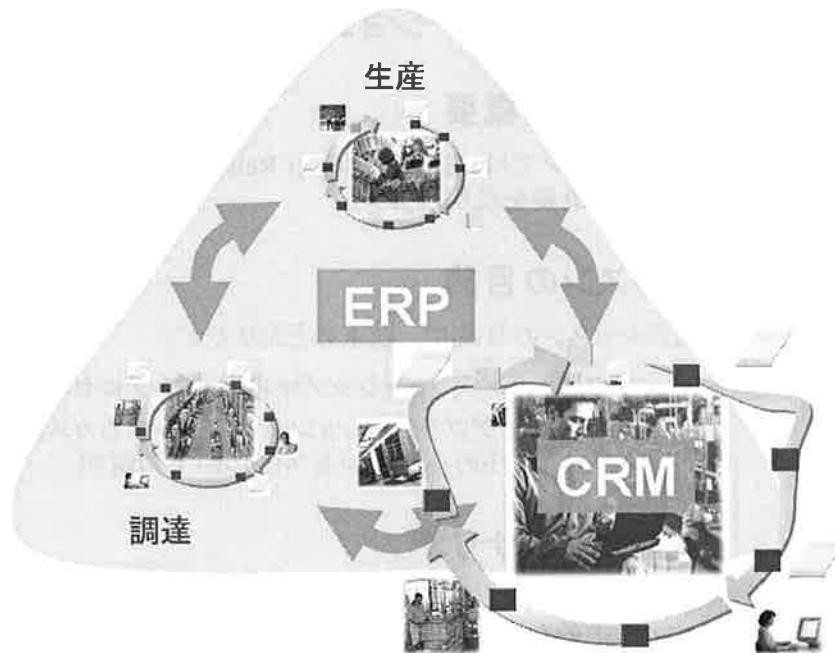


図 50: SAP CRM

カスタマリレーションシップマネジメント(CRM)とは、顧客を企業とそのビジネスプロセスの中心に置くというコンセプトです。CRM というこのコンセプトを主要な企業理念として導入し、CRM の戦略を社内で採用する必要があります。企業のすべての活動は、顧客を単に(売上の増加という)目的達成の手段として見るのではなく、顧客を活動目的の中心に設定したものでなくてはなりません。

カスタマリレーションシップマネジメントの原則は、企業のあらゆるレベルに適用する必要があります。CRM の目的は、ビジネスのすべてのフェーズで顧客との長期的な関係を構築し、この関係を維持することです。カスタマリレーションシップのフェーズには、以下のものがあります。

- **見込顧客へのアプローチ:** 顧客が企業とその製品に関心を持ちます(ファーストコンタクト)。
- **顧客の獲得:** 顧客が具体的な購入意思を持ち、企業に発注を行います。
- **サービス:** 購買した製品やサービスに対する顧客の満足を確実なものとするために、企業があらゆる支援を行います。
- **顧客の維持:** 独自の魅力的な顧客サポートによって、顧客の満足度とロイヤリティが強化されます。競合他社がより安い価格で同種の製品を提供しても、顧客が離れていくことはありません。



図 51: カスタマリレーションシップマネジメント

カスタマリレーションシップマネジメントの発想は古くからあり、地元の小売店はこのやり方で商売を行ってきました。顧客との取引が続くかぎり、その顧客との関係は維持されました。

地元の小売店主は、顧客のことをよく知っています、それぞれの顧客のニーズがどのようなものか把握しています。小売店主は、いつ、どの顧客に、どのような製品を提供すれば商売になるかを心得ています。また、地元の小売店主は、顧客の子供の誕生日にキャンディーをプレゼントすることも忘れません。

大企業にとっての課題は、この地元の小売店の精神をいかに社内に応用するかです。

なぜこれが必要なのでしょうか。インターネットは私たちの生活を変えました。今や、マウスを1度クリックしただけで、競合製品にアクセスできます。このような状況で、顧客はビジネスコミュニケーションのすべてのチャネルの完全な統合を求めています。

顧客が使用するコミュニケーションチャネルがどのようなものであっても、ところを選ばず、顧客が常に求めるものは本物のサービスです。

ある企業で本物のサービスが提供されないとわかれば、顧客はただ競合他社に乗り換えるまでです。

企業は、カスタマリレーションシップの維持が事業の成功に欠かせない要素となっていることを、改めて認識する必要があります。

このための解決策となる製品が **SAP CRM** です。SAP CRM は従来の販売プロセスを越えた広い範囲に対応しています。SAP のカスタマリレーションマネジメントソリューション (SAP CRM) の土台となっている SAP Customer Relationship Management (SAP CRM) は、有益なカスタマリレーションシップの獲得、構築、および維持に必要な顧客中心のソリューションを企業に提供します。SAP CRM は、リレーションシップのライフサイクルの全フェーズ (契約、取引、遂行、サービス) にわたって、クローズドループ (循環) 型のカスタマイナクションを推進します。SAP CRM は関連するすべてのチャネル (モバイル、テレフォニー、インターネット) に対応しています。SAP CRM は、CRM のすべての業務次元 (オペレーション、アナリティカル、コラボレーション)においてカスタマリレーションシップを強化します。

### 従来の直販

概して、企業における情報の収集は、それほど実用的には行われていません。多くの場合、受け渡される情報が不完全であったり、不正確であったりします。従業員の入替りに伴い、重要な顧客情報がしばしば失われます。

従来の直販は、顧客情報が分散した状況で行われています。中には、顧客および関連する担当者情報を把握している従業員が1人しかいないといったケースもあります。

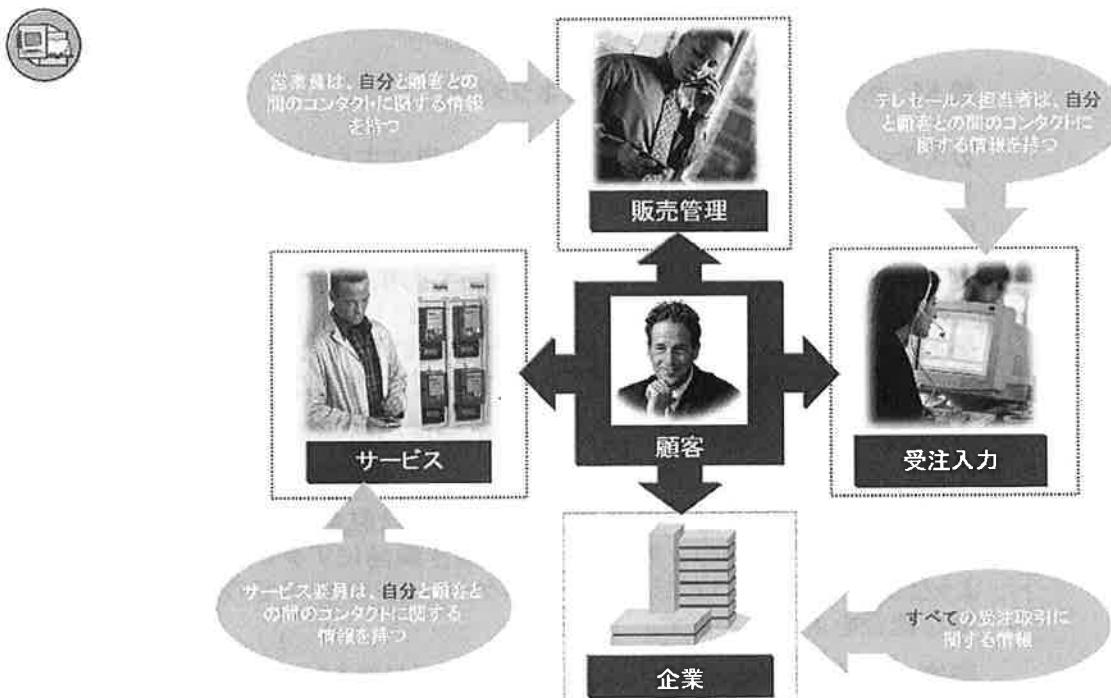


図 52: 従来の情報

### SAP CRM を使用した直販

SAP CRM を使用することで、顧客側担当者に関する情報を必要とするすべての従業員が、該当の情報にただちにアクセスすることができます。また、フィールドセールスおよびフィールドサービスでは、フィールド営業員が、ラップトップなどのモバイルデバイスを使用してすべての顧客の担当者情報に出先からアクセスすることができます。これらの情報を分析することで、顧客に対する理解が深まります。その結果として、企業は、サービスパッケージの増加、問い合わせ処理の迅速化、リレーションシップの強化、および顧客ロイヤリティの向上を実現することができます。

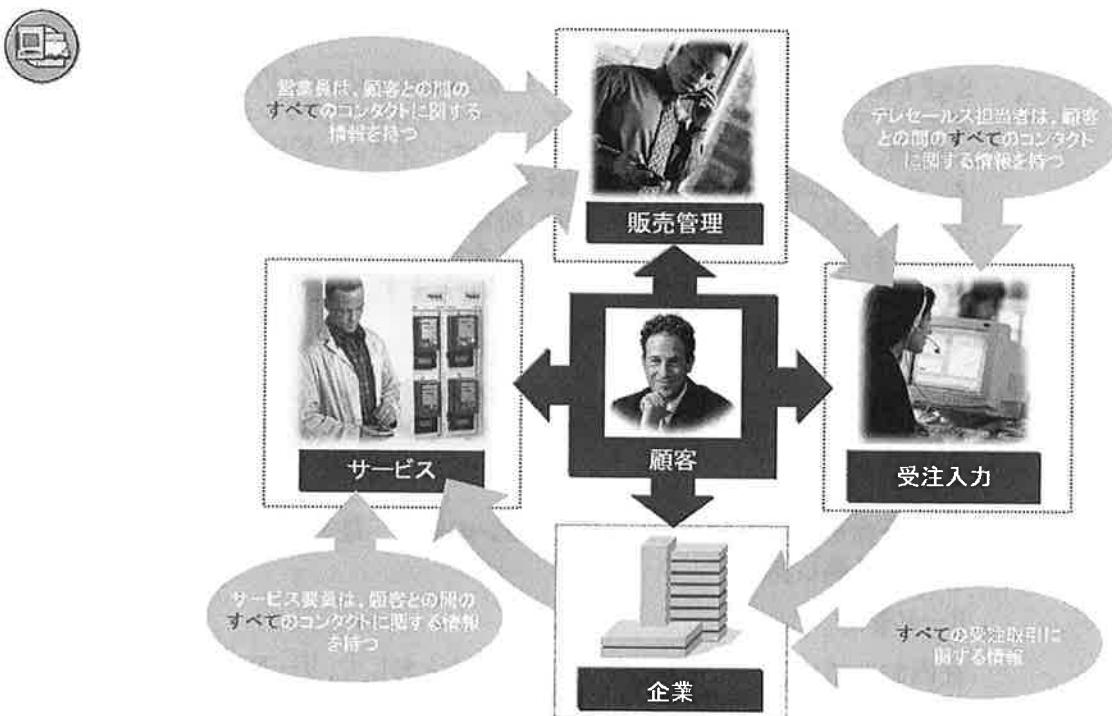


図 53: SAP CRM がもたらす情報

## カスタマイナクションを推進する企業内の各部門

カスタマイナクションの各フェーズでは、企業内のさまざまな部門が顧客に対応する必要があります。SAP CRM の主要機能では、これらの要件が考慮されています。



図 54: SAP CRM の主要機能

## マーケティング

SAP CRM のマーケティングには、広範な顧客対応のためのすべてのマーケティングプロセスが含まれています。マーケティングプランニング、キャンペーン管理、E-マーケティング、リード管理、マーケティング分析、および顧客セグメンテーションの重要な機能が、容易かつ直感的に使用できる、設定可能なインターフェースによって提供されます。特定の企業目標に合わせた戦略プログラムを設計および実施し、関連する KPI を定義および測定することによって、最終的な成果を確実に達成することができます。

### マーケティング計画策定

顧客、地域、フィールド、製品、またはブランドレベルのすべてのマーケティング活動を確実に成功させるよう計画することができます。

### キャンペーン管理

組織全体のすべてのコミュニケーションの設計、最適化、実施、および管理機能を提供します。

### リード管理

社内およびパートナとのコラボレーションをとおして、リードの選定、引継ぎ、および追跡を行い、不適切なリードに費やされる時間を削減することができます。

### クローズドループ型のマーケティング分析

組織に対する完全な可視性をマーケティング担当者に提供し、マーケティング戦略プログラムの計画、監視、および効果測定を改善します。

### 顧客セグメンテーション

IT 部門の介入を必要とせずに、対象を的確に定めたマーケティングセグメントを展開することができます。

### パーソナライゼーション

適切な顧客に、適切な製品を、適切な時期に提供することができます。

### トレードプロモーション管理

総合的な販売量計画などを含む、戦略的マーケティングと戦術的マーケティングの両方を支援します。記事、展示、一時的な値下げなどの販売促進戦術の導入、評価、および分析を実行することができます。

## セールス

セールスは、さまざまな顧客販売チャネルに対応し、シームレスかつスケーラブルな対顧客取引を実現します。エンタープライズセールス、テレセールス、フィールドセールス、E-セリングの各ソリューションによって、時と場所を選ばず顧客と取引する機能を企業に提供します。

### 販売計画および需要予測

販売計画および需要予測のすべての活動のレポートおよび分析機能を提供します。

#### 組織および販売テリトリ管理

規模、収益、地理、製品、製品ライン、および戦略にもとづいて販売領域を定義する機能を提供します。各テリトリに営業員を割り当てて、それぞれのテリトリに関連する見込顧客と製品を特定することができます。

#### 顧客/コンタクト管理

顧客、見込顧客、およびパートナに関する重要な情報の取得、監視、保管および追跡機能を提供します。

#### 活動管理

単純な作業から複雑な作業までのスケジューリングおよび管理機能を提供します。

#### 案件管理

各チャネルの販売案件をすべて目に見えるようにし、ビジネスコンタクトおよび顧客情報の取得、管理、および監視を可能にします。

#### 見積および受注管理

顧客に対する見積の構成、価格設定、および登録機能と、受注などの後続活動の生成機能を提供します。

#### 契約管理

顧客との共同作業による、カスタマイズした基本契約および長期的な購買契約の作成および変更機能を提供します。

#### インセンティブおよびコミッション管理

報酬プランの開発、導入、および管理機能を提供します。現在の業績を監視し、パイプラインにある商談に対する報酬の可能性を評価することができます。

### サービス

SAP CRM のサービスは、顧客の収益可能性に適切にマッチしたサービスと調達を可能にする、経営上の総合的な洞察機能を提供します。カスタマサービス/サポート、E-サービス、サービスオペレーション管理、およびフィールドサービスの領域の各機能を備えています。

#### マルチチャネルサービス

フィールド要員、インターラクションセンタ、パートナ、インターネットなどの適切なチャネルをとおして顧客サービスを提供することができます。

#### カスタマサービス/サポート

効率的なサービスの計画および実施をとおして、顧客およびパートナとの契約を管理および履行する機能を提供します。顧客との最初のコンタクトから最終結果および決裁にいたるサービスプロセス全体が統合されます。

### リソース計画/最適化

長期間のリソース戦略の計画機能と短期スケジュール戦術の最適化機能を提供します。オンサイトサービス契約のスケジューリングと、製品予測、計画サービス、および地理的な製品配置にもとづくリソース要件の特定が可能です。

### サービスオペレーション管理

戦略的/戦術的サービス計画、サービス管理、トランザクションサポート、運営および財務上の分析など、単一および多階層のサービスオペレーションを支援します。

### サービス計画/予測

製品が最適パフォーマンスを維持するよう、予防的に保守作業を実施するサービス計画と予測を確立し、リソースの可用性を保障します。

### プロフェッショナルサービス

プロジェクト、リソース、案件、および契約を管理するツールによって、現在から将来にわたるクライアント中心のビジネス要件を満たすことができます。

## 顧客への対応の統一

企業理念としての CRM のねらいは、社内全体で“顧客への対応を一致させる”ことです。顧客がどのコミュニケーションチャネルを利用して接觸してきたかにかかわらず、常に同じ情報を提供する必要があります。顧客と接觸する従業員の全員が、あらゆるコミュニケーションチャネルを通じて行われたその顧客との過去のコンタクトに関するすべての情報を把握しておかなければなりません。

SAP CRM にはタスクとコンタクトチャネルの両方が組み込まれています。SAP CRM は、インターネット、インタラクションセンター、およびフィールドアプリケーションによる販売、サービス、マーケティングに関連するあらゆる業務タスクに対応しています。その結果が SAP CRM ソリューションマトリクスです。SAP CRM ソリューションは、すべてのタスクとコミュニケーションチャネルの完全な統合を実現します。社内の全従業員が顧客とのコンタクトに関する情報を把握できるため、担当者の一人一人がいついかなるときも顧客に適切なサービスを等しく提供することができます。

## カスタマイナクションチャネル

従来の販売管理、および SAP CRM の新しいビジネスコンセプトで使用されている、顧客とのコミュニケーションチャネルには、以下の 3 つの基本形態があります。



図 55: カスタマイナラクションチャネル

フィールドアプリケーションは、企業の従業員と顧客との間で従来行われている直接的なコンタクトで使用されます。この場合、営業員およびサービス員が顧客と直接対面します。

インターラクションセンタ (IC) は、電話ベースの顧客とのあらゆるコンタクトを処理するセントラルコミュニケーションハブです。従来のコールセンタと同じく、さまざまな部門の従業員が顧客からのコールを受け、問合せを処理し、受注を登録します。また、インターラクションセンタは、ヘルプデスクリソースとして使用することもできます。そのため、IC は、顧客に関するあらゆる情報の集中処理ポイントとして機能させることができます。IC は、電話、電子メール、FAX、テキストメッセージなど、コンタクトに使用する媒体を問わず、運用可能です。

インターネットは、インターネット接続を介した顧客側担当者との間の製品の売買に使用されます (“e-コマース”)。インターネットを使用した製品の売買には、次の 2 つの領域があります。

- **B2C – Business to consumer** (企業/消費者間): インターネットによる最終消費者との直接取引
- **BtoB – Business to Business** (企業/企業間): インターネットによる企業間の取引

### チャネルパートナ

新たなコミュニケーションチャネルの 1 つとして、チャネル管理を使用した、パートナを介した間接的なコンタクトがあります。SAP CRM は、以下の主要チャネル管理機能を備えています。

#### パートナ管理/分析

パートナのライフサイクル全体をとおしたチャネル関係の測定、監視、および管理を行い、パートナに関する知識 (製品や顧客など) を深めることができます。

#### チャネルマーケティング

共同マーケティングや需要掘りおこし活動のサポートを通じて需要を促進するために必要な情報、ブランディング、インセンティブをチャネルパートナーに与えます。

#### チャネルセールス

パートナーおよび社内の直接的な販売員に同じ知識、ツール、および専門家のアドバイスを提供します。また、すべての販売チャネルにおける顧客の取引情報と購買履歴に関する完全な可視性を提供することによって、将来のビジネスのより効率的な予測を支援します。

#### チャネルサービス

パートナーがすべての顧客に対してパーソナライズされた効率的なサービスを迅速に提供できるよう支援し、顧客との進行中のサービスを管理するためのツールを提供します。

#### チャネルコマース

組織の境界を越えた共同販売を支援することによって、e-コマース戦略にパートナーを取り込む機能を提供します。顧客は需要ネットワーク全体で製品とサービスをオーダーすることができます。

### SAP CRM On-Demand Solution

SAP Customer Relationship Management on-demand solution: SAP が提供するホスティング型 CRM ソリューションファミリ。これらのソリューションによって、顧客中心企業への移行を難なく開始し、自社での SAP CRM ソリューション導入へとそれぞれの企業のペースで徐々に移行していくことができます。

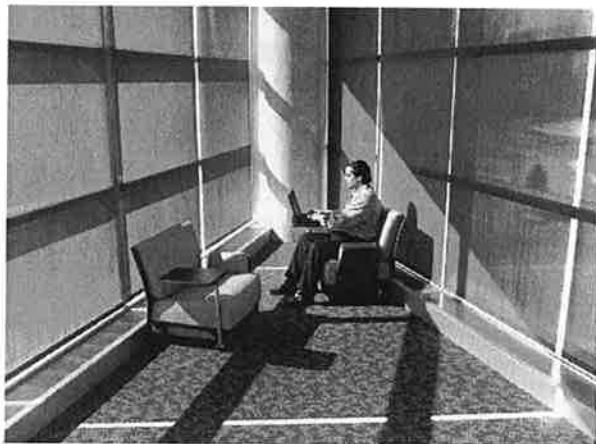


図 56: CRM on-demand

SAP CRM on-demand solution は、3,000 社以上の SAP のお客様とのパートナーシップによって開発された、実績と信頼性を誇る CRM 販売機能への Web ベースの簡単なアクセスを提供します。それぞれの企業要件の変化に合わせて、これらのオンデマンド機能から市場をリードする SAP CRM の導入へとスムーズに移行することができます。

## 特性と機能

SAP CRM on-demand solution ファミリは、各業務のプロフェッショナル、マネージャ、経営幹部、および管理者の個々の要件を満たします。これらのソリューションは、セールスフォースオートメーションに向けて対顧客コアプロセスを支援する特性と機能を備えています。SAP Sales on-demand solution を使用することで、営業員の生産性とマネージャの効率性を高め、経営幹部の迅速な意思決定を促進することができます。

### 案件管理

販売コストを削減しながら、セールスサイクルの管理における効率と予測可能性を向上させます。案件パイプラインの完全な可視性にもとづく正確な予測、チームのコミュニケーションの促進、適切な営業員へのリードの割当を可能にします。販売アシスタント機能を販売方法に適合させることによって、ステップごとのガイダンスをリアルタイムで提供するとともに組織全体でのベストプラクティスの標準化を促進して、販売の成功率を高めます。

### 売上レポート/予測

リアルタイムの主要業績評価指標を監視し、これらの指標に対応します。正確な予測を可能にすることによって、チームにおける収益目標の達成を促進します。ユーザにレポートと分析用のツールを提供します。

### 販売管理

マネージャにチームの販売活動に対する可視性と迅速なアクセスを確保します。営業力を詳細に監視することによって、絶えず移り変わる市場の需要を認識し、需要に適切に対応できるようにします。

### 顧客/コンタクト管理

販売プロフェッショナルがロイヤリティと収益性の高いカスタマリレーションシップを確立するための活動に集中できるようにします。すべての販売活動に対する完全な可視性を確保することによって、コラボレーションとチームの効率を高めます。

### カレンダ/タスク管理

活動、カレンダ、およびすべてのカスタマイナクション(アポイントメント、電話、電子メール、レター、会議など)を簡単に取り込み、管理することができます。Microsoft Outlook または IBM Lotus Notes グループウェアとの同期によって、整合性のある最新情報に簡単にアクセスできます。

## 新しいユーザインターフェースが促進する迅速な導入

All SAP CRM on-demand solution は、お客様のフィードバックにもとづいて全面的に設計しなおした、ユーザの作業を反映する新しいユーザインターフェースを備えています。このインターフェースの特色を以下に示します。

### 直感的に操作できるデザイン

使い慣れた Web ユーザインターフェース、オンラインチュートリアル、およびエンドユーザヘルプによって、最小限のトレーニングによる迅速な導入が可能です。

### 容易な設定

管理者は、ビジネスユーザの個々のニーズに合わせて、ソリューションの設定(画面、ビュー、項目設定など)をオンラインですばやく調整することができます。

### 簡単なショートカットとナビゲーション支援

重要データへのリンク、最近のレコードのスナップショット、重要なリマインダとアラート、画面のパーソナライズ機能、およびユーザ固有の検索機能によって、ユーザの日常の作業が軽減されます。

### Microsoft Office および IBM Lotus Notes との統合

オフィス製品との統合により、タスク、アポイントメント、電子メールを Microsoft Office および IBM Lotus Notes と同期させ、時間や場所に制限されることなく、活動と通信を一元管理することができます。顧客や案件の一覧を分析目的で Microsoft Excel にエクスポートできます。

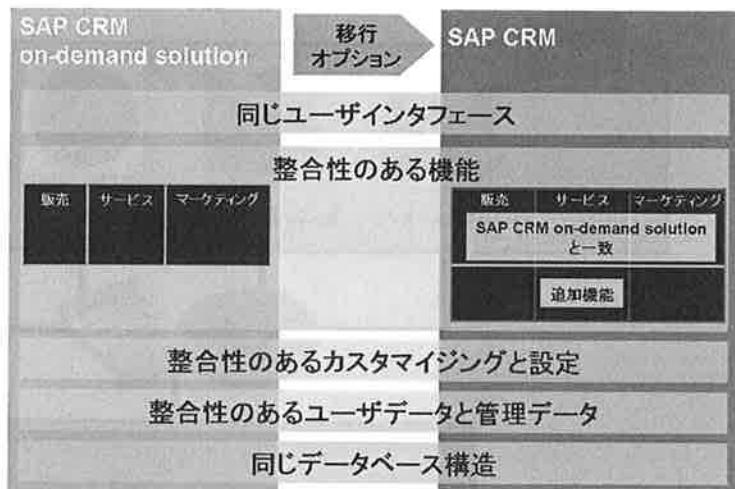


図 57: SAP CRM on-demand から SAP CRM への移行

## 統合

SAP CRM シナリオにおいて、受注は以下に示すさまざまなソースから発生します。

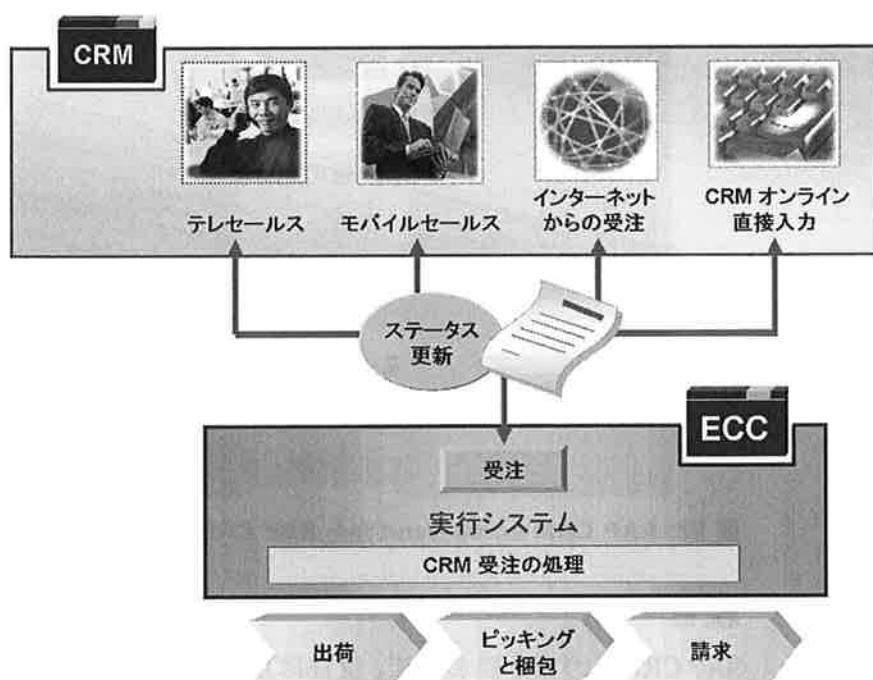


図 58: SAP CRM における受注

- **テレセールス:** 担当者がインタラクションセンタを使用して CRM システムに直接受注を登録することができます。
- **モバイルセールス:** 営業員がフィールドセールスを使用して、ラップトップ上または PDA 上で受注を登録し、SAP CRM システムに送信することができます。
- **インターネット:** SAP インターネットセールスに受注を登録することができます。
- **SAP CRM への直接入力:** コミュニケーションチャネルを問わず、SAP CRM に直接受注を登録することも可能です。

受注はあらゆるソースから発生しますが、最終的には SAP ERP システムで処理が実行されます。

ERP システムでは、商品の出荷や請求などのビジネスプロセスが処理されます。そして、処理の完了経過がステータスの更新で SAP CRM に転送されます。

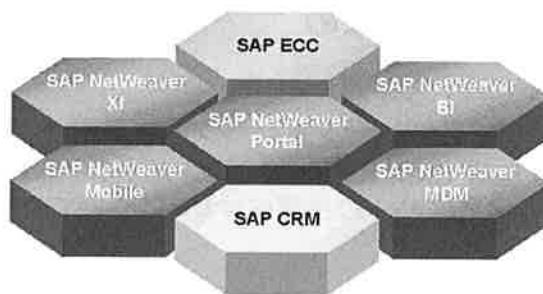


図 59: SAP CRM の主要コンポーネント



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- カスタマリレーションシップマネジメントプロセスに関するタスクの概要
- SAP CRM アプリケーションがサポートするカスタマリレーションシップマネジメントの主要プロセスについての説明

## レッスン：生産

### レッスンの概要

このレッスンでは、生産プロセスについて理解し、生産がどのように他のソリューションに統合されているか確認します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ・ 生産計画および製造実行に関するタスクの概要に関する説明
- ・ SAP ERP がサポートする生産の主要プロセスに関する説明

### ビジネスシナリオ

IDES 社の生産拠点は世界各地に広がっています。品目生産の複雑性に応じて、最終製品の生産に必要なステップも何とおりか存在します。

### 生産

SAP ERP は、1つの統合システムで組立/加工、プロセス、食品/消費材産業における事業の製造方針すべてに対応し、企業における計画から実行および分析にいたるあらゆる範囲の製造活動の管理を支援します。SAP ERP には、顧客指向製造管理システムのあらゆる要素が装備され、ジャストインタイム (JIT) およびかんばん方式との完全な互換性があります。

SAP ERP では、多様なビジネスプロセス(計画、原価会計、人事管理、在庫/購買管理、倉庫管理、プラント保全、品質管理)からの情報を結合することにより、効率的な生産計画の立案と実行をサポートし、担当者がいつでも正確で包括的な情報を入手できるように保証します。企業およびサプライネットワーク間で製造情報を共有し、製造プロセスと販売促進の協業を調整することができます。さらに、プラント制御装置およびデータ収集システムからのデータを統合できるため、正確な生産データの組込みによって意思決定が強化されます。

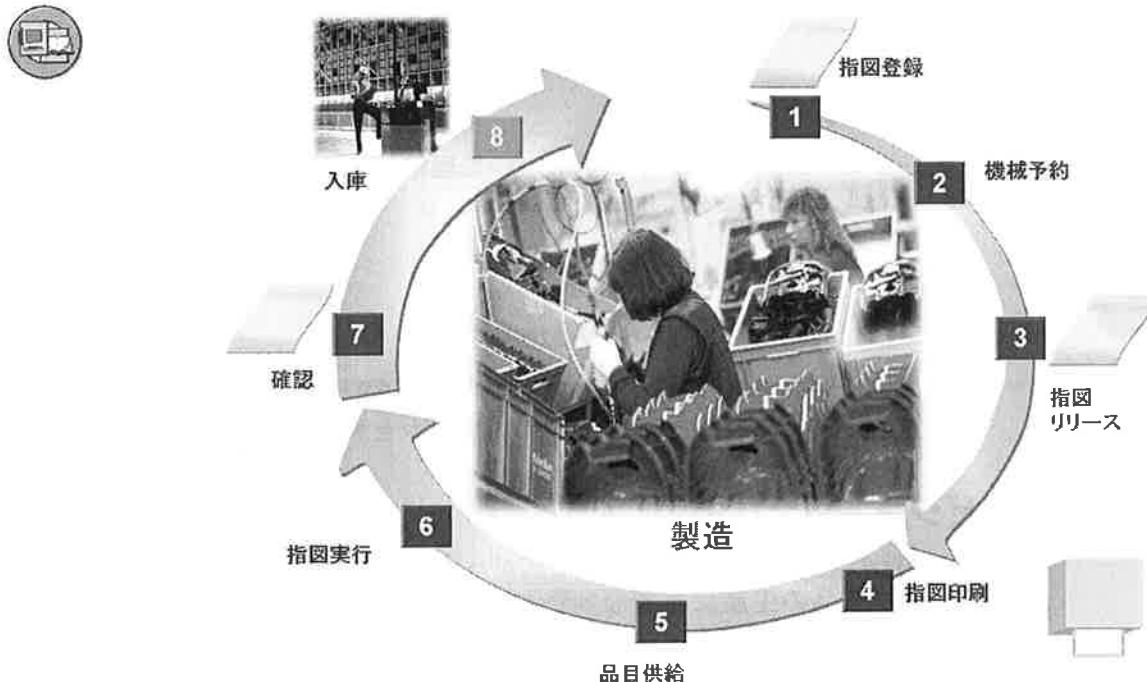


図 60: 生産

SAP ERP の製造および生産は、統合されている他の SAP アプリケーションと連携することにより、生産の効率化の促進にとどまらない効果を上げることができます。販売、生産計画、工場の現場との間に重要なリンクを確立します。サプライチェーンプロセスを統合して、企業の競合力を可能な限り高めます。外部のリアルタイムプロセス制御システムと試験情報システムをシームレスに統合します。これは、繰返生産およびプロセス産業における情報システムの大きな前進です。SAP では、プロジェクト計画、資材所要量計画 (MRP)、指図管理のシステムモジュールを完全に統合しています。標準インターフェースにより、SAP と、外部の CAD、PDM (製品データ管理)、プラントデータ収集システムがリンクされます。このため、SAP ERP は組立/加工製造業および受注設計生産企業にとっても最高技術水準の製造システムです。

## 計画プロセス概要

複数の需要予測モデルおよび方針によって、最適な選択ができるように支援します。モデルはシステムに組み込まれたインテリジェンスを使用して選択され、SAP ERP によってそのモデルの有効性が継続的にチェックされます。マーケティングの販売促進、季節の影響などのイベントの影響を需要予測に反映させることができます。過去の需要および予測の個別値を変更することができます。SAP ERP との完全統合により、定期的な需要予測の改訂を容易に実行することができます。予測需要は、計画レベルから個別製品レベルにブレークダウンすることができます。計画レベルの概略能力計画では、資源のボ

トルネックの現実性チェックが行われます。需要予測は需要管理および基準生産計画 (MPS) に容易に転送でき、転送後は受けた受注によって調整することができます。予測外の需要は随時追加することができます。

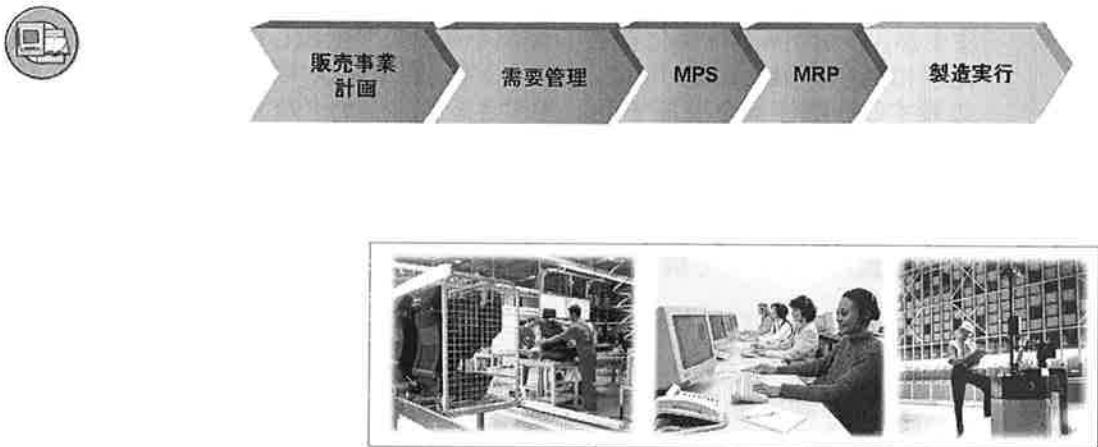


図 61: 生産計画

一般に、計画は複数のステップで構成されます。これらのステップは、相互に依存せずに実行することも、連携させることもできます。

### 販売事業計画

販売事業計画 (SOP) では、販売情報システムおよび原価計算/収益性分析からの需要予測値と所要量が所要量決定のための入力として使用され、販売計画と生産計画が生成されます。所要量は特定の期間における生産の計画数量として使用されます。常に得意先所要量にもとづいて登録されるわけではありません。

### 需要管理

需要管理の予測機能は、生産日程計画に結合されます。SOP からの計画を基準にした最終製品および組立品目の所要数量と日付が決定されます。

### 基準生産計画

基準生産計画 (MPS) を使用すると、重要な資源や最上位品目を慎重に計画することができます。この手順では計画の不安定性が最小限度に抑えられます。MPS は計画プロセスにおいて任意ステップです。

### 資材所要量計画 (MRP)

資材所要量計画 (MRP) は、必要な構成品目の補充日程計画の詳細計画です。MRP の出力は、計画手配か、購買依頼のいずれかになります。

## 実行

製造指図は、指図管理および製造実行の共通データオブジェクトです。製造指図には、生産目的、構成品目、所要資源、原価に関するすべてのデータが組み込まれます。通常の製造指図は、単一の品目や製品の需要に対応しますが、1つの製造指図に複数の製品を結合して生産し(連産品)、複数の製品間に発生原価を配賦することもできます。製造指図では、外部の作業区で処理する外部作業を指定することもできます。リワークの実行が必要な場合は、個別にリワーク指図を登録して本来の製造指図に直接割り当てるすることができます。また、既存の指図に個別のリワーク作業を挿入する方法もあります。

一般に、製造指図は計画手配から登録されます。この一連のプロセスには以下の複数のステップで構成されます。

- 製造指図の登録と発行
- 構成品目の出庫
- 生産活動の確認
- 最終製品の入庫

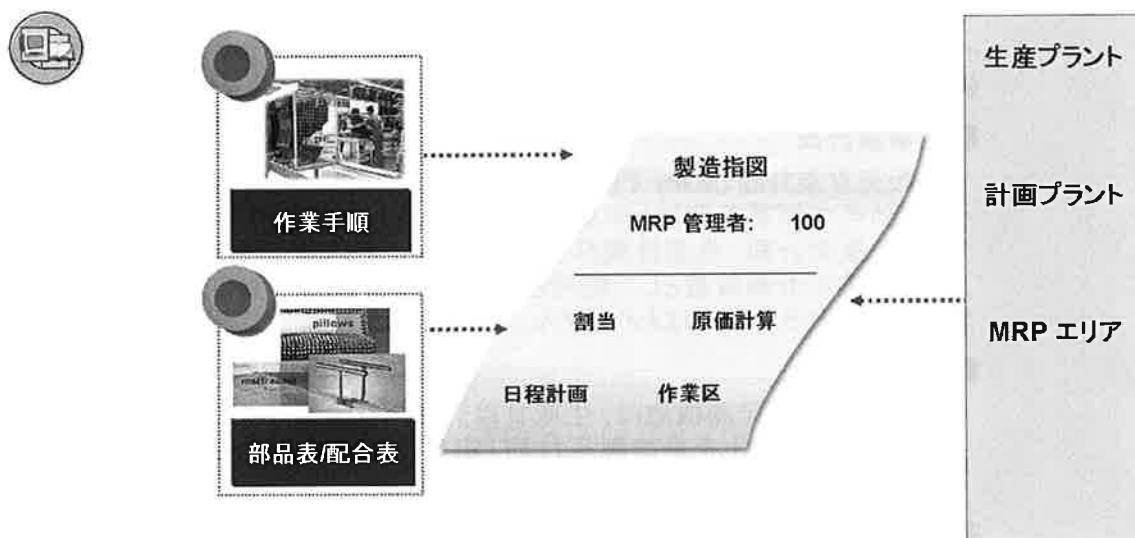


図 62: 製造指図

製造指図は、発行されてからでないと処理できません。指図のステータスを発行済に設定すると、現場帳票の印刷、品目の在庫からの出庫、作業の確認を実行することができます。製造指図の発行前に、十分な製造能力が利用可能であることを確認する必要があります。グラフィックの計画テーブルを使用すると、短期の各指図の一覧が表示され、そこから製造指図を発行することができます。

製造指図の発行時に構成品目および生産資源/治工具が利用可能であるかどうか確認するよう、システムを設定することができます。さらに、指図タイプごとに実行する利用可能在庫確認 (ATP) のタイプを指定することもできます。た

とえば動的利用可能在庫確認や静的利用可能在庫確認などの処理を使用することができます。システムのカスタマイズ時に、部品や生産資源に不足がある場合も指図を発行可能にするかどうかを指定することができます。製造指図の発行では、指図開始日にもとづいて発行期間に含まれる指図を個別に発行するか、グループとしてまとめて発行することができます。一括指図のすべての指図を一度に発行したり、製造指図が登録された時点でただちに発行されるようシステムを設定したりすることもできます。たとえば、作業時間が比較的長く、前の作業が終了してからないと作業に対する作業区の割当が実行できない場合(航空産業のプラントの構成の場合や精密機器の組立時など)は、作業ごとに製造指図を発行することができます。

## 指図確認および入庫

製造指図の作業に対して完了確認を実行して、受注処理および指図計画にフィードバックします。完了確認では、生産数量、不良、生産時間、完了日付などの重要なデータが収集されます。完了確認によって、能力負荷が明らかになり、製造原価管理のデータが収集されます。確認された労務は、SAP ERP Human Capital Management に転送することができます。

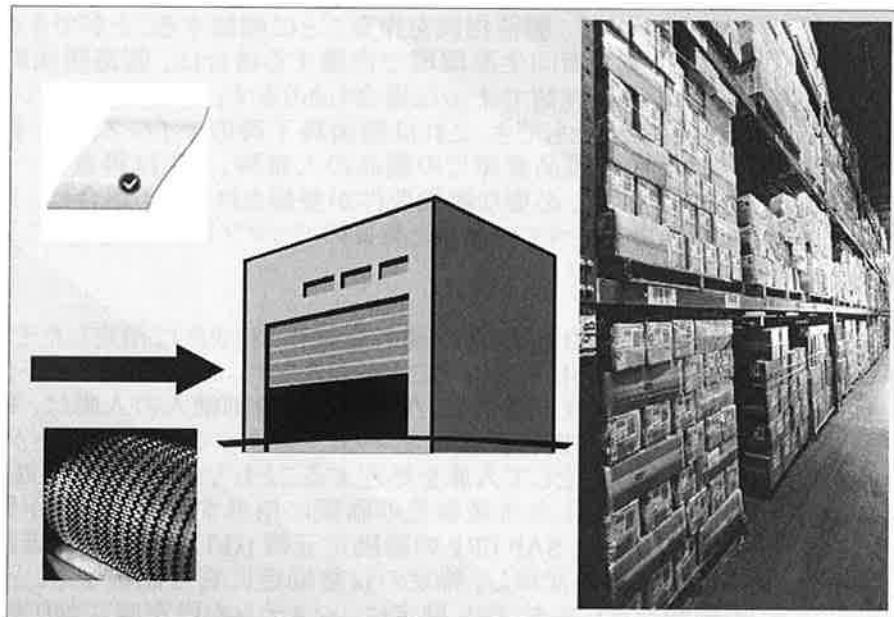


図 63: 確認および入庫

### 完了確認

使用可能な完了確認のタイプは以下のとおりです。

### マイルストーン完了確認

前のマイルストーンまで、副作業も含めた先行作業のすべてが確認されます。SAP ERP では、レポートされた数量(歩留および不良)と標準時間にもとづいて確認が行われます。

### 標準の完了確認

目標値を使用して作業が確認されます。

### 通常の完了確認

目標値を初期値として、完了確認を個別に実施します。入力値はすべて上書きできるため、生産プロセスにおける差異をレポートすることができます。

### 一括完了確認

簡易入力画面が表示され、確認する作業を複数入力することができます。

### 指図ヘッダレベルの完了確認

指図を指図ヘッダレベルで確認することができます。このように選択した場合は、全作業における品目消費の自動バックフラッシュを行うことができます。

SAP ERP では、製造指図を作業ごとに確認することができます。ただし、効率的なプロセス指向生産環境で作業する場合は、製造指図終了時のマイルストーン作業の確認で十分な場合もあります。指図のヘッダレベルで製造指図を確認することもでき、これは指図終了時のマイルストーン確認と同様に機能します。最終製品倉庫での製品の入庫時、または得意先への出荷直前に確認を行います。必要な組織要件が登録されている場合は、1つの確認トランザクションで、すべての作業と品目のバックフラッシュを行うことができます。

### 入庫

在庫への入庫は、製造指図の最終作業(または指定したその他の作業)の確認時に自動的に転記することができます。あるいは、別のトランザクションでレポートすることもできます。生産からの分割納入の入庫は、利用可能在庫または品質検査在庫に直接転記することによって処理することができます。連産品および副産物として入庫を処理することもできます。入庫処理によって、標準原価を基準とした生産数量の価額に相当する貸方転記が製造指図に対して生成されます。SAP ERP の総勘定元帳(G/L)では、この価額を最終製品の在庫勘定に借方記帳し、特定の収益勘定に貸方記帳することで、生産した商品の価額を示します。G/L 勘定は、システムの設定時に割り当てます。

## 決済

製造指図の指図決済とは、発生した実際原価と入庫から指図に記帳された貸方との間の差異を決済することです。指図決済によって、SAP ERP の生産計画/管理と管理会計間の緊密な統合が示されます。通常、製造指図は完了時または月次処理の前に決済されます。決済の際は、原価差異を1つ以上の原価対象に転記することができます。たとえば、過剰な不良から発生した差異は

不良原価コレクタに、パフォーマンスの不良による差異は生産性問題原価コレクタに転記することができます。また、差異全体を在庫に転記することもできます。標準原価計算の処理時に、これらは G/L 値格差異勘定に転記されます。

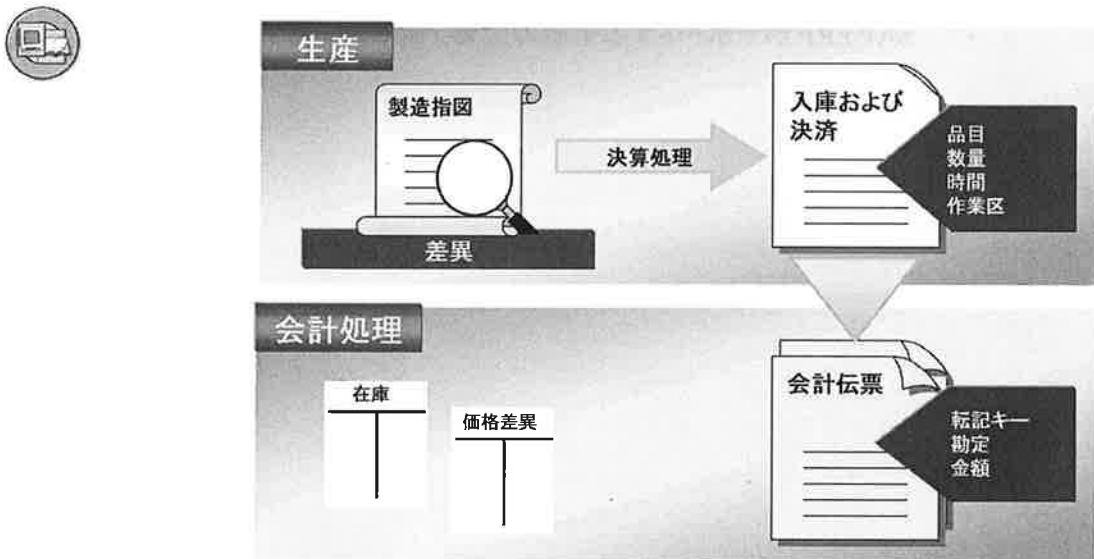


図 64: 決済

製造原価は、オンライン差異レポートなどにより製品レベルで分析することができます。このレポートには、指図の計画原価、実際に発生した原価および算出された差異が表示されます。また、原価要素別の詳細な原価も示されます。また、対応する数量を示すレポートを選択することもできます。

対話型で差異を分析し、ドリルダウン手法で個別の原価配分を照会することができます。日付、数量、配分処理の発生源などの情報に、個々の原価配分明細ごとにアクセスできます。製品の標準原価見積と、現在の製造指図や原価コレクタを比較するその他の標準レポートを使用することもできます。また、製造指図階層を定義して、同じ製品や製品グループの指図をまとめることもできます。製造原価の分析には、SAP ERP ファイナンシャルの機能およびフレキシビリティのすべてを利用することができます。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 生産計画および製造実行に関するタスクの概要に関する説明
- SAP ERP がサポートする生産の主要プロセスに関する説明

## レッスン：サプライチェーンマネジメント

### レッスンの概要

このレッスンでは、SAP Supply Chain Management ソリューションの概要について学習します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- サプライチェーンマネジメントプロセスに関するタスクの概説
- SAP SCM アプリケーションがサポートするサプライチェーンマネジメントの主要プロセスに関する説明
- SAP SCM と他のコンポーネントおよびシステムとの統合についての説明

### ビジネスシナリオ

IDES 社では、世界中に流通センタがあり、商品を直接、迅速に得意先に納入することができます。IDES 社では、グローバルな計画方法を使用して、商品を最も近い流通センタから配送したいと考えています。

### サプライチェーン

従来の ERP システムは、企業内でプラントや流通センタがタイムリーかつコスト効率のよい補充を計画できるように進化してきました。しかし、今日の環境では、企業内だけでなくサプライチェーン全体で計画できるようにする必要があります。



図 65: SAP SCM

今日の企業は、次のことを実現できなければなりません。

- ・ サプライチェーン全体でのタイムリーかつコスト効率のよい補充の計画
- ・ サプライチェーン内の取引関係、得意先の期待、およびビジネスプロセスの絶え間ない移り変わりへの迅速な対応
- ・ グローバルベースでのサプライチェーンの管理

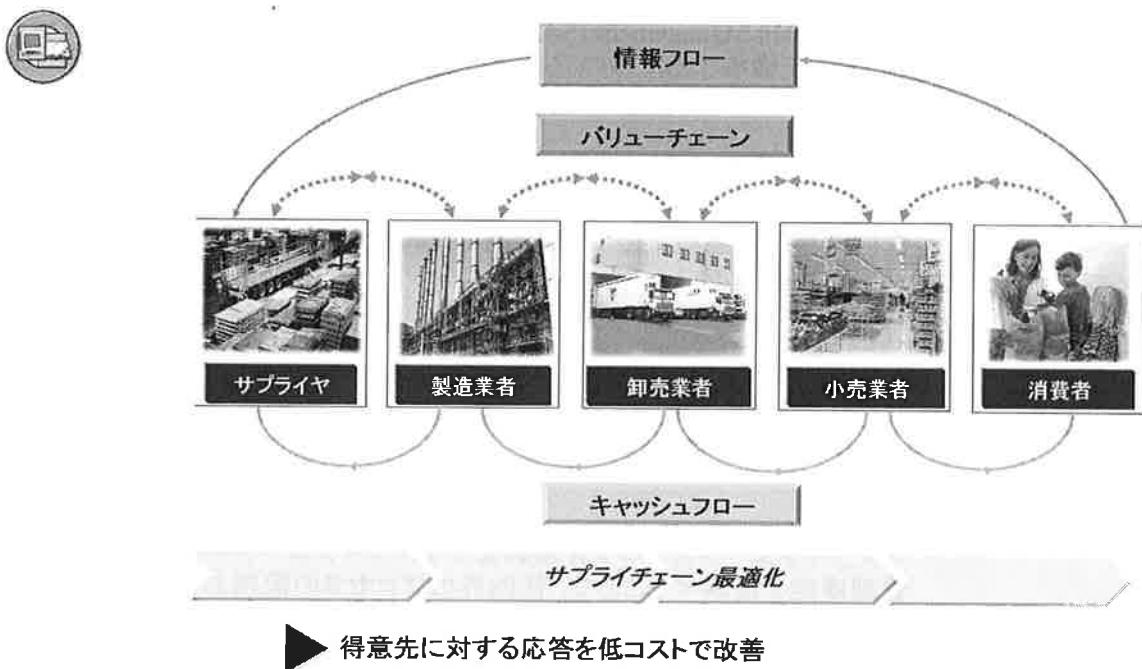


図 66: サプライヤから得意先へ

サプライチェーンの今日の課題に応えるために、ソフトウェアソリューションは以下の機能を備えていなければなりません。

- すべての需要と供給情報の迅速な表示
- サプライチェーン全体での補充計画の同期
- ネットワーク内でのサイクルタイム全体を短縮するための最適なアプローチの決定を支援するモデリングツールの提供
- 継続的に進化している、インターネット上の製品/サービスの売買技術のサポート
- サプライチェーン内でのサプライヤと得意先間のビジネスプロセスの自動化

サプライチェーンマネジメントの最終目標は、サプライチェーン内のすべての場所(購買、製造、輸送、保管、荷役など)に、最低限の累積ネットワークコストで、商品とサービスをジャストインタイムで納入することです。

SAP Supply Chain Management (SAP SCM) は、適応性のあるサプライチェーンネットワークを構築するための完全な機能セットを提供する、唯一のソリューションです。次のような機能があります。

- 計画

サプライチェーンの設計、需要/供給計画、生産計画、輸送計画など包括的な計画機能を提供することで、サプライチェーンのモデル化を可能にします。

- 実行

在庫/購買管理、生産実行、受注確認、輸送実行、および倉庫管理において計画、確約、ロジスティクスおよび取引システムを統合し、革新的なRFIDテクノロジーで強化します。

- 調整

サプライチェーンイベント管理およびサプライチェーンパフォーマンス管理機能を提供することで、社内外のプロセスの監視および分析を可能にします。

- コラボレーション

協同計画、需要予測、補充(CPFR)、仕入先管理在庫(VMI)のサポート、およびサプライア主導型在庫管理のサポートを通じて、情報の共有および共通サプライチェーン目標の設定および実現を可能にします。

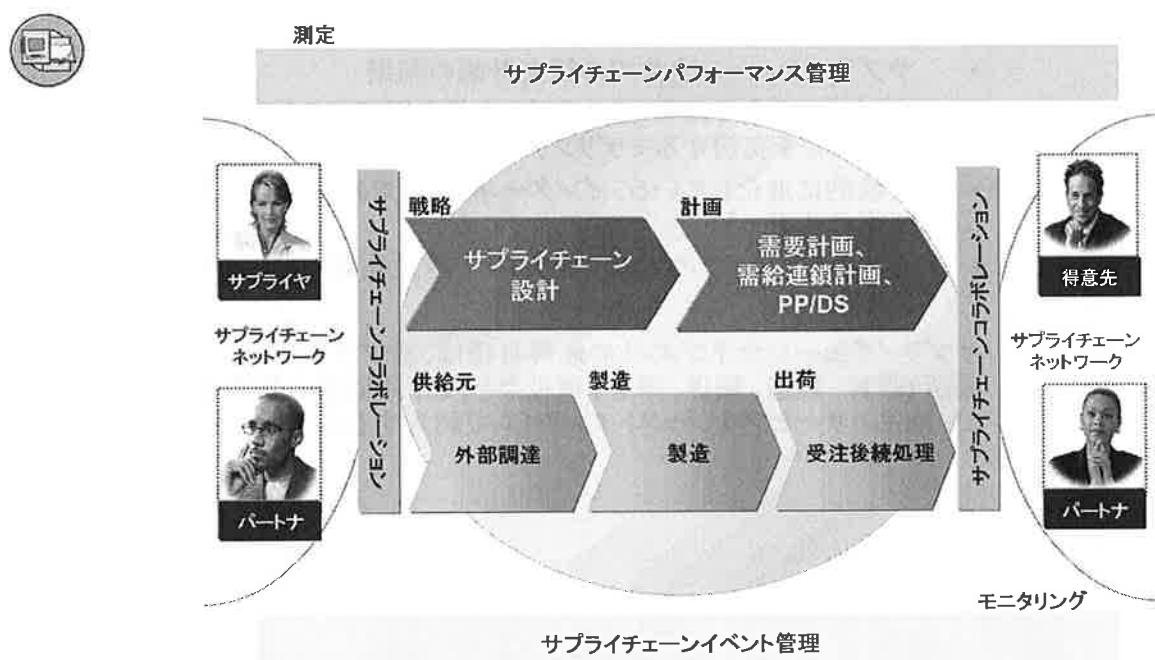


図 67: SAP SCM ソリューションの概要

## サプライチェーン計画

### サプライチェーン設計

計画担当者および主要な意思決定者が、サプライチェーンネットワークの全体像を把握することができます。これにより市場、事業、または得意先需要の変化がサプライチェーンに与える影響をテストできるようになるため、戦略的および戦術的な事業計画が促進されます。

### 需給計画

高度な総合計画により、企業の戦術上および運用上の計画要件に完全に対応します。コラボレーティブ需要計画を使用することで、パートナは需要履歴情報を活用して需要予測、プロモーション計画、および在庫計画を行うことができます。協同供給および分配計画を使用して、調達、製造、物流、輸送を同時に計画することができます。需給計画では、広範な業種に対応する最適化機能も提供されます。

### 製造計画

計画担当者は、複数の製造場所にまたがる実行可能生産計画を登録することができます。生産計画/詳細計画(PP/DS)を含む製造計画は、ヒューリスティック手法または最適化ルールにもとづいてリソース要件を最適化します。中長期的なニーズに対しては、品目と、機械、生産資源/治工具、従業員などのリソースの要件を集約して概略計画を策定します。短期的なニーズに対しては、計画はより限定的であり、特定リソースに的を絞ってスケジュールを作成します。問題解決エンジン、リアルタイムデータ、およびサプライチェーンによって提供される高い可視性は、主要業績評価指標(KPI)および警告とともに、計画担当者の意志決定プロセスを支援します。

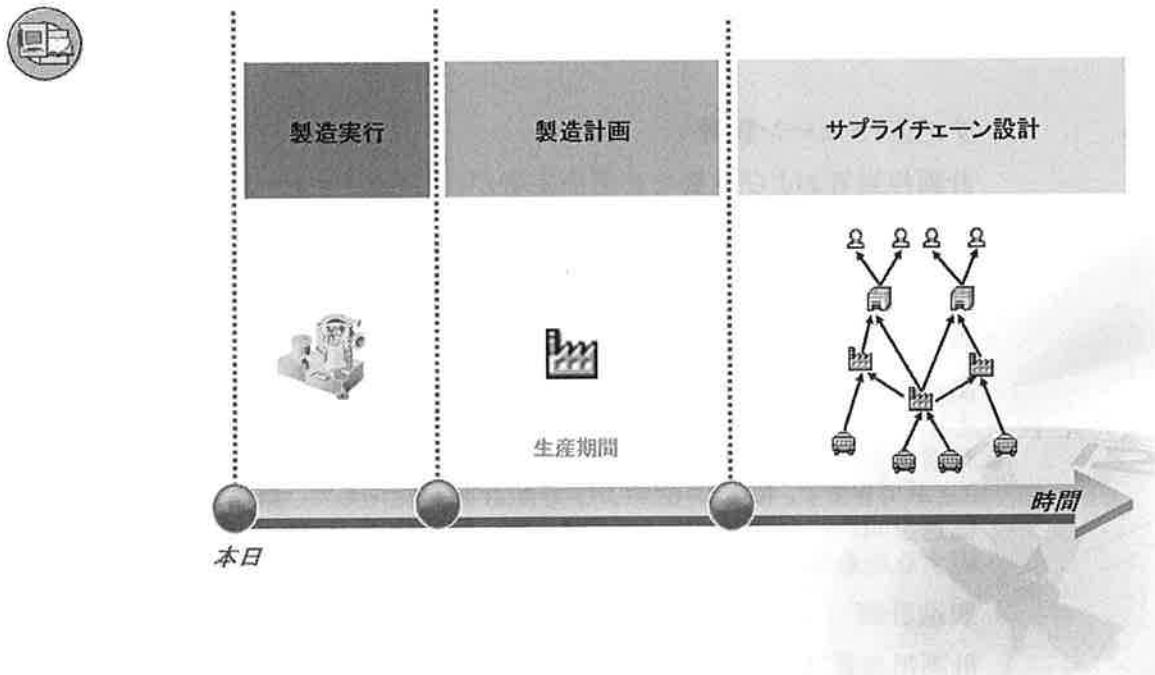


図 68: 計画と実行

### 輸送計画

輸送上の制約条件を考慮しながら、最も低い配送コストとなるように適切な出荷モード、運送業者、および輸送経路を決定することができます。輸送計画はあらゆるエンタープライズ輸送実行システムまたは輸送ポイントソリューションと統合されます。そのため、荷主はコストを引き下げ、効率的な積載容量を計画するために、出荷と入荷の両方におけるトラック、列車、船舶、航空機の利用可能能力の使用を最適化することができます。

### サプライチェーン実行系

#### 在庫/購買管理

SAP SCM では、在庫および購買伝票に関する情報が共有されることで、製造に必要な資材が適切な場所、適切な時間に確実に準備されます。計画主導型の調達、在庫管理、請求処理によって、需要と供給のフィードバックを循環させ、補充速度、納期確認、正確な請求によって、受注充足率と顧客満足度を向上させます。

#### 製造実行

SAP SCM は、受注設計生産、注文仕様生産、受注生産、見込生産などすべての生産プロセスをサポートします。また、リアルタイムの資材と能力の制約条件を考慮した、最適な生産スケジュールを生成します。SAP SCM では、他のサプライチェーンプロセスを統合することで、設計変更や得意先所要量に対応する、迅速かつ柔軟なアプローチが可能になります。

### 受注確約

受注確約では、グローバル ATP 機能にもとづいて受注管理システムまたは CRM システムからの照会に対して、調達ネットワーク全体でいつ製品を入手できるか、またはいつ製品を生産できるかを決定します。製品のコストや配送にかかる時間も示します。受注確約は、受注管理/CRM システムとサプライチェーン計画システム間の重要なリンクであり、製品利用可能在庫へのアクセスを提供します。

### 輸送実行

SAP SCM では、輸送を中央で集中的に管理することも、各事業単位のさまざまな場所ごとに管理することも可能です。輸送計画管理者は受注をとりまとめ、サプライヤから得意先への出荷を輸送コストと効率化を考慮しながら、最適化することができます。輸送上の制約事項とコストを考慮しながら、納期順守の配送を確実に行います。SAP SCM は出荷の入札と予約、運送業者選択、運賃作成、輸送コスト計算、出荷コストの決済処理、伝票印刷、取引禁止対象者審査や禁輸措置リストなどの貿易管理をサポートしています。

### 倉庫管理

倉庫管理では、未処理購買発注と入荷を照合し、商品の保管場所を記憶する在庫受入システムをサポートして、従業員のピッキング指示を最適化します。ラベリング、キッティング、遅延対応などの倉庫管理作業もサポートします。

## サプライチェーンコーディネーション

### サプライチェーンイベント管理

企業は、サプライチェーン全体で発生する計画の変更を検知して対応することができます。サプライチェーンプロセスの各段階で監視を行うことで、価格見積もりから調達、製品納入までの情報を提供します。また、主要イベントが行われていない場合は、サプライチェーンイベントマネジメントにより警告および推奨アクションが提供され、サプライチェーンステータスで詳細レポートが作成されます。

### サプライチェーンパフォーマンス管理

サプライチェーンパフォーマンス管理では、サプライチェーンプロセスに関連する主要業績評価指標 (KPI) を測定、監視、および表示します。これにより、意思決定者は拡張サプライチェーンの有効性を見越して管理することが可能となり、その情報をビジネスパートナと共有することができます。

## サプライチェーンコラボレーション

### CPFR のサポート

SAP SCM は CPFR (Collaborative Planning, Forecasting and Replenishment) をサポートしており、VICS (米国流通標準化機構) の認定を受けています。そのため、製造業者は戦略上重要な小売業と連携して、収益の増加、サービスの改善、在庫レベルやコストの低減を図ることができます。例外管理に基づいた CPFR プロセスに対応しているため、企業はスタッフを増やすことなく小売パートナを追加することができます。製造業者は SAP SCM と小売側システムとの迅速かつ容易な統合を実現することができます。

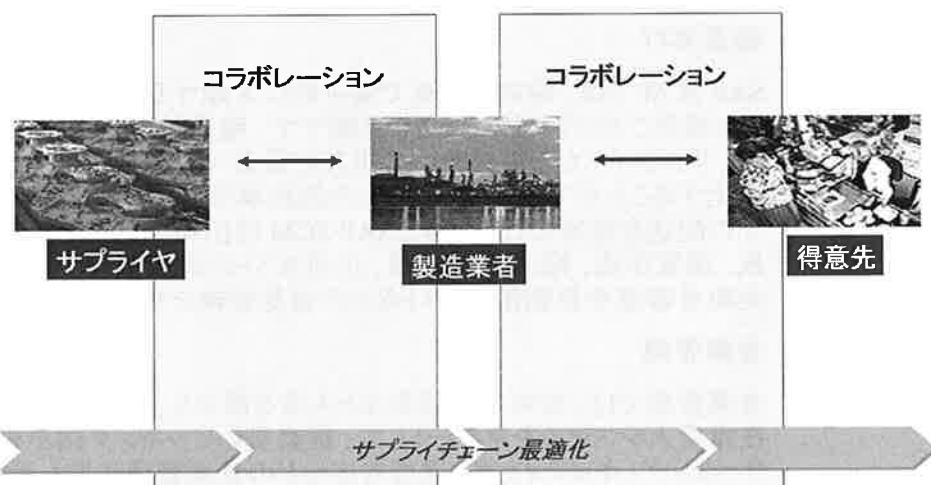


図 69: サプライチェーンコラボレーション

### VMI のサポート

SAP SCM は、多くの業種で使用されているコラボレーティブプロセスである仕入先管理在庫 (VMI) をサポートしています。これは仕入先主導型の補充プロセスで、コストの削減、在庫管理能力の向上、カスタマサービスの向上を実現します。VMI プロセスは SAP SCM に組み込まれており、Web 上で迅速に導入できるので、さまざまな得意先にとって容易かつ実用的な機能となっています。

### SMI のサポート

SAP SCM はサプライヤ主導型管理在庫 (SMI) をサポートしており、企業はインターネットを使用してサプライヤを把握し、補充プロセスを管理することができます。サプライヤはパーツおよびすべてのプラントのステータスを参照でき、在庫レベルが低くなったら自動アラートを受け取り、Web を介して迅速に対応することができます。SAP SCM は、バックエンド処理システムおよび計画システムの最新の在庫情報と補充情報を直ちに統合し、関係者の情報を最新に保ちます。

## 統合

SAP SCM シナリオの 2 つの主要コンポーネントは SAP ERP Central Component (SAP ECC) と SAP Supply Chain Management (SAP SCM) です。ほとんどの実行プロセスは SAP ECC で実行され、SAP SCM は最適計画を担当し、調整とコラボレーションの追加機能を提供します。

SAP SCM は、グローバル ATP 機能をとおして、実行時に追加機能を提供します。

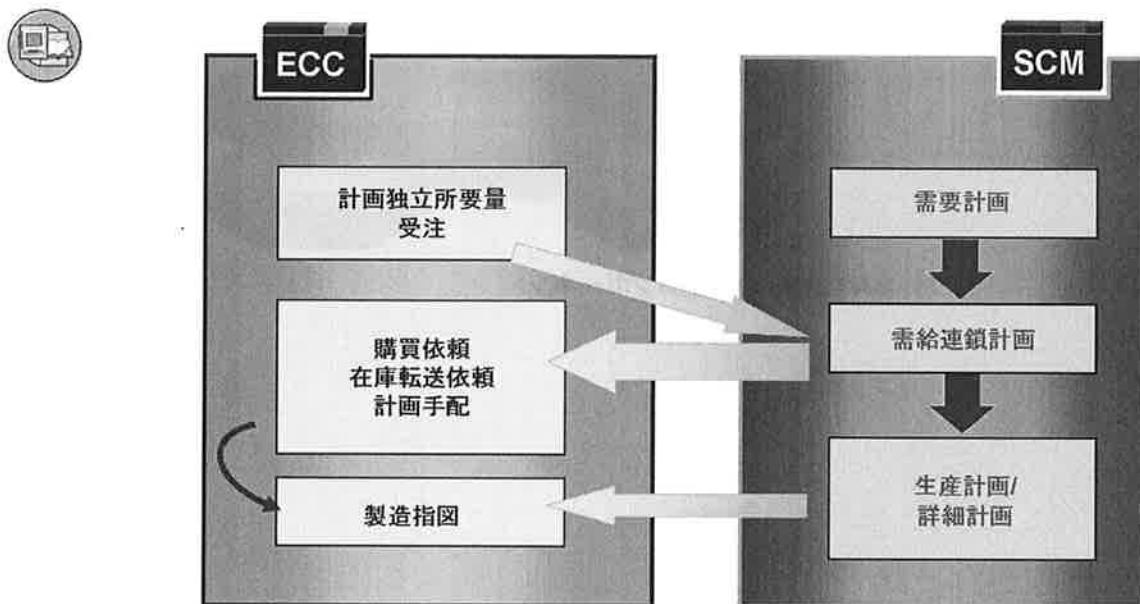


図 70: SAP SCM のプロセス

## RFID

今日の経済状況では、すべての企業がサプライチェーンネットワークの最適化により、コスト削減、収益の増加、運転資本の減少、固定資本の減少を実現する方法を探しています。

これは、製品処理情報の正確な追跡に関する得意先要件および法令要件など、多岐にわたる課題を持つ、ネットワーク化された経済状況ではよりいっそう重要です。さらに、ビジネスが企業構造、市場アクセス、ビジネスプロセスの面でグローバル化するにつれて、グローバリゼーションによって新しい競合他社や大幅な複雑性が創出されます。

RFID (無線 IC タグ) は、製品のバリューチェーンでの移動に関して、現実的で正確な製品のリアルタイム情報を提供し、関連するビジネスプロセスを自動化することで、これらの課題への対処を支援します。SAP RFID アプリケーションを使用することで、データの取得から、意味のある情報へのデータの変換、さらに関連するすべてのトランザクションおよびプロセスの自動化に至る処理を連結し、循環させることができます。それにより、ビジネスの効率性、応答性、および適応性が向上します。RFID テクノロジーには、ビジネスプ

ロセスを変化させる力があります。小売業における“smart shelves”、効率的な拡張倉庫管理、設備保全プロセスに関する可視性向上などのメリットを利用するかどうかに関わらず、SAP RFID はほぼすべての業種およびプロセスに影響を与える可能性があります。

SAP SCM の RFID 機能は、SAP NetWeaver Auto-ID Infrastructure (SAP AII) をとおして提供されます。

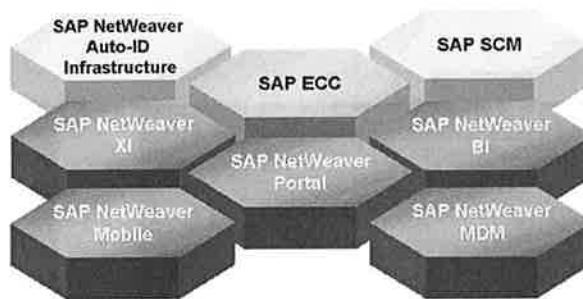


図 71: SAP SCM の主要コンポーネント



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- サプライチェーンマネジメントプロセスに関するタスクの概説
- SAP SCM アプリケーションがサポートするサプライチェーンマネジメントの主要プロセスに関する説明
- SAP SCM と他のコンポーネントおよびシステムとの統合についての説明

## レッスン: 調達

### レッスンの概要

このレッスンでは、調達プロセスについて理解し、調達がどのように他のソリューションに統合されているか確認します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 調達サイクルに関するタスクの概要説明
- SAP ERP がサポートする調達の主要プロセスについての説明

### ビジネスシナリオ

IDES 社の生産プロセスには資材が必要です。資材は在庫として直接調達されます。IDES 社の従業員は、直接、オンラインカタログから消費品目を調達することができます。

### 調達プロセス概要

SAP ERP における調達は、購買依頼、購買発注、請求書照合などの従来のプロセスだけではなく、MRO (Maintenance = 保守、Repair = 修理、Operations = 業務) 品目およびサービスに対するカタログベースのセルフサービス依頼にも対応しています。このカタログ統合は、保全作業やプロジェクト管理にまで拡張されています。

SAP ERP における調達では、計画主導型やワンタイムでの購買、完全なる在庫管理、全ての調達活動に関するすぐれたレポートの支援によって、調達プロセスが促進されます。SAP ERP は、サプライヤリレーションシップマネジメントツールに加えて、サプライヤの選定と認定、契約交渉、入札案内、および仕入先評価のための機能を備えています。プロセスバリアント最適化のサポートにより、品目やサービスの個々のカテゴリを最適な方法で調達することができます。たとえば、外注プロセスではアウトソーシングされた製造ステップで必要な構成品目の出荷が支援され、支払計画による調達ではレンタルおよびリースプロセスが支援されます。

サービスまたは品目の基本的な調達(購買から支払)周期は、以下のフェーズで構成されます。

#### 所要量決定

ユーザ部門または品目計画によって、品目所要量が特定されます。購買依頼はユーザが入力することも、品目計画で自動生成することもできます。

→ **注記:** これは、在庫管理に対する需要ベースのアプローチと MRP の両方に対応します。マスタレコードで定義された品目の在庫レベルの定期チェック、発注点方式の使用、過去の使用量にもとづく需要予測は、在庫管理の重要な要素です。

### 供給元決定

SAP ERP では、過去の発注および既存の長期購買契約にもとづいて利用可能な供給元を洗い出すことができます。それによって、見積依頼 (RFQ) の登録プロセスが迅速化されます。この依頼は必要に応じて EDI を介して仕入先に電子的に送信することができます。

### 仕入先選択および見積比較

価格設定シナリオのシミュレーションを実行して、複数の見積を比較することができます。不採用通知を自動送信することもできます。

### 購買発注登録

購買発注の登録に際しては、依頼および見積の情報が活用されます。購買発注は、購買依頼の場合と同じように、ユーザが登録することも、自動生成することもできます。仕入先分納契約および基本契約 (SAP システムの長期購買契約タイプ) にも対応しています。



図 72: 調達

## 購買発注の後処理

指定した催促期間がチェックされ、必要に応じて、催促状や督促状が事前定義された周期で印刷されます。すべての購買依頼、見積、購買発注に関する最新ステータスを確認することもできます。

### 入庫および在庫管理

入庫担当従業員は、購買発注番号を入力するだけで入庫を確認することができます。購買担当者は、許容範囲を指定して、発注品目の過剰納入や不足納入を制限することができます。

### 請求書照合

請求書のチェックと照合が支援されます。請求書照合では、購買発注と入庫のデータが自動的に調べられ、債務管理担当者に数量と価格の差異が通知されます。この機能によって、支払請求書に対する監査および決済のプロセスが迅速化されます。

## 購買発注

購買発注は、仕入先に対して、定められた条件に従って当該の商品やサービスを供給するように求める正式な注文です。

購買発注は参照なしで登録することも、購買依頼、見積依頼、または別の購買発注を参照して登録することもできます。

購買発注データの入力時には、初期値が提案されます。たとえば、仕入先マスタレコードから購買発注先住所、支払条件、運賃(インコタームズ)が提示されます。SAPシステムの品目マスターで、入力した品目が管理されている場合には、品目のテキスト(短)や品目グループなどが提示されます。購買情報がすでに登録されている場合は、購買発注に価格提案がコピーされます。

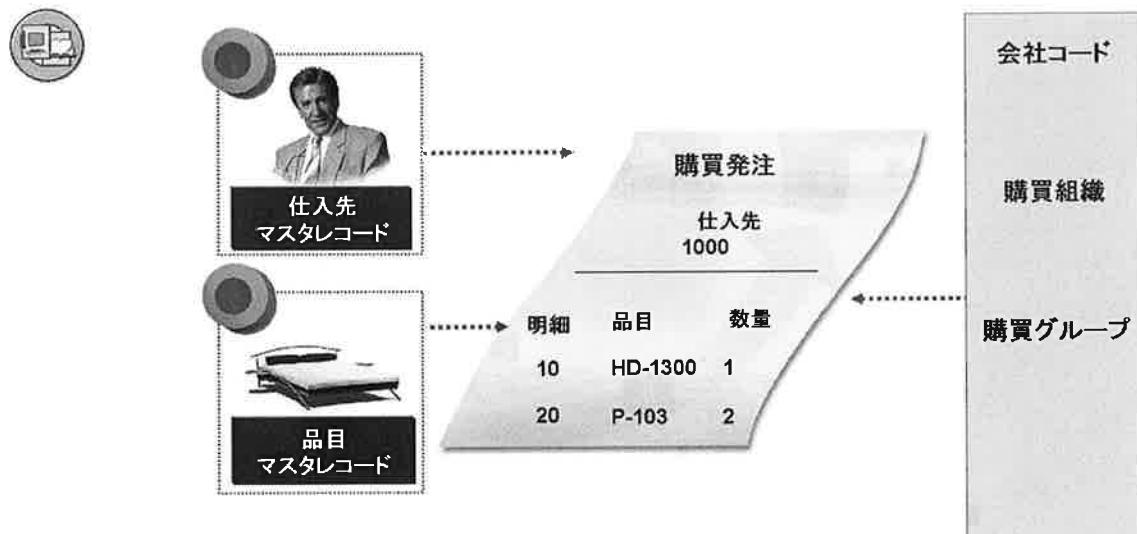


図 73: 購買発注

購買発注は、仕入先に送ることも、社内やグループ内の別のプラントに対する在庫転送オーダーとして処理することもできます。どちらの場合も、購買発注に関する配送費を考慮することができます。

## セルフサービス調達

セルフサービス調達では、従業員が自分で依頼の登録および管理を行うことができます。セルフサービス調達によって、購買部門の管理作業が軽減されるとともに、調達プロセスの速度と応答性が向上します。



図 74: セルフサービス調達

頻繁に発注される品目のカタログが提供されることで、従業員が組織の規則に従って各自の購買発注を容易に管理できるようになります。

セルフサービスの要求は、非戦略的品目、つまりバリューチェーンに直接リンクしていない品目（しばしば、MRO アイテムと呼ばれるもの）を購買するプロセスです。この例としては、事務用品、作業着、IT 設備などが挙げられます。

## 在庫管理

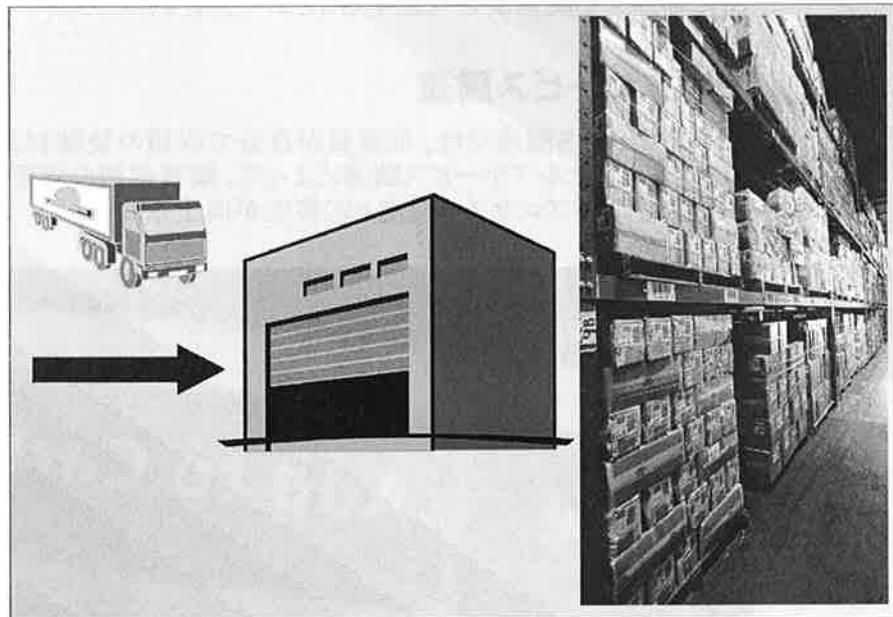


図 75: 入庫

購買発注を参照して入庫を在庫に転記すると、以下のような利点があります。

- 入庫ポイントで、納入が購買発注データと一致するか、つまり発注した品目が納入されたかどうかをチェックすることができます。
- 入庫の登録時に、購買発注のデータ(発注した品目、数量など)が提示されます。そのため、商品到着時の入庫の登録と過剰納入や不足納入のチェックが容易になります。
- 発注品目が納入されると、購買発注履歴が自動的に更新されます。購買部門は、納入が遅れている場合に催促状を送付することができます。
- 入庫が倉庫に転記されると、納入品目や納入数量などの情報が記載された入出庫伝票が自動的に登録されます。また、プラントの在庫に登録した品目の保管場所も記録されます。
- 品目評価に関連する処理では、在庫金額に対する在庫移動の影響を記録する会計伝票が1件以上登録されます。

## 請求書照合

調達プロセスは、請求書照合プロセスで完結します。このプロセスでは請求書とクレジットメモが入力され、その内容と価格が正しいかどうかがチェックされます。ただし、請求書の支払と評価は請求書照合の範囲ではありません。これらの作業に関連する情報が他の部門に渡されます。そのため、請求書照合によって購買と会計管理がリンクされます。

購買発注を参照して請求書を入力する場合、購買発注データとその購買発注に対する入庫データ(仕入先、品目、未請求の数量、支払条件など)が提示されます。

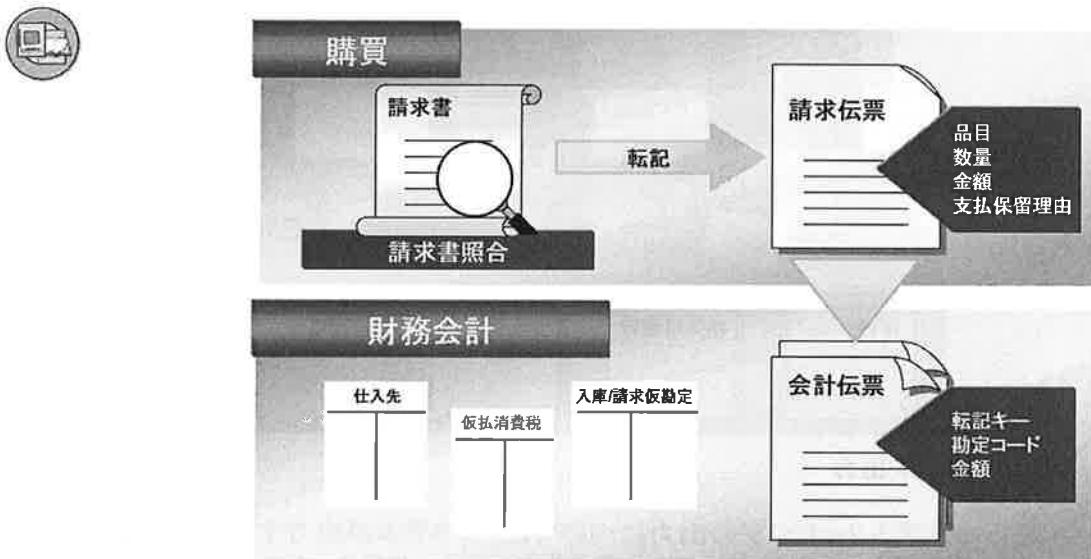


図 76: 請求書照合

購買発注や入庫と請求書の間に差異がある場合はユーザに対する警告が出力され、システムでの設定に従って請求への支払がブロックされます。

請求書の転記によって請求書照合のプロセスは完了します。購買発注履歴が更新され、財務会計で未処理の請求書明細への支払処理が開始されます。

## 出力

すべての購買伝票をシステムメッセージとして発行することができます。見積依頼、購買発注、基本契約、または分納契約を登録するたびに、該当の伝票にもとづくシステムメッセージを登録することができます。このシステムメッセージは、その後出力キューに書き込まれます。メッセージキューには、仕入先にまだ転送されていないシステムメッセージがすべて含まれています。出力キューからのシステムメッセージの出力(印刷、電子メール、FAX、またはEDIを使用)には、以下のオプションを使用できます。

- 即時出力: システムメッセージがキューから直接出力されます。つまり、伝票を保存すると同時に出力されます。
- 後で出力: 設定した間隔でメッセージキューを処理するバックグラウンドジョブをスケジュールするか、購買管理メニューから直接出力を開始します。原則として、バックグラウンドジョブを使ってシステムメッセージを出力し、例外の場合(緊急発注など)のみ出力をマニュアルで開始するようにします。

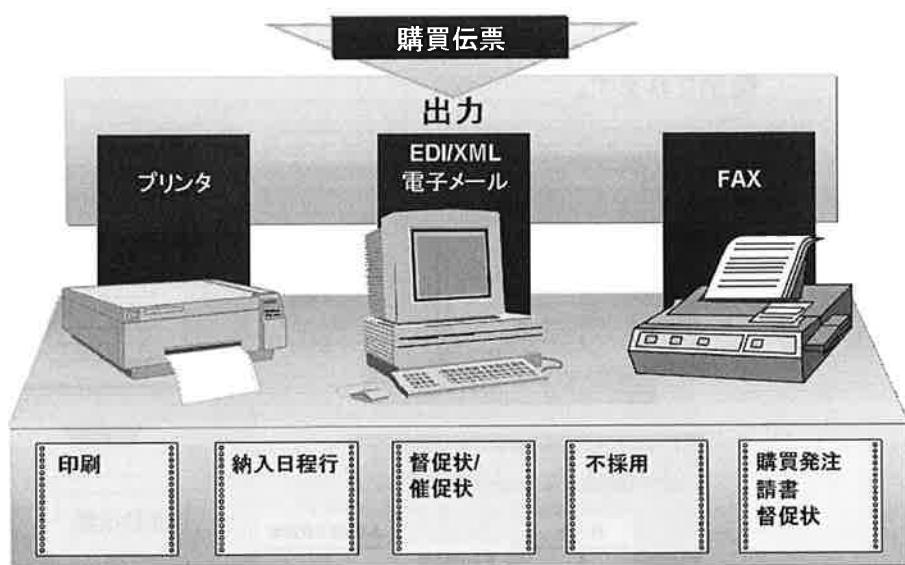


図 77: 出力

システムメッセージの出力については、システムが出力するヘッダテキストと明細テキストを指定することができます。ヘッダテキストには一般情報が記載され、この情報が購買発注の最上部に印刷されます。明細テキストには、購買発注明細の詳細が記述されます。標準テキストを組み込んで出力することもできます。購買発注トランザクションでは、画面に伝票を表示してから印刷することができます。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 調達サイクルに関するタスクの概要説明
- SAP ERP がサポートする調達の主要プロセスについての説明

## レッスン: サプライヤリレーションシップマネジメント

### レッスンの概要

このレッスンでは、SAP Supplier Relationship Management の概要について学習します。

### レッスンの目的



このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- サプライヤリレーションシップマネジメントプロセスに関連するタスクの概説
- SAP SRM アプリケーションがサポートするサプライヤリレーションシップマネジメントの主要プロセスに関する説明
- SAP SRM と他のコンポーネントおよびシステムとの統合についての説明

### ビジネスシナリオ

企業の境界を越えた調達はますます重要になってきており、調達プロセスの効率性は社内コストに大きな影響を与える可能性があります。IDES 社では、調達トランザクションにサプライヤをより密接に統合することで、調達にかかる負担を軽減したいと考えています。

### 継続的な収益力のためのコスト管理

サプライヤから受け入れる品目やサービスは、最終顧客に提供する製品やサービスの品質に直接影響します。このため、サプライヤはバリューチェーン全体において非常に重要です。しかし、調達コストを削減するとなると、大切な供給パートナをついビジネス上の敵として扱い、低価格でよりニーズに対応したサービスを強要しがちです。はっきり言って、このアプローチは短絡的です。調査によると、サプライヤと協力関係を育んでいる企業は、このような関係を育んでいない企業よりも常に高い成果をあげています。長期的には、サプライヤとともに、サプライチェーン全体で持続性のある有効な関係を築くことが、個々のサプライヤに限界費用の削減を迫るよりも、はるかに有益です。必要とされているのは、調達およびソーシングプロセスを合理化し、供給品質を向上し、収益性、サプライヤコラボレーション、イノベーションを強化することによって、サプライチェーン全体を有効に管理する方法です。

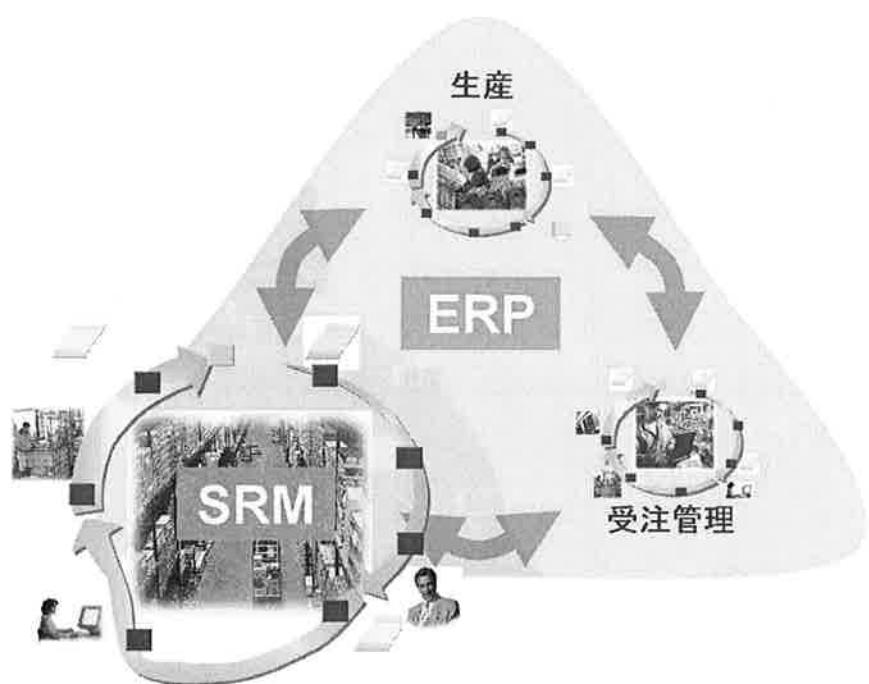


図 78: SAP SRM

SAP Supplier Relationship Management (SAP SRM) では、迅速に測定可能な投資利益率 (ROI) が確保され、継続的な収益力を維持するためにコストが管理されます。サプライチェーンの可視性の向上およびサプライチェーン全体を結びつけるプロセスの自動化によってグローバル全体の支出を正確に把握し、購入する品目およびサービスのコストを企業全体で削減する新しい方法を認識することができます。SAP SRM は戦略から実行までの供給サイクル全体に対応しており、サプライヤ選択の最適化、コラボレーションの強化、サイクルタイムの短縮を支援します。さらに、独自のコンテンツとマスタデータの統合により、企業戦略に沿った意思決定と実行を支援します。



図 79: 調達とソーシング

## ビジネス上の利点

SAP SRM は最終的な収支バランスを重視し、企業全体での購入する商品のコスト削減を促進します。供給関連の効率性を強化し、サプライヤとの関係の価値を高めることで、次の主要領域にビジネス上の大きな利益をもたらします。

### ソーシング戦略の強化

- サプライチェーンの合理化および最適化
- サプライヤの評価に関するデータへのアクセス性の向上
- 供給品の品質向上とリスクの軽減

### サイクルタイムの短縮

- 提案要請 (RFP) サイクルおよび見積依頼 (RFQ) サイクルの自動化
- オンライン承認による調達実行の迅速化
- サプライヤからの通知、回答の迅速化

### 業務処理コストの削減

- 購買規則に違反する購買の減少によるコンプライアンスの向上
- コンテンツ統合による複雑性の減少
- 調達の自動化による効率の向上

### 単価の削減

- 複数の事業単位の需要の統合
- 在庫維持費の削減
- 競争入札による低価格の実現

### 戦略的購買およびソーシング

戦略的購買およびソーシングは、適切な供給戦略の策定、供給ニーズを満たす適格な供給元の確保による供給戦略の実践、購買契約の交渉、契約の管理、およびサプライヤ実績の評価で構成されるプロセスです。

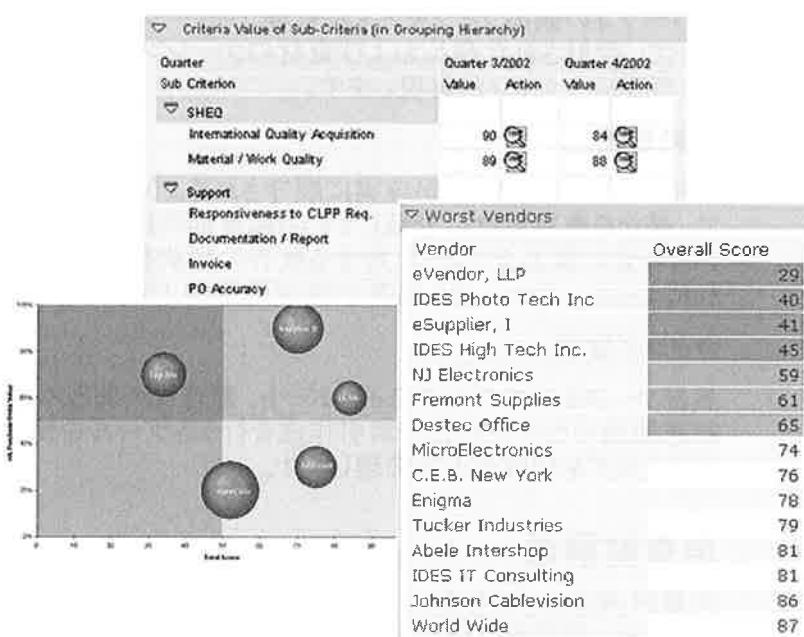


図 80: 戦略的購買およびソーシング

戦略的購買およびソーシングには次のような機能があります。

#### 供給方針の開発

それぞれの事業単位のニーズに適合し、全体の企業目標とも一致する堅固な供給戦略を策定します。この戦略を実現するには、商品市場および供給市場固有の各種ツールと方法を使用します。実践の基盤となる戦略では、推奨サプライヤ、契約の期間とタイプ、ローカルサプライヤまたはグローバルサプライヤなどの個々の詳細が提供されます。

#### 支出分析

商品情報と仕入先情報のマッピングとクレンジングを実行し、内部システム、電子カタログ、およびデータウェアハウスにこの情報を配信することにより、グローバルでの支出とサプライチェーンのデータをより正確に把握できるようにし

ます。それにより、冗長な供給関係の識別および合理化と企業全体での支出パターンの分析が可能になるとともに、契約条件の交渉と調達コストの管理において自社を有利な立場におくことができます。

### サプライヤ選定

購買リスクを最小化し、サプライチェーンの監視を強化し、サプライヤの業務実績の評価を容易にします。それにより、企業は特定のニーズに適合するサプライヤに対象を絞り、改善を必要とするサプライヤに情報を提供することによりビジネス上の価値を加えます。その結果、事前選択したサプライヤとの連携により、ソーシングのサイクルタイムを容易に短縮できるようになります。これを実現するには、ソーシング要件とサプライヤ機能を合致させる各種の電子オークションおよび電子入札ツールを使用します。SAP またはサードパーティの製品ライフサイクル管理ソリューションと緊密に統合することによって、設計された商品および資材のソーシングプロセスで円滑なサプライヤコラボレーションが実現します。

### 契約管理

取り決められた諸条件が確実に順守されるようにします。集中契約管理によって、異なる事業単位に分散している購買部門において、全社規模で共有している特定の製品カテゴリに対する既存の契約を再利用することができます。これによって、グローバル購買の生産性が向上します。

### カタログ管理

外部ソースからのデータのインポート、整合性のあるスキーマの維持、および高速検索のための明細の索引作成を行う各ツールを使用して、統一された電子カタログを作成および管理します。

## 消費財調達

消費財調達は、直接材とサービス(生産で使用)または間接材とサービス(保守、修理、業務で使用)を購入するプロセスです。主な機能を以下に示します。

### セルフサービス調達

企業の購買方針の順守を強制する Web ベースのショッピングカートを使用して、必要な品目を従業員が容易に調達できるようにします。このように調達を分散することによって間接費が削減され、購買担当者は、業務処理の代わりにサプライヤとの関係の管理に集中することができます。

### 計画主導型の調達

購買管理をサプライチェーンマネジメントシステムに統合することにより、主要ビジネスプロセスで使用される資材の調達の合理化と自動化を図ります。

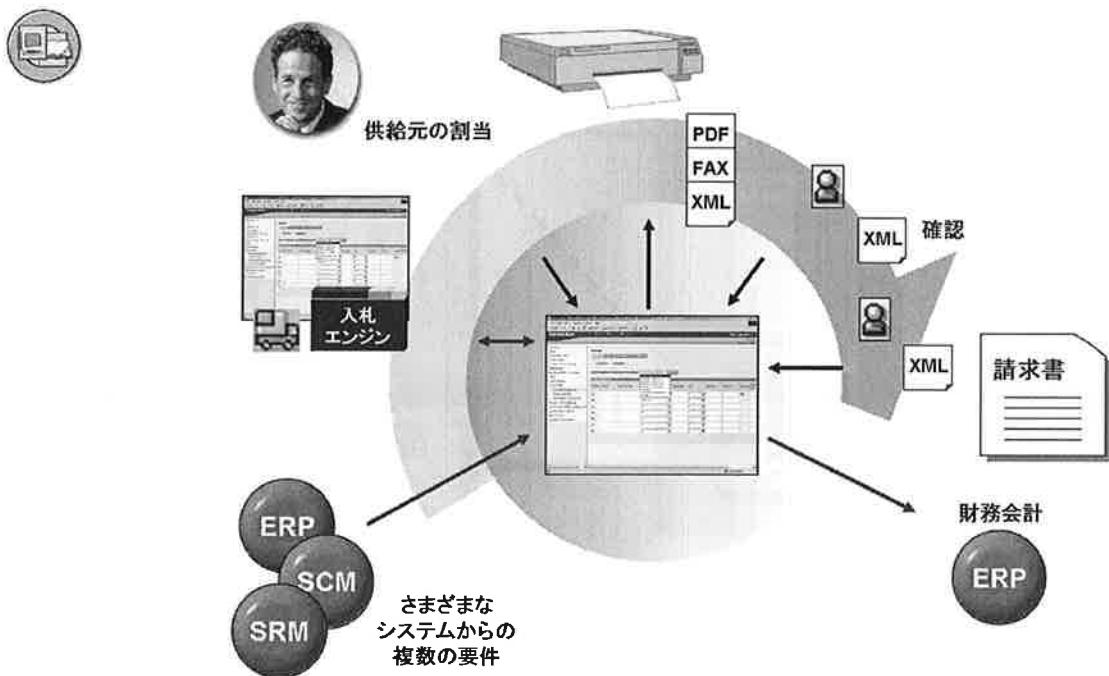


図 81: 消費財調達

### サービス調達

コンサルティングや契約労働などの各種サービスの調達に伴う管理および処理コストを削減します。

### サプライヤコラボレーション

サプライヤコラボレーションは、サプライヤリレーションシップのライフサイクルに従って複数のプロセスに接続する、費用効率が高い方法をサプライヤに提供します。サプライヤは、Web ブラウザを使用して、すべてのサプライヤ関連活動の集中ハブとして機能するサプライヤポータルにアクセスすることができます。

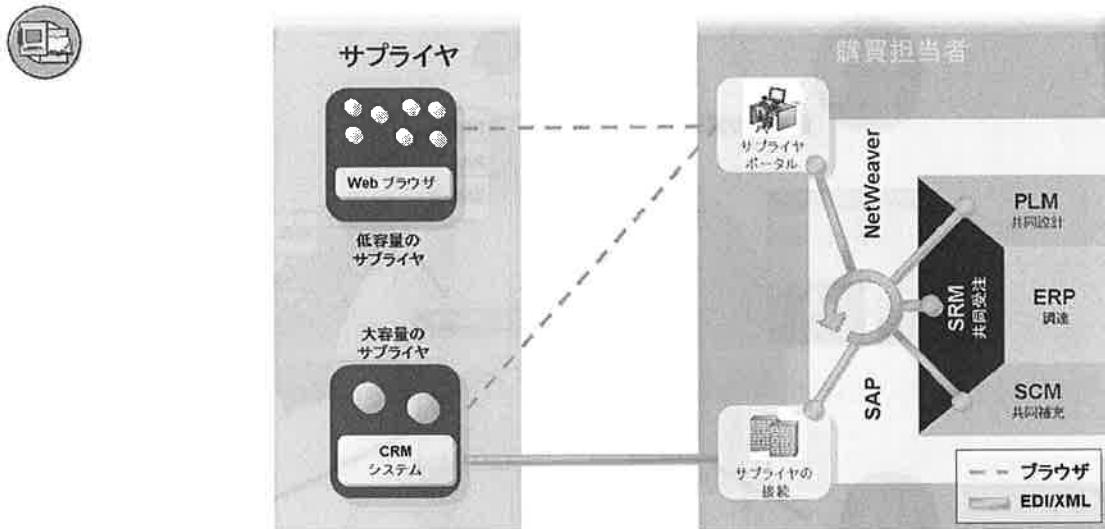


図 82: サプライヤコラボレーション

主な機能を以下に示します。

#### サプライヤ登録

サプライヤ登録によって、購買担当者はサプライヤが管理する情報にアクセスし、ソーシングの意思決定の向上を図ることができます。サプライヤは自社の情報(事業所住所など)を管理できるとともに、自社の能力に関する情報の要求時に応じて情報を提供することができます。登録が完了すると、サプライヤは自社の多数のユーザーをサプライヤポータルに割り当てることができます。

#### 発注コラボレーション

内部の発注管理システムにサプライヤがアクセスして、サプライヤへの発注、納入日程、請求書管理、仕様変更などの処理を電子的に行えるようにすることで、調達プロセスを合理化します。さらに、サプライヤポータルの実績レポート機能は、カタログ情報の管理や、在庫回転率、未処理購買発注、契約履歴、基本契約期間満了情報などの重要データの分析をサプライヤが実施するのを促進します。

#### 設計コラボレーション

便利で一貫した方法で集中管理されている製品およびプロジェクト関連情報を、さまざまな取引先の従業員が効率的に共有しながら、支援情報や詳細情報を社内に保持できることから、製品開発のサイクルが短縮されます。設計コラボレーションでは、仕様や部品表/配合表などの設計オブジェクトに関する共同作業が可能になります。

#### 補充コラボレーション

バイヤ側の在庫データにサプライヤがアクセスできるようにし、例外ベースの補充プロセスでバイヤが必要とする在庫レベルの維持をサプライヤに担当させて、サプライチェーンを最適化します。これによってコストが削減され、需給連鎖の全体の速度と精度が向上します。

### サプライヤ接続

XML ベースの文書交換を使用して、規模や能力が異なるサプライヤに接続します。

## 統合

SAP SRM ソリューションの主要な業務コンポーネントは、特別な機能を提供する SAP SRM と、ERP バックエンドの一部としての SAP ERP Central Component (SAP ECC) です。加えて、SAP NetWeaver の一部として提供される SAP NetWeaver Exchange Infrastructure (SAP NetWeaver XI) は、接続の確立および XML ベースのメッセージ送信のための重要なコンポーネントです。

購買担当者と標準ユーザ（通常の消費品目を電子カタログからオーダーできるユーザなど）の両方が Web ブラウザを介して SAP SRM で作業します。この方法で登録された購買発注は、入庫、請求書照合などの後続プロセスのために ERP バックエンドで転記され、品目計画および利用可能在庫確認でこれらのデータを利用できるようになります。

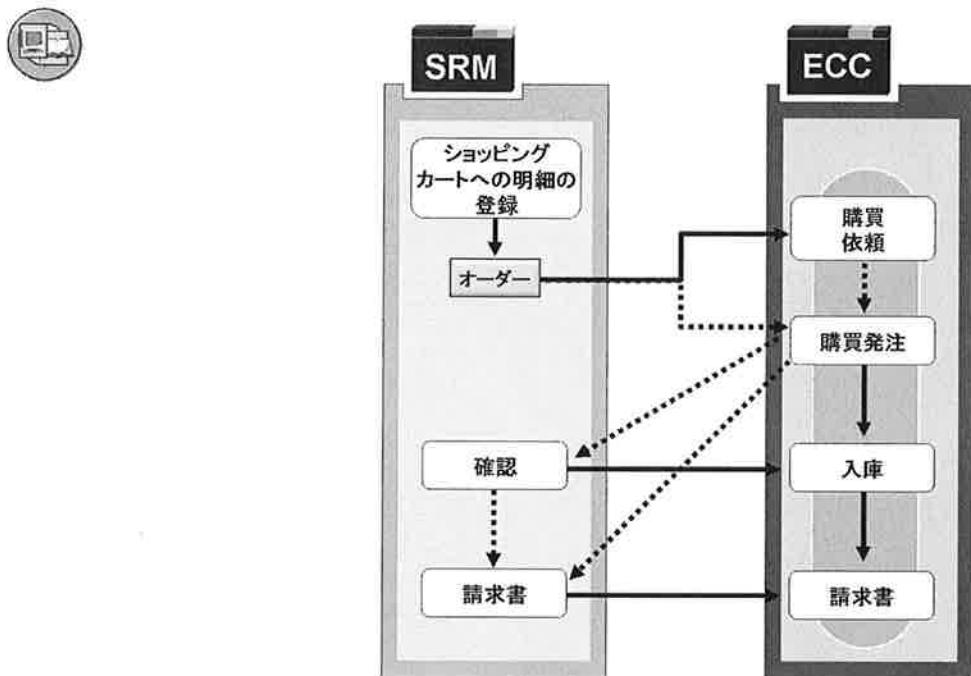


図 83: SAP SRM での購買発注

この標準シナリオのほかに、SAP SRM は ERP バックエンドを財務会計転記にのみ利用するスタンドアロンシナリオでも使用することができます。

SAP SRM による調達は、完全なロジスティクスバリューチェーンにおける高度に統合されたプロセスです。外部調達品目の所要量は、SAP SCM の計画プロセスまたは実際の販売プロセスを通じて登録することができます。実際の購買プロセスは自動化されているため、購買部門は戦略的作業や品質向上作業に専念することができます。

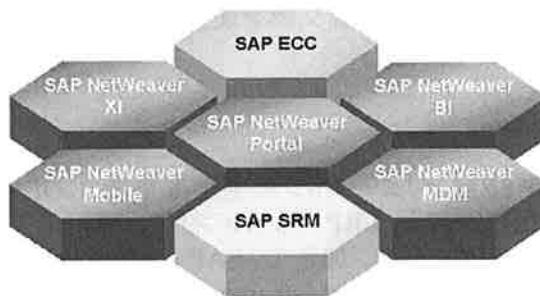


図 84: SAP SRM の主要コンポーネント



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- サプライヤリレーションシップマネジメントプロセスに関するタスクの概説
- SAP SRM アプリケーションがサポートするサプライヤリレーションシップマネジメントの主要プロセスに関する説明
- SAP SRM と他のコンポーネントおよびシステムとの統合についての説明

## レッスン: その他のプロセスとプロダクトライフサイクルマネジメント

### レッスンの概要

このレッスンでは、SAP Product Lifecycle Management (PLM) ソリューションの概要を説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 受注管理、生産、調達、およびプロダクトライフサイクルマネジメントを支援するプロセスの関連タスクの概要
- SAP ERP および SAP PLM が支援するプロダクトライフサイクルマネジメントの主要プロセスに関する説明

### ビジネスシナリオ

急成長しているグローバル企業である IDES 社では、複数の機器で構成される企業システムランドスケープにおいて、市場と得意先の需要に迅速に対応する必要があります。企業内のマッピングにより、各部門内で行われた変更の追跡が可能になります。

### プロダクトライフサイクルマネジメント

プロダクトライフサイクルマネジメント (PLM) という用語は、今やキャッチフレーズのように使用されています。しかしながら、この用語は、領域や個別システムという概念をプロセスという概念に置き換える必要があることを指摘するうえで役立ちます。今日、製品開発、調達、および生産からサービスに至る製品のライフサイクルを特徴付けているものは、企業内の部門分立と異なる機器のシステムランドスケープです。各プロセスは、システムと部門が変わることに人為的に終了されます。

わかりやすい例として、組立における変更プロセスがあります。従来の製品データ管理システムでは、組立部門内で変更プロセスのマッピングが行われるだけです。生産プロセスの中に組立における変更を組み入れるための機能は利用できません。しかし、企業が市場と得意先の需要に迅速に対応するためには、完全なプロセスが必要になります。SAP PLM はこれらのプロセスを支援する SAP のソリューションです。



図 85: SAP PLM

SAP PLM の目的は、製品のライフサイクル全体を支援することです。製品の開発から始まって、集積されたデータがすべての後続プロセスに使用されます。これらのデータは、SAP Supply Chain Management (SCM)などの他のエリアでも利用されます。この原則にもとづき、統合された製品開発プロセスは、製品開発に現在使用されている方法をはるかに超えたレベルで実行されます。SAP Business Suite の開発によって、得意先と仕入先が製品開発の拡張プロセスチェーンに等しく関与できるようになりました。プロダクトライフサイクルマネジメント (PLM) という名称は、このアプローチを的確に表しています。

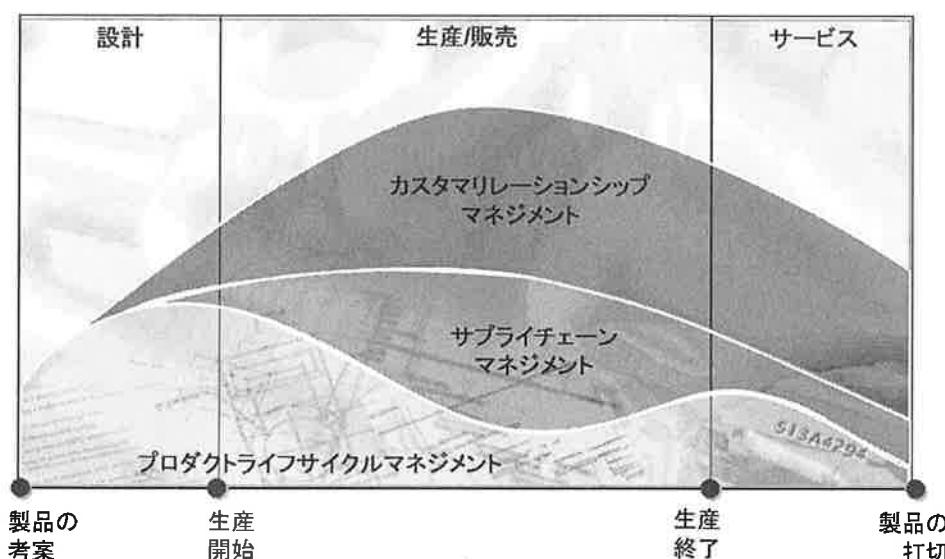


図 86: プロダクトライフサイクルマネジメント

SAP PLM は、企業における製品の開発、資産の保全、および自社製品のサービス業務を支援します。企業が成功するためには、適切な製品を、適切な時期に、適切な価格で提供する必要があります。SAP PLM はまさにこの要件に対応します。適切な製品とは、得意先のニーズを満たす製品のことです。得意先のニーズを知るためにには、開発の開始段階から得意先との討議プロセスに参加する必要があります。このプロセスでは、双方が同じドキュメントにアクセスできなければなりません。製品は、適切な時期に市場に送り出すか、または得意先に納入する必要があります。遅れが出ると、コストが増加し、市場での競争力が低下します。しかし、コストの増加を招くものは遅れだけではありません。製品の開発後に変更を行った場合も費用がかさみます。得意先との早期の討議、および初期段階での仕入先や開発パートナの参加は、変更に伴うコスト増加の抑制に役立ちます。サービス業務のコストは、定期保全の実施によって削減することができます。資産の運用、サービスの処理、および製品の開発時には、得意先と外注先が早期に参加することによって、コストが削減され、収益性が向上します。

SAP PLM には、企業が市場で優位に立つための多数の機能が集められています。プロジェクトでの効率的な原価管理や、個々の設備の保全コストの最小化などの手段を使用して、原価を削減することができます。PLM ではまた、情報をプーリングしてパートナや得意先と共有するなどの方法によって、生産性を高めることができます。さらに、新製品を迅速に市場に送り出すことによって、生産性を向上させることもできます。過小評価すべきではない重要な競争力の1つに、顧客満足度があります。開発プロセスの早期に得意先を参加させることによって、得意先とマーケットプレイスの両方のニーズに合わせて製品を調整することができます。さらに、SAP PLM には、統合ソリューションという利点があります。製品開発、品質管理、資産管理、保全、およびサービス管理のすべてが統合され、ライフサイクル全体がマッピングされます。

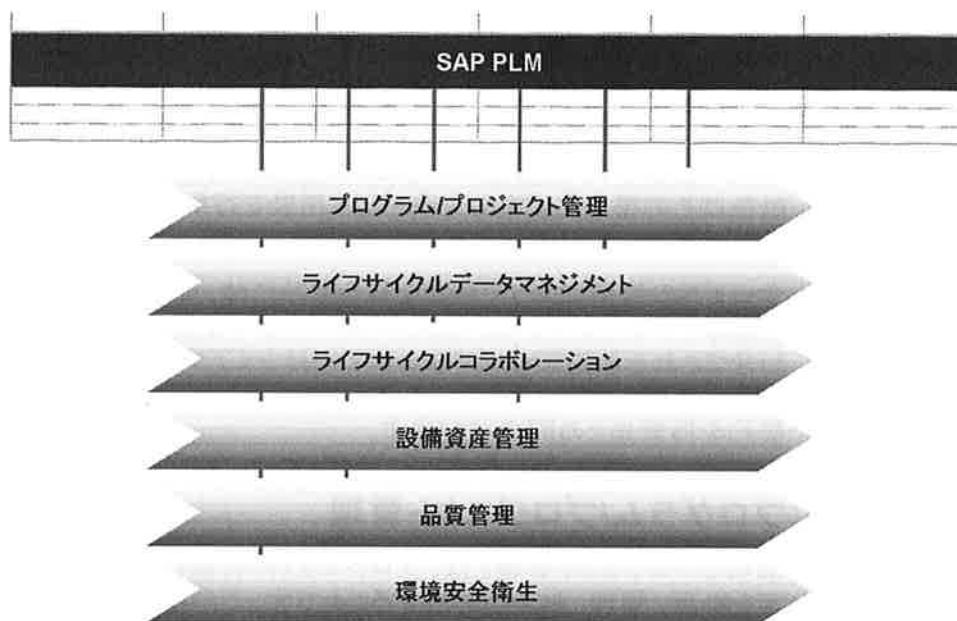


図 87: SAP PLM の主要機能分野

SAP Product Lifecycle Management は、製品および資産の統合管理に必要なすべての機能を備えています。特徴および機能には、次のものがあります。

#### プログラム/プロジェクト管理

製品開発プロセスのすべてを計画、管理、および制御するための高度な機能を提供します。

#### ライフサイクルデータマネジメント

製品ライフサイクル全体をとおして、仕様書、部品表/配合表、作業手順/リソースデータ、プロジェクト構造、および関連する技術文書を管理するための環境を提供します。

#### ライフサイクルコラボレーション

コラボレーティブエンジニアリングとプロジェクト管理を支援します。XML ベースの Web 標準の採用により、プロジェクト計画、文書、製品構成などの情報を仮想開発チーム間で伝達することができます。

#### 品質管理

あらゆる業種の製品ライフサイクル全体に統合された品質管理を提供します。

#### 設備資産管理

企業の資産管理システムのあらゆるコンポーネントを網羅した、物理的な資産と設備を管理します。

#### 環境安全衛生

環境安全衛生に関する問題に対応するソリューションを提供します。政府の規制に準拠するよう、ビジネスプロセスを改善することができます。

SAP PLM は完全なソリューションです。製品の提供元と資産管理者の両方の観点からのライフサイクル全体に対応しています。SAP PLM は、特定の得意先用の製品を開発/製造し、完成した製品を得意先に出荷し、製品の本稼動後はその得意先に対してサービス活動を行う、総合ソリューションの供給者を対象とするソリューションです。

サービスの提供によって利益を得る製品には、建設機材やタービン、水処理設備などがあります。たとえば、ブルドーザーを製造して、得意先の要件に合わせてこれを改造し(カリフォルニアではなくアラスカで使用できるように)、得意先に出荷します。その後、このブルドーザーの定期点検を実施する保全契約を得意先との間で結びます。

## プログラム/プロジェクト管理

適切なプロジェクト管理とは、プロジェクトの目標に沿って、基本プロジェクト要素を計画、管理、および実施することです。この意味で、プロフェッショナルなプロジェクト管理は企業の競争力を決定付ける重要な要素の 1 つです。

適切なプロジェクト管理は、プロジェクトに必要なすべてのプロセスを決定し、それらのプロジェクトを 1 つの構造とプロセスという形式で表現する能力にもとづきます。プロジェクトシステムでは、さまざまなプロジェクト計画の登録を促進する基本データ、標準構造、およびテンプレートを使用することができます。プロジェクトの適切な構成と、プロジェクト目標の明確な定義は、プロジェクトを適切に計画、監視、制御するための基盤となります。

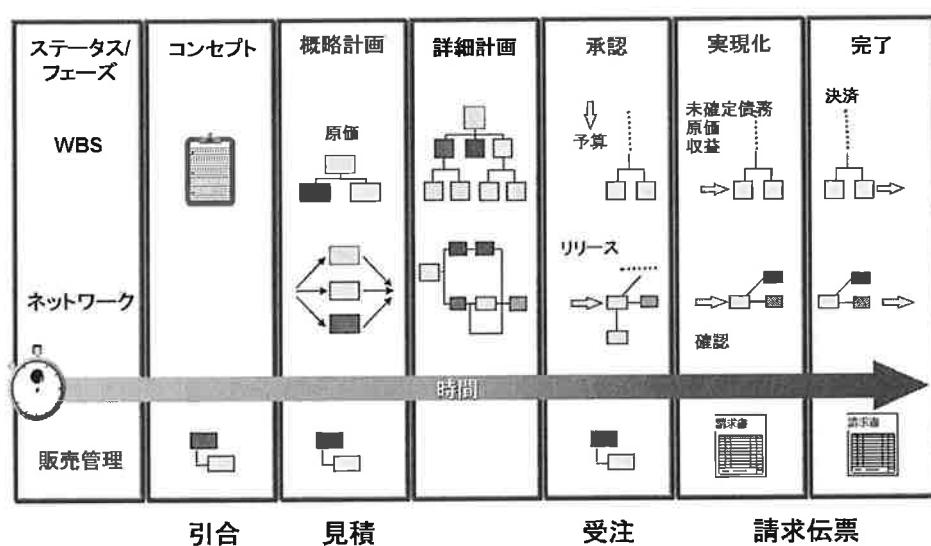


図 88: プログラム/プロジェクト管理

プロジェクトのタイプと監視目的に応じて、プロジェクト構造計画 (PSP)、または関係によってネットワーク計画にリンクできる活動、あるいはその両方を使用して、プロジェクトシステムでプロジェクトを構成することができます。

プロジェクト構造計画は、プロジェクトの組織構造を表し、この構造をフェーズ、機能、または製品の観点から記述したものです。プロジェクト構造計画では、プロジェクトが管理可能なセクションに分割され、実行する必要があるタスクが階層形式で配置されます。プロジェクト構造計画の個々の要素は、PSP 要素と呼ばれます。これらの要素には、プロジェクトのフェーズに応じて、さらに下位区分を組み込むことができます。

実際のプロセスの計画はネットワーク計画で行われます。ネットワーク計画では、プロジェクトのフローが定義されます。ネットワーク計画を構成する基本要素は、活動と関係です。ネットワーク計画とその関連作業は、計画と分析の基準や、期限/コスト/資源の監視の基準、またプロジェクトの実行でさまざまなタスクが必要とする要員/能力/資材/支援/サービスの基準となります。

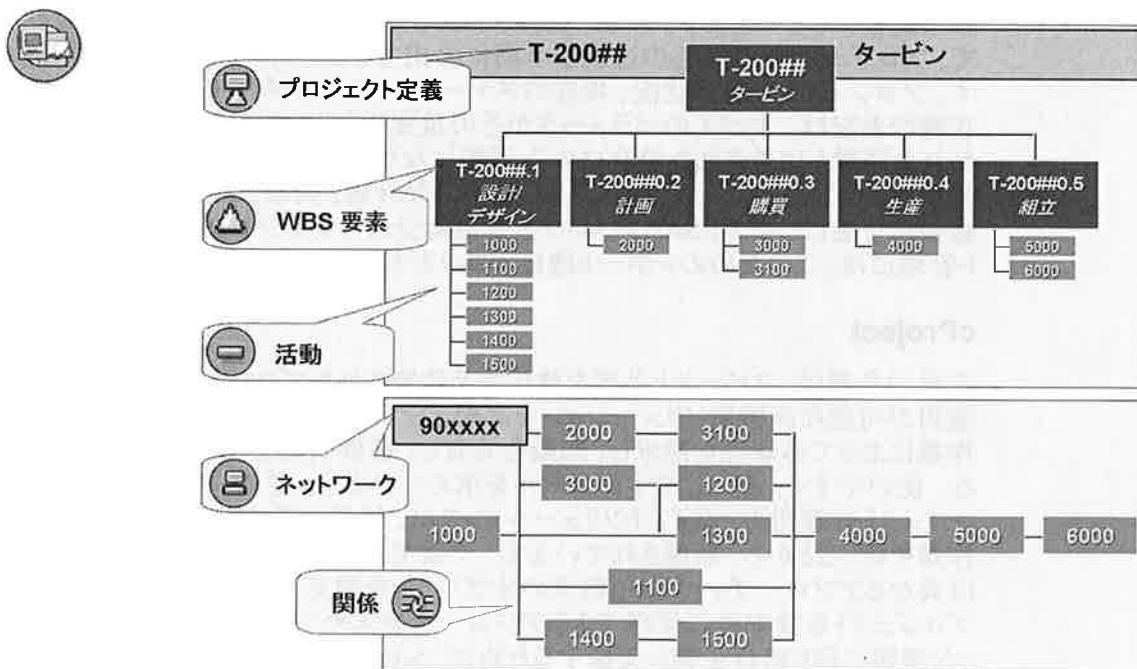


図 89: プロジェクト管理構造

プロジェクトの時間の監視には、プロジェクトシステムの日程計画および日程計画の策定でオプションを使用することができます。プロジェクト計画表では、プロジェクトを効率的に計画および制御するためのグラフィカルインターフェースが提供されます。

プロジェクト計画表は、プロジェクトデータ(主に日程計画関連)の登録、編集、および分析に使用することができます。表形式のデータとグラフィック表示の組合せによって、プロジェクトの包括的な概要を常に照会することができます。

プロジェクト計画表は、以下の目的で使用することができます。

- 日程計画の登録、チェック、および変更
- 資源の計画、日程計画、チェック
- 作業の定義と割当
- 能力の比較
- 原価の計算

プロジェクト計画表の中心的な要素はガントチャートです。ガントチャートはテーブル領域とグラフィック領域で構成され、プロジェクトの階層構造と、対応する日程計画状況の両方が表示されます。プロジェクトの作業はガントチャート内で行います。

PSP 要素と活動に加えて、能力概要や原価概要などのその他のビューの表示(または非表示設定)も可能です。

適切なプロジェクト管理は、その大部分が、すべてのプロジェクトプロセスの詳細な監視にもとづきます。原価、資源、および日程計画の詳細な監視によって、プロジェクト計画からの逸脱を早期に検出できるようにする必要があります。プロジェクトの進捗状況、現在のステータス、および今後の開発に関する正確な表記は、すべてのパラメータがその重要性とともに提示され、すでに行われた活動と比較された場合にのみ可能になります。プロジェクトシステムを使用することによって、プロジェクトの効率的な計画、実施、および進捗状況の監視を可能にします。SAP PLM の主要機能分野であるプログラム/プロジェクト管理には、このためのレポート機能があります。

## cProject

今日の企業は、スピードと品質を強化する洗練されたプロジェクト管理方法の運用が可能な高機能ソリューションを必要としています。また、従業員が共同作業によって革新性を追求し、知識を共有し、進捗状況を追跡することができる、使いやすく、導入しやすいツールを求めています。逆に、従来の独立型プロジェクト管理用の“ポイントソリューション”は、情報の孤立化と大規模な統合作業を招くことから、敬遠されています。一言で言えば、企業は、従来のものは異なるアプローチ、つまり、将来のオプションを限定することなく、現時点でプロジェクトを効率的に管理できるアプローチを求めていると言えます。このような課題に取り組む企業を支援するために、SAP では SAP コラボレーティブプロジェクトマネジメントを提供します。SAP コラボレーティブプロジェクトマネジメントを使用することによって、開発プロジェクトからサービスプロジェクトの全プロジェクトタイプについて、プロジェクトのコンセプトおよび計画の策定からプロジェクトの実施および終了に至るプロジェクト活動の全範囲を処理することができます。また、SAP コラボレーティブプロジェクトマネジメントでは、APQP (Advanced Product Quality Planning: 先行製品品質計画)などのプロジェクト方法論の導入によって、業界標準に準拠することもできます。

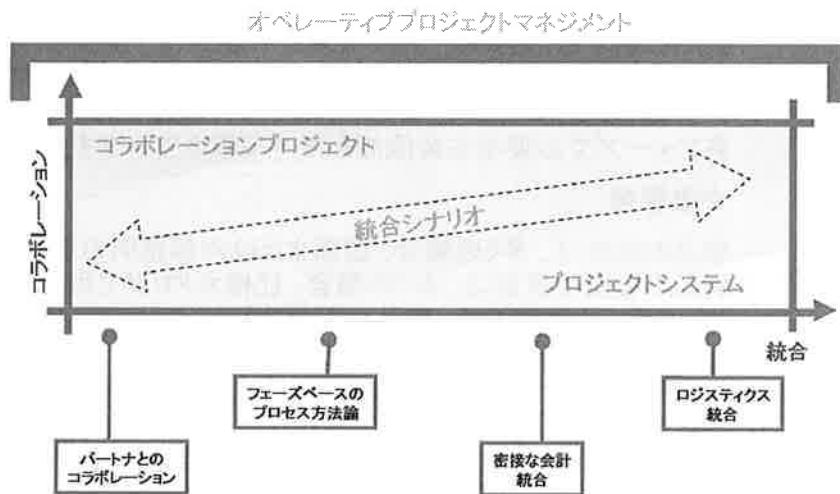


図 90: cProject とプロジェクト管理

cProject が実現するコラボレーティブプロジェクトマネジメントには、テンプレート、チーム、フェーズ、品質ゲート/マイルストーン、日程計画、インタラクティブガントチャート、チェックリスト、文書、オブジェクトリンク、確認承認とデジタル署名、および制御計画の管理が含まれます。また、コラボレーティブプロジェクトマネジメントは、複数プロジェクト管理、Microsoft Project との統合(エクスポート/インポート)、プロジェクトのスナップショットとシミュレーションバージョンの登録、タスクの代替の割当、その他さまざまな機能に対応しています。

cProject では、cFolder によって、外部パートナーと共同で文書やタスクを処理するための、緊密に統合されたシナリオが提供されます。

## ライフサイクルデータマネジメント

ライフサイクルデータマネジメントとは、会社内および会社の境界を越えたプロセスエンジニアリングおよびロジスティクスデータです。製品およびプロジェクトデータの管理と変更では、最も重要な日次作業が記述されます。設計者、作業計画担当者、およびプロジェクトマネージャは、日々、意思決定をするための堅実な基盤を必要としています。これらの人々は、最新の関連情報に迅速にアクセスすることができるでしょうか。それはたやすいことではありません。製品を表現する情報の量と範囲はフェーズごとに異なります。設計フェーズでは文書と仕様書が使用され、計画/生産フェーズでは品目コード、BOM、および作業手順が使用され(これらはいすれもリソースデータとともに提供されます)、そして最後にサービスおよび保全作業の編成には設備データが使用されます。この広範なデータを管理できるのが、すべてのロジスティクスプロセスのバックボーンとなるライフサイクルデータマネジメントです。

SAP PLM は、製品およびプロジェクトデータの評価と配布のためのあらゆるツールを備えています。これらのツール群の使用によって、管理コストが削減されるだけでなく、製品およびプロジェクトに関する知識が体系化され、すべてのシステムで利用できるようになります。透過程性のあるデータの保管と処理

は、活動とタスクの導入に関する堅実な決定を下すための最適な基盤です。製品に関するこのグローバルな視野の確保は、製品のライフサイクルの全フェーズで適切な品質を保持するために非常に重要です。ライフサイクルデータマネジメントのコラボレーティブな作業環境は、製品のライフサイクルの各フェーズで必要な主要機能をすべて備えています。

### 文書管理

製品の構想は、多くの場合、図面または内容説明の形式で収集されます。新製品の機能仕様書は、多くの場合、仕様カタログで得意先データとともに編集されます。仕様書では、製品の実現方法について記述します。追加文書が、CAx システム、デジタルモックアップ、インターネット、モデル化など、ますます高度になっていく情報技術を使用して作成され、モデルが最初の製品設計フェーズから統合されます。すでに設計フェーズにおいて膨大な次元を持つこともある、この大量の流入情報は、文書、音声、視覚媒体などのさまざまな形式で保管することができます。

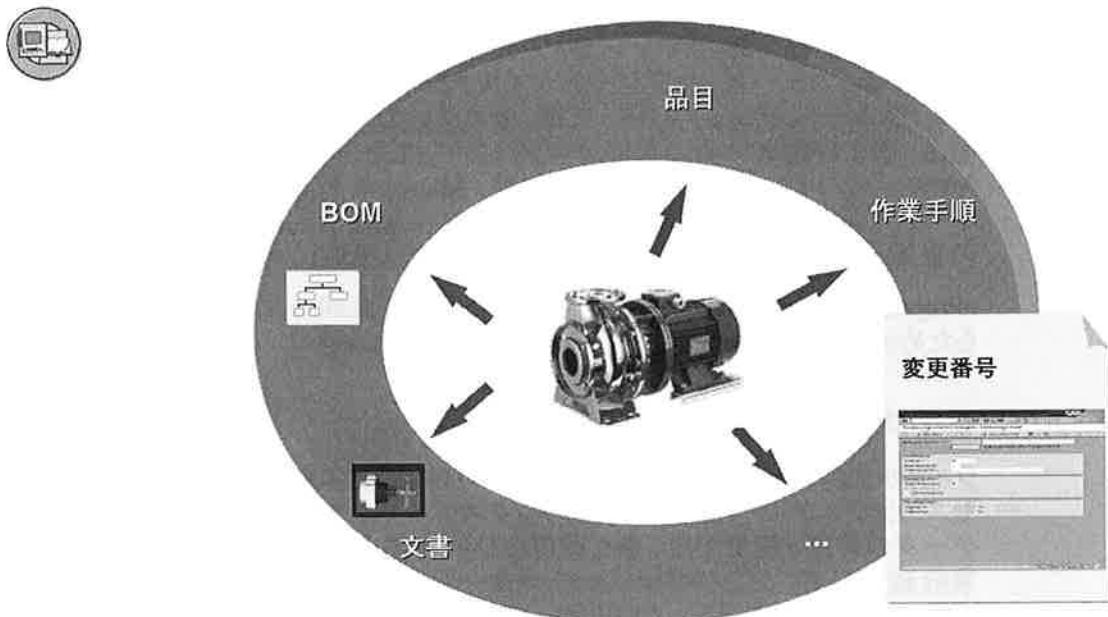


図 91: ライフサイクルデータマネジメント

### レシピ管理

プロセス産業では、世界中の製品のレシピとレシピ定義を管理する必要があります。これらのレシピおよびレシピ定義はさまざまなエリアおよび製品ラインに合わせて調整されます。レシピ管理は、R&D (Research & Development) 部門の日常の管理を促進し、効率的な知識の共有を推進することによって、より創造的で実験的な作業に費やすための時間を確保します。レシピ管理を使用した場合、開発の初期段階で製造部門が介入できるため、製造部門からの情報の入力と、さらに他の部門から提供された知識をもとに、生産ラインに合わせて開発する製品が調整されます。

## 統合

CAD ツールにより、広範なカタログから標準パーツを定義したり挿入したりできるため、設計プロセスの生産性が大幅に向上します。SAP PLM CAD および変換インターフェースによって、設計プロセスの外部にいる従業員が初期段階でこれらのデータを使用できるようになります。また、設計者も最新の製品データにアクセスすることができます。

## 変更/構成管理

多くの企業では、技術的または美的観点から製品を日々変更する必要があり、誤りや欠陥の修正は常に企業のすべての領域に影響するため、コストがかかる変更作業の削減の可能性が重要視されます。SAP PLM ライフサイクルデータマネジメントは、変更プロセスの柔軟な設計を可能にし、変更を運用プロセスの必須要素として確立します。そのため、製品のライフサイクルのすべてのフェーズで製品の一定の品質が維持され、製造物の責任に関する法律が要求する高い品質標準を満たすことができます。

## 製品構成管理

製品の記述データおよび構成データには、その一部を挙げただけでも、初期製品設計、仕様書、CAD モデルデータ、品目、および BOM など、さまざまなものがあります。製品構成ブラウザは、製品構成において中心となるナビゲーションツールです。製品構成ブラウザでは、製品に関連するあらゆる情報の概要を把握することができます。

- 品目マスター
- 文書
- 部品表/配合表 (BOM)
- 作業手順
- 分類情報

## ライフサイクルコラボレーション

コラボレーションはほとんどのチーム活動の中心です。これは、製品の設計および構築を迅速かつ効率的に行うための OEM とそのサプライチェーンのメンバとの間の作業であっても、目標を達成するためのプロジェクトチームによるさまざまなメンバの調整活動であっても変わりません。実際、企業の新製品開発などの領域において、コラボレーションは戦略的な優先事項となっています。コラボレーションは、その本来の性質から、情報交換のための環境として役立ちます。なぜなら、コラボレーションによって、支援情報と詳細情報を企業内に確保しながら、さまざまな取引先の従業員が、整合性と利便性を維持した形で中央で管理される製品およびプロジェクトの関連情報を効率的に共有することができるためです。



図 92: ライフサイクルコラボレーション

SAP PLM ライフサイクルコラボレーションでは、新製品の開発と、複数の企業間のソーシングに重点をおいています。SAP PLM ライフサイクルコラボレーションには、以下のプロセスが含まれます。

#### 設計コラボレーション

cFolder の利用により、SAP カスタマは、バックエンドオブジェクト (SAP PLM 内の伝票、品目、BOM など) を使用して自社のパートナおよびサプライヤと通信することができます。この通信は、パートナおよびサプライヤに自社の ERP システムを公開することなく行えます。SAP カスタマのサプライヤおよびパートナは、cFolder 内の BOM、伝票、または品目情報を変更/修正することができ、バックエンドユーザは cFolder 内のこれらの変更を ERP システムにシームレスに統合できます。

#### コラボレーティブプロジェクトマネジメント

SAP コラボレーティブプロジェクトマネジメントを使用することによって、企業は、開発からサービスまでのあらゆるプロジェクトタイプについて、プロジェクトのコンセプトおよび計画の策定からプロジェクトの実施および終了に至るプロジェクト活動の全範囲を処理することができます。また、SAP コラボレーティブプロジェクトマネジメントでは、APQP (Advanced Product Quality Planning: 先行製品品質計画) などのプロジェクト方法論の導入によって、業界標準に準拠することもできます。cProject が実現するコラボレーティブプロジェクトマネジメントには、テンプレート、チーム、フェーズ、品質ゲート/マイルストーン、日程計画、インテラクティブガントチャート、チェックリスト、文書、オブジェクトリンク、確認承認とデジタル署名、および制御計画の管理が含まれます。また、コラボレーティブ

プロジェクトマネジメントは、複数プロジェクト管理、Microsoft Projectとの統合(エクスポート/インポート)、プロジェクトのスナップショットとシミュレーションバージョンの登録、タスクの代替の割当、その他さまざまな機能に対応しています。

### 品質コラボレーション

品質通知は、あらゆる種類のクレームまたは内部障害の処理に使用できる高機能ツールです。インターネット上で通知を登録し、その後、その通知をバックエンドの SAP システムで処理することができます。また、シナリオ固有の独自の HTML ベースのフォームを使用して、通知またはサービス依頼に必要なあらゆるデータを入力することもできます。

## 品質管理

SAP PLM による品質管理は、サプライチェーンに沿った、製品のライフサイクル全体のあらゆる品質管理要件を満たす総合ソリューションです。製品と資産の品質を保証し、管理するためのさまざまな統合機能、コラボレーティブサービス、およびモバイルソリューションを備えています。



図 93: 品質管理

SAP PLM による品質管理は、品質検査の計画および処理に関する従来の作業を支援するだけでなく、コラボレーションおよび継続的な品質管理による予防措置とプロセスの継続的な改善も推進します。主な機能として、以下のものがあります。

### 品質設計

製品の設計および開発の初期段階では、適切な品質ツールを確保し、適切な品質計画戦略をプロセスに導入することが重要です。それによって、製品のライフサイクルの後続フェーズで製品に一貫した高い品質を維持することができ

ます。SAP PLM は、製品開発プロセスを支援するさまざまなソリューションを備えています。これらのソリューションの使用により、得意先を満足させる製品を生産し、市場に送り出すことができます。

### 品質保証/品質管理

品質プロセスを確立した後は、達成した品質レベルを維持および改善するために努力する必要があります。品質管理には、あらゆる段階での品質検査、継続的な監視、不測の事態への迅速な対応が含まれます。SAP PLM による品質管理は、プロセスの監視と継続的な制御に必要なツールを備えています。柔軟性に富んだ広範な品質検査処理機能を通常の品質手順に統合することによって、プロセスの完全な制御が容易になります。

### 品質改善

企業のビジネスプロセスにおける高レベルの業績と品質は、偶然に達成されるものではありません。自社のビジネスプロセスの改善に向けた献身的かつ継続的努力の結果です。プロセスの継続的な改善は、企業の品質方針の重要な要素です。この目標を達成するための重要な活動として、問題領域の特定、想定される問題原因の分析、およびこれらの問題の根本原因の解決があります。SAP PLM による品質管理は、予防、効率的な問題管理、および評価をとおして製品の品質を改善するために必要なツールを提供します。

### 監査管理

監査では、記録と活動のレビューおよび調査が系統的に実施され、プロセス、システム、または製品の仕様要件が満たされているか、これらの要件が望ましい目標の達成にとって適切かどうかが判断されます。SAP PLM の監査管理製品は、監査プロセスの管理を促進する、使いやすく、かつ高機能のツールです。このソリューションは、業種を問わず、計画フェーズから、監査の実施と査定、および評価フェーズまでの監査プロセス全体を支援します。監査管理は、オープンインターフェースを備えた非常に柔軟性の高いツールです。このソリューションでは、関連する基準を考慮しながら、システム、プロセス、または製品の内部または外部監査を実施することができます。また、チェックリストにもとづくあらゆる種類のレビューやサーバイも実施できます。さらに、SAP PLM 監査管理は、法的要件の準拠を支援するとともに、ベンチマー킹の各種シナリオも備えています。

## 設備資産管理

設備資産管理は、資産/プラントマネージャ、保全エンジニア、および物理資産の管理に関わるすべての人々が利用することができます。設備資産管理は、資産の最初の投資計画から、調達、運用開始を経て、運用の終了および除却までのプロセスを支援します。

設備資産管理の SAP ソリューションは、完全に統合された設備資産管理 (EAM) システムのすべてのコンポーネントに対応しています。このソリューションの統合 e-Procurement 機能は、補給部品やサービスの発注を容易化し、在庫管理機能はプラント全体の効率性と設備のパフォーマンスを改善します。

費用効率の高い資産管理を行うには、個々の資産、製造業者、施設、または生産現場によって発生するコストを深く理解する必要があります。SAPでは、問題領域の特定とその発生源の分析を支援します。統合された技術レポートと詳細な原価レポートは、保全の最適化と全スタッフレベルの意思決定の支援に役立ちます。

設備資産管理ソリューションは、製品のライフサイクルの全フェーズをとおして、技術資産の収益性を高めます。

選定プロセスおよび調達プロセスでは、新規および交換用の調達手法および業務上の選択基準を定義するためのベースとして、現在の資産ポートフォリオの評価を使用することができます。

プラントの運用では、信頼性の高い完全なプラント保全ソリューションを使用することで、予防検査/保全の実施をとおしてシステムの可用性を高め、故障に伴うコストを削減することができます。

統合されたプラント保全機能は、保全処理の透過性と簡易性を強化します。そのため、この機能の使用により、資材費と労務費をシステム品質と同じレベルで削減し、外部サービス提供業社の費用を最適化することができます。



図 94: 設備資産管理

ビジネスデータと技術情報の関係は、技術資産の修理、改修、および廃棄に関する意思決定の管理に役立ちます。

設備資産管理は、社内のすべての技術資産について、資産の状態を最適化し、最小コストで最大限の能力を発揮させるための総合ソリューションです。

ソリューションの範囲には、以下のものが含まれます。

## 投資計画/設計

今日の製造業は多額の資産をもちます。ほとんどの設備資産管理 (EAM) システムでは、資産のコストを、保全作業の実施と予備部品の使用に費やされたコストとみなします。SAP EAM では、コストを確実に把握して作業することができます。技術資産として定義された資産は、自動的に財務資産としても表示され、適切な減価償却管理が適用されます。

## 調達/建設

新しい生産設備の建造には、社内の部門をはじめ、機械製造業者、請負業者、構成品目のサプライヤなどの外部関係者が多数関わります。SAP の設備資産管理は、コラボレーティブエンジニアリングと電子入札に対応しており、以下の機能を提供します。

- 建設プロセス全体の計画、管理、および制御
- 部門間、および外部パートナとの間の日程計画、タスクステータス、および責任の共有
- 図面、品目マスタデータ、BOM など、あらゆる種類の文書/伝票へのアクセス
- 見積依頼 (RFQ) の発行およびリバースオークション機能
- プロジェクト全体、特定のサービス、または特定の設備の最適な請負業者またはサプライヤの識別

## 保全管理

保全管理の主な機能分野は、以下のとおりです。

- 技術資産管理
- 定期/予測保全
- 保全実行
- MRO/サービス調達
- モバイル資産管理
- EAM エンタープライズポータル
- ワーククリアランススマネジメント
- 輸送機関管理

## 閉鎖/廃棄

生産設備を閉鎖するときが来たら、社内および外部のその他の関係者と連携する必要があります。有害廃棄物の廃棄と担当作業員の安全性に関する法的規制を完全に掌握していなければなりません。

## 環境安全衛生

国内および国際的な規制、法律、および推奨事項によって、EH&S(環境安全衛生)専門家の作業と義務はますます増加し、企業間の競争はあいかわらず熾烈なものとなっています。SAP PLM EH&Sは、法律と規制に準拠して安全かつ効率的にビジネスプロセスを実施するために必要な活動を合理化し、自動化します。それによって、時間とコストの削減を実現します。



図 95: 環境安全衛生

さまざまな領域における能力と支援によって、環境問題および従業員と顧客の健康と安全への配慮を推進する必要があります。SAP PLM EH&Sは以下の領域を支援します。

### 製品安全

企業で生産される製品、または業務に使用される製品は多岐にわたります。それらの製品のなかには取扱いに危険を伴うものがあるため、時間と場所を問わず、作業担当者全員が取扱い製品に関する知識を持つ必要があります。

スペック管理は、SAP EH&Sのほとんどの機能の基盤になります。スペック管理では、物質(純品、調合物、混合物、ポリマー)、行為(騒音、粉塵、物理的変形、汚染)、梱包(ボトル、バケル、段ボール箱、パレット)、危険物分類など、物理的なオブジェクト、非物理的なオブジェクトについて記述するスペックを登録することができます。

フレーズ集管理では、数ヶ国語による標準化されたテキスト要素で情報を効果的に処理することができます。フレーズセットを定義して、スペックプロパティの個別特性にフレーズを割り当てることができます。

レポート生成/レポート管理は、MSDS(製品安全データシート)やラベルなどのレポートの生成、管理、およびリリースを支援します。レポート出力では、完成したレポートを、適用する法的要件に準拠して出力することができます。出力は、

日付制御チェックルーチンによって受注管理から自動的に出力を起動することができます。また、スペックまたはフレーズに大きな変更が行われたためにレポートが変更されたときにも、同様に自動的に出力を起動することができます。

データ交換インターフェースを使用して、スペック、フレーズ、レポート、レポートテンプレート、プロパティツリー、出典などの EH&S オブジェクトを SAP および非 SAP システムに接続することができます。

二次データ決定のための **EH&S エキスパート** および **EH&S 簡易エキスパート** 機能では、データ自動誘導のインターフェースが提供されます。EH&S エキスパートは、SAP EH&S システム内の既存のスペックデータから二次データを計算し、ブルアルゴリズムによるルールエンジンなどのルールのセットにもとづいてスペックデータが正しいかどうか検証する、ルールベースのシステムです。

### 有害物質管理

社内で有害物質を使用している場合は、それらの物質がもたらす危険から従業員と環境を保護する必要があります。この要件は、有害物質を生産または販売する場合も、購入した有害物質を単に業務で使用する場合も、同様に適用されます。さらに、世界各国の多数の規則や規制を順守する必要もあります。このような状況から、効率的な有害物質管理がますます重要になっています。また、高い安全/環境基準は企業のイメージを高め、市場機会を増加させ、コストとリスクを削減します。SAP Product Lifecycle Management (SAP PLM) の主要機能分野である環境安全衛生 (EH&S) では、主要機能の有害物質管理によって、これらの安全/環境基準の達成を支援します。

SAP PLM EH&S による有害物質管理は、以下のタスクの管理を支援します。これらのタスクは、多くの国で法律によって規制されています。

- 有害物質の購買または製造前に行う代替物質のチェック
- 購買管理での有害物質のロック
- 規制に準拠した有害物質の梱包および識別
- 有害物質の安全な保管
- 最新の MSDS および有害物質のサプライヤによって提供された MSDS の管理
- 有害物質情報に対するあらゆる変更の包括的な文書化
- 発生するあらゆる有害物質の決定および危険物登記の登録
- 従業員を保護するためのリスクの決定と評価
- ワークプレイスでの危険物集中管理の監視
- 適切な保護対策の手配、着手、および監視
- 作業場所および物質に関する標準作業手順の登録
- 有害物質の取扱いに関する、従業員向け安全衛生説明会の実施

### 危険物管理

危険物関連の法律が適用される化学物質や製品を生産、出荷、または輸送している企業にとって、EH&S 機能を提供する SAP PLM EH&S 危険物管理はまさに適切なソリューションです。SAP PLM EH&S 危険物管理は SAP システムと

密接に統合されるため、この機能によって危険物の製造と配送に関連するすべてのプロセスを支援するとともに、有効な国内法および国際法に準拠することができます。SAP PLM EH&S 危険物管理は以下の機能で構成されています。

危険物規制データマネジメントでは、各危険物規制および国連番号に関する規制データを保管することができます。

危険物分類では、さまざまな指定された物質や資材の分類が非常に効率的に支援されます。

危険物マスタでは、SAP Supply Chain Management (SCM) から直接、危険物チェックおよび危険物伝票の登録が可能です。

SAP SCM 販売管理プロセスの危険物チェックを利用することができます。危険物チェックの定義には、柔軟性に富んだチェック機能が使用されます。危険物チェックは、受注処理伝票の保存時にオンラインまたは一括処理で自動的に実行されます。標準システムでは、以下のチェック方式を利用できます。

- 輸送ルートに応じたあらゆる規制データの利用
- 輸送ルートから導き出されたすべての規制に応じた輸送モードの承認
- 混載禁止

Trem カード管理では、個別またはグループ Trem カードを管理することができます (ADR マージン 10385 に準拠)。危険物の輸送で通過するすべての国の言語と乗務員の使用する言語で、Trem カードが自動的に印刷されます。

危険物関連データは SAP SCM の伝票に統合されます。納品書およびピッキングリストが拡張され、該当の規制にもとづいて危険物として分類された物質を含む各明細に対して危険物関連データが印刷されます。

危険物規制データインターフェースでは、EH&S データコンテンツプロバイダによって提供された規制データをインポートすることができます。

### 廃棄物管理

廃棄物を生成または処分している企業は、さまざまな規制に準拠する必要があります。このような規制として、米国の 40CFR、ドイツの Kreislaufwirtschafts- und Abfallgesetz (KrW-/AbfG)、英国の Environmental Protection Act and Codes of Practice などがあります。SAP PLM 環境安全衛生による廃棄物管理は法律への準拠を支援します。SAP PLM 環境安全衛生の他の機能と同様に、廃棄物管理は SAP Business Suite の関連機能と完全に統合されます。そのため、SAP EH&S を使用して、すべての廃棄プロセスを支援し、かつ国内および国家間の関連するすべての法律と規制への準拠を監視および自動化できるとともに、廃棄物を生成した企業内の部門間で原価を比例配分することができます。

多くの場合、廃棄物を生成または処分する企業は、廃棄物だけでなく、有害物質および危険物、さらには労働安全と産業衛生に関する法律と規制を考慮する必要があります。そのための支援を EH&S 製品安全、危険物管理、労働安全、および産業衛生によって提供することによって、SAP PLM EH&S は廃棄物を生成または処分するすべての企業にとって理想的な、完全ソリューションとなっています。

SAP PLM EH&S による廃棄物管理の主な利点は以下のとおりです。

- ・ 廃棄物に関する規制および法律(国内および国際法)への容易な準拠
- ・ 廃棄物の生成と処分に対する、より正確で広範な制御
- ・ 危険物に関する規制へのより厳密な準拠
- ・ より効果的な原価管理
- ・ 時間とリソースのより効果的なスケジューリング
- ・ 管理作業の大幅な削減

### 労働安全

企業では、さまざまな従業員がさまざまな場所で作業しています。これらの作業場所では、作業員が有害な影響にさらされることがあるだけでなく、得意先にまでその影響が及ぶ可能性があります。このような状況は企業の有効性を低下させます。労働安全の役割は、このような影響要因を検出および制御し、さらには排除することです。SAP PLM EH&S の労働安全機能は、この作業を支援し、同時に国内および国際的な規制への準拠を促進します。

SAP PLM EH&S 労働安全は、SAP システムとの緊密な統合により、ロジスティクス部門および人事管理部門の最新のデータが常に利用できることで、理想的なソリューションとなっています。

- ・ 以下の情報の取得と保管:

#### 作業領域

企業内で使用または保管されている物質または資材

起こり得る障害状況

安全対策のステータス

ヒヤリハットおよび災害

計画および開催されたトレーニングコースおよびブリーフィング

技術設備(機能場所、設備)

- ・ 以下に関する計画、管理、および文書化:

現場調査

リスク評価

危険物登記

トレーニングコースおよびブリーフィング

- ・ 以下の作成および管理:

災害レポート

標準作業手順

- ・ 傷害/病気記録の維持

・ ヒヤリハット/災害記録の維持

・ 労働安全(IHS)に関する統計の維持

・ 労働安全(IHS)に関する法律と規制への準拠

## 産業衛生

健康な従業員は、企業の最も貴重な財産の1つです。従業員の健康管理、および病気や負傷時の支援は、従業員のモチベーションを高めるうえで有効な手段です。ほとんどの企業では、健康上のリスクを認識し、リスクに対処し、さらにリスクを予防する目的で、健康診断を実施しています。これは、すべての従業員の健康維持を促進するためだけでなく、多くの法律や規制に準拠することを目的として行われています。これまで、この作業には非常に時間がかかりました。しかし、SAP PLM EH&S 産業衛生を使用することで、企業の産業医が、作業をより効果的に支援するツールが確保されます。

SAP PLM EH&S 産業衛生では、医師が、医療の日常作業に関連するすべての活動の情報を取得および保管することができます。たとえば、次のような活動があります。

- 健康監視規約の実施
- 軽い怪我、予防接種、および診療の記録
- 診断
- 従業員の診断書の印刷
- レポートの作成および統計の照合

健康問題には常に医療上の守秘義務が適用されます。SAP PLM EH&S 産業衛生はこれを考慮し、適切な権限を持つ従業員だけが機密医療データにアクセスできるようにしています。また、SAP PLM EH&S 産業衛生は、独立したシステムインスタンスで運用することができます。

SAP PLM EH&S 労働衛生は、SAP PLM 環境安全衛生、および SAP ERP Human Capital Management に完全に統合されます。そのため、データの重複管理が最低限に抑えられます。

## 統合

SAP PLM の各機能は、SAP ERP ソリューションのコア機能でもあります。これらの機能は同じシステムで実行され、SAP ERP のロジスティクス機能に直接接続されます。また、cProject Suite によって追加機能が提供されます。

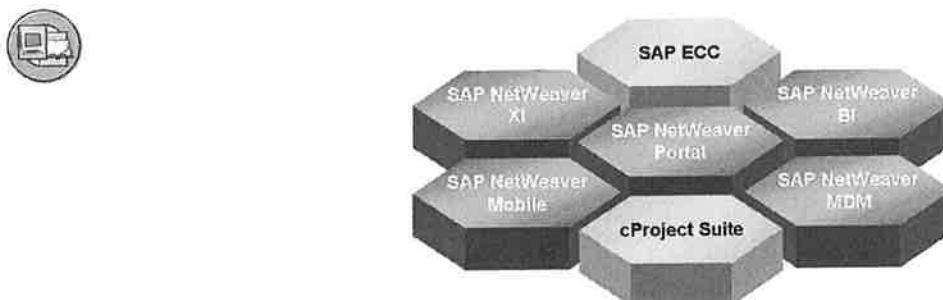


図 96: SAP PLM の主要コンポーネント



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 受注管理、生産、調達、およびプロダクトライフサイクルマネジメントを支援するプロセスの関連タスクの概要
- SAP ERP および SAP PLM が支援するプロダクトライフサイクルマネジメントの主要プロセスに関する説明



## 章のまとめ

以下について学習しました。

- ・ さまざまな主要業務プロセスについての説明
- ・ 主要業務プロセス間の統合の実例紹介
- ・ 販売管理に関連するタスクの概説
- ・ SAP ERP がサポートする販売管理の主要プロセスに関する説明
- ・ カスタマリレーションシップマネジメントプロセスに関連するタスクの概要
- ・ SAP CRM アプリケーションがサポートするカスタマリレーションシップマネジメントの主要プロセスについての説明
- ・ 生産計画および製造実行に関連するタスクの概要に関する説明
- ・ SAP ERP がサポートする生産の主要プロセスに関する説明
- ・ サプライチェーンマネジメントプロセスに関連するタスクの概説
- ・ SAP SCM アプリケーションがサポートするサプライチェーンマネジメントの主要プロセスに関する説明
- ・ SAP SCM と他のコンポーネントおよびシステムとの統合についての説明
- ・ 調達サイクルに関連するタスクの概要説明
- ・ SAP ERP がサポートする調達の主要プロセスについての説明
- ・ サプライヤリレーションシップマネジメントプロセスに関連するタスクの概説
- ・ SAP SRM アプリケーションがサポートするサプライヤリレーションシップマネジメントの主要プロセスに関する説明
- ・ SAP SRM と他のコンポーネントおよびシステムとの統合についての説明
- ・ 受注管理、生産、調達、およびプロダクトライフサイクルマネジメントを支援するプロセスの関連タスクの概要
- ・ SAP ERP および SAP PLM が支援するプロダクトライフサイクルマネジメントの主要プロセスに関する説明

## 関連情報

- ・ 関連する用語集リンクについては、次のサイトを参照してください。  
[help.sap.com/content/additional/glossary](http://help.sap.com/content/additional/glossary)





## テスト

1. 次のうち正しい販売管理プロセスはどれですか。  
正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。
  - A ピッキング、受注、出庫、請求、出荷
  - B 受注、ピッキング、出庫、請求、出荷
  - C 受注、出荷、ピッキング、出庫、請求
  - D 出庫、ピッキング、受注、出荷、請求
  - E 上記以外
  
2. 出荷伝票で実行できる3つの活動は、次のうちどれですか。  
正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。
  - A ピッキング
  - B デビットメモ
  - C 梱包
  - D クレジットメモ
  - E 出庫
  
3. 出荷伝票で出庫を転記すると、財務会計で会計伝票が登録されます。  
この文章の内容は正しいですか。
  - 正
  - 誤
  
4. 次のうち2つの伝票タイプから請求伝票を登録することができます。  
それはどれですか。  
正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。
  - A 引合
  - B 受注
  - C 見積
  - D リベート一覧
  - E 出荷
  
5. 伝票フローでは受注伝票のステータスのみが表示されます。  
この文章の内容は正しいですか。
  - 正
  - 誤

6. 請求伝票の登録時に財務会計で会計伝票が登録され、それによつて債権が登録されます。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
7. SAP Customer Relationship Management の主要機能  
は、\_\_\_\_\_、\_\_\_\_\_、\_\_\_\_\_、および\_\_\_\_\_です。  
空白に適切な答えを記入してください。
8. SAP CRM の 4 つのカスタマイントラクションチャネル  
は、\_\_\_\_\_、\_\_\_\_\_、\_\_\_\_\_、および\_\_\_\_\_です。  
空白に適切な答えを記入してください。
9. SAP CRM ソリューションにはどの SAP コンポーネントが含まれていますか。  
正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。  
 A SAP BW  
 B SAP EP  
 C SAP ECC  
 D 上記のすべて  
 E 上記以外
10. 次のプロセス(アプリケーション)から、生産計画プロセスではないものを挙げてください。  
正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。  
 A 販売事業計画  
 B 出荷処理  
 C 資材所要量計画(MRP)  
 D 製造実行  
 E 基準生産計画
11. 販売事業計画(SOP)では、受注計画や生産計画を登録できません。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤

12. 製造指図から得られる情報を次の中から選んでください。

正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。

- A 指図の構成品目
- B 製造日付
- C 生産指示
- D 指図原価
- E 上記のすべて
- F 上記以外

13. 製造プロセスにおける各作業の実績時間および活動の入力が可能な製造実行プロセスを、次の中から挙げてください。

正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。

- A ブレークダウン
- B 確認
- C 資材所要量計画 (MRP)
- D 原価計算
- E 上記以外

14. SAP SCM ソリューションの 2 つの主要コンポーネントの 1 つは次のうちどれですか。

正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。

- A カスタマリレーションシップマネジメント
- B RFID
- C グローバル ATP
- D SAP ECC

15. サプライチェーンコラボレーションはサプライヤ主導型管理在庫をサポートします。

この文章の内容は正しいですか。

- 正
- 誤

16. グローバル ATP が組み込まれた受注確認は、どの 2 つのソリューション間の重要なリンクですか。

正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。

- A SAP NetWeaver とレポート
- B SAP SRM と SAP BW
- C SAP CRM と SAP SCM
- D SAP SCM と SAP NetWeaver

17. SAP システムにおける基本的な調達プロセスを次の中から選んでください。
- 正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。
- A 引合、受注、購買発注、納入  
 B 購買依頼、購買発注、入庫、請求書照合  
 C 受注、製造指図、購買発注  
 D 入庫、購買発注、請求書照合、仕入先マスター
18. 購買発注を参照して請求書を入力すると、購買発注と入庫のデータが提示されます。
- この文章の内容は正しいですか。
- 正  
 誤
19. セルフサービス調達では、各自の依頼の登録および管理を行う権限が従業員に与えられません。
- この文章の内容は正しいですか。
- 正  
 誤
20. SAP SRM では、商品とサービスの直接材購買のみ管理することができます。
- この文章の内容は正しいですか。
- 正  
 誤
21. SAP SRM 内の業務上の調達プロセスに関する次の記述のうち、正しいものはどれですか。
- 正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。
- A 設計コラボレーション  
 B 供給方針の開発  
 C セルフサービス調達  
 D サプライヤ登録  
 E 支出分析
22. SAP SRM でカタログを登録することはできません。
- この文章の内容は正しいですか。
- 正  
 誤

23. ライフサイクルデータマネジメントは、製品の設計が完了してからでないと、使用できません。

この文章の内容は正しいですか。

- 正
- 誤

24. SAP PLM の主要機能分野は次のうちどれですか。

正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。

- A ライフサイクルデータマネジメント
- B 環境安全衛生
- C 品質管理
- D 設備資産管理
- E 開発管理



## 解答

- 次のうち正しい販売管理プロセスはどれですか。

解答: C

受注が最初に登録され、出荷伝票、ピッキング、出庫転記と続き、最後に請求が行われます。

- 出荷伝票で実行できる 3 つの活動は、次のうちどれですか。

解答: A, C, E

出荷伝票からは、ピッキング、梱包、出庫転記を行うことができます。

- 出荷伝票で出庫を転記すると、財務会計で会計伝票が登録されます。

解答: 正

受注管理で出庫を転記すると、財務会計で会計伝票が登録されます。これにより、構内から商品が離れることによる財務会計上の影響が記録されます。

- 次のうち 2 つの伝票タイプから請求伝票を登録することができます。  
それはどれですか。

解答: B, E

請求伝票は、受注伝票または出荷伝票からのみ登録することができます。標準システム内の引合および見積伝票、およびリバート一覧は商品やサービスを提供しないため請求できません。

- 伝票フローでは受注伝票のステータスのみが表示されます。

解答: 誤

伝票フローでは、伝票フローに表示されているすべての伝票のステータスを確認することができます。伝票とステータスアクションを選択して、伝票に関するさまざまなステータス情報を照会することができます。

- 請求伝票の登録時に財務会計で会計伝票が登録され、それによって債権が登録されます。

解答: 正

登録された請求伝票は自動的に財務会計に転送され、G/L 勘定で対応する入力が行われます。

7. SAP Customer Relationship Management の主要機能は、マーケティング、販売管理、およびサービスです。

解答: マーケティング, 販売管理, サービス

8. SAP CRM の 4 つのカスタマイナクションチャネルは、フィールド、インタラクションセンタ、インターネット、およびチャネルパートナです。

解答: フィールド, インタラクションセンタ, インターネット, チャネルパートナ

9. SAP CRM ソリューションにはどの SAP コンポーネントが含まれていますか。

解答: D

A ~ C のコンポーネントはいずれも SAP Customer Relationship Management ソリューションに含まれています。

10. 次のプロセス(アプリケーション)から、生産計画プロセスではないものを挙げてください。

解答: B

出荷処理は、受注管理の機能です。ここに挙げたその他のプロセス(SOP、MRP、MPS、および製造実行)はすべて生産管理に含まれます。

11. 販売事業計画(SOP)では、受注計画や生産計画を登録できません。

解答: 誤

SOP では、需要予測の実行および精密化を行い、上位レベルから製品レベルにブレークダウンすることができます。SOP では、生産または受注に関連する場合に、計画階層の任意の集約レベルで需要を予測することができます。また、需要予測を自動的にブレークダウンして、資材別の所要量を生成することもできます。

12. 製造指図から得られる情報を次の中から選んでください。

解答: E

製造指図は、指図管理および製造実行の共通データオブジェクトで、生産目的、構成品目、所要資源、原価に関連するすべてのデータが組み込まれます。

13. 製造プロセスにおける各作業の実績時間および活動の入力が可能な製造実行プロセスを、次の中から挙げてください。

解答: B

製造指図確認では、製造プロセスにおける各作業の実績時間および活動を入力することができます。たとえば、確認では、作業によって製造された数量、製造担当者、生産日付、在庫移動、活動量(例: 作業時間)などの情報を把握することができます。

14. SAP SCM ソリューションの 2 つの主要コンポーネントの 1 つは次のうちどれですか。

解答: D

SAP SCM シナリオの 2 つの主要コンポーネントは SAP ECC と SAP SCM です。ほとんどの実行プロセスは SAP ECC で実行され、SAP SCM は最適計画を担当し、調整とコラボレーションの追加機能を提供します。

15. サプライチェーンコラボレーションはサプライヤ主導型管理在庫をサポートします。

解答: 正

SAP SCM はサプライヤ主導型管理在庫(SMI)をサポートしており、企業はインターネットを使用してサプライヤを把握し、補充プロセスを管理することができます。サプライヤはパートおよびすべてのプラントの状況を参照でき、在庫レベルが低くなったら自動アラートを受け取り、Web を介して迅速に対応することができます。SAP SCM は、バックエンド処理システムおよび計画システムの最新の在庫情報と補充情報を直ちに統合し、関係者の情報を最新に保ちます。

16. グローバル ATP が組み込まれた受注確約は、どの 2 つのソリューション間の重要なリンクですか。

解答: C

受注確約はグローバル ATP 機能にもとづいています。受注確約は受注管理または CRM システムから問合せを受け取り、調達ネットワーク全体でいつ製品入手できるか、またはいつ製品を生産できるかを決定します。製品のコストや配送にかかる時間も示します。受注確約は、受注管理/CRM システムとサプライチェーン計画システム間の重要なリンクであり、製品利用可能在庫へのアクセスを提供します。

17. SAP システムにおける基本的な調達プロセスを次の中から選んでください。

解答: B

SAP システムにおける基本的な調達プロセスの標準的なトランザクションフローは、**購買依頼処理 → 購買発注処理 → 入庫登録 → 請求書受領入力**です。

18. 購買発注を参照して請求書を入力すると、購買発注と入庫のデータが提示されます。

解答: 正

購買発注を参照して請求書を入力すると、データが提示されるため、あらためて入力しなおす必要がないという利点があります。

19. セルフサービス調達では、各自の依頼の登録および管理を行う権限が従業員に与えられません。

解答: 誤

セルフサービス調達では、各自の依頼の登録および管理を行う権限が従業員に与えられるという利点があります。セルフサービス調達によって、購買部門の管理作業が軽減されるとともに、調達プロセスの速度と応答性が向上します。

20. SAP SRM では、商品とサービスの直接材購買のみ管理することができます。

解答: 誤

SAP SRM では、組織全体の間接材購買処理を管理し、直接材購買の所要量を処理することができます。

21. SAP SRM 内の業務上の調達プロセスに関する次の記述のうち、正しいものはどれですか。

解答: C

セルフサービス調達は企業の購買方針の順守を強制する Web ベースのショッピングカートを使用して、必要な資材を従業員が容易に調達できるようにします。

22. SAP SRM でカタログを登録することはできません。

解答: 誤

カタログは、外部ソースからのデータのインポート、整合性のあるスキーマの維持、および検索迅速化のための明細の索引作成を行う各ツールを使用して登録および管理することができます。

23. ライフサイクルデータマネジメントは、製品の設計が完了してからでないと、使用できません。

解答: 誤

ライフサイクルデータマネジメントでは、設計フェーズから、計画/生産フェーズ、保全フェーズにおいて、品目に関するすべてのフェーズのデータを管理することができます。

24. SAP PLM の主要機能分野は次のうちどれですか。

解答: A, B, C, D

選択肢の中で、開発管理だけは SAP PLM ソリューションの主要機能分野ではありません。

# 5 章

## ファイナンシャルズ

### 章の概要

この章では、SAP ERP Financials の機能について概説します。



### 章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- 財務会計と管理会計に関するタスクの概要の説明
- SAP ERP Financials がサポートする財務会計と管理会計の主要プロセスに関する説明

### 章の内容

レッスン: ファイナンシャルズ ..... 190

## レッスン: ファイナンシャルズ

### レッスンの概要

このレッスンでは、SAP ERP の一環を成すファイナンシャルズのビジネスプロセスについて説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 財務会計と管理会計に関するタスクの概要の説明
- SAP ERP Financials がサポートする財務会計と管理会計の主要プロセスに関する説明

### ビジネスシナリオ

IDES 社の財務部門では、会社の財政状態を法的な観点から定期的に評価し、社内の費用を監視する必要があります。IDES 社で作業するマネージャとして、担当部門の原価計算レポートの分析に関心があります。

### ファイナンシャルズ

SAP ERP Financials は、さまざまな業種を対象とする財務管理および会計管理の包括的なソリューションです。このソリューションを使用すると、企業は自社のファイナンシャルサプライチェーンを最適化し、内部統制プロセスを強化してコーポレートガバナンスの効率化を図ることができます。

SAP ERP Financials によって、企業は安全で透過的な会計管理を実現し、自社の分析能力を強化して事業の業績、利益、成長のために積極的に対処することができます。

SAP ERP Financials では、経営上および戦略上の意思決定に欠かせない財務情報とビジネス情報を適切に管理および統合することができます。さらに、内部統制管理の強化、財務分析の簡素化、ビジネスプロセスの柔軟な適用が可能になります。SAP ERP Financials を使用すると、財務部門を単なる管理機能から組織における価値に重点を置いた戦略的部門に変えることができます。



## SAP ERP Financials

- 財務会計
- ファイナンシャルサプライチェーンマネジメント
- コーポレートガバナンス
- 管理会計

図 97: SAP Financials

## 財務会計

戦略的な意思決定には、財務情報の全社的な管理と統合が不可欠です。SAP ERP Financials を使用すると、複数の会社、言語、通貨、勘定コード表から成る国際的な枠組みの中で財務会計データを一元的に追跡することができます。たとえば、原材料が在庫から製造へ移動すると、システムで在庫の数量の値が減らされ、同時に貸借対照表の在庫勘定の金額が減算されます。

財務会計機能は、GAAP や IAS などの国際会計基準に準拠しています。この機能はまた、多くの国のローカルな法的要件を満たし、ヨーロッパの市場と通貨の統合に伴う法改正と会計方針変更を完全に反映しています。

## 財務会計のタスク

財務会計は、総勘定元帳 (G/L)、債権と債務の処理、および固定資産管理を主な対象とします。財務会計の重要なタスクとして、通貨およびバリューフローの記録と在庫の評価があります。

総勘定元帳には、ビジネスの観点からみた、G/L 勘定のあらゆる会計関連の取引の記録が納められています。すべての総勘定元帳は、勘定コード表に従って構成されます。

勘定コード表は、総勘定元帳のすべての G/L 勘定の構造化された定義で構成されています。これらの定義には、基本的に、勘定コード、勘定科目名、損益計算書または貸借対照表勘定としての G/L 勘定のカテゴリが含まれます。明瞭性の観点から、総勘定元帳では残高だけの転記が含まれることがあります。その場合、転記データは補助元帳を使用して詳細に表されます。

この補助元帳のデータはまとめて総勘定元帳に転送されます。統制勘定によって、補助元帳は総勘定元帳にリアルタイムでリンクされます。補助元帳勘定への転記が行われると同時に、その転記は総勘定元帳のそれぞれの統制勘定に対しても行われます。

**債務管理 (A/P)** では、仕入先との関係に伴う取引がすべて記録されます。そのデータの多くは調達から取得されます。**債権管理 (A/R)** では、得意先との関係に伴う取引がすべて記録されます。そのデータの多くは販売管理から取得されます。銀行関連会計では、キャッシュフローの転記をサポートしています。**固定資産管理 (AA)** では、資産管理に関連する取引がすべて記録されます。資産に関して実行されるすべての転記(取得、除却、減価償却など)が、割り当てられた会社コードに記録されます。資産の一覧および移動を目的別に異なる方法で評価しなければならないことがあります。たとえば、以下の対象には異なる評価アプローチを使用する必要があります。

- 地域的な要件にもとづく勘定の取引残高処理
- 税目的の財務諸表(別の評価が許可される場合)
- 内部会計(原価計算)
- パラレル会計基準(IAS、US-GAAPなどに準拠)にもとづく勘定の取引残高処理

今日、多くの会社では、国内の会計基準に加えて、IAS (International Accounting Standard) や US-GAAP (一般に公正妥当と認められた会計原則)などの他の評価ガイドラインにも準拠した貸借対照表の作成が必要になることがあります。その理由として、海外資本市場へのアクセス、外国株主への適応、世界規模での合併/買収、透明性の促進などが挙げられます。これらの異なる評価基準に対応するために、評価領域が SAP ERP システムで設定されます。SAP ERP Financials では、さまざまな G/L 勘定における各種の評価を処理することによって、これらのパラレル会計基準を適用することができます。こうした G/L 勘定は、さまざまな貸借対照表/損益計算書で使用されます。

EC-CS (経営管理 - 連結会計) では、連結の処理のために連結グループと連結単位によるグループ構造が形成されます。連結グループは階層ごとに定義されます。各連結グループはレベルを表し、これらのレベルで連結が実行されます。連結グループには、サブグループ(会社コード連結)、事業領域(事業領域連結)、または利益センタと階層ノード(利益センタ連結)があります。連結グループの下位に属する連結対象のオブジェクトを連結単位と呼びます。連結単位には、連結タイプに応じて複数の企業、企業と事業領域の組合せ、または企業と利益センタの組合せがあります。

SEM-BCS (SEM 事業連結) は、任意の特性にもとづく内部管理連結に使用することができます。

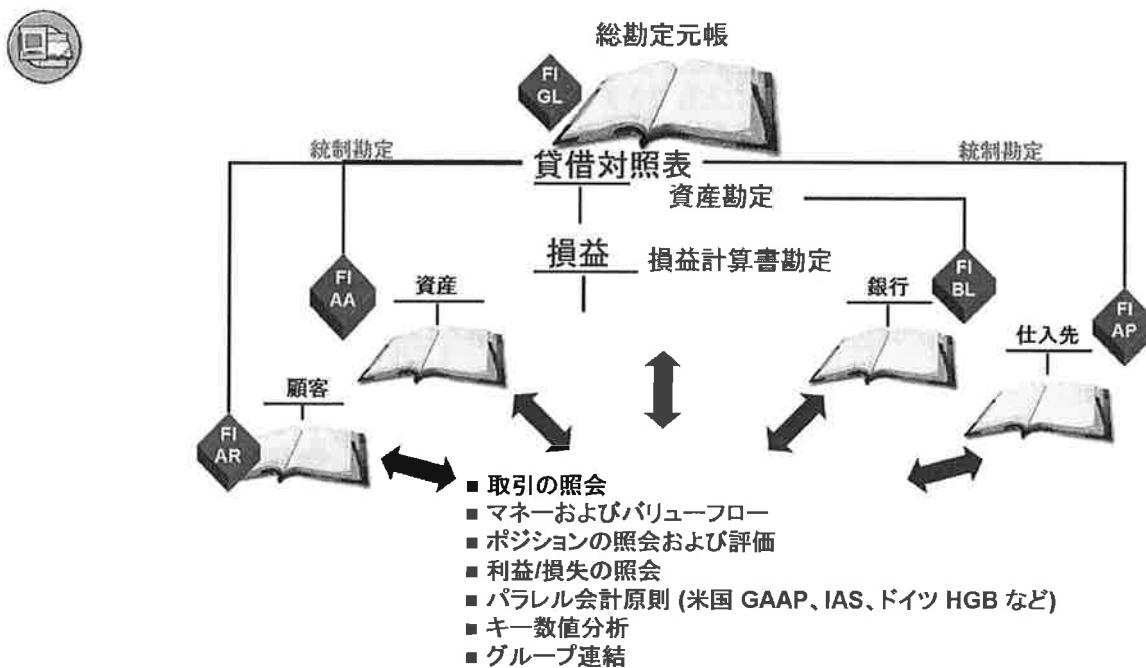


図 98: 財務会計

総勘定元帳は会社コードレベルで管理されます。この総勘定元帳によって、法律が必要とする貸借対照表、および損益計算書が編集されます。貸借対照表では、会社の資産が資産(資金使途)と負債(資金源泉)に分かれて一覧表示されます。統合の面からみると、補助元帳に入力される取引と、在庫/購買管理(在庫品目)またはファイナンシャルサプライチェーンマネジメントで入力される取引は、どちらもリアルタイムで貸借対照表に入力されます。ファイナンシャルサプライチェーンマネジメント(FSCM)コンポーネントでは、支払手段、ファンド、外国為替、有価証券、ローン、市場リスク管理(コーポレートファイナンスマネジメント)などの機能に重点が置かれています。

取引を記録する目的は、レポートの用途で貸借対照表と損益計算書を作成することにあります。これらのレポートは、国内固有の要件に応じて変更する必要があります。さまざまなレポート要件に応じて、各種の貸借対照表と損益計算書を SAP ERP システムで設定することができます。これらの貸借対照表と損益計算書では、どの貸借対照表項目に何の勘定を表示するかが正確に定義されます。貸借対照表と損益計算書の多くは、事前定義された状態ですでに提供されています。外部レポート用に必要とされる財務レポートは、財務会計で登録されます。所管の財務当局のさまざまな法的要件と同様に、これらの外部レポートの要件は、原則として US-GAAP または IAS などの一般的な会計基準によって規定されます。通常、損益計算書の構築には次の 2 つの手順が適用されます。

- 期間会計
- 売上原価会計

これらの2つの手順では、同じ営業収益がもたらされます。どちらの手順を使用するかは法的規制によって規定されています。または、法的に可能な場合は自由に選択することもできます。その場合は、ビジネスの観点(国際的な比較可能性など)による分析にもとづいていずれかの手順に決定します。

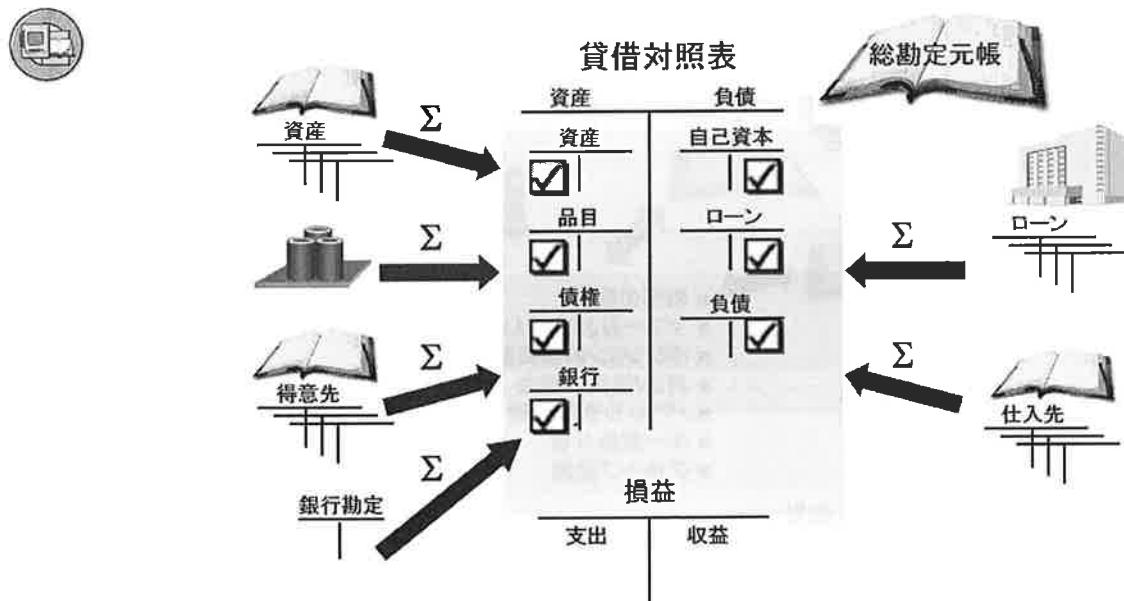


図 99: 貸借対照表と損益計算書

## SAP ERP の新しい総勘定元帳

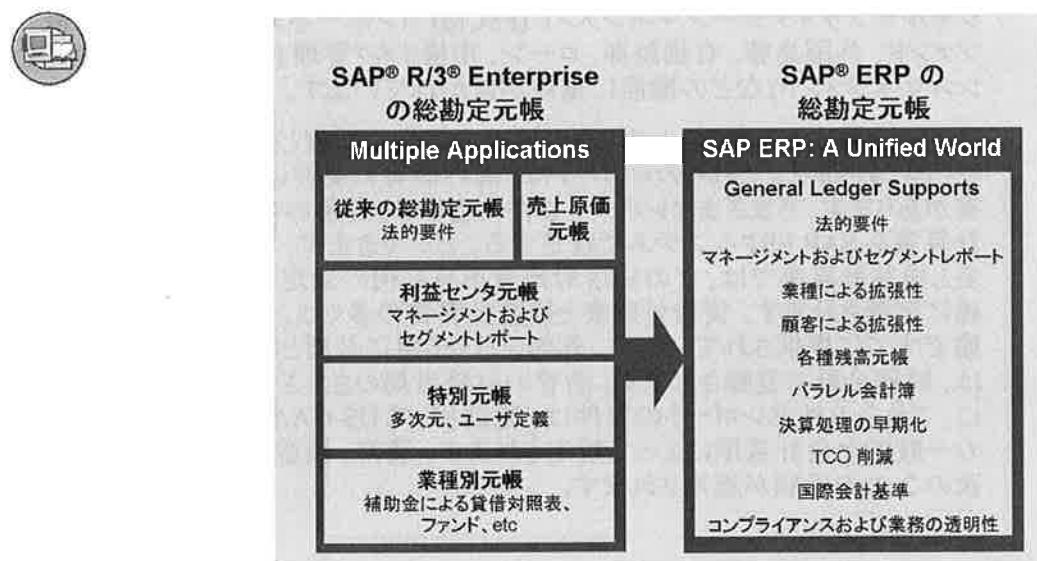


図 100: 総勘定元帳

新総勘定元帳を有効化した場合、次のような多数の利点があります。

#### マネジメントおよびセグメントレポート

法的およびセグメントレポート機能が強化されました。

#### 拡張性および国際会計基準

新総勘定元帳では、国際化と業種別の両方のニーズに対応する、標準会計機能の拡張オプションを使用することができます。新総勘定元帳では、総勘定元帳への管理会計用の組織単位の統合と“簡易的な配賦機能”への対応をとおして国際化要件を支援しています。カスタマ固有のセグメントや項目を定義することもできます。

#### 次元別残高帳

このエリアはセグメントの貸借対照表のレポートに不可欠です。新総勘定元帳では、リアルタイムの伝票分割機能によって、貸借対照表の実体を“セグメント”にもとづいて制御することができます。この機能は法的要件の順守を支援します。

#### パラレル会計簿

1つのリーディング元帳の割当により、総勘定元帳内でのパラレル会計が可能になります。この場合、すべての会社コードがリーディング元帳に割り当てられます。また、管理会計もリーディング元帳に統合されます。新総勘定元帳によって、総勘定元帳内で複数の“帳簿”を管理することができます。

新総勘定元帳が有効化されている場合、各財務会計伝票では、常に、“入力”ビューと“総勘定”元帳ビューの2つのビューが使用されます。入力ビューは、債務管理または債権管理の補助元帳での伝票の表示内容を示します。総勘定元帳ビューは、総勘定元帳のみでの伝票の表示内容を示します。

#### 迅速な決算処理

新総勘定元帳を有効化すると、財務会計と管理会計を統合することができます。この統合によって、不整合がなくなるとともに照合プロセスが不要になります。財務会計から管理会計にリアルタイムでデータが転記されるため、法的データと管理データを1つの統一データベースに保管することができます。

#### TCO の削減

新総勘定元帳を使用することで、データの重複が減り、照合作業が不要になり、導入コストが削減されます。

#### 国際会計基準

新総勘定元帳では、国際化と業種別の両方のニーズに対応する、標準会計機能の拡張オプションを使用することができます。新総勘定元帳では、総勘定元帳への管理会計用の組織単位の統合と“簡易的な配賦機能”への対応をとおして国際化要件を支援しています。

#### 法的要件とコンプライアンス

新総勘定元帳のこのエリアでは、増え続ける新たな法的要件の順守の必要性に対応しています。

## ファイナンシャルサプライチェーンマネジメント

ファイナンシャルサプライチェーンマネジメントは、さまざまな業種の企業におけるプロセスの革新と改善で大きな役割を占めています。過去数十年において、請求、債権、回収、クレーム処理、信用度評価、資金管理などの領域ではほとんど改善が見られませんでした。現在、多くの企業は、これらの機能をプロセス改善の最重要領域および経費節約の源泉とみなしています。

- 電子請求/決済 (*SAP Web 請求*および*SAP Web 決済プロバイダ*) を使用すると、請求依頼者による電子的な請求書の送信と、得意先による電子的な請求書の受信が可能になり、請求処理が効率化されます。さらに、サプライヤはインターネットを介して会計情報にアクセスできます。
- クレーム管理では、支払控除のためのシステムサポートを提供します。

支払は、以下のさまざまな理由で減額される場合があります。

- 供給またはサービスが不十分(数量不足)
- 納入またはサービスの品質が不十分(品質不足)
- 価格とサービスが不一致(価格差異)
- 納入日付の超過(時間差異)
- プロモーションに起因する控除
- ビジネスパートナ間の誤解

上記の理由により支払が悪化し続けているため、支払控除は増加の一途をたどっています。クレーム管理では、ワークフローサポートやエスカレーション処理など、部門を越えたクレーム解決を行うことができます。これにより、債権管理が改善されて請求書の決済が迅速化されます。

- 回収管理では、勘定の評価、識別、優先順位付けが行われます。管理者は、先を見越して債権を回収し、社内外のビジネスパートナと協力することができます。
- 与信管理では、会社間の与信限度チェックとすべての流通チャネルにおける得意先の可変モニタを行なうことができます。自社の与信ポリシーにもとづいて得意先の信用度を分析することができます。
- 資金管理の目的は、流動性を確保し、資金調達量を最適化することです。財務取引管理は、コーポレートファイナンスマネジメント部門が中長期の金融取引の決済に使用するツール(関連データの入力から財務会計への転送まで)を提供します。
- インハウスキャッシュを使用すると、国際企業は内部および外部の支払フローを効率的に管理することができます。インハウスキャッシュセンターを一元的に設定して、個々の会社単位間の支払処理に使用します。インハウスキャッシュセンターは、子会社の当座預金を預かる仮想銀行に相当します。

関連会社にとって、インハウスキャッシュセンターは、主として他のグループ会社に関する債務/債権の処理に使用する通常の取引銀行にすぎません。一方、グループの関連会社ではない外部会社の勘定設定を行うこともできます。これにより、その外部会社を相殺処理に組み込むことができます。

- 財務/資金管理とリスク管理では、金融取引の適切な処理、金利と為替リスクの評価および識別、財務信用エクスパートの計算、財務ポジションに関する共通レポートなどを行うことができます。



図 101: ファイナンシャルサプライチェーンマネジメント

## 電子請求/決済

現在でも、請求書の多くは昔ながらの方法、すなわち郵便で得意先に届けられます。

請求書を郵送するという従来の方法には、以下のようなさまざまな欠点があります。

- この業務を処理するために、請求依頼者と得意先はともに多くの個別ステップを実施する必要があります。請求依頼者は請求書を作成して送付します。得意先はその請求書を受領して内容をチェックします。これには多くの時間を要し、誤りが発生する恐れもあります。
- 請求書の作成には多くの費用がかかります。
- 入金処理に多くの時間を要することがあります。これが特に該当するのは、支払が請求書の一部に限定される場合や支払を割り当てることができない場合です。

電子請求/決済を使用すると、インターネット上で **BtoB** (Business-to-Business) および **B2C** (Business-to-Customer) の各種シナリオ内で請求書を作成および、表示することができます。電子請求/決済を使用すると、複数の個別処理ス

テップが不要になります。これにより、得意先への請求情報の転送に要する時間が短縮されます。処理を効率化することで、請求書あたりのコストを最大で 70% 削減することができます。

電子請求/決済を導入すると、Web (電子請求) を介して請求情報を得意先に示すことができます。得意先は請求情報を受け取って、クレジットカードや口座引落による支払の手配、質問やクレームの送信など、さまざまなアクションを実行できます。未消込明細と請求データは完全に統合されます。電子請求/決済は、業種別ポータルに統合することもできます。



図 102: 電子請求/決済と従来の請求との比較

## 電子請求/決済モデル

3種類の電子請求/決済モデルが提供されます。SAP Web 請求モデルを使用すると、請求依頼者はインターネットを介して複数の得意先と請求書を直接やりとりすることができます (1対多の関係)。Web 決済プロバイダモデルを使用すると、複数の請求依頼者が決済プロバイダを介して複数の得意先と請求書をやりとりすることができます (多対多の関係)。両方の決済プロバイダモデルでは、個別請求書モデルでデータのすべてをやりとりするかどうか (完全使用)、または合計請求書モデルでデータの一部のみをやりとりするかどうか (部分使用) を指定することができます。

合計請求書モデルでは、請求元は最も重要なデータ (請求書ヘッダ情報) だけを提供します。請求書受領者には、請求書概要だけがポータルで示されます。詳細を参照する場合、請求書受領者は請求元ホームページへのリンクをクリックして詳細情報を照会することができます。その際、マーケティング品目が表示されることがあります (クロスセーリング)。

個別請求書モデルでは、請求元は詳細情報をすべて記載した請求書を送信します。

SAP Web 請求モデルは、請求依頼者と請求受領者の間に決済プロバイダを介在させないように定義されます。購買、発注、および出荷/納入が行われると、請求書が登録されます。購買と発注は通常の方法で行われ、請求書はインターネットを介して送信されます。その後、得意先は請求依頼者のホームページにログオンして各自の請求書を照会することができます。得意先は、請求書の支払をホームページで直接行うことも、請求情報をローカルシステムに転送することもできます。請求情報は Microsoft Excel 形式でダウンロードします。その後、これをアップロードして SAP システムの受取手形に変換することができます。得意先がインターネットで支払を行う場合は、得意先の銀行から代金が回収され、得意先の銀行で回収権限がチェックされます。または、得意先が自分の銀行に支払通知を送信し、その銀行が請求依頼者の銀行への振替を行います。

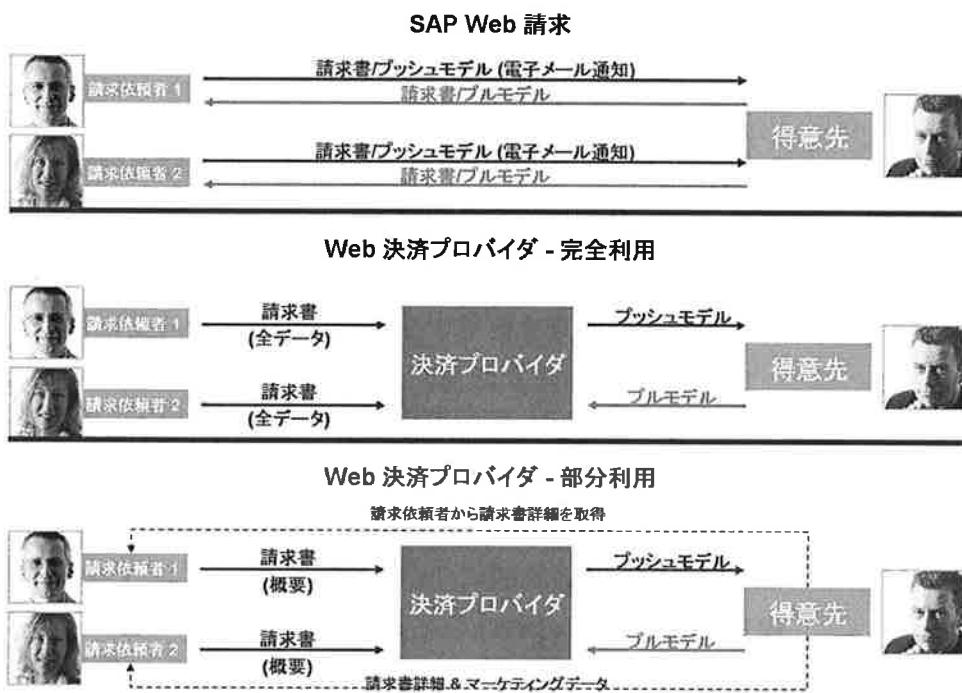


図 103: 電子請求/決済モデル

## コーポレートガバナンス

今日、組織が直面している課題の 1 つに、財務レポートとコーポレートガバナンスに関する、増えつつある国内外の法的要件の順守があります。Basel II や米国企業改革法などの法令によって、財務部門のワークフローと運用コストが増大しています。

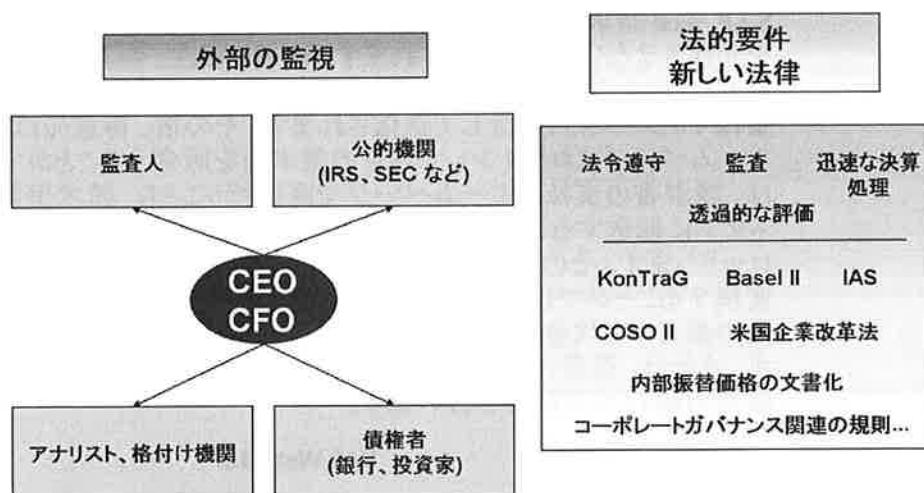


図 104: コーポレートガバナンス

SAP ERP Financials では、内部統制管理の総コストを削減し、会計基準とコーポレートガバナンス関連の法律の準守を可能にする包括的な機能を提供します。以下に機能の例を示します。

### 内部統制管理 (MIC)

内部統制管理を使用すると、以下の作業を容易に行うことができます。

- 四半期/年次財務諸表と情報開示と正確性を保障
- 情報開示に関わる統制及び諸手続の設計、確立、および維持
- 情報開示に関わる統制及び諸手続の有効性の評価と統制の有効性に関するレポート
- 各定期報告で直近に行った評価以降の問題点や資料の不備を含め、内部統制について行われた重大な変更を指摘する

### 監査情報システム (AIS)

SAP 環境内の監査人のツールボックスとして、AIS アプリケーションは、主としてコーポレートガバナンス要件 (SOA 条項 302/404 など) への準拠を以下の機能によって支援します。

- システム監査および業務監査の包括的な機能
- 例外に関して文書レベルへのドリルスルー監査証跡
- システム固有およびセキュリティ管理のテスト結果
- 構造化アプローチによるレポート管理

### 内部通報機能

SOA 301 条をサポートするために、SAP Whistle Blower アプリケーションでは以下を支援します。

- 匿名での不正行為の内部通報
- 内部通報の分析

## Basel II

Basel II は、バーゼル銀行監督委員会が公布した、金融機関を対象とする新しい自己資本規制です。以下にその骨子を示します。

- 新しい自己資本比率の枠組みにおける銀行の改善されたリスク評価機能
- 10 G (10か国蔵相会議) プラスのメンバ国における中央銀行のコンサルテーション

## 管理会計

SAP ERP を使用すると、財務レポートのほかに、すべての原価および収益関連レポートの基礎として、財務データの評価と記録を行うことができます。その結果、アナリストとマネージャは、会社の財務担当者として同一の基本データを使用して業務を行うことができます。また、財務データが SAP ERP ロジスティクスアプリケーションのビジネスプロセスと緊密に統合されることから、ユーザも原価構造と売上総利益に関する詳細情報に容易にアクセスできるようになります。こうしたデータへのアクセスが容易になることで、管理職にとっては、収益の増大、顧客収益性の最大化、効率の向上と運用コストの削減、売上原価の削減、在庫の可視性の向上などのビジネス目標の達成が促進されます。

## 管理会計の各エリア

会社内の原価と資産の活用に関する正確な情報を提供するために、管理会計にはビジネス関連のすべての費用と収益を詳細に記録するタスクが割り当てられています。

原価要素会計では、これらの原価または収益のタイプ(人件費など)に関する情報が提供されます。原価要素会計では、原価や収益のタイプに応じて、それぞれの管理対象(原価センタ、内部指図など)に転記されているトランザクション明細を分類することにより、管理会計データの割当構造が提供されます。

間接費管理では、会社の商品やサービスに直接割り当てることができない原価を収集し、可能な場合はこれらの原価を発生原因にもとづいてさらに配分することができます。こうした原価の勘定割当には、原価センタ、内部指図などがあります。原価センタでは会社内の原価の発生場所に関する情報が示されます。したがって、計画プロセスの枠組みの中で、原価のほかに内部サービスも計画して活動タイプの価格計算で使用することができます。原価センタが何年かにわたって他の原価センタまたは会社の他のエリアにサービスを提供すると、それらのサービスは、それぞれの期間の活動価格で評価されて、それぞれの受容者(消費者)に配分されます。

期間の終了時に、間接費対象の残高が決定されて、製品原価管理または収益性管理に配分されます。そのため、間接費管理では会社の機能エリアにおける原価の原因が調べられます。間接費の比率は多くの会社で急速に増大しています。生産エリアにおける原価管理とプロセス最適化には大きな進歩が見られますが、間接費は今なお十分に透過的とはいえません。これは、間接費の発生原因の把握が依然として困難であるからです。

間接費管理内の活動基準原価計算では、プロセス指向で、機能非依存の原価配分方法を提供します。

製品原価管理では、商品やサービスの作成における原価（および場合によつてはその売上）が収集されて、財務会計または収益性管理で決済されます。このように、製品原価管理では、発生した原価が利益で決済される前に登録されます。製品原価管理は、製品の製造原価の計算および評価に使用されます。さらに、サービス提供やプロジェクト実施に伴う原価（計画原価と実際原価の両方）または収益の計算および評価にも使用されます。つまり、製品原価管理は、会社内の付加価値プロセスの包括的な分析ツールとして機能します。

収益性分析は、会社の計画と事業成功の照会の両方で使用されます。収益性分析は、2つの主要ビューで構成されています。ひとつは市場セグメントの分析を行う市場の“外部ビュー”（収益性分析）、もうひとつは利益に責任を負う会社の各部門の“内部ビュー”（利益センタ会計）です。収益性分析では、外部市場に対する会社の活動で生じる利益の分析に重点が置かれています。収益性分析では、さまざまな市場セグメント（商品カテゴリ、得意先など）における会社の収益性を確認するオプションと、このデータが時間の経過とともにどのように進展していくかを確認するオプションが用意されています。

利益センタ会計を導入する際は、原価と収益が発生するすべての対象に特定の原価センタをシステムで割り当てます。利益センタ会計では、利益に責任を負う会社の部門の成功が分析されます。利益センタ会計では、特に“パラレル評価アプローチと内部振替価格”機能を用いて会社内の“内部取引”が示されます。利益センタが割り当てられている対象にデータが転記されると、そのデータは統計的に利益センタ会計に自動的に転送されます。このようにして、割り当てられた対象の実績データは利益センタ会計で更新されます。

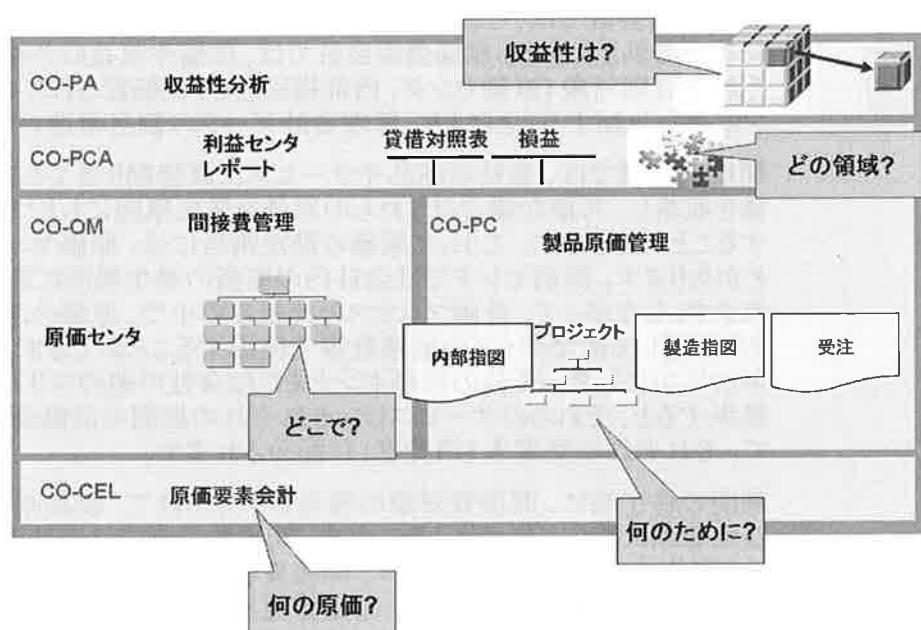


図 105: 管理会計の各エリア

## 統合

購買から支払まで、計画から生産まで(計画から内部付加価値までのプロセス)、受注から入金まで(販売管理)など、さまざまなビジネス関連プロセスによって、社内外の数量およびバリューフローをさまざまな方法で照会する必要があります。さまざまな会計コンポーネント間で、効率的な会計管理に必要な原価およびサービス数量のフローを確認する必要があります。

SAP ERP Financials の財務会計アプリケーションコンポーネントは、管理会計における主要なデータソースです。総勘定元帳に関連する多くの費用転記では、管理会計で原価転記が発生します。総勘定元帳の費用勘定への転記は、仕訳として処理することができます。または、固定資産管理や他の SAP ERP アプリケーションからの債務転記または償却記帳によって登録することもできます。このように、たとえば財務会計で費用転記と収益転記を行うと管理会計で原価と売上が発生し、それに伴って対応する適切な勘定割当対象が生成されます。

製品に対する直接原価は、その発生元の製品原価管理の原価単位に転記されます(製造指図、受注の個別原価など)。内部指図は非常に柔軟な会計ツールであり、さまざまな方法による原価(場合によっては収益)の記述文書として使用することができます。内部指図は、内部タスクにおける原価の計画、監視、および配分に使用されます。

製品に対する間接費は、それぞれの責任エリア(原価センタ)にまず転記され、そこから発生原因にもとづくさまざまな手順を使用して原価単位にさらに転記されます。通常、間接費は、原価センタから原価単位への活動配分や間接費率などのさまざまな方法によって配分されています。これとは対照的に、活動基準原価計算では、業務プロセスに原価が割り当てられます。その際、どの組織単位でこれらの原価が発生しているかは問われません。

プロセスは、機能非依存のオブジェクトであり、管理領域のすべての原価センタから資源を引き出すことができます。同様に、財務会計から収益性分析、たとえば収益対応原価対象(例: 受注、プロジェクト)などへ直接収益転記を行うことができます。さらに、製造原価が製品または仕掛品(WIP)として有効化されている場合は、管理会計から財務会計への逆方向の転記を行うこともできます。

収益性分析を使用すると、外部市場の収益性セグメントを分析することができます。これらのセグメントは、会社コードや事業領域などの内部組織単位に応じて、製品、得意先、地理的エリア、その他の特性に従って定義されます。収益性分析の目的は、市場指向型の意思決定を支援することにより、組織内の管理、販売、マーケティング、計画、その他のグループをサポートすることです。

利益センタ会計を使用すると、利益センタの内部損益を分析することができます。これにより、独立した貸借対照表と損益計算書を使用して、会社内のさまざまなエリアまたは単位を評価できます。利益センタは、地域(子会社、プラント)、機能(製造、販売)、または製品(製品グループ、カテゴリ)に従って構成可能です。利益センタ会計を使用すると、収益性を内部視点で評価できます。収益性の内部ビューによって、特定の利益センタの達成度を各責任エリアの収益性の目標にもとづいて測定することができます。利益センタ会

計では、資産、債権/負債、品目棚卸、仕掛品などの特定の貸借対照表項目についてレポートすることができます。これにより、ROI(投資収益率)のような財務キー数値を決定することができます。

SAP ERP Human Capital Management (HCM) やロジスティクスプロセス(調達、受注管理、生産、プロジェクトシステム)などの他の SAP ソリューションが管理会計に統合されています。SAP ERP HCMにおいて従業員を特定の原価センタに割り当てることにより、給与管理と人件費計画に関連する原価を原価センタに直接割り当てることができます。同様に、ロジスティクスプロセス内の在庫移動によって、財務会計と管理会計での費用または原価のリアルタイム転記が登録されます。たとえば、製造指図に対する出庫ではこの指図の直接費が導き出され、同時に在庫(貸借対照表)に対する商品消費(損益)が自動的に財務会計で転記されます。次の図は、購買から支払まで、計画から生産まで、受注から入金までなど、前述のビジネスプロセスにもとづく主要な会計転記を示しています。

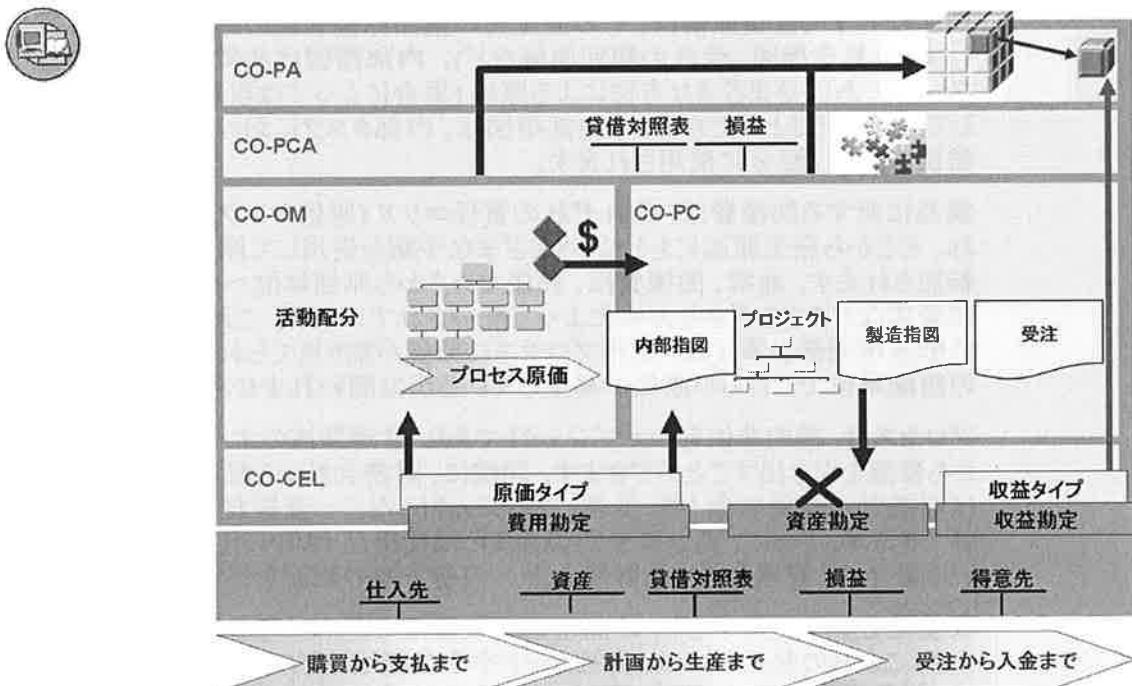


図 106: 統合

## 結果の拡張分析

収益性分析では、会社の市場セグメントの利益と貢献利益を分析することができます。この目的のために、収益性分析では、市場指向の視点にもとづく外部ビューを使用して、販売管理、製品管理、および企業計画と意思決定をサポートしています。したがって、収益性分析では細分化された、会社の利益の内部分析が行われます。この内部分析は、会計管理の損益計算書に類似していますが、市場セグメントや収益明細および原価明細に従って分類されています。

市場セグメントは、製品、製品グループ、得意先、得意先グループ、地理的エリアなどの特性によって定義されます。たとえば、特定の得意先や得意先グループに販売する特定の製品グループの収益性を分析することができます。会社の収益性分析を設定する際は、その会社の市場セグメントの定義に該当する特性を選択することができます。明確な特性の組合せ(得意先 Y への製品 A の販売など)ごとに、市場セグメントに対応する収益性セグメントが定義されます。収益性セグメントは、最初の処理時に動的に登録されます。財務会計と比べると、収益性セグメントで表示される結果も固定費と変動費に細分化できるため、さまざまな貢献利益計算を柔軟に選択することができます。

収益性分析は、市場セグメントと収益性指標のデータの分析レポートを作成する、多次元のレポートツールとして機能します。

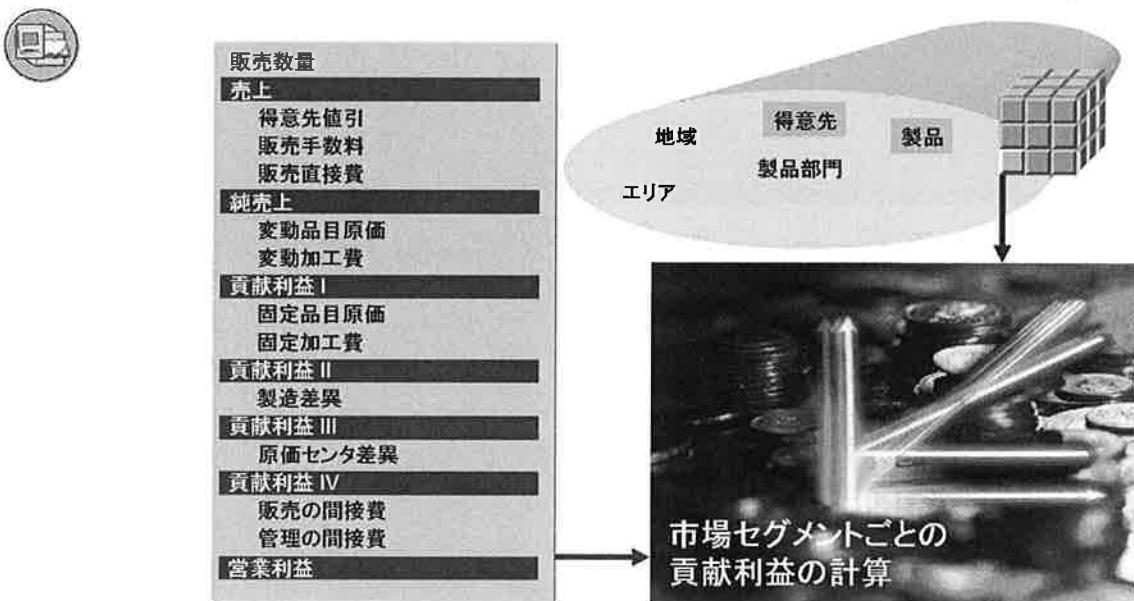


図 107: 収益性分析



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 財務会計と管理会計に関するタスクの概要の説明
- SAP ERP Financials がサポートする財務会計と管理会計の主要プロセスに関する説明



## 章のまとめ

以下について学習しました。

- 財務会計と管理会計に関するタスクの概要の説明
- SAP ERP Financials がサポートする財務会計と管理会計の主要プロセスに関する説明

## 関連情報

- 関連する用語集リンクについては、次のサイトを参照してください。  
[help.sap.com/content/additional/glossary](http://help.sap.com/content/additional/glossary)





## テスト

1. 以下のどの機能を SAP ERP Financials で利用することができますか。  
正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。  
 A 管理会計  
 B 債権管理  
 C 固定資産管理  
 D 電子請求/決済
  
2. SAP ERP Financials では 1 つの会計基準のみを適用することができます。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤



## 解答

1. 以下のどの機能を SAP ERP Financials で利用することができますか。

解答: A, B, C, D

これらの機能はすべて SAP ERP Financials で利用することができます。

2. SAP ERP Financials では 1 つの会計基準のみを適用することができます。

解答: 誤

SAP ERP Financials では、複数の会計基準を並行して適用する(パラレル会計基準)ことができます。

# 6 章

## ヒューマンキャピタルマネジメント

### 章の概要

この章では、SAP ERP Human Capital Management のさまざまなプロセスについて概説します。



### 章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- ヒューマンキャピタルマネジメントに関連するタスクの概説
- SAP ERP Human Capital Management がサポートするヒューマンキャピタルマネジメントの主要プロセスに関する説明

### 章の内容

レッスン: ヒューマンキャピタルマネジメント ..... 212

## レッスン: ヒューマンキャピタルマネジメント

### レッスンの概要

このレッスンでは、SAP ERP Human Capital Management ソリューションの各機能の概要について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ヒューマンキャピタルマネジメントに関するタスクの概説
- SAP ERP Human Capital Management がサポートするヒューマンキャピタルマネジメントの主要プロセスに関する説明

### ビジネスシナリオ

IDES 社の人事部は、新規採用と採用者の管理を担当しています。

### ヒューマンキャピタルマネジメントのレッスン概要

競争力を高めるためには、従業員を含むすべての企業リソースを業務目標と連携させる必要があります。従来の人事管理 (HR) 機能をヒューマンキャピタルマネジメント (HCM) に向けて包括的なプログラムに変える必要があります。SAP ERP Human Capital Management (SAP ERP HCM) を使用すれば、従業員の価値を最大化し、従業員のスキル、アクティビティ、インセンティブを業務目標および企業戦略と連携させることができます。SAP ERP HCM では、各従業員とグループの貢献内容の管理、評価、および報酬に必要なツールを提供します。

このレッスンでは、関連サブプロセスを含む一般的なプロセスについて考察し、SAP ERP Human Capital Management の基礎を学習します。ここでは、ヒューマンキャピタルマネジメント内および他のエリア内の統合オプションについて主に説明します。



図 108: SAP ERP Human Capital Management

このレッスンでは、SAP ERP HCM ソリューションの以下の要素を扱います。

- 組織管理オブジェクト
- 応募者データ
- 人材管理
- 人材開発
- セミナー管理
- 勤怠管理
- 考課情報
- 給与管理
- 人事費計画
- 従業員セルフサービス (ESS) とマネージャセルフサービス (MSS)

## 組織計画

組織管理を使用すると、組織体系図とレポート構造を関連する組織オブジェクトで迅速かつ効率的にマッピングすることができます。企業における構造および人事環境の包括的、流動的モデルである組織体系図を登録します。

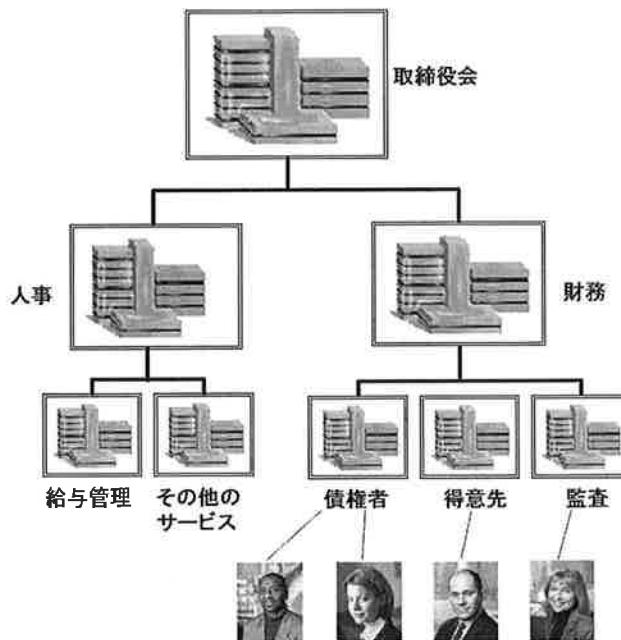


図 109: 組織管理

以下に、組織管理で使用される重要な用語をいくつか説明します。

#### 組織ユニット

組織ユニットは、組織内のさまざまな事業単位を表します。複数の組織ユニットとユニット間の関係によって組織体系図が構成されます。組織ユニットは、機能や地域の基準などに従って分けることができます。

#### ジョブ

ジョブは、要件、タスク、特性が類似している複数のポジションに適用される一般的な記述またはテンプレートです。

#### ポジション

ポジションは組織体系図における最小の組織ユニットです。ポジションは、組織内の各従業員へのタスクの配分を表します。ポジションには従業員が割り当てられます。ポジションは、そのポジションが定義されたジョブのタスクと要件を継承します。その1つのポジションでのみ実行する必要がある追加タスクをジョブとしてポジションに割り当てることもできます。ポジションが組織内の従業員が割り当てられる特定のポストを意味するのに対し(例: 南部購買管理部門の秘書)、ジョブは組織内の機能の一般的な分類を表します(例: 秘書)。

## 個人

個人は、組織体系図内のポジションを占めます。個人は組織内の従業員です。従業員データ自体は人材管理で更新されます。占有者をポジションに割り当てるにより、どの従業員が何のポジションを占めるかを指定します。通常、これは人材管理で示される入社または異動プロセスの一環として行われます。代わりに、組織管理でこの割当を行うこともできます。

## 採用管理

採用管理コンポーネントを使用すると、応募者データの入力からポジションへの人員配置に至る、採用管理プロセス全体を実行することができます。これは、社外応募者の新規採用と社内従業員のポジション変更の両方に適用できます。人員配置要件は空席によって表されます。空席は、補充を必要とするポジションです。採用管理が組織管理に統合されている場合、空席は組織管理の人事異動によって登録または開始されます。つまり、空きポジションが採用管理プロセージャのトリガとなります。



図 110: 空席から入社まで

SAP ERP HCM では、人員配置要件の提示、求人広告、応募者の管理と選考、応募者への連絡文書などがサポートされています。応募者の採用時には、採用管理で入力した応募者データを従業員データとして人材管理に転送することができます。社外応募者および社内従業員は、求人情報セルフサービスアプリケーションを使用してオンラインで申請を行い、応募ステータスサービスを使用して各自の応募ステータスをチェックすることができます。その後、応募者は各自の応募者データを変更または追加することもできます。

標準的な採用管理プロセスは、以下のステップで構成されています。

- 空きポジションが求人広告に掲載されます。
- 応募者のデータ(名前、住所、資格/能力など)がシステムに入力されます。
- 複合的な選考プロセスが実施され、最終的に決定されます。
- 採用される応募者の雇用契約が作成されます。
- 応募者データが HCM マスタデータに転送されます。

SAP ERP HCM の採用管理では、プロセスを自動化する採用アクションを利用できます。たとえば、最初に応募者データを入力すると、採用アクティビティと応募者への対応と通知によって応募者データの受領確認が行われます。SAP ERP HCM では、応募者への連絡文書用に標準テンプレートが用意されています。これにより、HCM 部門は、応募者の連絡文書に関する日々の管理タスクから解放されます。決定までのプロセスを支援するさまざまなツールを利用できます。たとえば、応募者のショートプロファイルでは、応募者データの概要をすばやく知ることができます。SAP ArchiveLink インタフェースを設定すると、応募者の履歴書や卒業区分などのアーカイブ文書を照会することもできます。

## 人材管理

採用管理と人材管理の統合により、応募者データを従業員データとして転送することができます。このデータは、その後補足する必要があります。

従業員データは、SAP ERP HCM にインフォタイプレコードとして格納されます。このデータに対して、照会、コピー、修正、および削除を行うことができます。

タブページによって、必要なインフォタイプを直感的に選択できます。HCM 管理者は、照会または編集するインフォタイプをユーザ固有のインフォタイプメニュー(コア従業員情報メニューなど)から選択することができます。

技術的な観点から見ると、インフォタイプとそのデータ構造には一連の関連データレコードが反映されます。

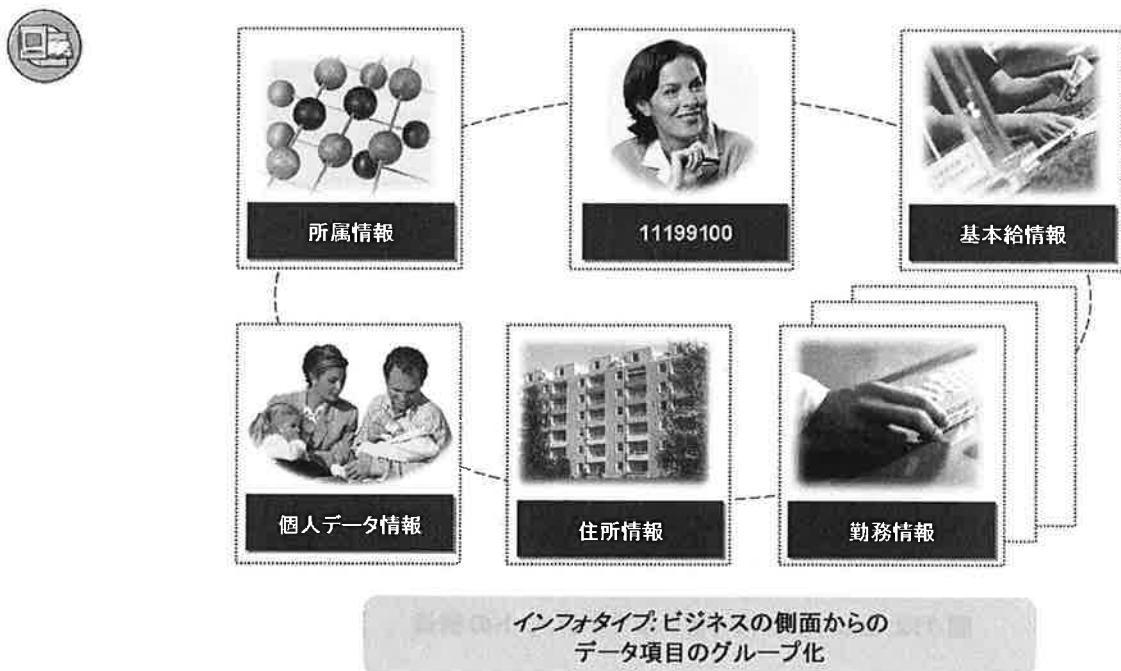


図 111: インフォタイプ

インフォタイプは、以下のさまざまな方法で保守することができます。

- ・ 単一画面更新(個人ごとに1つのインフォタイプ)
- ・ 人事アクション(個人ごとに一連のインフォタイプ)
- ・ 一括データ登録(複数の個人に対して1つのインフォタイプ)

従業員データでは、所属情報インフォタイプというインフォタイプが非常に重要な役割を果たします。このインフォタイプ内で、従業員は3つの重要な構造(企業構造、従業員体系、組織体系図)に割り当てられます。

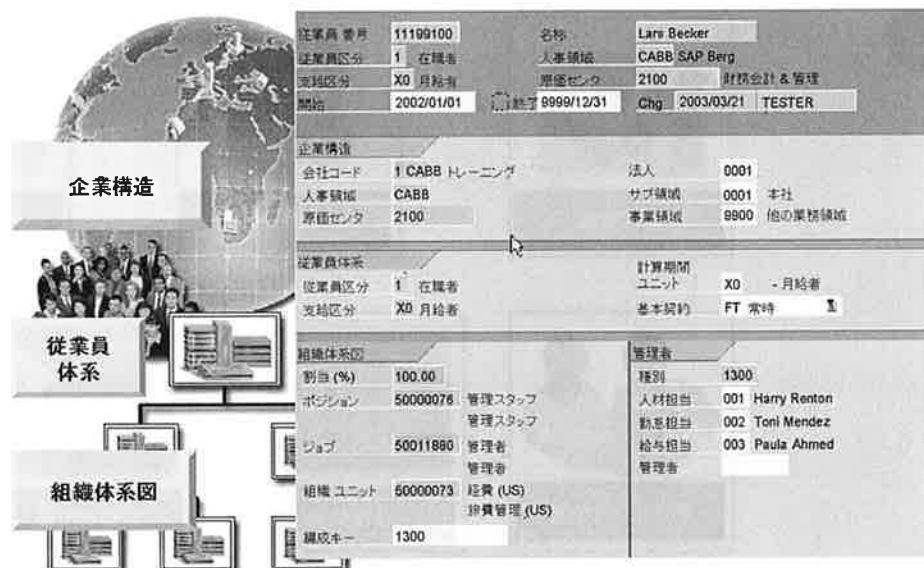


図 112: ヒューマンキャピタルマネジメントの構造

複数のインフォタイプの更新を必要とするさらに複雑な状況では、人事アクションを使用することができます。人事アクションを実行すると、該当するインフォタイプがすべて提案され、これらのインフォタイプを順番に更新することができます。たとえば従業員の採用時には、マスタデータ、勤怠管理や給与管理の関連データなど、あらゆる種類のデータをシステムに入力する必要があります。入社アクションを使用して、このプロセスを実行することができます。入社アクションの実行を通じて、各種のインフォタイプコード(従業員ファイルのページと同じ)で構成される従業員ファイルを新規に登録します。

従業員の採用時に登録されるインフォタイプの例を以下に示します。人事アクションのインフォタイプの数と順序は、自社の要件に合わせて変更することができます。

- 所属情報
- 個人データ情報
- 住所情報
- 勤務情報
- 基本給情報
- 振込先銀行情報

入社アクションを実行すると、その従業員の HCM マスタデータレコードまたは従業員ファイルが新規に登録されます。このアクションによってデータ入力が容易になります。これは、各インフォタイプへの個別アクセスが不要になるためです。アクションの実行時に、必要な従業員の情報が一部不足している場合は、その不足情報を後で追加してアクションを完成させることができます。

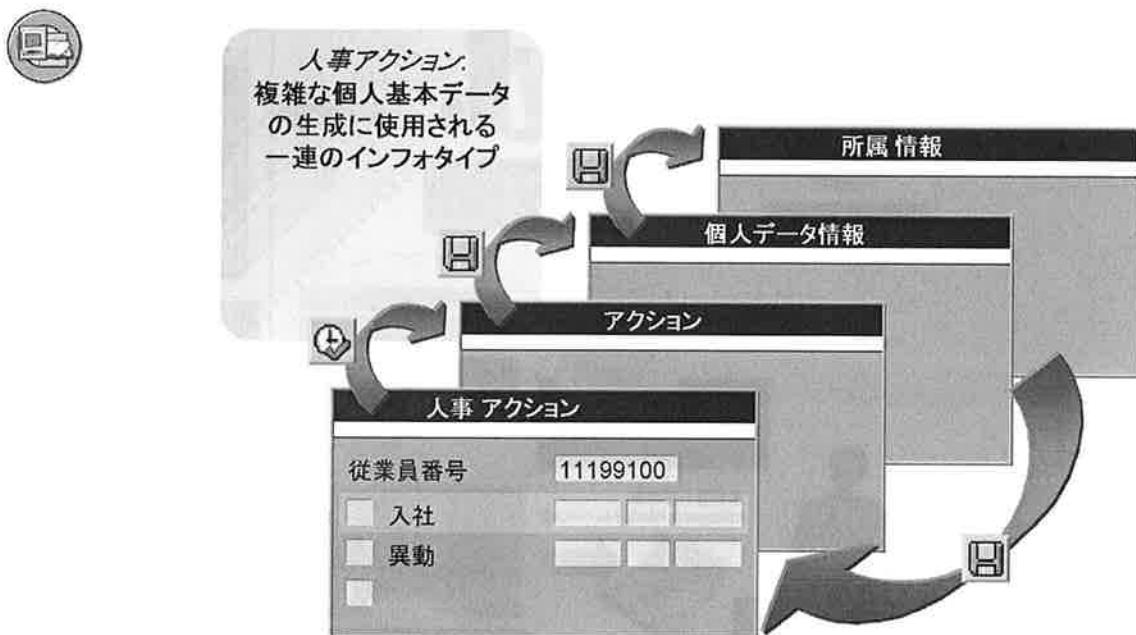


図 113: 人事アクション

さまざまな国における従業員の全雇用関係を標準システムでマッピングすることができます。グローバル企業では、これは特に重要になります。SAP ERP HCM では、従業員の人事割当を従業員にリンクすることにより、全世界の従業員が管理されます。

## 人材開発

人材開発コンポーネントでは、人材開発を計画および実現し、セミナー管理との統合によって従業員の教育/研修を促進することができます。



図 114: 人材開発

人材開発の要件は、ジョブの要件と従業員の現在の資格/能力を比較することによって生じます。この比較に必要な情報はプロファイルに格納されています。認定アクション(研修生プログラムや一連のコースへの参加など)は、開発プランを使用して従業員に割り当てることができます。従業員の業績と行動は考課され、その結果が従業員開発計画の情報として利用されます。

## セミナー管理

セミナー管理は、トレーニングコースおよびビジネスイベントの計画、実行、管理の各プロセスを支援する、高度に統合されたコンポーネントです。日常業務のコース予約で使用されている人材開発のプロファイル比較を確認する前に、セミナー管理の最も重要なエリアとプロセスについて説明します。

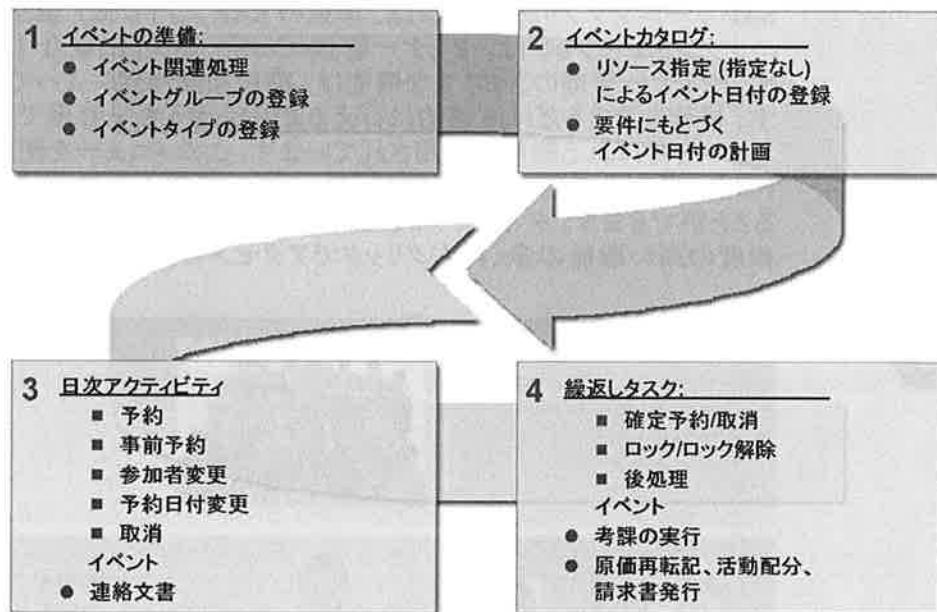


図 115: セミナー管理のプロセス

セミナー管理には、以下の 4 つの主要プロセスがあります。

- イベント準備では、トレーニングコースの実施場所など、イベントカタログの登録時に必要なデータがすべて網羅されています。イベントカタログは、イベントグループ(カタログの構造化に使用)とイベントタイプで構成される階層によって示されます。
- 次に、イベントカタログが設定されます。つまり、イベントの日付がシステムで計画および登録されます。
- 日付が利用可能になると、社内外の参加者に対するイベントの予約、予約日付変更、または取消の日次アクティビティを行うことができます。プロセスごとに、関連する通知を参加者に送信できます。SAP では、自社の要件に応じて変更可能なテンプレートを提供します。
- 4 番目のプロセスは、日次アクティビティに密接にリンクしている定期アクティビティで構成されます。コースの実施後、参加者はコース評価を作成することができます。社内参加者の場合は、新規に取得した資格/能力を人材開発のサブプロファイルに転送できます。

他の SAP コンポーネントとの高レベルな統合によって、セミナー管理は従業員の継続的な知識の向上と更新をサポートする理想的なツールとなっています。たとえば、人材開発とのリンクによって未習熟資格/能力を識別し、対象となるセミナー管理の研修プログラムで対処することができます。SAP ラーニングソリューションへのリンクによって、時間や場所に関係なく実現可能な Web ベースの学習方法とセミナー管理の従来の集合研修を組合せることができます。

SAP ラーニングソリューションは、単独の SAP ソフトウェア製品です。SAP ラーニングソリューションは、セミナー管理コンポーネントに統合することができます。セミナー管理のさまざまな機能は、高度な操作性によって強化されています。操作ができるだけ直感的に行えるように、セミナー管理ではダイナミックメニューと呼ばれる機能が採用されています。このメニューを使用すると、イベントカタログのオブジェクトからアプリケーションの個々の機能に直接アクセスすることができます。ダイナミック参加者メニューの日次アクティビティなど、使用頻度の高い機能の多くに右クリックでアクセスできます。



図 116: セミナー管理

日次アクティビティには、予約関連の機能が組み込まれています。また、セルフサービスアプリケーションを使用して、日次アクティビティに関する最も重要な機能を実行することもできます。これらのサービスは、インターネットまたは会社のイントラネットで提供可能です。手紙、FAX、電子メールなどの各種媒体を使用して、各プロセスについて参加者に通知できます。ワークフロー接続による通信履歴によって、連絡文書を管理および監視することができます。

## 勤怠管理

勤怠管理コンポーネントは、従業員の勤怠計画、記録、評価に関するすべてのプロセスを支援します。前のセクションのセミナー管理では、従業員に対するコースの予約が行われました。このセミナー管理と勤怠管理を統合すると、予約によって出勤の勤怠データ記録が登録されます。コースを予約した従業員が休暇などで欠席すると、その従業員が参加できないことが通知されます。



図 117: 勤怠管理

従業員の利用可能性に関する情報と従業員が実施した労働に関する情報は、人事管理の重要な要素です。この情報は、管理会計やロジスティクスなどの他のエリアでも使用されるため、全社的な意思決定に影響を与えます。勤怠管理では、データの照会と記録に柔軟なオプションを利用できます。専用の勤怠集計プログラムでマスタデータと勤怠データを評価し、勤務時間計算(フレックス時間計算など)を更新することができます。実施された労働に関する情報は、給与管理での給与の計算に算入されます。勤怠データはまた、他のHCMエリア(セミナー管理など)や他のコンポーネント(管理会計の活動配分など)に統合することもできます。

勤務時間、休暇、社外勤務、代替勤務などの勤怠データの記録には、以下のさまざまなオプションを利用できます。

- 勤怠管理担当者によるオンラインでの処理(勤怠マネージャークプリエイスの使用など)
- フロントエンドタイムレコーディングシステムの使用
- SAP ERP Cross-Application Time Sheet (CATS) の使用
- 従業員セルフサービス (ESS) アプリケーションの使用

勤怠データは、HRマスタデータが格納される場合と同様に、特殊な勤怠インフォタイプに格納されます。勤務情報インフォタイプは、中核となる勤怠管理インフォタイプです。このインフォタイプには、割り当てられた勤務スケジュールに従って従業員が勤務するように計画されている時間が収められています。勤務スケジュールでは、従業員がいつ勤務し、いつ休憩できるかが指定されています。休日と祝日も勤務スケジュールの対象に含まれます。

## 考課情報

人材開発の考課機能は、柔軟な考課プロセスをサポートしています。これらのプロセスを使用すると、最高レベルの客観性にもとづく標準化された考課を実行することができます。この考課機能は、従来の人事考課だけでなく、イベント評価、さらにはインターネットやイントラネットサービスを介したオンラインでの従業員アンケートや顧客アンケートにも利用できます。



図 118: 考課情報

考課の各フェーズでは、計画、レビュー、実行、提出済の考課情報の評価など、考課プロセスの通常ステップをすべて網羅することができます。考課カタログでは、再利用可能な考課テンプレートを登録します。その後、このテンプレートは従業員関連の考課文書の登録に使用されます。考課文書に

は、予定労働時間の詳細設定として目標設定を組み込むことができます。この契約には、他の SAP コンポーネントとの統合を通じて、またはマニュアルで情報を追加できます。

- SAP ERP HCM の人材開発と統合すると、従業員の個々の目標設定に対して要件プロファイルをポジションから、資格/能力を資格カタログからコピーすることができます。
- SAP 戦略的企業経営 (SAP SEM) と統合すると、バランススコアカードの高位レベルの企業目標から誘導された部門目標を照会することができ、該当する戦略目標を従業員の目標設定に直接転送することができます。
- 考課プロセスが完了したら、統合された自動実行の後続プロセスを使用できます。このプロセスには、人材開発での従業員の資格/能力プロファイルの更新や、その報酬の調整などがあります。
- 報酬管理と統合すると、報酬調整の初期値を自動的に採用することができます。
- SAP Business Information Warehouse (SAP BW) と統合すると、考課結果の特殊な分析を編集することができます。

## 給与管理

グローバル企業を対象とする SAP ERP HCM では、50 以上の国々に対する給与管理の機能と法的要件をサポートしています。

大まかにいって、給与管理は、実施された労働に対する各従業員の報酬の計算に関するコンポーネントです。具体的には、給与計算と給与明細の登録、銀行振込、小切手による支払などの多数のプロセスで構成されています。これらのプロセスには、SAP ERP Financials への給与計算結果の転送など、複数の後続アクティビティが含まれています。

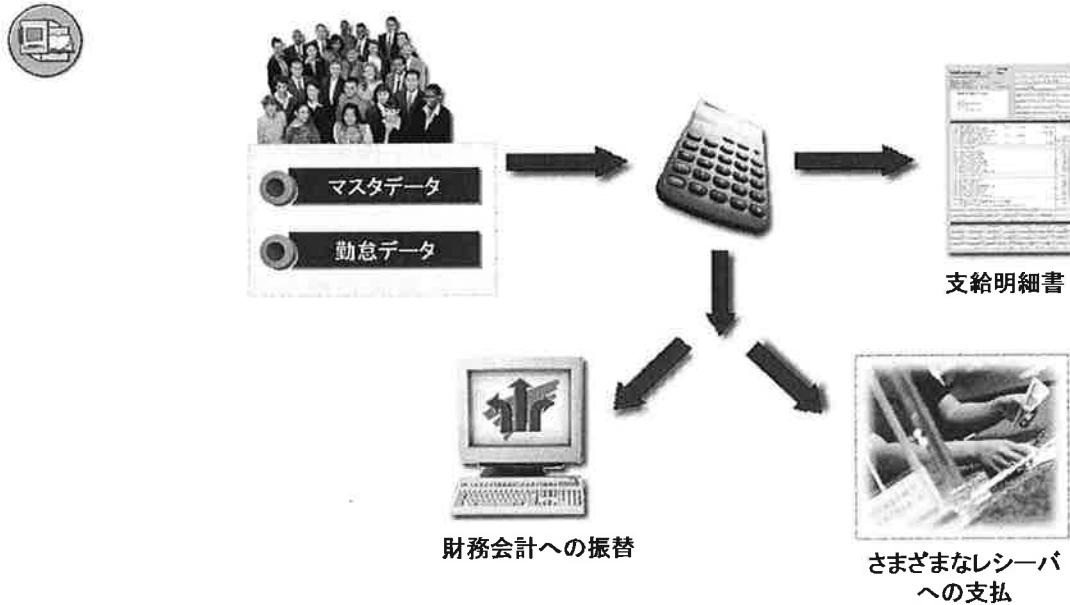


図 119: 給与管理

従業員の報酬は、以下の 2 つの主要ステップで計算されます。

1. 報酬要素のグループ化(グロス給与計算)
2. 法定控除と任意控除(国依存のネット給与計算)

従業員の報酬には、1 つの給与計算期間中にその従業員に対して決定された支払と控除がすべて含まれます。支払と控除は、さまざまなウェイジタイプにより報酬計算に算入されます。その後、銀行振込や小切手などによる支払が行われ、支給明細書の形式による通知が従業員に送られます。または、従業員セルフサービス(ESS) アプリケーションを使用してこの情報をオンラインで照会することもできます。

## 人件費計画

人件費計画とシミュレーションは非常に広範なデータ基準にもとづいて実行され、他のアプリケーションに統合することができます。

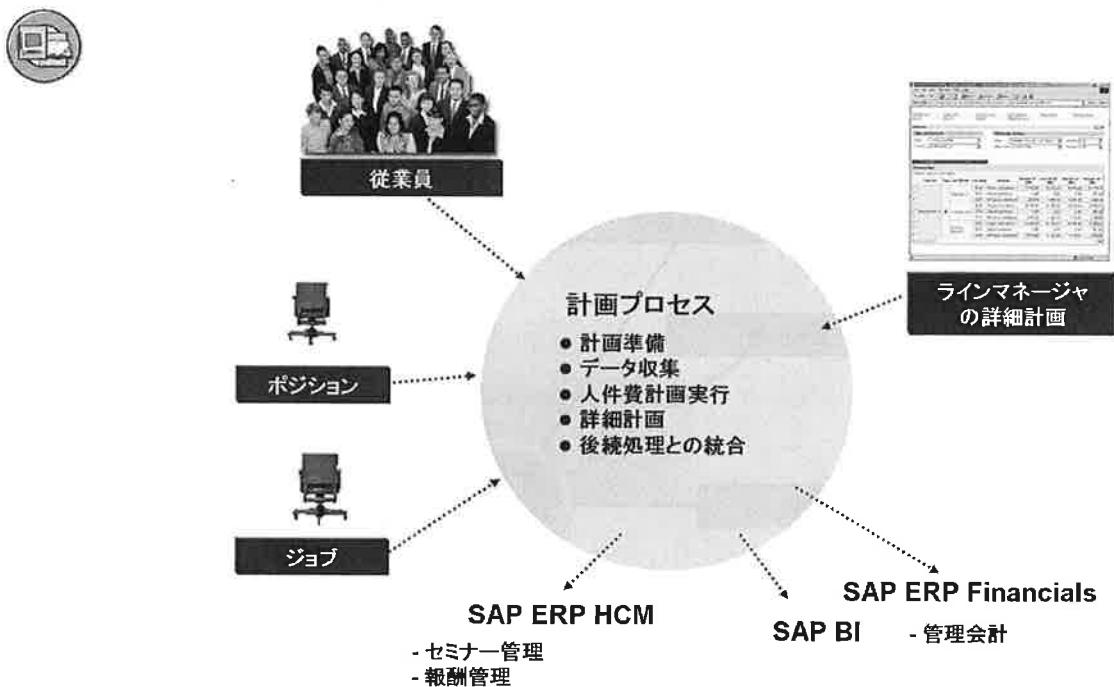


図 120: 人件費計画とシミュレーション

人件費計画では、部門およびアプリケーションの境界をまたがるビジネスプロセスがサポートされます。支払に関する情報をさまざまなソースから取得して、人件費計画を登録することができます。たとえば、人件費計画のデータソースとして給与計算の結果を使用できます。組織管理のポジションとジョブの計画支払データをデータ基準として使用することもできます。計画プロセスの実行後、マネージャは計画に追加調整を加えることができます。調整を行うには、計画用の簡易ユーザインターフェースとして Web ベースのフロントエンドを使用します（詳細計画のフェーズ）。

計画が承認されると、以下のようなプロセスでデータを使用することができます。

- セミナー管理の研修予算の登録
- 管理会計へのデータ転送
- ビジネスインフォメーションウェアハウスでの詳しい分析のための人件費計画立案の抽出

## 従業員セルフサービス (ESS)

従業員セルフサービス (ESS) を使用すると、従業員は各自の個人情報を管理し、HCM スタッフによって処理された管理上のさまざまな処理とその他のプロセスを制御することができます。ESS の目的は、承認プロセスの能率化と、休暇期間チェックや福利選択などのタスクの能率化を行うことです。SAP ESS を使用すると、個人データへのアクセス許可が改善されるだけでなく、アプリケーションをサポート情報と組合せることにより、生活と仕事に関するイベントが従業員に通知されます。

これらのサービスは、ユーザフレンドリな SAP Enterprise Portal (EP) に組み込むことができます。従業員は、SAP システムの HCM プロセスに精通していないなくても、各自のデータの入力、照会、更新を行うことができます。これにより、HCM 部門と勤怠管理担当者の日常業務が軽減されます。

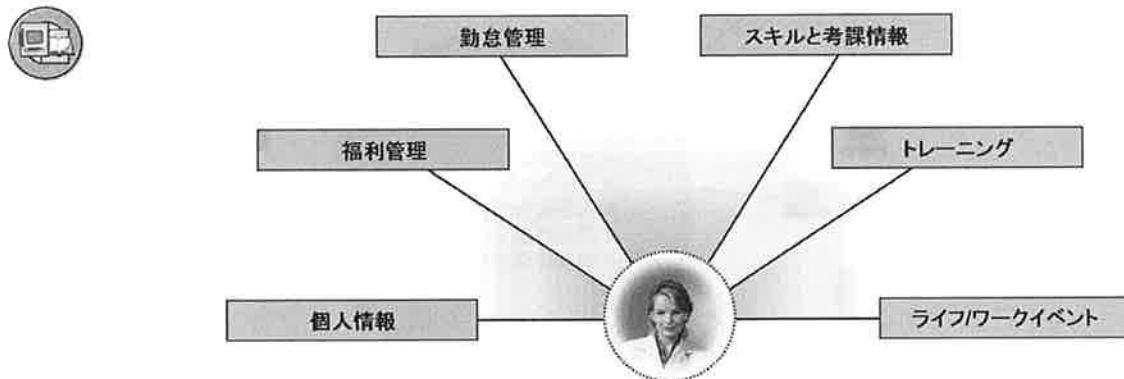


図 121: 従業員セルフサービス (ESS)

SAP ESS で提供される、70 を超えるサービスをただちに使用することができます。

従業員は、SAP ESS を使用して以下の作業を行うことができます。

- 従業員名簿の検索
- カレンダの照会
- ワークフローのワークアイテムの確認
- 経費の提出
- 勤務時間の入力
- 福利プランへの加入

SAP ESS では、以下の従業員情報を利用できます。

- 個人データ(給与計算、勤怠管理、経費、資格/能力など)
- 公開情報(従業員名簿、カレンダ、教育/研修の提供、社内の空席など)

SAP ESS には、以下のような利点があります。

- 十分な情報にもとづく従業員の決定
- 管理費の削減とサイクルタイムの短縮
- 正確な従業員レコード
- 戰略的な HR イニシアチブのための時間とリソースの節約

## マネージャセルフサービス

ヒューマンキャピタルマネジメントと財務管理の戦略を予算管理、採用管理、報酬、および原価管理に対して実行する権限をマネージャに付与することにより、財務および人事部門の真の投資収益 (ROI) がもたらされます。これらの戦略に役立つツールによって、マネージャがさまざまな部門に対して行う電話と依頼の回数が減少します。その結果、人事および財務スタッフは日常業務から解放され、戦略的なアクティビティに専念することができます。こうしたツールによって、マスター変更または業績考課の依頼といった紙ベースの処理が自動化されます。さらに、各マネージャへの関連情報の提供を全社規模で行うことにより、人事管理と財務管理のバックエンドシステムを活用できます。

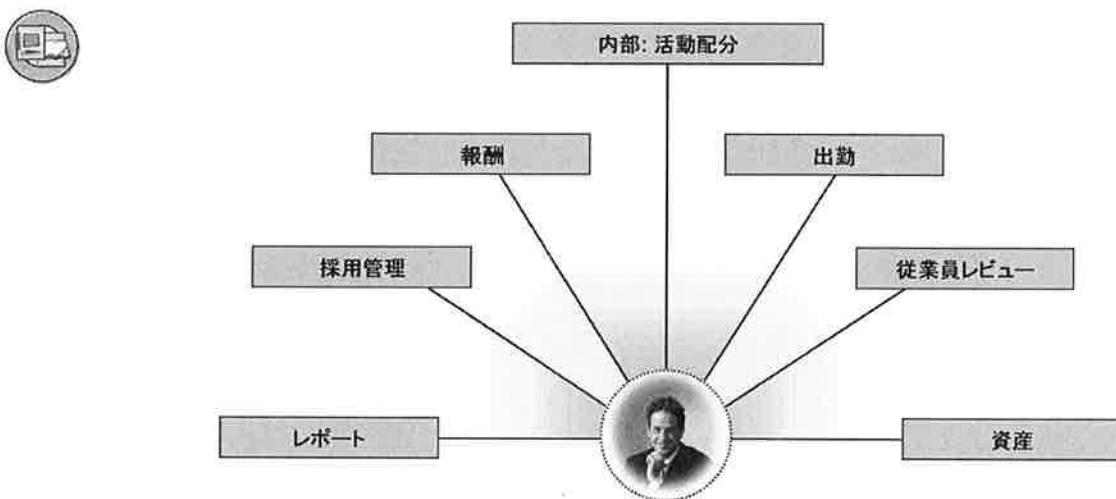


図 122: マネージャセルフサービス

SAP マネージャセルフサービスとは何ですか。

SAP マネージャセルフサービス (SAP MSS) は、マネージャの日々の業務を支援する、直感的で使いやすいポータルベースのアプリケーションです。MSS は、複数の直感的な Web アプリケーションで構成されています。マネージャは MSS を使用して、SAP システムのデータをブラウザで照会、登録、編集することができます。

SAP MSS には、以下の対象領域があります。

- 従業員レビュー
- 従業員の変更依頼
- モニタリング
- レポート
- 採用管理
- 報酬計画
- 要員計画情報

SAP MSS によって、企業の全マネージャは、これらの目標の迅速で容易な達成を促進するツールを利用できます。これは、企業に大きな影響を及ぼします。全社的にマネージャの効率が向上し、事前対応が促進されます。これらのツールによって、自社の目標に沿って担当部門を運営することができます。管理会計やヒューマンキャピタルマネジメントなどの中核的な部門では、ユーザ別の情報をユーザのポータルに提供することができます。これにより、マネージャは“各自の”情報を適切な場所と時間に“各自の”ポータルで照会することができます。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- ヒューマンキャピタルマネジメントに関するタスクの概説
- SAP ERP Human Capital Management がサポートするヒューマンキャピタルマネジメントの主要プロセスに関する説明



## 章のまとめ

以下について学習しました。

- ヒューマンキャピタルマネジメントに関連するタスクの概説
- SAP ERP Human Capital Management がサポートするヒューマンキャピタルマネジメントの主要プロセスに関する説明

## 関連情報

- 関連する用語集リンクについては、次のサイトを参照してください。  
[help.sap.com/content/additional/glossary](http://help.sap.com/content/additional/glossary)



## テスト

- 次の文のうち正しいものを答えてください。

正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。

- A SAP ERP HCM は SAP Business Suite に含まれていますが、SAP ERP には含まれていません。
- B SAP ERP HCM は SAP ERP に含まれていますが、SAP Business Suite には含まれていません。
- C SAP ERP HCM は SAP ERP に含まれており、したがって SAP Business Suite にも含まれています。
- D SAP ERP Central Component は、SAP ERP HCM ソリューションのコンポーネントではありません。
- E SAP BW と SAP SEM は SAP ERP HCM ソリューションのコンポーネントです。



## 解答

- 次の文のうち正しいものを答えてください。

解答: C, E

SAP ERP HCM は SAP ERP に完全に統合されており、したがって SAP Business Suite にも含まれています。そのコンポーネントには、SAP ERP Central Component (SAP ECC)、SAP BW、SAP SEM、および SAP Enterprise Portal (SAP EP) があります。

# 7 章

## 分析および戦略的計画立案

### 章の概要

この章では、SAP Business Suite でデータをレポートおよび分析するさまざまな方法、および利用可能な戦略的計画立案機能について概説します。



### 章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- 基本レポート、高度な分析、および戦略的計画立案に関連するタスクの概説
- SAP Business Suite 内でのレポート、分析、および戦略的計画立案のサポートについての説明

### 章の内容

レッスン: レポート、分析、および戦略的計画立案 ..... 236

# レッスン: レポート、分析、および戦略的計画立案

## レッスンの概要

このレッスンでは、SAP Business Suite のさまざまなレポート機能および分析機能について理解します。



## レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 基本レポート、高度な分析、および戦略的計画立案に関するタスクの概説
- SAP Business Suite 内でのレポート、分析、および戦略的計画立案のサポートについての説明

## ビジネスシナリオ

IDES 社の多くの部門では、単純なリアルタイム一覧表示レポートから複雑な管理統計分析レポートまで、複雑化するさまざまな日次情報を必要としています。分析結果は将来の事業目標の計画に使用され、中間管理職や従業員にフィードバックされます。

## レポートと分析

オンライントランザクション処理 (OLTP) は、SAP ERP システムで一般的に行われるデータ処理タイプです。

このタイプのシステムで必要とされるレポートは、一般に日次作業で必要とされる情報です。一覧表示により、ユーザは伝票一覧またはマスタデータ情報、およびこれらのオブジェクト(特性)の組合せを依頼することができます。一覧表示とは、対話処理で直接生成されたデータにアクセスするレポートです。これらの一覧により、ユーザは直接元伝票にアクセスすることができます。

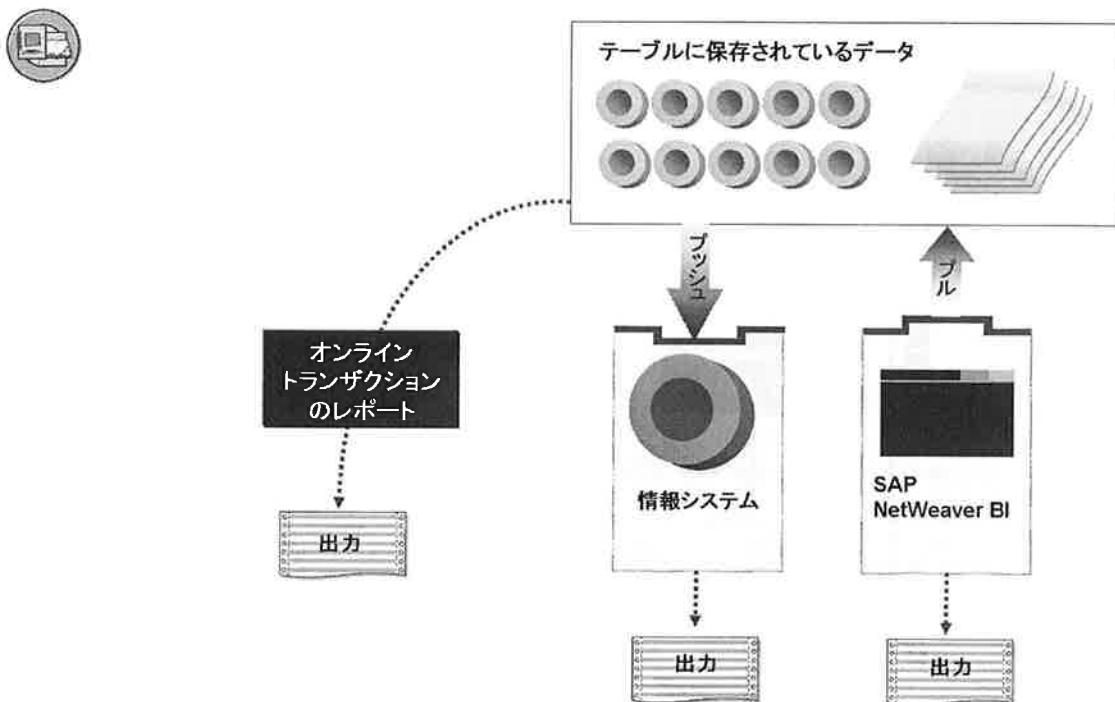


図 123: レポートと分析

このようなシステムでも、簡単な運用分析のためにデータを集計した情報構造を持つことができます。

OLTP は、オンライン分析処理 (OLAP) 環境で使用されているレポートとはかなり異なります。分析システムは、企業の管理職が業務上の意思決定に必要な、重要な要素に関する情報を提供する必要があります。データウェアハウスでは、キー数値はさまざまなソースから取り込まれ、集計されます。業務領域の情報を選択、割当、集計して、情報システムを、企業の特定のレポートニーズおよび分析ニーズに合わせてカスタマイズすることができます。

## OLTP と OLAP の比較

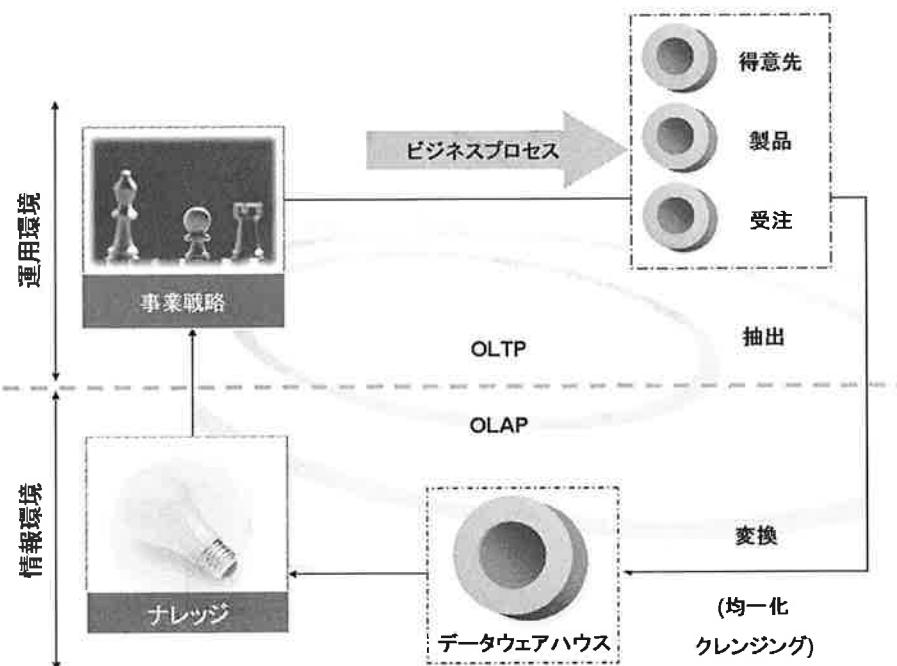


図 124: OLTP と OLAP の比較

OLTP 環境は OLAP 環境とは根本的に異なります。

- **詳細レベル**

OLTP レイヤでは非常に高い詳細レベルでデータが保管されるのに対し、データウェアハウス内のデータはアクセスのパフォーマンスを良くするために要約されます(集計)。

- **履歴**

OLTP 領域でのアーカイブされたデータは、最小限の履歴とともに保管されます。データウェアハウス領域では、包括的な履歴データが必要とされます。

- **変更可能**

運用領域の特色としてデータが頻繁に変更されるのに対し、分析用には一定の時点以後のデータが“凍結”されます。

- **統合**

OLTP 環境とは異なり、分析用には、統合された包括的な情報に対する要求が非常に高くなっています。

- **標準化**

データの冗長性の削減によって、運用データでは標準化が非常に進んでいます。それに対し、データウェアハウスでは、データのステージングと低パフォーマンスの理由により標準化は少なくなっています。

- **パフォーマンス**

OLAP 環境は読み込み用に最適化されています。運用アプリケーションでは、この他に変更、挿入、削除などの機能も実行する必要があります。

## SAP NetWeaver Business Intelligence (SAP NetWeaver BI)

*SAP NetWeaver BI* のレポートコンポーネントは、柔軟なレポートツールと分析ツールを備えています。そのため、戦略的分析が可能になり、企業内での意思決定が支援されます。承認された従業員は、さまざまな詳細レベルの過去データと現行データにアクセスして、データを評価することができます。

SAP NetWeaver BI アーキテクチャは次の 3 つのレイヤで表現されます。

抽出

ステージング/保管

プレゼンテーション/分析

SAP システムと外部システムの両方をデータソースとして扱うことができます。SAP NetWeaver BI によって、データ抽出の開始、制御、および監視が行われます。データ転送の大部分が自動化されています。

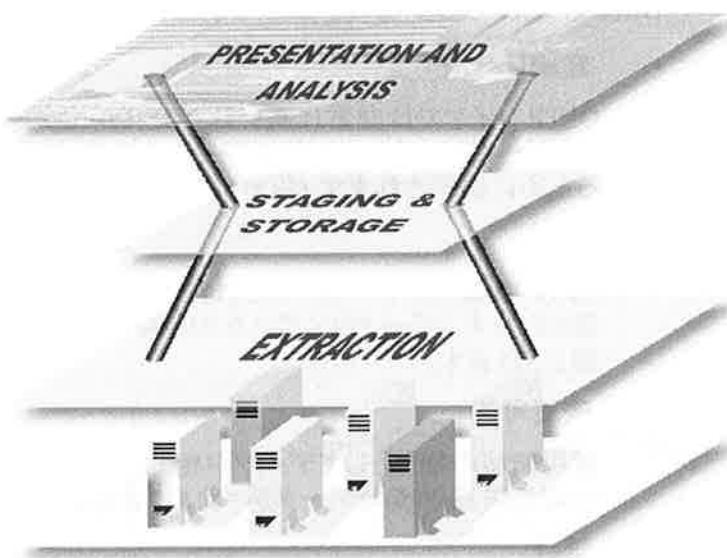


図 125: SAP NetWeaver Business Intelligence のアーキテクチャ

エンタープライズデータウェアハウスは、独立したデータベース上で動作します。ここで、SAP システムによって事前設定可能なメタデータが管理されます。また、各種ソースシステムからのアプリケーションデータがステージングされ、多次元リレーショナルテーブルに保管されます。

## 意思決定支援

経営陣はまず、現在のビジネスの状況（競合他社との比較など）とステークホルダの期待がどのようなものであるかを評価する必要があります。これは、コアコンピテンシーと SWOT 分析（強み（Strength）、弱み（Weakness）、機会（Opportunity）、脅威（Threat））を考慮に入れることで実現することができます。

現在の状況を理解し、ステークホルダの期待を折り込むことができた後に、経営陣は X 年以内に望まれるビジネスの状況を決定する必要があります。決定できたら、この将来目標を達成するための戦略を作成する必要があります。企業の戦略的優先順位が設定されたら、事業単位に情報伝達します。この時点で最高経営陣はすべての従業員に戦略を告知し、新しい戦略が日常作業にどのような影響を及ぼすかや、戦略の達成に向かって各自がどのように貢献したらいいかを従業員に理解させる必要があります。このプロセスの一部として、組織全体で従業員個人の目標とインセンティブを戦略に合わせて調整する必要があります。これが実行されないと何も変化は起きません。同様に財務リソースも戦略に合わせて調整します。

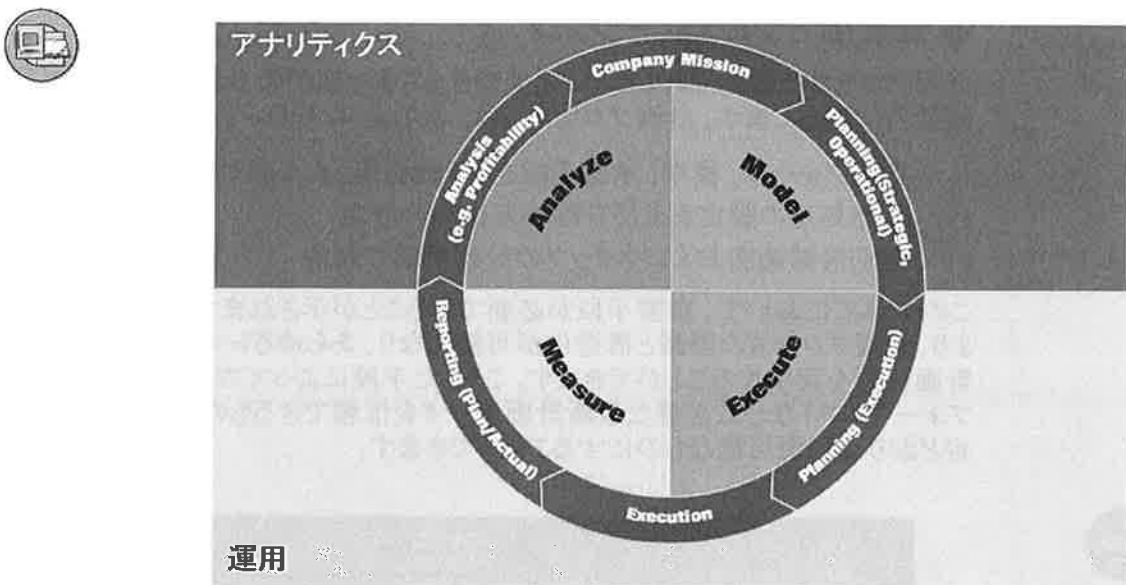


図 126: 意思決定支援

業務実行システムも戦略に従って調整する必要があります。業務実行システムのこれらの領域に注目し、戦略の実行に重要な、これらのプロセスを改善又は確立する必要があります。

最後に、企業内の継続的なフィードバックループを確立します。このループにより組織全体および経営陣は、戦略の実施から継続的に学び取り、必要に応じて戦略と方針をスピーディーに調整できるようになります。

価値志向の意思決定支援が最も有効なのは、経営プロセスと情報(戦略的、財務的、業務的)が分析ソフトウェアアプリケーションにより全機能にわたってシームレスに統合されているときです。企業とそのバリューチェーン内の取引先の各業務システムからのデータが、業績指標プロセスの一環として連結され、目標と比較されることで、経営情報が作成されます。シミュレーションとシナリオモデリングを使用してこの情報をナレッジに変換することで戦略的計画立案の基礎を作成することができます。計画は目標と業務的なローリングフォーキャストに変換され、適切な KPI(主要業績評価指標)とインセンティブによってサポートされる業務業績の管理をあらゆるレベルで推進できるようになります。戦略および業績管理のためのシステム(戦略的企業経営システム)は、企業の戦略を業務および経営計画を実行することにより生み出される実際の価値と結びつけることで、多くの時間とリソースがかかる年次予算作成プロセスを過去のものとします。

SAPは長年、レポートと分析のためのソリューションを提供してきました。これまで、これらのソリューションでは業務レポートのニーズに焦点を当ててきました。戦略的レポート要件は完全には満たされていませんでした。現在では、すべてのタイプの完全なレポートおよび意思決定支援ソリューションを SAP SEM と SAP NetWeaver BI で提供しています。

## 事業計画とシミュレーション

計画プロセスは複雑であるため、企業のさまざまな部門の多数のスタッフが計画業務に関与します。計画プロセスには、次のようなものがあります。

- 計画フォーム、標準、承認手続き、計画範囲、および対象の定義
- 連結処理の設定および計画相互依存の考慮
- 個別計画範囲およびスタッフの計画期間の調和

このすべてにおいて、調整手段が必要であることが示されます。調整手段により、計画プロセスの削減と構造化が可能になり、あらゆるレベルで完全な計画統合を実現することができます。こうした手段によってのみ、ローリングフォーキャストなどに必要な最新計画データを信頼できるものにし、かつ予定どおりに利用可能なものにすることができます。

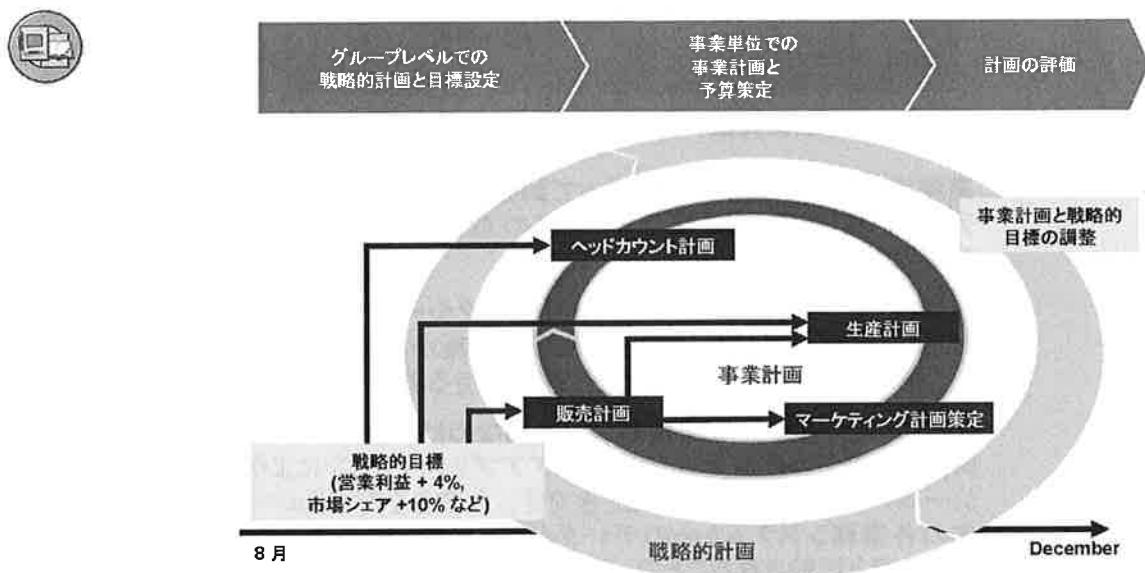


図 127: 事業計画

事業計画では、さまざまなレベルを扱います。

### 戦略的計画立案

戦略的計画立案では、製品/サービスの提供、投資回収率、会社成長など、将来の企業方針の定義を扱います。戦略的計画立案はシミュレーション的なプロセスです。ここでは、さまざまなシナリオがモデル化された後、予想される価値創造を見積もるために評価されます。戦略評価によって、事業単位の目標設定が可能になります。これにより、高レベルの戦略目標が、予想される純売上や売上成長率などの実行レベルの目標に細分されます。

## 事業計画

事業計画では、目標を達成するために必要なリソース(労働力、資本、資産)を配分し、事業単位間でリソースを調整します。販売数量を生産数量と調整する必要がある例を挙げます。月 200 本の日焼け止めを生産する生産能力があり、8 月に 1000 本販売できる場合、8 月までに少なくとも 800 本の日焼け止めを生産する必要があります。

## 実行計画

事業計画プロセスの結果は、実行計画における詳細計画や詳細日程計画で使用される場合があります。

**SAP NetWeaver BI 事業計画とシミュレーション (BW-BPS)** では、計画モデルを構築するための計画プロセスをサポートする一般計画用ツールを提供します。このモデルでは、企業全体のビジネスプロセスに重点を置いて、グローバルな戦略的計画立案と特定の事業計画上の問題をクローズドループプロセスに統合します。

この機能により、計画、予算策定、予測と監視、レポート、分析が結合され、これらすべてが 1 つのソフトウェアインストールにバンドルされます。



図 128: SAP NetWeaver BI 事業計画とシミュレーション

SAP BW-BPS では次の機能によって、計画、予算、予測を支援します。

- ・ 豊富な計画機能セットによる、トップダウン分析およびボトムアップ分析
- ・ 計画モデルの登録および更新を可能にする、計画フレームワーク
- ・ マニュアル計画および分析用のユーザインターフェース
- ・ プロセス制御ツール (ステータスの追跡と監視)

SAP NetWeaver '04 から、BPS の一般計画フレームワークは SAP SEM から SAP NetWeaver BI に移動しました。SAP NetWeaver は SAP Business Suite の技術基盤です。SAP NetWeaver BI は SAP NetWeaver の一部であるため、BW-BPS をすべての SAP アプリケーションの計画に使用できるようになりました。一般計画フレームワークを使用するだけで、あらゆるタイプの計画アプリケーションを作成することができます。SAP SEM は、一般計画機能および財務固有機能拡張を使用して作成した計画コンテンツを提供します。このコンテンツは SEM 事業計画と呼ばれます。

## SAP SEM

従来、企業は、販売する製品やサービスから利益を確保すること（“インサイドアウト”アプローチ）に力を注ぎました。結果的に、利益を最大化させるために主として社内に力点を置き、リソースをロジスティクスチェーンの内部プロセスに集中させていました。これが、SAP ERP などの ERP システムが近年大成功を収めている理由です。このようなシステムでは、バックオフィスプロセスを自動化することが可能で、また統合によって収益や費用をリアルタイムで把握することができます。

しかし、パフォーマンス管理システムを使用して業務を管理することに主眼を置いているため、必然的に“誰が”、“何を”、“どうやって”、“どこで”などの業務指標に注目しがちです。業務上の“なぜ”、すなわち、業務プロセスがある方法で実行する理由や、目標のあるレベルに設定する理由などの戦略が、人々が理解できる方法で伝えられることはめったにありません。結果として、戦略に向けて従業員を団結させることができず、10% 未満の戦略しか成功を収めることができないでいます（雑誌 Fortune の調査による）。



図 129: SAP 戦略的企業経営

SAP 戦略的企業経営 (SAP SEM) は、関連するすべてのレベルの企業の、戦略的企業経営プロセスを完全にサポートするアプリケーションコンポーネントです。このコンポーネントは、SEM プロセスまたはコンポーネントアーキテクチャとの密接な統合を可能にする、5 つの機能のソフトウェアコンポーネントで構成されています。SAP SEM アプリケーションは、SAP NetWeaver BI を基盤にしています。すべての SAP SEM コンポーネントの機能は、1 つ以上の SAP NetWeaver BI インフォキューブで動作することができます。

### 戦略管理

戦略管理はバランススコアカードのサポートなどのツールを提供します。バランススコアカードは、生産革新、顧客関係、運用効率などの領域の戦略を定義および伝達することで、企業の戦略をうまくアクションに変換するツールです。

### 業績測定

SAP SEM では、業績結果をレポートする最適なフレームワークであるマネジメントコックピットインターフェースが用意されています。インターフェースの構造は事前定義されていますが、柔軟性に富んでおり、グラフィック、数値、言葉での情報を組織内のさまざまなレベルに配信することができます。また、Web ベース環境で情報にすばやくアクセスすることができます。

→ **注記:** 戦略管理と業績指標管理も、企業業績モニタのもとに分類されています。

### 事業計画とシミュレーション

SEM-BPS は、企業の予算策定および計画プロセスを短縮および簡易化しながら、財務計画および財務予測の正確性と精度を向上させます。このソリューションにより、企業は予算をひんぱんに更新し、変化するビジネス状況に対応し、従来のボトムアップ予算策定とトップダウン戦略的計画立案を結合させることができます。さらに、このソリューションは、すべての事業活動が事業戦略に適合するように戦略計画、事業計画、財務計画を統合しながら、より多くの部門マネージャが参画する、よりコラボレティブな予算策定および計画プロセスを推進します。

## 事業連結

事業連結 (SEM-BCS) は、法令上必要な企業連結とセグメント連結 (US GAAP、IAS、ローカル GAAP など) のための完全な機能を提供します。

同時に、ユーザ定義組織ユニットおよびユーザ定義階層にもとづく管理連結も実行することができます。事業連結では、自動化によって連結プロセスを大幅に加速することができます。

残高差異処理には、為替関連差異の自動転記や、レター/E メール/FAX の自動登録、残高差異を調整するための組織単位間の処理などがあります。SEM-BCS では、合併/買収、各種の外貨換算方法、連結規則の変更の影響などを明らかにするために、連結シミュレーションを行うことができます。

内部向けおよび外部向けの連結を、同じデータ基盤にもとづいて行うことができます。これにより、財務会計システムおよび管理会計システムを統一することができます。しかし、管理連結のデータ構造は柔軟に設計されており、得意先グループ、仕向地、製品グループ、流通チャネルの連結収益などを分析することができます。

事業連結では、利益計算を内部組織単位レベル、法人組織レベル、および必要なグループレベルで自動化することができます。前もって必要な調整や配分を定義して、自動転記されるようにすることができます。

事業連結機能は、計画データの連結やレポートのために SEM-BPS や企業業績モニタでも使用されます。事業連結は連結エンジンの形式で関連機能を提供します。

## ステークホルダ管理

企業の長期的な成功は、各種ステークホルダグループと堅固なパートナーシップを築く能力に左右されるようになっています。ステークホルダグループのうち、最も重要なものは投資家、アナリスト、得意先、従業員、パートナ、サプライヤ、社会グループ、政府機関です。ステークホルダグループとの良好かつ安定した関係は“無形の財産”です。こうした関係は、企業の資本市場での価値に影響します。このため、こうした関係を育むことは、バリューベースマネジメントのきわめて重要な要素となっています。

ステークホルダ管理では、さまざまなステークホルダグループへの企業戦略、現在の計画データ、戦略的イニシアチブの伝達を支援します。しかし、こうした伝達はすべてが一方方向ではありません。企業は、ステークホルダの期待を明らかにして、企業の戦略的管理プロセスに組み込むことになります興味を示しています。

インターネットは最適な伝達手段ですが、郵送など従来の方法もサポートされています。送信電子メールのほかに、ステークホルダが既知かどうかチェックすることで受信電子メールも処理されます。個人投資家など特定のステークホルダグループは、非常に数が多い可能性があり、大量の情報が必要なことがあります。このようなグループの情報交換は、時間とコストのかかる業務です。ステークホルダ管理では、投資家関連の問合せをワークフロープロセスによって、半自動で処理することができます。

このソリューションでは、ステークホルダデータベースを管理して伝達機能をサポートします。このデータベースにより、企業は適正な費用で記名株を発行および管理し、株主構造をしっかりと監視することができます。ステークホルダ管理を使用することで、企業はより積極的にアナリストや資本市場の期待に対応することができます。

## 企業業績モニタ

SAP SEM の戦略的管理および業績測定により、企業は戦略を迅速に実行し、組織全体の事業業績を管理することができます。

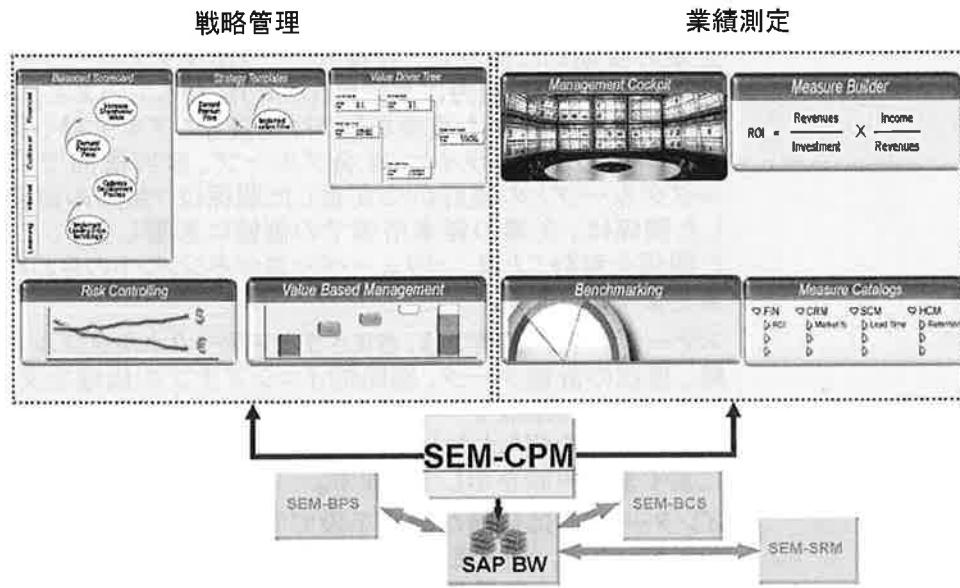


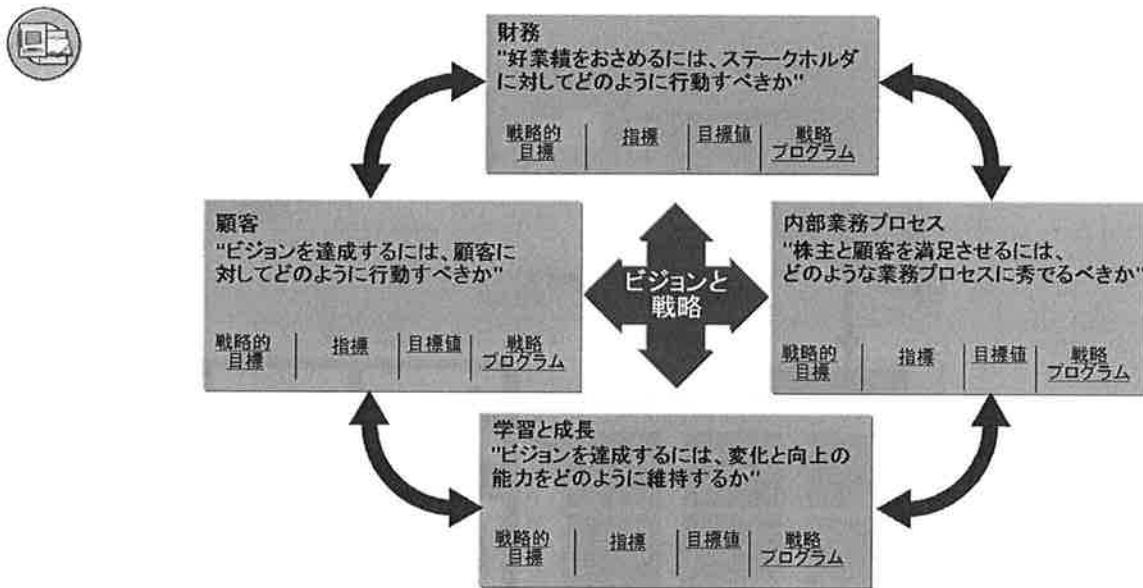
図 130: 企業業績モニタ

バランススコアカードは、主として、戦略を必要に応じて細分化し事業全体に伝達するためのフレームワークを提供します。このため、企業戦略を中長期にわたる分析やフィードバックを通じて推進する主要指標を主に扱います。言い換えると、四半期ごとの二重フィードバックループ報告に使用されるツールで、戦略への挑戦と推進に使用します。

マネジメントコックピットは、戦略的業績と事業業績の、より広範囲の分析を中心に扱います。言うまでもなくこれらの2ツールには類似点もあり(背後にある理論や視点などは非常に類似しています)、組み合わせて使用するとさらに効果が得られます。マネジメントコックピットで月次レポートを作成することにより、戦略に気を取られすぎることなくターゲットを達成できるかどうかに集中することができます。

### バランススコアカード

バランススコアカードは、事業戦略を理解しやすく、伝達しやすい、有意義な目標に変換するツールです。業務処理の財務面と非財務面を統合します。個々の目標は、財務、顧客、内部業務プロセス、または学習と成長などの視点に割り当てられます。



出展：バランススコアカードコラボレイティブ

図 131: バランススコアカード

**財務:** 株主の視点から見た、成長と収益性のための戦略。

**顧客:** 顧客の視点から見た、価値の創造と差別化のための戦略。

**内部業務プロセス:** 顧客と株主の満足度を高めることを目的とした、各種業務プロセスで卓越するための優先事項。

**学習と成長:** 組織の変化、改革、成長を支援する社風を生み出すための指標。スコアカードの視点はそれぞれの焦点とともに示されます。各視点は、戦略的目的およびその目的に割り当てられた指標と戦略プログラムで構成されます。

### マネジメントコックピット

マネジメントコックピットは、企業の意思決定のベースとなるすべてのデータを処理するために、高品質なグラフィックとともに使用するツールです。このデータは、企業の内部データと外部データの両方で構成される場合があります。たとえば、企業の投資戦略と金融市场の現状の関係を説明することができます。

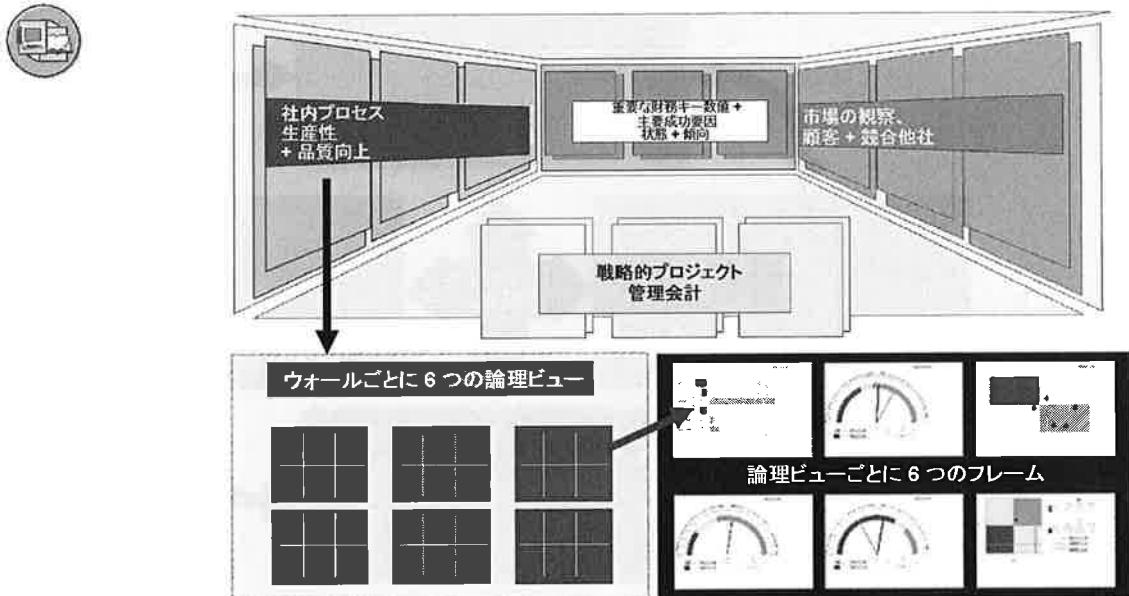


図 132: マネジメントコックピット

視覚的な情報単位によって経営陣は複雑な状況も一目で把握できることから、意思決定が容易になり加速されます。

標準的なコンセプトに従い、マネジメントコックピットルームには、財務キー数値および主要成功要因の黒いウォール、市場、顧客、および競合他社分析の赤いウォール、内部プロセス監視用の青いウォール、そして戦略的プロジェクト監視用の白いウォールの4つのウォールがあります。

各ウォールは、達成すべき特定のキー数値を示します。指標は、会計管理、ロジスティクス、人事管理のデータを自由に組合せることができます。事前定義されたグラフィック、また視覚的な情報単位を配置すべく考え抜かれた構成によって、データをプレゼンテーションに耐えうる情報に簡単に変えることができます。

ただし、要約表示された主要指標もマネージャのオフィスで進行中の企業戦略として非常に重要です。SAP SEM は容易な操作性、トレーニングが不要なナビゲーション、さまざまなユーザインターフェース、各種のグラフィカル表示オプションを提供することで、これらをサポートします。

**論理ビュー:** 論理ビュー要素はウォール要素の下位にあります。1つのウォール要素は最大6つの論理ビューから構成されます。論理ビューには、特定タイプの情報を要約する機能があります。

また論理ビューは、一般的な業務要素(製品品質など)を定義するのにも使用できます。この要素は複数のキー数値(不良品比率、販売返品、保証など)から発生するものです。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 基本レポート、高度な分析、および戦略的計画立案に関するタスクの概説
- SAP Business Suite 内でのレポート、分析、および戦略的計画立案のサポートについての説明



## 章のまとめ

以下について学習しました。

- 基本レポート、高度な分析、および戦略的計画立案に関するタスクの概説
- SAP Business Suite 内でのレポート、分析、および戦略的計画立案のサポートについての説明

## 関連情報

- 関連する用語集リンクについては、次のサイトを参照してください。  
[help.sap.com/content/additional/glossary](http://help.sap.com/content/additional/glossary)



## テスト

1. SAP ERP システムで一般に行われているデータ処理タイプは \_\_\_\_\_です。  
空白に適切な答えを記入してください。
  
2. OLAP 環境では、データは短期間しか保存されません。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正.  
 誤.



## 解答

- SAP ERP システムで一般に行われているデータ処理タイプは OLTP です。

解答: OLTP

オンライントランザクション処理 (OLTP) は、SAP ERP システムで一般的に行われるデータ処理タイプです。

- OLAP 環境では、データは短期間しか保存されません。

解答: 誤

データウェアハウス領域では、包括的な履歴データが必要とされます。

# 8 章

## SAP NetWeaver

### 章の概要

この章では、SAP NetWeaverについて概説します。



### 章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- SAP NetWeaver のサブエリアの列挙
- SAP NetWeaver Application Server の、全 SAP システムのアプリケーションプラットフォームの中心基盤としての重要性についての概説
- アクセステクノロジーとしての SAP NetWeaver Portal の重要性に関する概要説明
- SAP NetWeaver インフォメーションインテグレーションという総合的なコンセプトにおける SAP NetWeaver Business Intelligence と SAP NetWeaver Master Data Management の位置付けに関する説明
- レポートに利用できるオプションの概説
- 統合テクノロジーコンポーネントとしての SAP NetWeaver Exchange Infrastructure の重要性に関する概要説明

### 章の内容

|                                |     |
|--------------------------------|-----|
| レッスン: SAP NetWeaver: 概要 .....  | 256 |
| レッスン: ピープルインテグレーション .....      | 265 |
| レッスン: インフォメーションインテグレーション ..... | 280 |
| レッスン: プロセスインテグレーション .....      | 291 |

## レッスン: SAP NetWeaver: 概要

### レッスンの概要

このレッスンでは、SAP NetWeaver のサブエリアについて学習します。アプリケーションプラットフォームの詳細について説明します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- SAP NetWeaver のサブエリアの列挙
- SAP NetWeaver Application Server の、全 SAP システムのアプリケーションプラットフォームの中心基盤としての重要性についての概説

### ビジネスシナリオ

IDES 社では、最新のテクノロジーを使用してアプリケーションを実行したいと考えています。現行のすべてのアプリケーションがすべての部門ニーズを満たしているわけではないため、特別に開発された機能強化が必要になります。

### 位置付け

ほとんどの組織は統合エンタープライズのメリットを明確に認識しており、そのメリットを享受したいと考えています。しかし、異種システムの統合は IT 部門にとって常に大きな課題です。ポイントツーポイント統合を使用して個々のプロジェクトに異なるシステムを組み合わせると、コストが高くなつたため、このタイプの IT 環境はいっそう柔軟性がなくなります。複雑さとコストを削減するには、単一プラットフォームですべてのユーザ、情報、ビジネスプロセスを統合する必要があります。SAP NetWeaver によって、このようなプラットフォームが確保されます。

SAP NetWeaver は、TCO (総所有コスト) の削減をサポートする包括的な統合とアプリケーションのプラットフォームです。このプラットフォームでは、会社間およびテクノロジー間で、すべてのユーザ、情報、ビジネスプロセスが統合されます。SAP NetWeaver は、Web サービスにもとづく統合プラットフォームでもあります。事前設定されたビジネスコンテンツにより、それぞれのカスタマで必要となる統合作業が軽減されます。他のプラットフォームとは異なり、SAP NetWeaver は、Microsoft .NET および IBM WebSphere との互換性と拡張性を備え、Java 2 Platform Enterprise Edition (J2EE) にも対応しています。そのため、SAP プラットフォームでは、IT システム内の既存の投資と従業員の能力が有効に活用されます。

これらの利点により、SAP ソリューションだけでなく IT のランドスケープ全体において、TCO の大幅な削減が達成されます。SAP NetWeaver は、価値の追加という形での既存の IT 投資を活用を促進するとともに、将来の企業間プロセスの基盤となります。

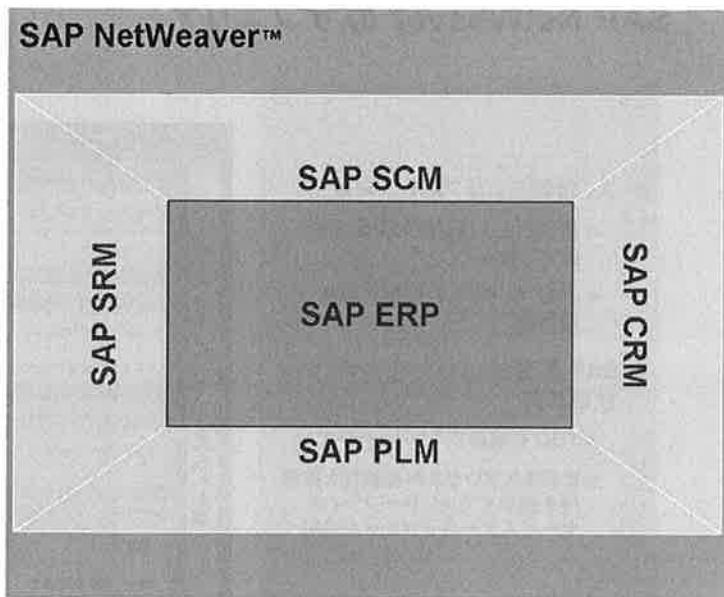


図 133: SAP NetWeaver の位置付け

SAP NetWeaver はまた、SAP xApps、SAP Business Suite などすべての SAP アプリケーションの技術プラットフォームであり、選定されたパートナのソリューションの基盤としても機能します。SAP NetWeaver の使用による基幹エンタープライズプロセスのスムースな処理を支える特性は、信頼性、セキュリティ、および拡張性です。

## SAP NetWeaver のサブエリア

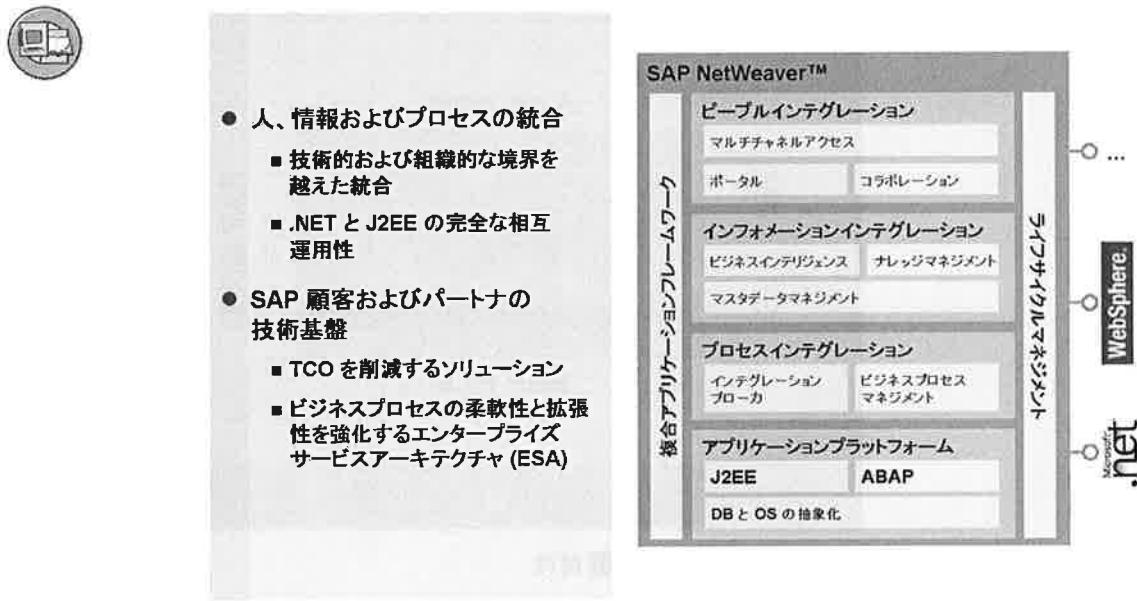


図 134: SAP NetWeaver のサブエリア

SAP NetWeaver は、オープンテクノロジーとオープンスタンダードにもとづく以下の機能により、統合とアプリケーションの強力なプラットフォームとなります。

### ピープルインテグレーション

ピープルインテグレーション(人の統合)によって、従業員に、作業ができるだけ早く効率的に実行するために必要な情報と機能を確保することができます。ここでは、**SAP NetWeaver Portal** の機能が中心的な役割を果たします。

ピープルインテグレーションのサブエリアは次のとおりです。

- ポータル:** 異種 IT 環境に対して、パーソナライズされたロールベースの統一ユーザアクセスを提供します。得意先、仕入先、パートナ企業、および従業員が関わるビジネスプロセスの効率が大幅に向上します。
- コラボレーション:** チームまたはコミュニティ内での動的でコスト効率のよい通信を促進します。これには、仮想コラボレーションルームや、メッセージフォーラム、チャット、チームカレンダー、アプリケーション共有、文書保管など、リアルタイムで共同作業するためのツールが含まれます。
- マルチチャネルアクセス:** PC、インターネット、モバイルデバイス、スピーカー、コントロールシステムを介した企業システムへのアクセスを可能にします。これにより、ビジネスの現場にビジネスプロセスを移すことができます。

## インフォメーションインテグレーション

インフォメーションインテグレーション(情報の統合)サブエリアによって、社内のすべての構造化情報および非構造化情報へのアクセスが可能になります。このサブエリアにおける主要コンポーネントは、評価を目的としてさまざまなシステムのデータを提供する **SAP NetWeaver Business Intelligence** (SAP NetWeaver BI) です。

インフォメーションインテグレーションのサブエリアは次のとおりです。

- **ビジネスインテリジェンス:** 業務上重要な情報の取込、分析、配信を可能にします。これには、カスタマイズされたインタラクティブなレポートとアプリケーションを開発および公開するツールの拡張パッケージが含まれます。これにより、すべてのレベルで意思決定が支援されます。
- **ナレッジマネジメント:** テキストファイル、プレゼンテーション、オーディオファイルなど構造化されていない情報を管理し、これらのコンテンツへのアクセスを可能にします。これには、統合検索、コンテンツ管理、情報配信、分類およびワークフロー機能、外部コンテンツ統合のためのオープンアーキテクチャが含まれます。
- **マスタデータマネジメント:** 異種 IT 環境における会社全体でのデータおよび情報の一元化を実現します。マスタデータマネジメントは、ビジネスパートナ情報、製品マスタデータと構造、技術システムに関する情報などのマスタデータの統合、調和、および集中管理のためのサービスを提供します。

## プロセスインテグレーション

プロセスインテグレーション(プロセスの統合)では、異種システムランドスケープでのシステムの境界を越えたビジネスプロセスの実行が可能になります。これは、XML データパッケージやワークフローシナリオなどによって実現されます。ここでは、**SAP NetWeaver Exchange Infrastructure** (SAP NetWeaver XI) が中心的な役割を果たします。

プロセスインテグレーションのサブエリアは次のとおりです。

- **インテグレーションプローラ:** さまざまなソースからのアプリケーションコンポーネント間の XML/SOAP ベースの通信を認識します。インテグレーションプローラによって、ソフトウェアコンポーネント、インターフェース、マッピング、およびオープンスタンダードにもとづくコンテンツベースの配信制御のルールを定義できるようになります。
- **ビジネスプロセスマネジメント:** 動的な IT 環境でのプロセスのモデリングと迅速化を可能にします。価値創造チェーン全体で、既存のアプリケーションを適応性のある統合プロセスと結合することができます。

## アプリケーションプラットフォーム

アプリケーションプラットフォームは、1 つの環境で J2EE と ABAP の両方をサポートします。データベースとオペレーティングシステムの独立性、プラットフォームに依存しない Web サービスおよび企業アプリケーションの完全な

サポート、および承認された標準にもとづくオープン環境を保証します。アプリケーションプラットフォームの中心コンポーネントは **SAP NetWeaver Application Server** です。

## 概要

下図は、SAP NetWeaver のサブエリアと関連コンポーネント(および複数の特性プロパティ)をまとめたものです。

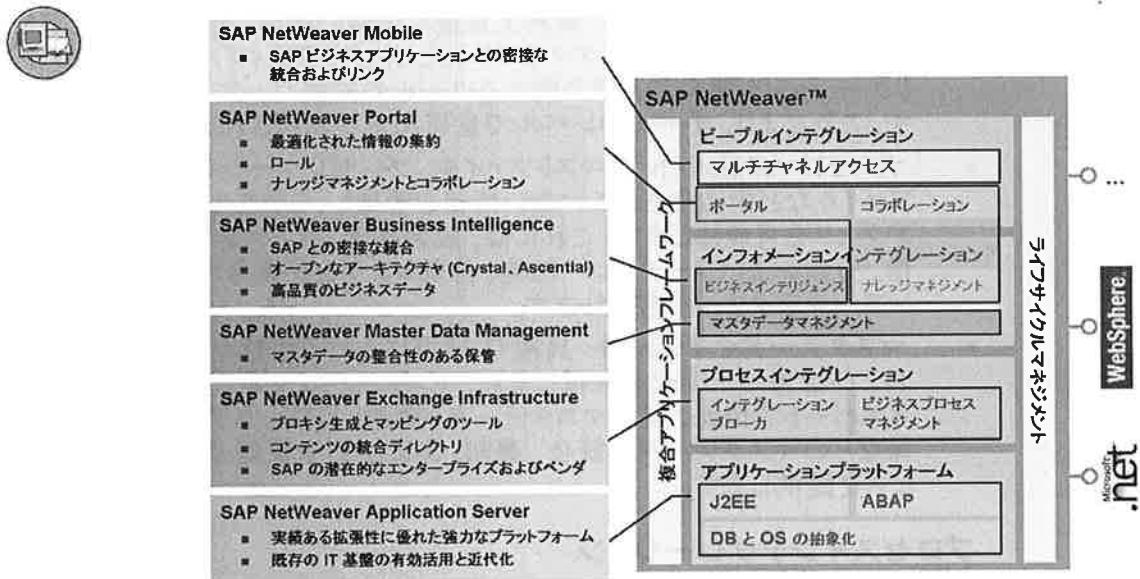


図 135: SAP NetWeaver コンポーネント

## アプリケーションプラットフォームの中心コンポーネントとして機能する SAP NetWeaver Application Server

このセクションでは、SAP NetWeaver アプリケーションプラットフォームについて詳しく説明します。アプリケーションプラットフォームにおける中心コンポーネントは SAP NetWeaver Application Server (SAP NetWeaver AS) です。

さまざまな SAP システム (SAP ERP Central Component や SAP CRM など) の機能を詳しく見ていくと、大まかに 2 つのカテゴリに分類することができます。

- ベーシス機能
- アプリケーション機能

アプリケーション機能はそれぞれの SAP システムごとに明らかに異なります。そのため、たとえば SAP CRM システムではマーケティング処理 (マーケティング計画/キャンペーン管理) を実行できますが、SAP ERP Central Component (SAP ECC) ではこのような処理は実行できません。一方、SAP ECC では店舗管理をマッピングすることができますが、SAP CRM にはこの機能はありません。ベーシス機能 (出力デバイスの設定や各種言語のサポートなど) につ

いて言えば、2つのSAPシステム間での大きな違いはありません。これは、どちらのシステムにもSAP NetWeaver ASのテクノロジーが使用されているためです。次の図はこの関係を示したものです。

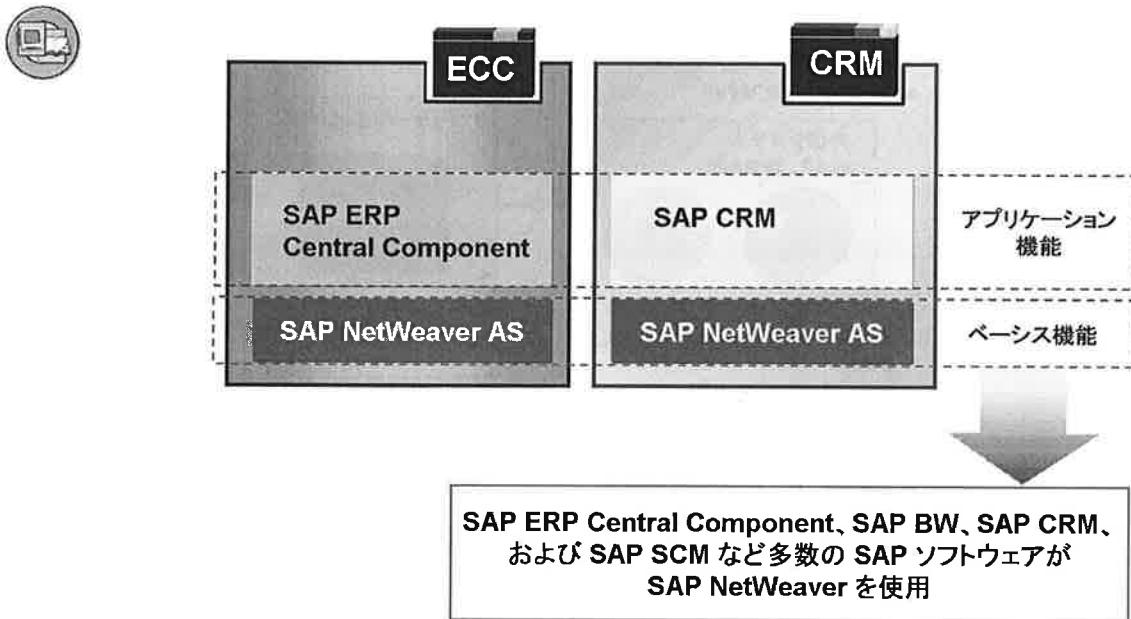


図 136: 各種 SAP システムに組み込まれている SAP NetWeaver AS

SAP NetWeaver AS では、ABAP プログラムの従来の実行時環境に加えて、J2EE ベースの Java プログラムの実行時環境である SAP J2EE Engine を使用することができます。オペレーティングシステムおよびデータベースを制御する機能と併用することにより、SAP NetWeaver AS は SAP NetWeaver のアプリケーションプラットフォームとなります。

SAP NetWeaver AS には以下の特性があります。

- 10 年以上の歳月をかけて進化し、十全にテストされた、信頼性の高い実行時環境
- トップクラスのセキュリティ標準を満たす、複雑なビジネスプロセスの実行を可能にするフレームワーク
- 信頼性が高く、使いやすい開発環境
- HTTP(S)、SMTP、ユニコード、HTML、XML などのオープンな技術標準のサポート
- SAP ベーシスから継承された高い拡張性
- さまざまなオペレーティングシステムとデータベースのサポート



### SAP NetWeaver Application Server の機能:

- マルチレベルのアーキテクチャ
- ABAP と Java プログラムのための信頼性のあるテスト済の実行環境
- 高度のスケーラビリティ



- オペレーティングシステム/データベース非依存
- 使いやすい開発環境
- 各種プロトコルのサポート (HTTP、RFC など)
- 複雑なビジネスプロセス実行のための最高のセキュリティ標準

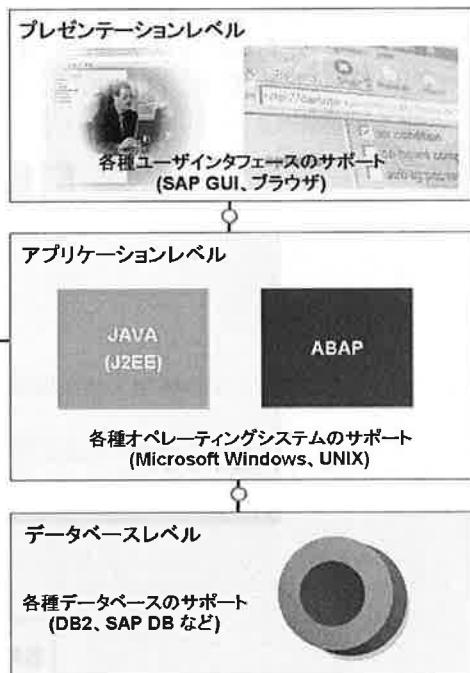


図 137: SAP NetWeaver AS の特性と構造

## 利点

次の図に、SAP NetWeaver の利点をいくつか示します。



図 138: SAP NetWeaver の利点

**オープン性と拡張可能性:** SAP NetWeaver の機能では、各企業が多大な投資を行ったテクノロジーである IBM WebSphere および Microsoft .NET との完全な互換性および拡張可能性が実現されています。SAP では、IBM および Microsoft のソリューションとの相互運用性を保証し、開発方針、販売活動、コンピューティングセンタおよびサポートセンタを支援します。SAP NetWeaver と IBM および Microsoft のソリューションとの統合はすべてのレベルに及ぶため、人、情報、プロセスの統合にも適用されます。したがって、システムと従業員の能力における既存の IT 投資を最大限に活用することができます。

**迅速な統合:** SAP NetWeaver は重要なすべてのレベルでの完全な企業統合を実現します。また、事前設定された有用なビジネスコンテンツも提供します。この汎用ビジネスコンテンツを SAP NetWeaver のあらゆるレベルで使用できるため、導入時間が大幅に短縮され、その結果、投資の回収を迅速化することができます。SAP NetWeaver が提供するビジネスコンテンツには、次のようなものがあります。

- 最適なピープルインテグレーションのための事前設定ポータルコンテンツおよび事前定義ロール
- 迅速なインフォメーションインテグレーションのためのレポートおよび分析画面
- ビジネスプロセスをさまざまなバックエンドシステムにリンクするインターフェース

**TCO の削減:** 技術プラットフォームによって、これまでに投資した IT リソースが統合され、すでに使用しているシステムが効果的に組み込まれるため、既存の IT 投資が活用されます。SAP NetWeaver は、TCO を最小限に抑えた、基幹アプリケーションのソフトウェアライフサイクル全体を支援します。技術プラットフォームは、信頼性の高いエンタープライズソリューションの開発に過去 30 年にわたって取り組んできた SAP の経験から生まれたものです。この実績から、高い拡張性、ダウントIMEのない継続的な稼働、高いセキュリティ標準が実現されています。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- SAP NetWeaver のサブエリアの列挙
- SAP NetWeaver Application Server の、全 SAP システムのアプリケーションプラットフォームの中心基盤としての重要性についての概説

## 関連情報

SAP NetWeaver の追加情報については、[www.sap.com/netweaver](http://www.sap.com/netweaver) にアクセスするか、または SAP サービスマーケットプレイスのユーザ ID をお持ちの場合は、SAP サービスマーケットプレイスでクリックリンク /netweaver にアクセスしてください。

## レッスン：ピープルインテグレーション

### レッスンの概要

このレッスンでは、SAP NetWeaver Portalについて学習し、その利点を理解します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- アクセステクノロジーとしての SAP NetWeaver Portal の重要性に関する概要説明

### ビジネスシナリオ

従業員は、各自のデスクトップやインターネット端末からさまざまなシステムにアクセスする必要があります。システムアクセスのすべてで要求されるパスワードを統一してほしいと、従業員から要求されています。

### エンタープライズポータルの使用理由

SAP NetWeaver Portalを使用すると、サービスに適したインターフェースを介してすべての関連データにアクセスすることができます。また、構造化されていないナレッジを具体化されたナレッジに変換することもできます。SAP NetWeaver Portalは、SAPシステムと非SAPシステム、データウェアハウス、およびデスクトップ文書の情報だけでなく、Webコンテンツやサービスの情報を中央の統一されたプラットフォーム上に集約します。

SAP NetWeaver Portalは、社内のすべてのアプリケーション、ビジネスインテリジェンス機能、文書、およびWebサービスの集中エントリポイントを提供します。ここではユーザが主役を演じます。ユーザはさまざまなソースの情報を使用して、社内外で相互に連携して作業を行うことができます。各ポータルは、ビジネス案件のすみやかな実現と問題解決に最適の作業環境が構築できるよう構成されます。これにより、事前定義されたコンテンツの広範囲にわたる供給、ビジネスパッケージ、迅速な導入、および類似製品をしのぐ投資回収率の向上が保証されます。このようにして、ポータルは企業とそのビジネスパートナーのためのユーザ指向のプラットフォームとなります。

今日の e ビジネス業界では、企業の IT ランドスケープが非常に複雑化する傾向があります。こうした IT ランドスケープは、情報、アプリケーション、およびサービスで構成されています。

- 従来、CRM、ERP (SAP ERP Central Component)、レガシーアプリケーションなどの、アプリケーションシステムに格納された情報はそれぞれのシステム上でのみ利用することができました。このデータを各アプリケーションの外部でも利用することができれば、ユーザの能率は向上します。
- 複合的な情報の量が増えるにつれて、ユーザの意思決定支援に必要とされる、データウェアハウスでのデータとレポートの検索がますます困難になっています。
- Web は、従業員にとって最も重要な情報ソースの 1 つとなっています。今日の課題の 1 つは、従来の Web 情報のアクセス方法と使用方法を、他のエンタープライズシステムでのインターネットとインターネットのインテリジェントな統合に置き換えることです。
- テキスト、電子メール、CAD 図面、およびその他の構造化されていないデータの管理や維持に、非常に時間がかかる場合もあります。

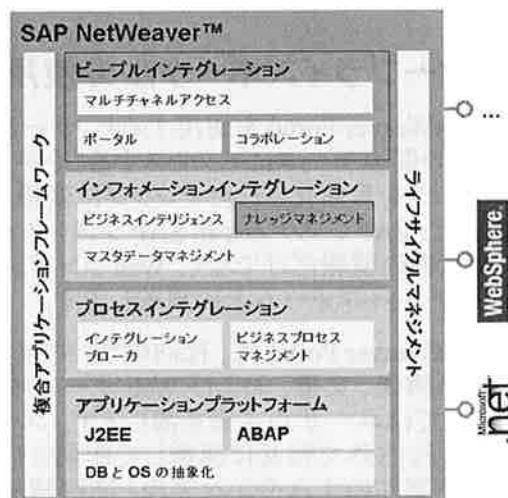


図 139: SAP NetWeaver: ピープルインテグレーション

SAP NetWeaver Portal は、統合およびアプリケーションプラットフォームである SAP NetWeaver の主要コンポーネントです。これには、ピープルインテグレーション (人の統合) のほかに、ナレッジマネジメント (KM) の形式によるインフォメーションインテグレーション (情報の統合) も組み込まれています。

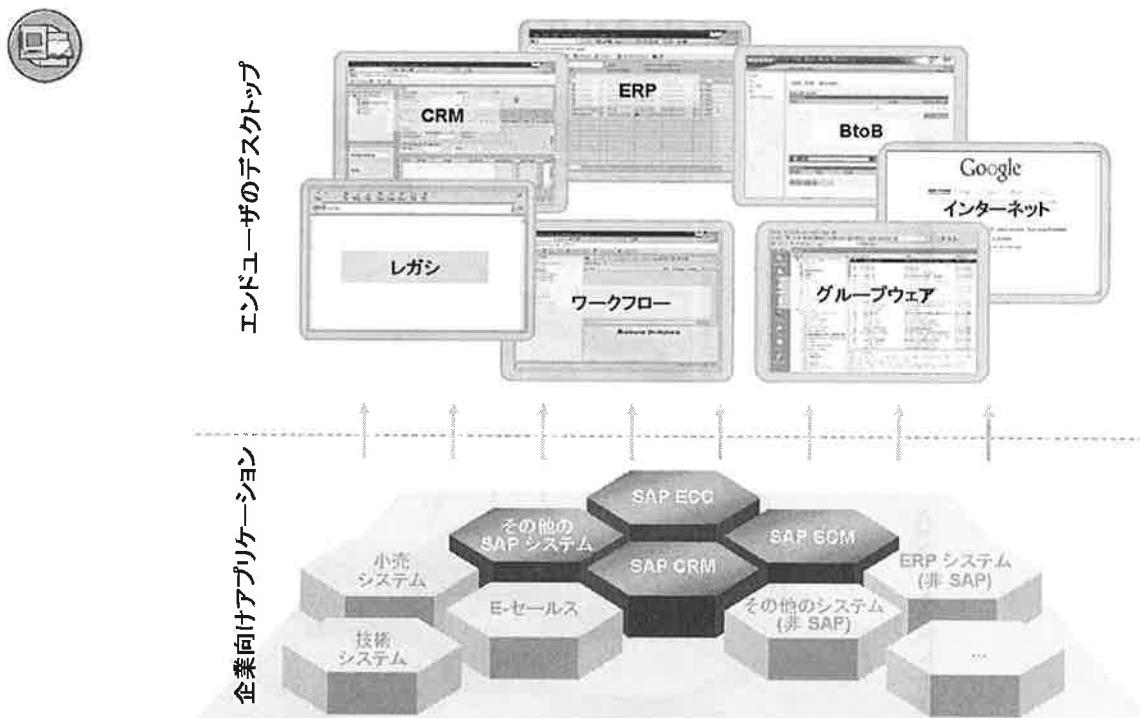


図 140: 課題: 複雑なシステムランドスケープ

ユーザが各自の業務を遂行するには、ランドスケープのすべての領域へのアクセスが必要です。通常、このアクセスは、複数回のログオンを必要とする専用のプログラムを使用して行われます。エンタープライズポータルの主要な目的の1つに、情報、アプリケーション、およびサービスへのアクセスの容易化と高速化があります。これは、シングルサインオンを使用したユーザアクセスを許可することで解決されます。対象グループを、特定の会社の従業員に限定する必要はありません。外部のポータルを使用して、パートナ、得意先、またはその他の関係者までを対象に含めることができます。

## SAP NetWeaver Portal の特性

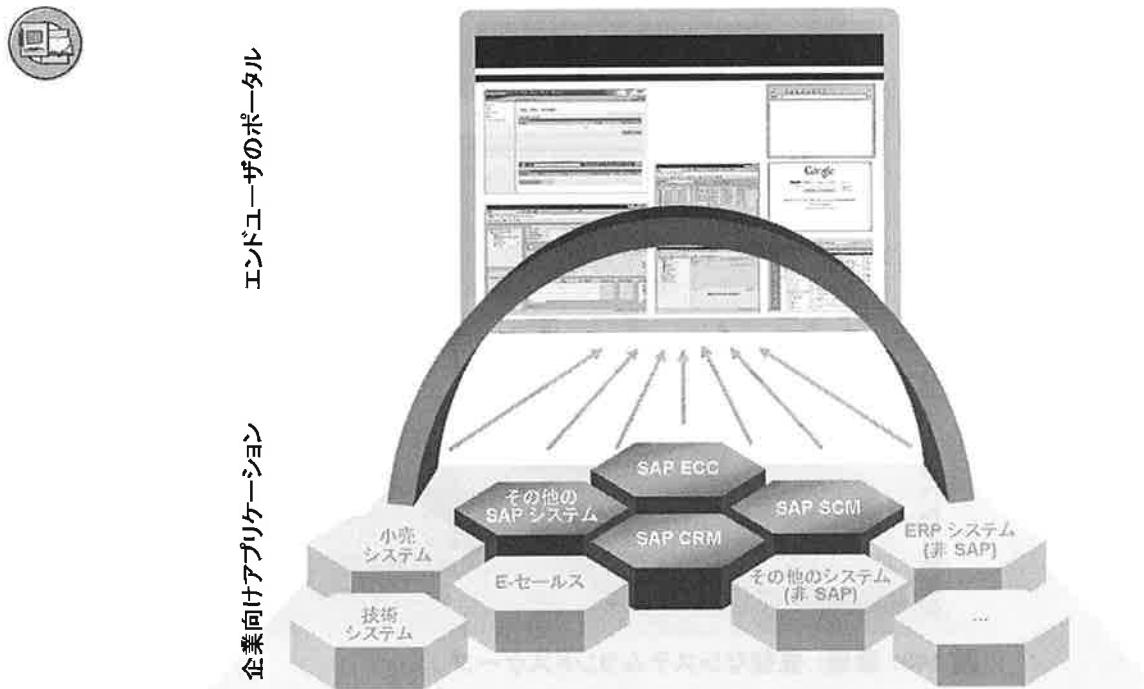
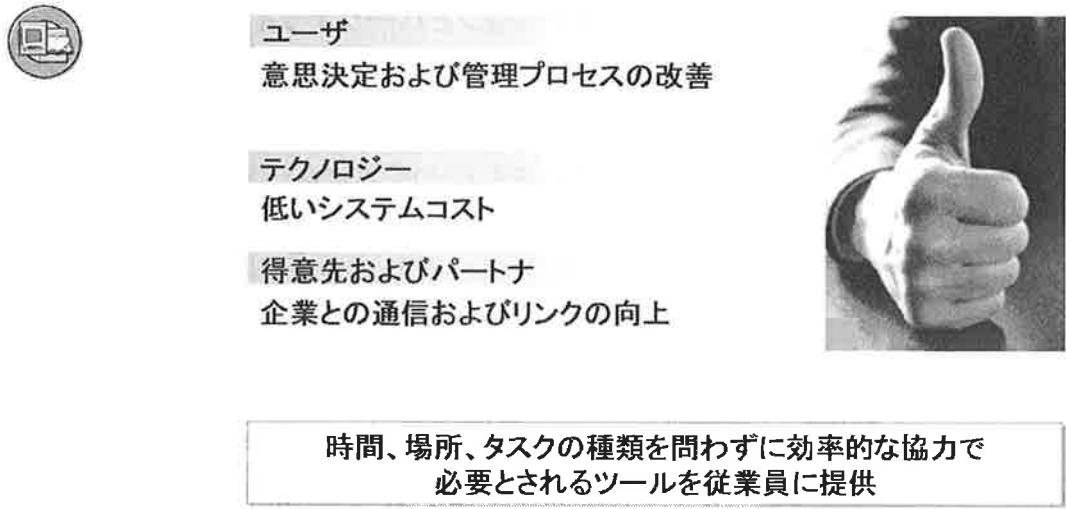


図 141: ソリューション: SAP NetWeaver Portal

SAPには、ポータルプロバイダとしての長年の経験があります。SAP NetWeaverコンポーネント **SAP NetWeaver Portal**は、新世代のエンタープライズポータルです。このソリューションは、以下を実現するものです。

- ・ 企業のあらゆる種類のデータとアプリケーションの統合、および異種ITランドスケープの制御
- ・ 既存の投資を保護するオープンスタンダードの最大活用
- ・ 具体化されたナレッジへの構造化されていない情報の変換、および会社間コラボレーション
- ・ 企業内の各ロールに従った、ユーザへのエンタープライズポータルコンテンツの提供



時間、場所、タスクの種類を問わずに効率的な協力で  
必要とされるツールを従業員に提供

図 142: SAP NetWeaver Portal の利点

SAP NetWeaver Portal に関する技術事項:

- コア機能は Java で記述されています。J2EE 実行時環境が必要です。これは、SAP J2EE Engine によって提供されます。
- このアーキテクチャは完全にオープンです。SOAP、UDDI、JCA、JAAS、LDAP、X.509、XML、および ICE をサポートしています。
- このポータルは、ディレクトリサービスの完全サポート、デジタル証明書、SSL (セキュアソケットレイヤ) プロトコルなどの効率的なセキュリティ機能を備えています。
- このポータルは拡張性が高く、多数のユーザに対応することができます。
- (時と場所に依存しない) モバイルデバイスをサポートしています。

## ユーザインターフェース: ナビゲーションとパーソナライゼーション

一般に、ユーザは Web ブラウザでポータルにアクセスします。この場合、シングルサインオンによって他のシステムへのログオンが処理されるため、ユーザは 1 回ログオンするだけで済みます。標準出荷では、ブラウザウインドウは以下の 3 つの領域に分割されています（この設定はユーザの要件に合わせて容易に変更できます）。

- ヘッダエリアは第一のエントリポイントです。ヘッダエリアは、トップヘッダとトップレベルナビゲーションバーで構成されています。

通常、トップヘッダには会社のロゴ、現在のユーザの名前、パーソナライゼーション、ヘルプ、ログオフなどの機能へのリンクが表示されます。トップレベルナビゲーションバーは、そのポータル階層の上位 2 つのレベルを表すタブで構成されています。

- 詳細ナビゲーションを使用すると、ナビゲーションパネルのより深い階層レベルにアクセスすることができます。この仕組みは、SAP システムの SAP Easy Access メニューと似ています。

コンテキストによっては、ドラッグ & リレート先や関連リンクを示す他の領域がナビゲーションパネルに表示されていることもあります。

- ユーザが特定のポータル階層を呼び出すと、コンテンツエリア（実際の作業用のインターフェース）が状況に応じて変更されます。複数の iView で構成されるページまたは 1 つの iView で構成されるページが表示されます。

技術的に見ると、iView は、情報ソースから情報を呼び出してポータルのコンテンツエリアに表示する小規模なプログラムです。ポータルは、必要なツールすべてを（iView の形式で）収めた“個人用ツールボックス”と見なすことができます。

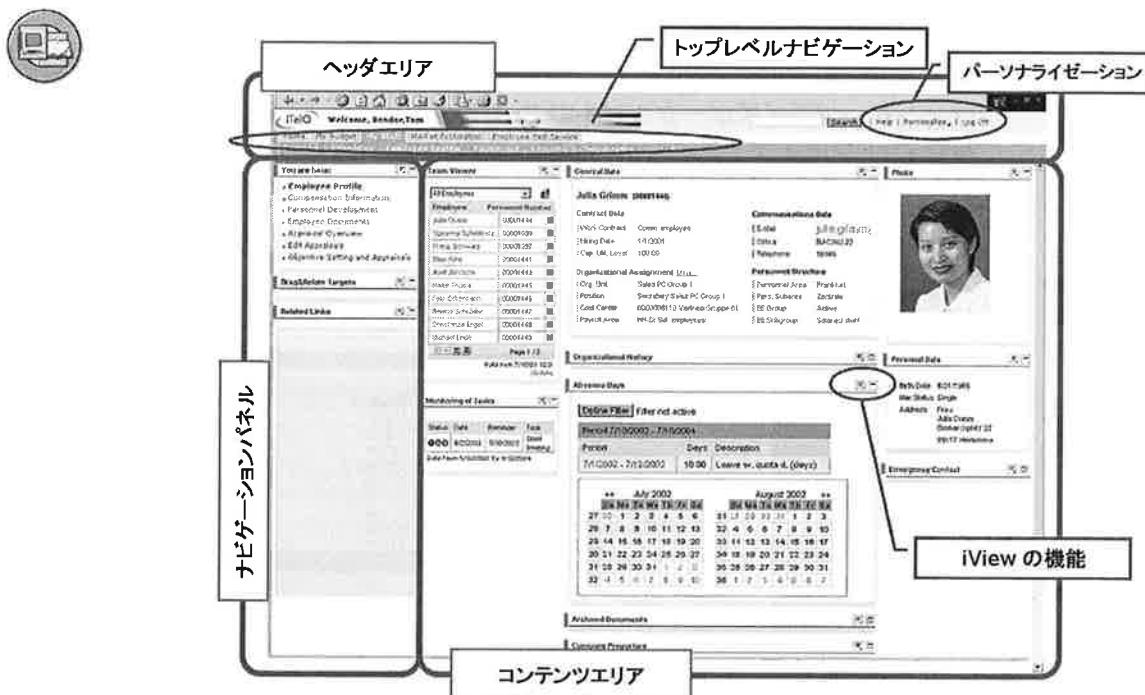


図 143: ユーザインターフェース

ポータルには、ユーザが使用できるさまざまなパーソナライゼーション機能があります。

- 管理者は、ポータル管理を使用して、社内の特定のロールに割り当てるコンテンツを定義することができます。ポータルでのユーザへのロールの割当によって、そのユーザが(ページに割り当てられた iView で)実行できる機能も規定されます。
- ポータル管理者が許可していれば、ユーザはロールベースのコンテンツを各自でポータルに配置することができます。この操作には、各ページのレイアウトの設定と iView の選択および割当が含まれます。
- ユーザがログオンすると、使用しているブラウザで指定されている言語設定が分析されます。この言語設定は、ユーザが必要に応じて変更することができます。製品出荷マトリクス(PAM)では、サポート対象の Web ブラウザと言語の一覧を示しています。SAP サービスマーケットプレイスのクリックリンク /nw-ep を使用すると、SAP NetWeaver Portal のリリース別の PAM を検索することができます。
- ユーザは、フォントサイズ、色、背景イメージなどのプロパティを制御するポータルデザインを選択することができます。SAP では、プロジェクト使用時に最適なコントラスト表示など、複数のデザインを用意しています。ポータル管理者は、ツールを使用してエンタープライズポータルの全体のルックアンドフィールを設定することができます。この設定内容には、使いやすいロールベースのナビゲーション構造や、その会社のコード ID の使用などがあります。

## ユニフィケーション

今日では、製品間の類似性が一層顕著になってきています。しかし、この傾向はエンタープライズポータルにも該当するでしょうか。答えはノーです。ポータルウインドウにアプリケーションを並べて表示するだけのエンタープライズポータルが多いなか、SAP NetWeaver Portal では、統合の障害を克服して各種アプリケーションへの集中アクセスポイントを実現しました。



図 144: システムの境界を越えたドラッグ & リレート

革新的な統合およびナビゲーション機能により、ユーザには以下の利点があります。

- さまざまなシステム、アプリケーション、および情報ソースに格納されているデータおよび情報を仮想グループ化して、システムの境界を越えた活動を実現します。
- “論理関係”に従ってオブジェクトが配置されるため、タスクの実行速度を上げることができます。たとえば、未出荷の得意先受注に関する情報に迅速にアクセスするには、得意先受注番号をクリックして、受注コンポーネントにドラッグします。この操作で受注が表示されます。

このプロセスによって不必要的なステップが省略されます。出荷ステータスを照会する場合でも、Web ブラウザを呼び出して運送業者のインターネットアドレスを入力し、Web サイトにログオンして得意先受注データを入力する必要はありません。この一連の手順を 1 つのステップで行うことができます。

- 検索の時間が短縮でき、反復的なステップが解消されます。得意先受注番号を検索して、販売情報の入力を再度行う必要がなくなります。ユニフィケーションは、異種バックエンドアプリケーションのフロントエンド統合を実現する、すぐれた特許技術(ドラッグ & リレート)で構成されています。

## ビジネスパッケージ

SAP NetWeaver Portal を導入すれば、競合他社が自社のエンタープライズポータルのプログラミングに追われているときに、早くもポータルを活用した生産的な業務を開始することができます。これは、SAP NetWeaver Portal の場合、それぞれのタスクや部門に固有の要件を満たす事前定義済のポータルコンテンツを提供するビジネスパッケージを利用できるためです。ビジネスパッケージには、社内の IT システムのトランザクションや、レポート、文書などを配信する、多数の iView が組み込まれています。ビジネスパッケージによつて、エンタープライズポータル導入の高速化、生産性の向上、および投資回収率の迅速化が実現されます。

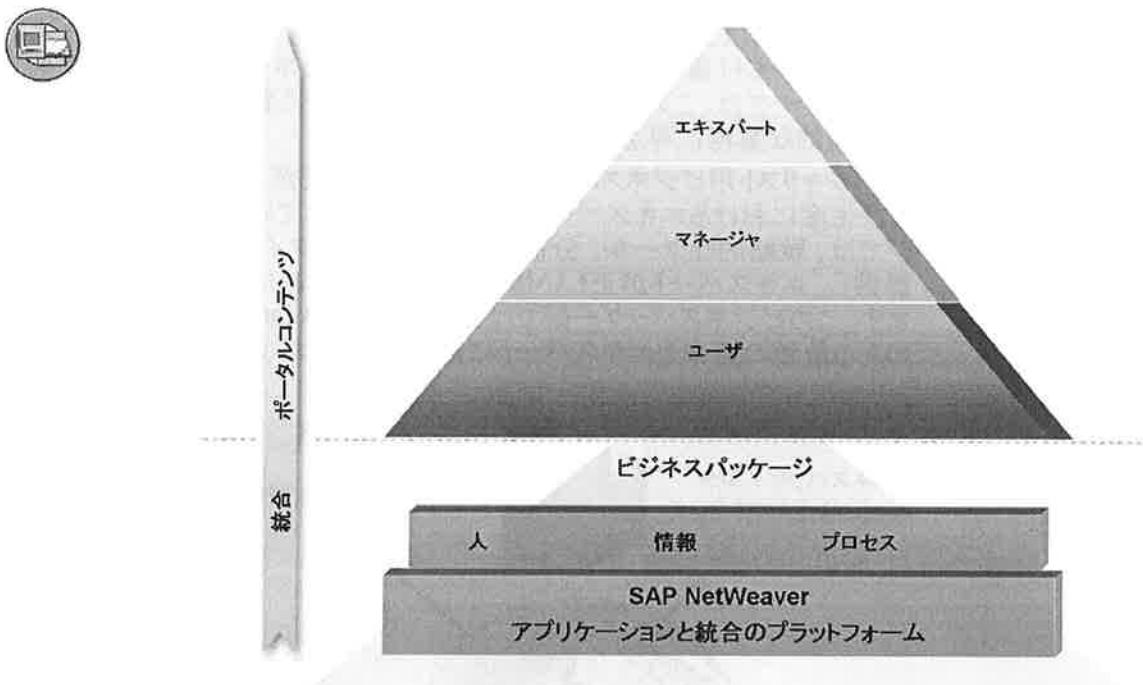


図 145: ビジネスパッケージによる事前定義済のポータルコンテンツの提供

ビジネスパッケージは、ユーザ、マネージャ、およびスペシャリストの要件を可能な限り満たすために、以下の3つのグループに分割されています。

- ユーザのビジネスパッケージは、社内のロールに関係なくエンタープライズポータルの全ユーザが実行可能なすべてのタスクを対象とします。初心者がエンタープライズポータル環境にできるだけ早く慣れて、安心してポータルを活用できるようにするのを助けています。これらのビジネスパッケージのコンテンツには、電子メール、タスクリスト、カレンダ、立替出張費の請求、福利管理の管理、従業員セルフサービス、eラーニング、従業員ディレクトリの検索などがあります。
- マネージャ用ビジネスパッケージでは、必要な情報を取得するための意思決定者による分析の効率化を図ることができます。また、このタイプのパッケージには、スタッフと予算を計画および管理するためのマネージャ用のツールも付属しています。部門長、チームマネージャ、およびプロジェクトリーダは、このツールによって、管理業務に費やす時間を減らして戦略的な業務に専念することができます。
- スペシャリスト用ビジネスパッケージは、会計、販売、マーケティング、および生産におけるエキスパートのニーズに対応しています。このパッケージでは、戦略的なツール、分析レポート、およびタイミングのよい警告を提供し、エキスパートが正しい情報を使用して迅速に対応できるようにします。このビジネスパッケージでは、多数のソースの中から正確で一貫性のある最新の情報をエキスパートに提供することができます。

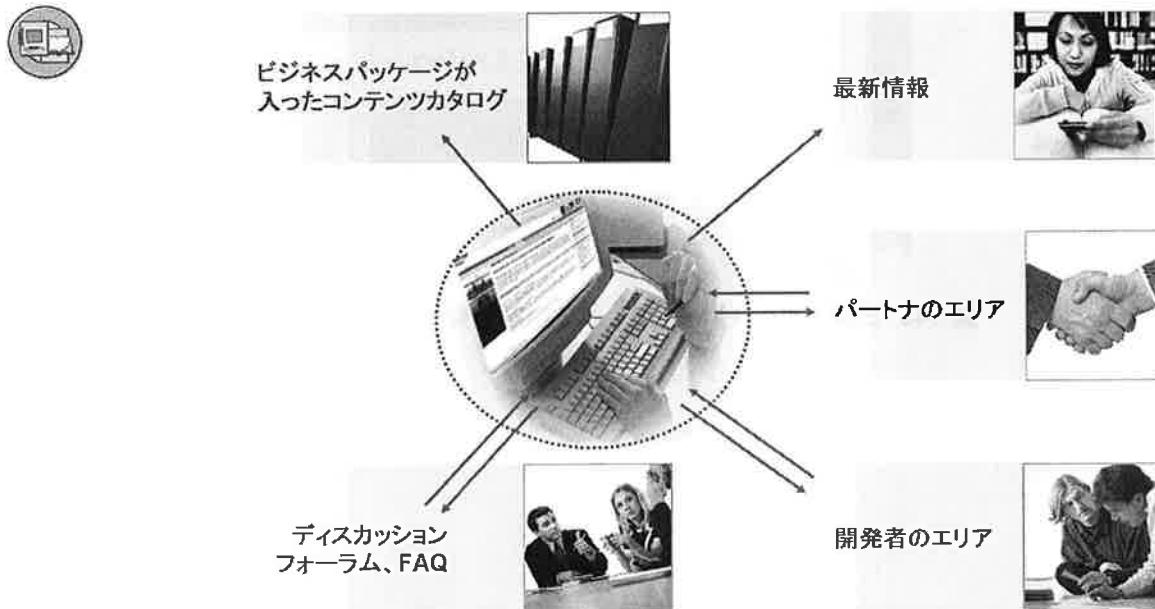


図 146: <http://sdn.sap.com>: ポータルコンテンツおよびその周辺

SAP は、<http://sdn.sap.com> でポータルコンテンツのセントラルマーケットプレイスを運営しています。コンテンツカタログには、ポータルコンテンツの現在の選択内容に関する情報が表示されます。SAP では、特定のユーザを対象とする

グループごとに分類して、ビジネスパッケージの形式でこれらのコンテンツを提供しています。登録ユーザは、これらのパッケージをダウンロードして SAP NetWeaver Portal に統合することができます。ビジネスパッケージを使用すると、追加の開発を行うことなく、“箱から出すだけ”でポータルを構築することができます。ビジネスパッケージは、事前設定され、対象が指定されたポータルコンテンツ（さまざまなレベルのユーザが利用できるロールベースの機能とプロセス）で構成されています。それぞれのパッケージには、特定のタスクに必要となる大量のコンテンツが組み込まれています。

ポータルコンテンツの開発者を対象としている領域があります。ポータル開発キット (PDK) は iView の作成用ツールです。以下のバリエントを無料でダウンロードすることができます。

- PDK for Java: SAP J2EE Engine 用の Java 開発ツール
- PDK for WebSphere: IBM WebSphere 用の Java 開発ツール
- PDK for .NET: Microsoft .NET Framework 用の開発ツール

PDK には文書、サンプル、テンプレートのほか、iView を作成するテキスト環境とウィザードが組み込まれています。開発者は、PDK の技術的なコンテンツ、FAQ 領域、およびディスカッションフォーラムを利用することもできます。

SAP では、オープンインターフェースの採用とツールの提供を通じて、お客様やパートナーが独自にインターフェースを作成できるように支援しています。パートナーは、SAP 開発者ネットワーク (SDN) を使用して、関心のあるユーザに自社のコンテンツ開発を公開することができます。

## ナレッジマネジメント

ナレッジマネジメント (KM) は、SAP NetWeaver Portal の主要コンポーネントであるばかりではなく、SAP NetWeaver インフォフォメーションインテグレーション (情報の統合) のコンポーネントの 1 つでもあります。オープンアーキテクチャにより、各種のソースから取得した構造化されていないコンテンツをまとめて、論理的かつわかりやすくユーザに示すことができます。ナレッジマネジメントには以下の領域があります。

- **コンテンツマネジメント:** 作成 → 承認 → 公開 → 文書の検索 → 文書の閲覧 → コメント → 文書のアーカイブといった、文書のライフサイクル全体に対応します。
- **検索と分類 (TREX):** 文書の全文検索と自動分類 (例: エンドユーザ文書 → 従業員セルフサービス → 休暇申請などの階層形式によるもの)。

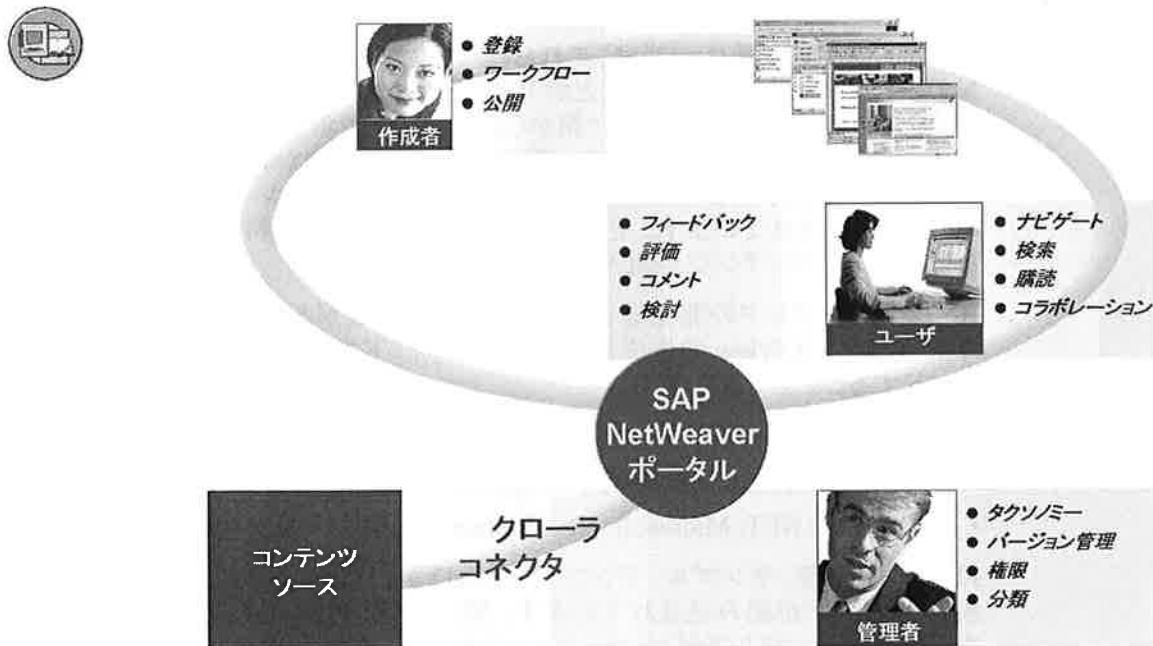


図 147: 統合ナレッジマネジメント

ユーザは、使いやすく変更可能なインターフェースを使用して文書にアクセスします。文書の物理的な保存場所は関係しません。コンテンツマネジメントでは、さまざまなコネクタ(リポジトリマネージャ)が使用されます。これらのコネクタによって、使用される各種データソースが接続されます。サポート対象の製品とプロトコルには、SAP ナレッジウェアハウス(SAP KW)、SAP CRM(パンフレット用など)、ファイルサーバ、Web サーバ、WebDAV サーバ、XML 文書、Microsoft Exchange や Lotus Notes などのグループウェア製品、サードパーティによる文書管理製品などがあります。

### コラボレーション

現代社会では、コラボレーションが従来にも増して重要になっています。企業の従業員が地域内に拡散し、あらゆるレベルのパートナーとの統合が緊密化する傾向があります。SAP NetWeaver Portal は、ユーザおよびチームが必要に応じてアクセスできる包括的で柔軟性のある環境を提供します。

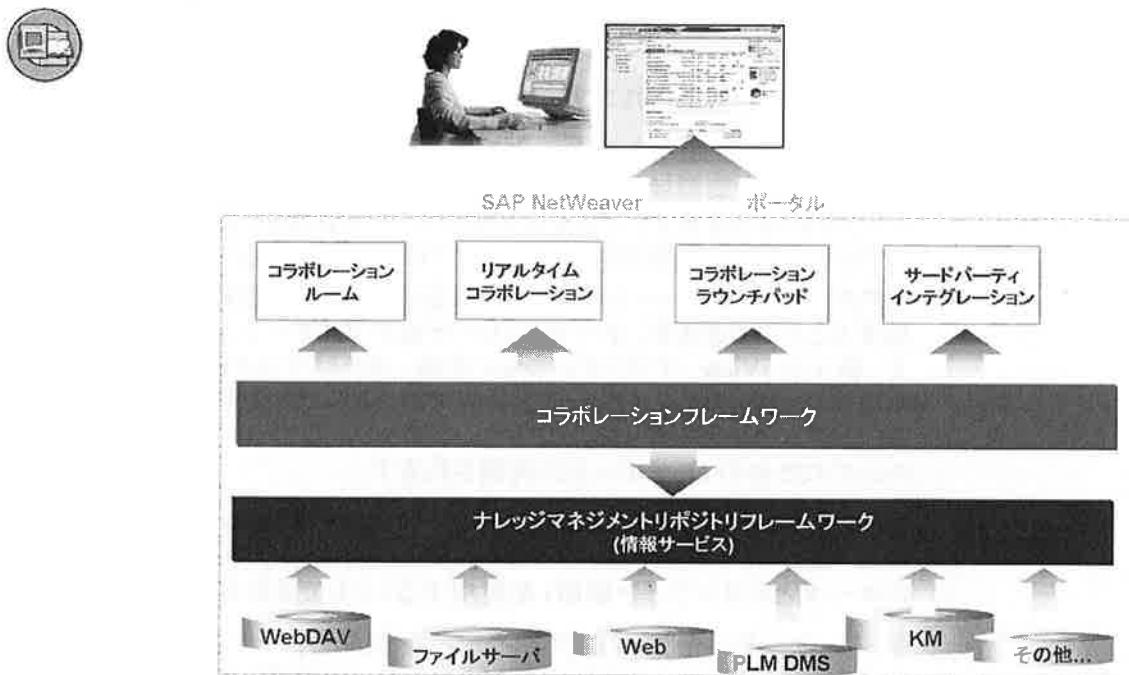


図 148: 効果的なコラボレーションのためのツール

コンポーネント SAP NetWeaver によるコラボレーションには、以下のツールとサービスがあります。このコンポーネントは、ポータルのナレッジマネジメントコンポーネント上に構築されます。

- コラボレーションルームを使用すると、チーム、作業グループ、またはコミュニティの作業領域を定義することができます。この定義にはテンプレートを活用できます。プロジェクトのメンバー全員が、時と場所を問わずに“ルーム”内の選択されたコンテンツにアクセスすることができます。
- リアルタイムコラボレーションでは、対話式オンライン会議のサービスを利用することができます。ポータルユーザーはアプリケーション共有を使用して、個々の iView、アプリケーション全体、またはデスクトップ全体を離れた場所の他のポータルユーザーと共有することができます。これにより、リモートプレゼンテーション、ソフトウェアデモ、およびユーザまたはトレーニングのための IT サポートが実現されます。  
リアルタイムコラボレーションのサービスであるインスタントメッセージ（他のポータルユーザーとの短いメッセージの交換）およびチャット（他の複数のユーザとのオンライン通信）を使用することもできます。
- さらに、サードパーティのコラボレーション製品を、グループウェアサービス（Microsoft Exchange または IBM Lotus Domino）や、SCF (=リアルタイムコラボレーションフレームワーク、WebEx または Lotus Web) の形式で SAP NetWeaver Portal にシームレスに統合することもできます。
- コラボレーションラウンチパッドにより、ユーザはすべてのコラボレーションサービスにすばやくアクセスすることができます。ラウンチパッドは、ポータルのトップヘッダからいつでも呼び出すことができます。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- アクセステクノロジーとしての SAP NetWeaver Portal の重要性に関する概要説明

## 関連情報

- SAP NetWeaver Portal に関する公開情報: <http://www.sap.com/netweaver>
- SAP サービスマーケットプレイスのカスタマおよびパートナに関する情報: <http://service.sap.com/nw-ep>
- SAP ヘルプポータルの文書 (SAP NetWeaver ノード): <http://help.sap.com>
- ビジネスパッケージと開発者およびコンテンツパートナ向けコンテンツ: <http://sdn.sap.com>
- SAP NetWeaver Portal のトレーニング情報: <http://www.sap.com/education>

上記の Web ページでは、SAP NetWeaver Portal ソリューション全体の最新情報を提供しています。SAP サービスマーケットプレイスにアクセスするには、ユーザ名が必要です。SAP 開発者ネットワークは一般に公開されていますが、ビジネスパッケージのダウンロードなど、一部の機能の使用にはユーザ登録が必要です。

## レッスン: インフォメーションインテグレーション

### レッスンの概要

このレッスンでは、SAP NetWeaver Business Intelligence の基本構造を紹介します。また、レポートに使用可能な機能についても学習します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- SAP NetWeaver インフォメーションインテグレーションという総合的なコンセプトにおける SAP NetWeaver Business Intelligence と SAP NetWeaver Master Data Management の位置付けに関する説明
- レポートに利用できるオプションの概説

### ビジネスシナリオ

IDES 社から自社の全領域のデータを分析してナレッジを生成するように求められています。これらのナレッジは、競争に打ち勝つための意思決定者の適切な判断を促進します。

### SAP NetWeaver による SAP NetWeaver Business Intelligence と SAP NetWeaver Master Data Management の統合

SAP NetWeaver Business Intelligence および SAP NetWeaver Master Data Management コンポーネントは、SAP NetWeaver のサブエリアであるインフォメーションインテグレーションの構成要素です。

利用可能な情報に対して一般的なアクセスを必要とするユーザは、インフォメーションインテグレーション(情報の統合)により構造化された情報と構造化されていない情報の両方を使用できるようになります。これらの情報にユーザがアクセスしたときには、それぞれの情報で整合性が維持されていなければなりません。そのため、データの完全性を保証する必要があります。SAP NetWeaver Business Intelligence と SAP NetWeaver Master Data Management では、関連する情報の統合と分析をリアルタイムで実行することができます。SAP Business Intelligence と SAP Master Data Management はインタラクティブレポートの生成を支援する広範なツールを備えているため、あらゆるレベルにおける意思決定が促進されます。

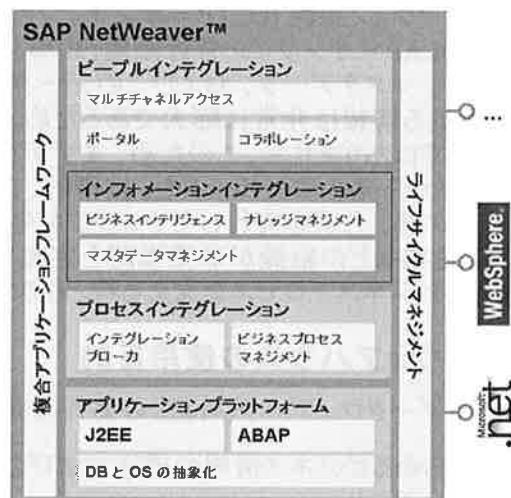


図 149: SAP NetWeaver: インフォメーションインテグレーション

## 業務環境と情報環境の分化

このセクションでは、現在のデータウェアハウスに対するいくつかの重要な要求について説明します。特に、データウェアハウスソリューションの効率性の決定基準について取り上げます。

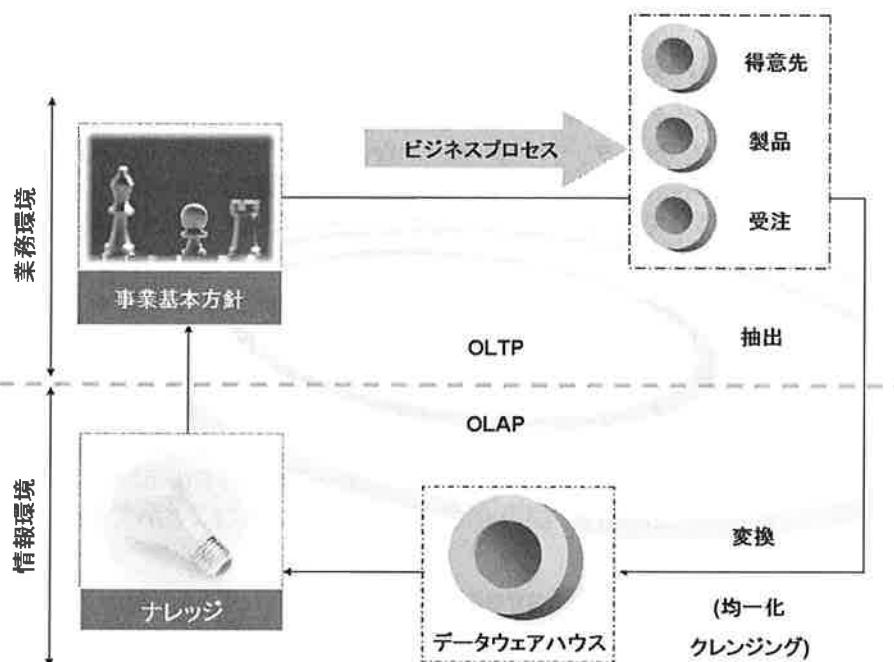


図 150: 業務環境と情報環境の分化

トランザクション指向 (OLTP = オンライントランザクション処理) の環境と分析指向 (OLAP = オンライン分析処理) の環境を、統一として捉える必要があります。マスタデータ、およびこのデータを使用するビジネスプロセスから生成される情報は非常に膨大であるため、目標指向の分析に使用することは容易ではありません。このため、まずデータのクレンジングを行い、多様なソースから発生するデータを、技術的、内容的に両面から整えます(均質化)。その後、分析を実行してナレッジを生成することができます。このナレッジは、企業などの組織が事業戦略を定義する際に役立つとともに、戦略にもとづくビジネスプロセスを支える柱となります。

## データウェアハウスの使用目的

現代のデータウェアハウスは次の要件を満たしている必要があります。

- あらゆるビジネス情報の構造およびプレゼンテーションが標準化されていること
- シングルエントリポイントからビジネス情報に容易にアクセスできること
- あらゆるレベルでセルフサービスが可能な高度な分析レポートが開発されていること
- 迅速な導入が可能でコスト効率に優れていること
- 異種ソースシステムからのデータのモデル化を可能にする高性能な環境であること
- ソースシステムに過剰な負荷をかけないこと

## SAP NetWeaver Business Intelligence のデータフロー

さまざまなデータソース (SAP システム、非 SAP システム、フラットファイル、XML データ、データベースなど) のデータが、抽出プロセスを経て SAP NetWeaver Business Intelligence (SAP NetWeaver BI) にロードされ、その後必要に応じて変換されます。この変換は、たとえば技術的な変更や業務上の変更(通貨換算など)の形で行われます。

処理後のデータは、インフォプロバイダに保存されます。インフォプロバイダは、固有のビジネスの検討事項に対応できるように作成されます。これにより、後日のレポート実行時のデータの評価および分析プロセスを容易に行うことができます。インフォプロバイダは、データをレポートに使用できるようにするオブジェクトです。インフォプロバイダにアクセスして、これをもとにしたレポートを生成するには、ビジネスエクスプローラ (BEx) のレポートツールを使用します。このツールでは、読み出すデータを絞り込むことができます。

## SAP NetWeaver BI: 概要

SAP NetWeaver BI では、本稼動システムの SAP アプリケーションや他のビジネスアプリケーション、およびデータベース、オンラインサービス、インターネットなどの外部データソースのデータを評価することができます。アドミニストレータワークベンチには、あらゆるデータ収集プロセスの制御、監視、更新の機能があります。

*SAP NetWeaver BI*では、大量の本稼動データや履歴データの処理を行うオンライン分析処理(OLAP)を使用することができます。OLAPテクノロジーによって、さまざまなビジネス上の視点からの多次元分析が可能になります。コア領域とプロセスのビジネスコンテンツがあらかじめ定義されているデータウェアハウスによって、企業全体のコンテキストで情報を照会することができます。ビジネスコンテンツでは、企業ごとに選択されたロールにもとづいて、従業員がそれぞれのタスクの実行に必要な情報を取得できます。

*SAP NetWeaver BI*のビジネスエクスプローラでは、フレキシブルなレポートおよび分析のツールを使用することができます。それにより、戦略的な分析が可能になり、社内の意思決定が促進されます。承認された従業員は、さまざまな詳細レベルの過去データと現行データにアクセスして、データを評価することができます。

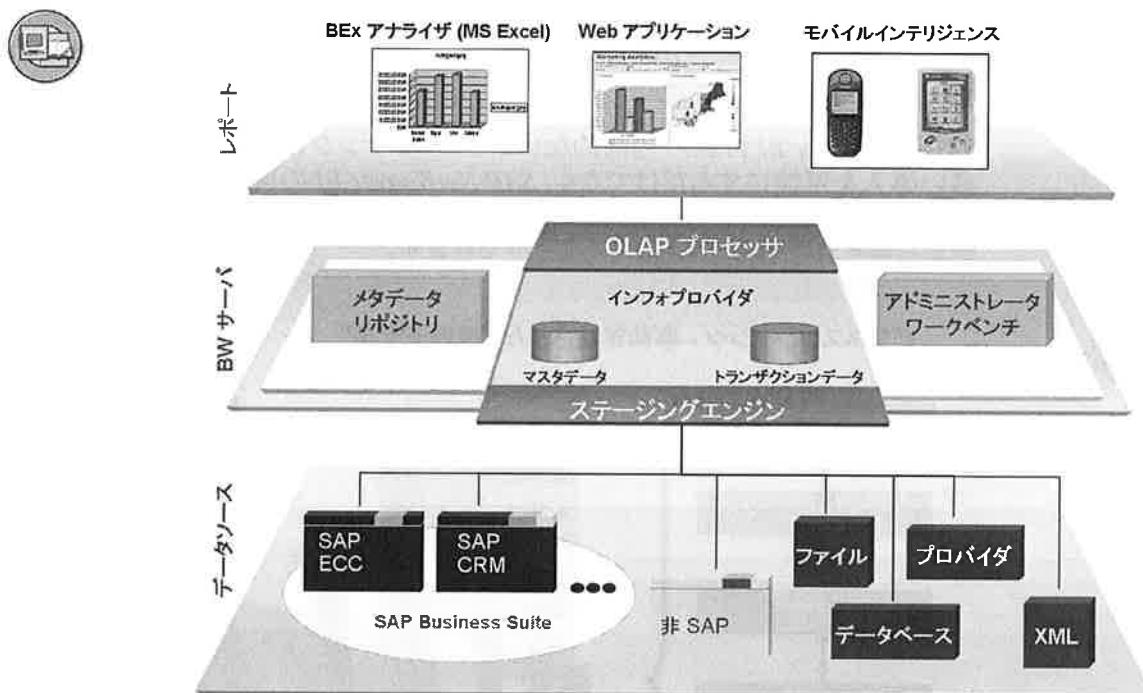


図 151: SAP NetWeaver BI の 3 レイヤーアーキテクチャ

## ビジネスコンテンツ

*SAP NetWeaver BI*では、ビジネスコンテンツと呼ばれる事前設定オブジェクトが提供されます。このオブジェクトは、ビジネス情報の要件に合致する完全なソリューションを提供し、*SAP NetWeaver BIW*の導入を迅速化します。

特に *SAP NetWeaver BI*のビジネスコンテンツには、整合性が保持されたメタデータをベースにしたロールおよびタスク関連の情報モデルが含まれています。

ビジネスコンテンツは、基本的に、ロール、ワークブック、クエリ、インフォソース、インフォキューブ、ODS オブジェクト、キー数値、特性、更新ルール、および SAP ERP、SAP Business Suite やその他のアプリケーション向けの抽出機能で構成されます。このタイプのロールが割り当てられた個々のユーザは、タスクの実行に必要な情報のみを取得します。

ビジネスコンテンツには以下の特長があります。

- 変更なしで使用可能
- 変更が可能(必要な詳細レベルに応じて)
- ビジネスコンテンツ作成時のテンプレートやサンプルとして使用可能

*SAP NetWeaver BI* の技術コンテンツでは、*SAP NetWeaver BI* システムの管理およびパフォーマンスに関連する統計分析を実行することもできます。

さらに *SAP NetWeaver BI* には、サンプルデータで構成されるデモコンテンツが含まれています。このコンテンツはデモンストレーションの材料として使用することができます。

*SAP NetWeaver BI* 付属の包括的なビジネスコンテンツは、迅速でコスト効率が高い導入を可能にするだけでなく、*SAP NetWeaver BI* の導入時にガイドラインとして使用できるモデルを提供します。このモデルをとおして、他の導入事例から得られた経験を活用することができます。



### ビジネスコンテンツ - 事前定義された "情報モデル"

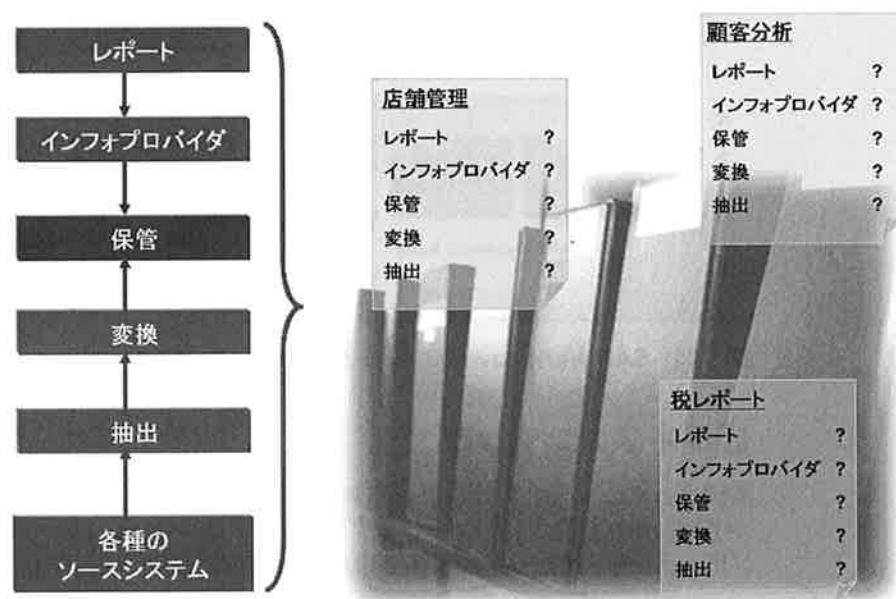


図 152: ビジネスコンテンツ: 事前定義された情報モデル

## SAP NetWeaver BI の管理

アドミニストレーターワークベンチ (*AWB*) は、*SAP NetWeaver BI* のデータの取得および処理に関するすべてのプロセスの制御、監視および保守に使用されるツールです。*AWB* を使用して作成された *SAP NetWeaver BI* のデータは、ビジネスエクスプローラのコンポーネントを使用して評価および表示することができます。

*AWB* のモデリング領域では、データの転送、更新および分析に必要なオブジェクトおよびルールの登録と編集ができます。これらのオブジェクトとルールは、既存の機能と関連して実行することもできます。

インフォオブジェクトは、*SAP NetWeaver BI* における情報の基本的なキャリアです。インフォオブジェクトは、特性 (例: 品目) やキー数値 (例: 販売数量) などの業務上の評価対象を表す最小単位です。インフォオブジェクトは、構造化された形式で情報を表現する目的で使用されます。インフォプロバイダの構造化では、この構造化形式でのデータ表現が必要になります。最終的に、インフォプロバイダでのレポート分析にデータを使用できるようになります。

## SAP NetWeaver BI のレポート

*SAP NetWeaver BI* のさまざまなエンドユーザがレポートを利用できるようにするには、以下の複数の方法があります。

- *BEx* アナライザで、ワークブックに埋め込む (Microsoft Excel のビジネスアドイン)
- Web ブラウザの *BEx Web* アプリケーションにする
- ピクセル精度の高いフォーマットレポートに Crystal Reports を使用する
- モバイル端末 (PDA、WAP 携帯電話など) のモバイルインテリジェンスを使用する

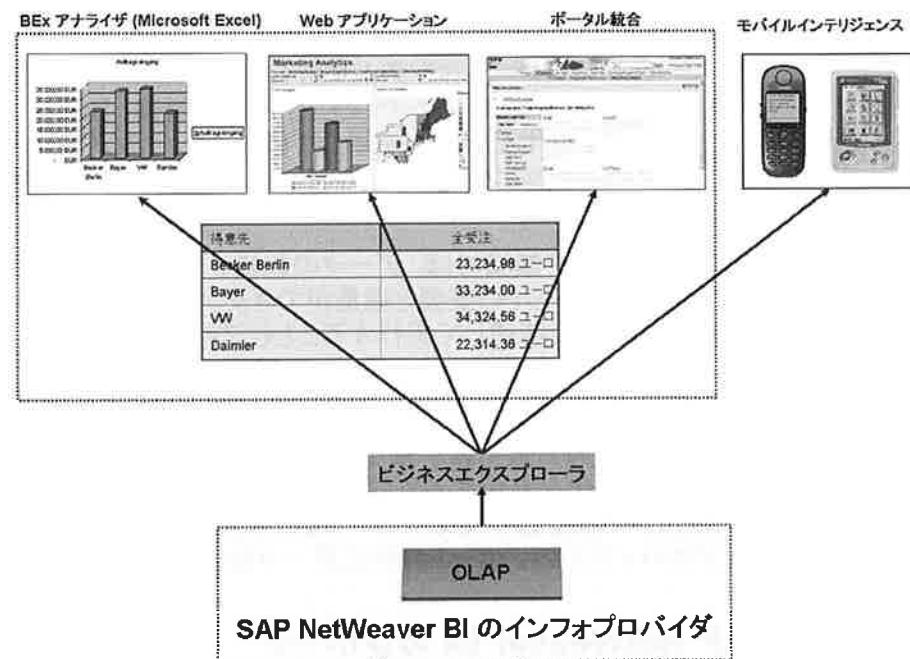


図 153: SAP NetWeaver BI のレポート

## SAP NetWeaver MDMS によるインフォメーションインテグレーション

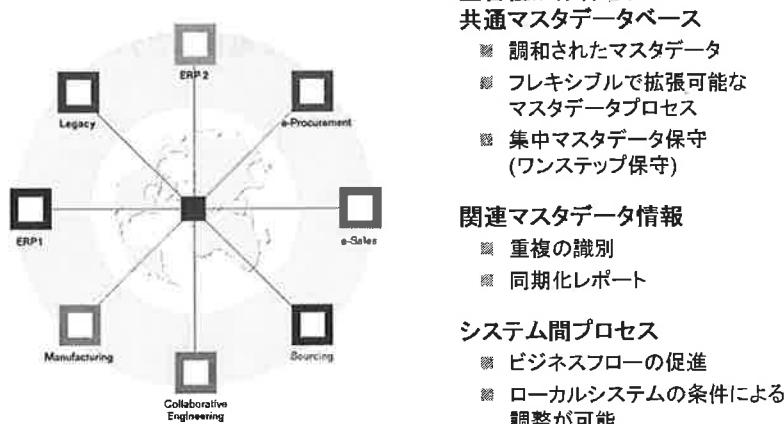


図 154: SAP NetWeaver MDM

## SAP NetWeaver Master Data Management によるマスタデータの管理

社内では、さまざまなサードパーティ製のシステムによる異種 IT ランドスケープが使用されています。このため、システム間のビジネスプロセスと分析に必要な重要なマスタデータの多くが他のシステムでも重複し、互換性のないフォーマットで保存されています。

その結果、以下の要素が、コストに影響を与えます。

- **保守および運用コスト**

これには、データの保存(特に重複データ)と、1つのマスタデータレコードに属する全情報の連結の作業が含まれます。

- **統合コスト**

特に企業の再編成時にアップグレードで余分な作業が必要になり、新しいシステムの統合が困難になります。インターフェースプログラムの開発および継続的な保守や、不正確なデータの修正によるコストが発生します。

- **レポートに必要な作業**

システムランドスケープ内のマスタデータの重複エントリが多いほど、レポートの信頼性が低下します。このため、レポートを整理統合するコストが増加します。

このような状況に直面した企業には、マスタデータの統合および整理するソリューションが必要になります。しかし投資を保護するため、単に現状の問題点を探るのではなく、既存の IT インフラストラクチャ上に新しいソリューションを構築しようとします。SAP NetWeaver Master Data Management (SAP NetWeaver MDM) を使用すると、マスタデータの統合および管理を、集中して行うことができます。

システム内に 500 万ユニットのマスタデータがあり、その内 10% に重複があるとします。さらに、毎年 1 万のマスタデータレコードが新たに追加登録され、10 種類のシステムが相互接続されているとします。保守作業の軽減、重複レコードの防止、配信の制御および信頼性の高いレポートの実行ができるれば、非常に多額の節約が可能です。

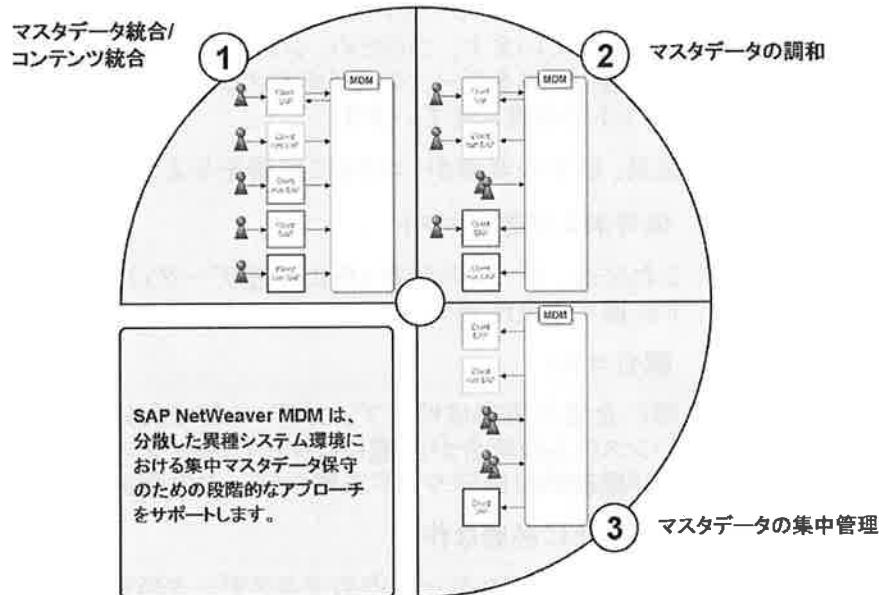


図 155: SAP NetWeaver MDM の機能

このプロセスの主要ステップは、以下のとおりです。

- ローカルシステムの後続処理で必要になるすべての情報を含めて、マスタデータオブジェクトを集中登録します。ローカルのマスタデータの責任者（またはマスタデータのユーザ）は、Web フォームでマスタデータの登録依頼を送信します。その後、この依頼は SAP NetWeaver MDM に送信されます。SAP NetWeaver MDM はこの依頼の情報をチェックし、同一オブジェクトおよびシステムに既存の重複があるかどうかを検索します。重複が検出された場合は、依頼が拒否され、送信者にその旨が通知されます。同一オブジェクトが検出された場合は、このオブジェクトの使用が提案されます。同一オブジェクトが検出されなかった場合は、SAP ビジネスワークフローコンポーネントのワークフローアイテムとしてこの依頼がマスタデータの責任者に送信されます。責任者は依頼を変更してデータを保存します。依頼されたマスタデータが SAP NetWeaver MDM に登録されると、依頼送信者に対応する確認が送信されます。
- 集中管理されたマスタデータをローカルシステムでの定義に従った個別（ローカル）オブジェクトとして配信します。マスタデータの責任者はデータをリリースして配信できるようにします。SAP NetWeaver MDM は関連する適切な対象システムを検出し、データ形式を対象システムに合わせて変更して、データを配信します。
- 配信されたデータをローカルで使用する場合は、データをローカルで更新することはできません。マスタレコードがローカルのアプリケーションシステムで再度必要になった場合、ローカルマスタデータの責任者から SAP NetWeaver MDM に新規の依頼を送信します。このデータはローカルシステムでは更新できません。これによって、接続されたアプリケーションシステム間でデータセットを調和させることができます。
- 統合マスタデータをベースとして会社間分析の MDM 分析を実行します。調和されたマスタデータは、SAP NetWeaver BI に転送し、そこで会社間連結レポートを実行することができます。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- SAP NetWeaver インフォメーションインテグレーションという総合的なコンセプトにおける SAP NetWeaver Business Intelligence と SAP NetWeaver Master Data Management の位置付けに関する説明
- レポートに利用できるオプションの概説

## レッスン：プロセスインテグレーション

### レッスンの概要

このレッスンでは、SAP Exchange Infrastructureについて学習し、その利点を理解します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 統合テクノロジーコンポーネントとしての SAP NetWeaver Exchange Infrastructure の重要性に関する概要説明

### ビジネスシナリオ

IDES 社では、ほとんどの部門が共通のテクノロジープラットフォームに移行しましたが、一部の部門は引き続き既存のレガシシステムを使用しています。これらの部門も統合するため、IDES 社では複数のシステム間でプロセスを実行するテクノロジーを必要としています。

### SAP NetWeaver XI による SAP NetWeaver プロセスインテグレーション

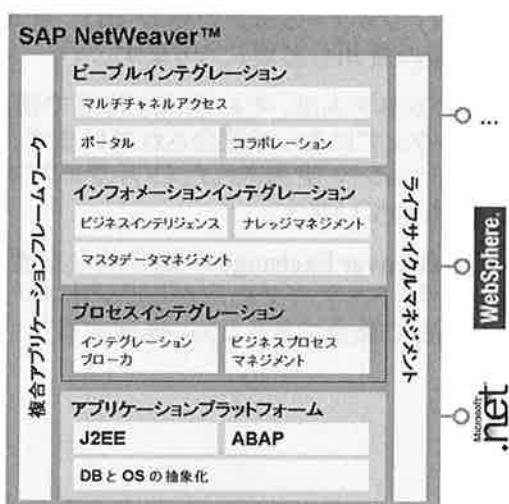


図 156: SAP NetWeaver: プロセスインテグレーション

SAP NetWeaver は、SAP アプリケーションの統合およびアプリケーションプラットフォームです。SAP NetWeaver Exchange Infrastructure (SAP NetWeaver XI) は、NetWeaver スタックのプロセス統合レイヤの機能を果たし、エンタープライズサービスアーキテクチャ (ESA) の重要な要素となっています。

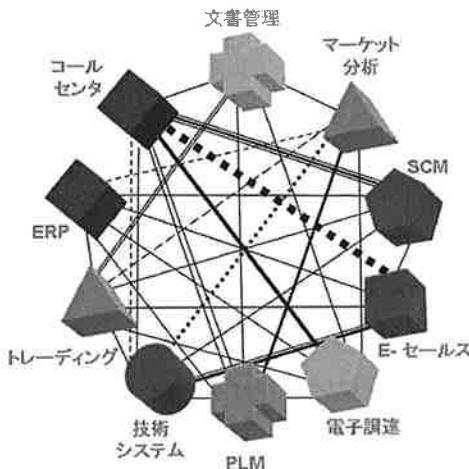


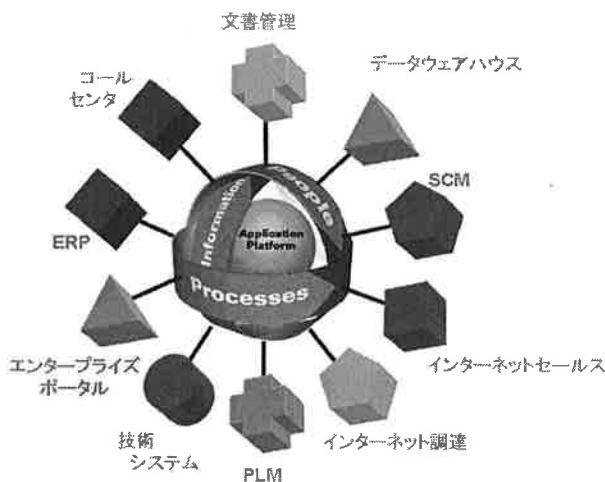
図 157: 複雑な統合ランドスケープ

今日、統合は複雑性の問題から逃れることができません。カスタマシステムランドスケープの多くのコンポーネントが 1 対 1 の関係で直接接続され、アプリケーションコンポーネントと個々のマッピングプログラムにすべての統合機能が組み込まれています。

カスタマサイトで一般的に見られる複雑な IT ランドスケープを考えてみましょう。このような "ぐもの巣" は、現在のアプリケーション統合における典型的な課題です。これは、多種多様なアプリケーションシステムと各種インターフェース間での多様な個別接続によって著しく拡大した統合ランドスケープです。これらのアプリケーションの結合では、管理および保守が複雑になるばかりか、多額の費用も必要になります。

これらのシステムは、その時点、時点で使用可能であった統合テクノロジー やミドルウェアによって統合されています。統合に関する情報は、各種のアプリケーションや使用されたミドルウェアツールおよびインターフェースの記述に埋もれています。

SAP NetWeaver Exchange の総合的な主要コンセプトは、異種および変化が激しい IT ランドスケープに広がるビジネスプロセスを管理が容易でコスト効率の高い方法で統合できるように推進することです。



**図 158: 複雑な統合ランドスケープ (SAP NetWeaver Exchange Infrastructure を使用した場合)**

SAP アプリケーションでの SAP NetWeaver Exchange Infrastructure の利用、およびカスタマランドスケープへの SAP NetWeaver Exchange Infrastructure の導入が広がってきました。

現在、以下のアプリケーションおよびコンポーネントで SAP NetWeaver Exchange Infrastructure を使用することができます。

- xApps (xRPM: Resource and Program Management など)
- SAP NetWeaver Master Data Management
- SAP Supplier Relationship Management
- SAP SCM の SAP インベントリコラボレーションハブ
- SAP NetWeaver Business Intelligence (グローバル支出レポート)
- ERP Central Component (業界標準のサポート)
- SAP Customer Relationship Management (拡張受注管理)
- SAP Business One

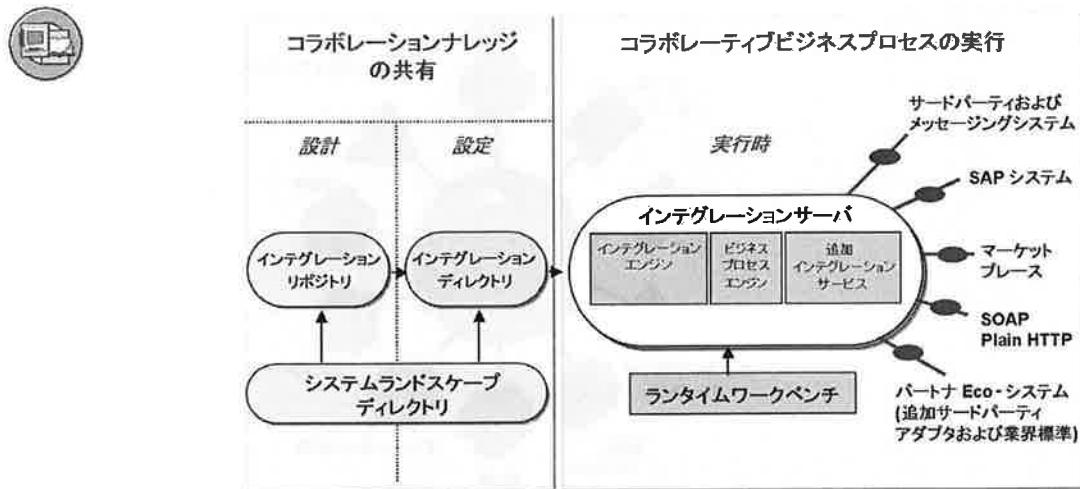


図 159: SAP NetWeaver Exchange Infrastructure のコンポーネント概要

#### インテグレーションリポジトリ

- ・ 設計/開発時に使用される製品
- ・ SAP、パートナ、およびカスタマの環境で使用
- ・ コンテンツも含めて出荷

#### インテグレーションディレクトリ

- ・ 設定時に使用される製品
- ・ カスタマ環境で使用
- ・ 一部のコンテンツは、設定ツールによりインテグレーションリポジトリから導出が可能

#### インテグレーションエンジン

- ・ 実行時に使用される製品
- ・ カスタマ環境で使用
- ・ インテグレーションディレクトリのコンテンツに依存

実際にはどのようにコラボレーションナレッジを共有したらいいでしょうか。インテグレーションリポジトリでは、設計時における統合シナリオ、ルーティングオブジェクト、マッピング、インターフェースおよびコンポーネントが提供されます。このリポジトリは Java で構築され、Java 2 Enterprise Edition (J2EE) 規格に従います。インテグレーションディレクトリはインテグレーションリポジトリに保存されているものと同じ情報で開始されますが、その他に、実行に必要な設定固有の情報が追加されます。このような情報として、カスタマおよびビジネスパートナのコンポーネントの技術仕様、マッピングおよびルーティングの情報、Web サービスなどがあります。

コラボレーション実行時環境では、接続されたソフトウェアコンポーネント間およびビジネスパートナ間のメッセージ交換に関する実行時コンポーネントのすべてがまとめられます。実行の中心にはインテグレーションサーバが位置し、このサーバ内にはインテグレーションエンジンがあります。インテグレーションエンジンは、各種の接続コンポーネント間のすべてのメッセージの交換を処理します。

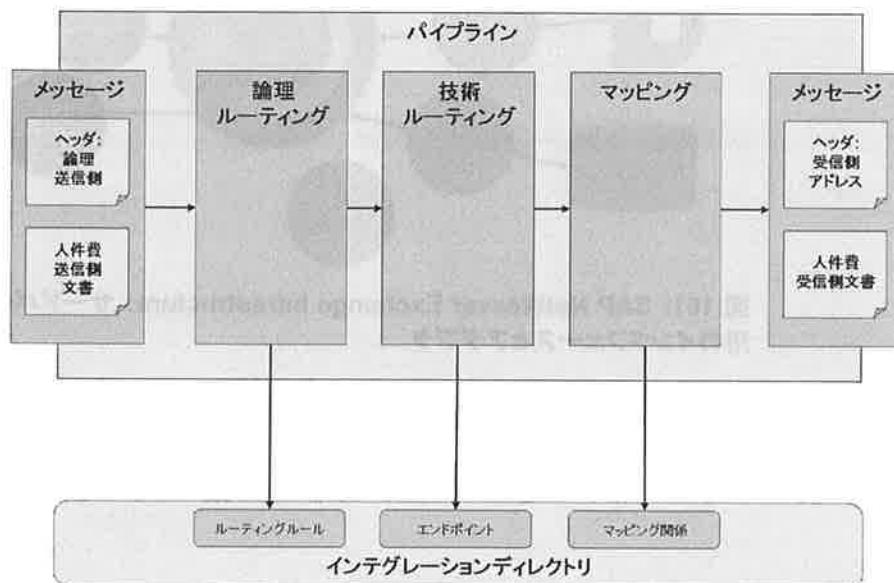


図 160: ランタイムワークベンチ

インテグレーションリポジトリで開発され、インテグレーションディレクトリで設定されたインテグレーションシナリオは、実行時にインテグレーションサーバによって実行されます。インテグレーションサーバには、インテグレーションプロセス、メッセージ処理、バックエンドシステムへの接続を実行するエンジンがあります。

SAP NetWeaver Application Server バージョン 6.40 以降をベースとする SAP システム間では、SAP NetWeaver Exchange Infrastructure によりネイティブな通信が行われますが、その他の、RosettaNet、CIDX、PIDX などの B2B 規格を使用するシステムに関しては、通信にアダプタを使用します。

SAP ではパートナ接続キット (PCK) も提供しています。これは、XML メッセージングや B2B 機能を持たない小規模なパートナや子会社もファイアウォールおよびインターネットを介して SAP NetWeaver Exchange Infrastructure とネイティブに通信できるようにします。

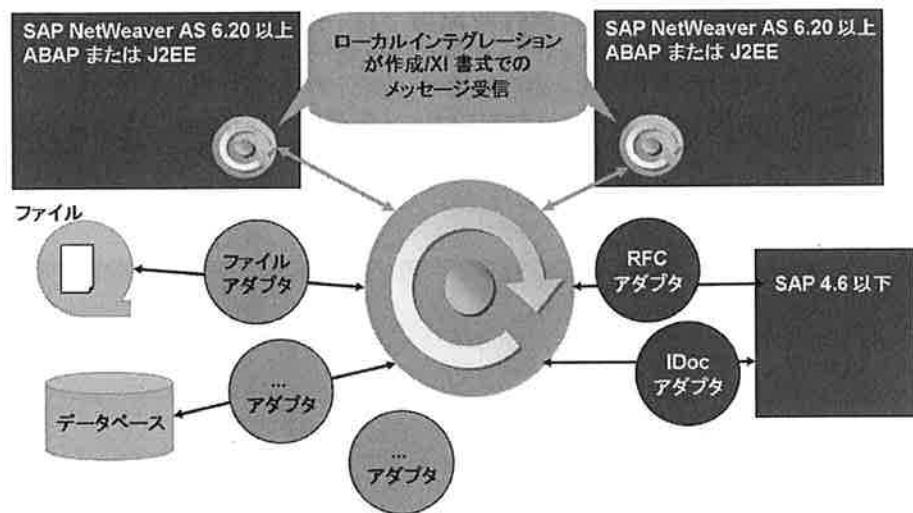


図 161: SAP NetWeaver Exchange Infrastructure: サードパーティシステム用のインターフェースとアダプタ



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 統合テクノロジーコンポーネントとしての SAP NetWeaver Exchange Infrastructure の重要性に関する概要説明



## 章のまとめ

以下について学習しました。

- SAP NetWeaver のサブエリアの列挙
- SAP NetWeaver Application Server の、全 SAP システムのアプリケーションプラットフォームの中心基盤としての重要性についての概説
- アクセス技術としての SAP NetWeaver Portal の重要性に関する概要説明
- SAP NetWeaver インフォメーションインテグレーションという総合的なコンセプトにおける SAP NetWeaver Business Intelligence と SAP NetWeaver Master Data Management の位置付けに関する説明
- レポートに利用できるオプションの概説
- 統合技術コンポーネントとしての SAP NetWeaver Exchange Infrastructure の重要性に関する概要説明

## 関連情報

- 関連する用語集リンクについては、次のサイトを参照してください。  
[help.sap.com/content/additional/glossary](http://help.sap.com/content/additional/glossary)



## テスト

1. SAP NetWeaver にはどのようなサブエリアがありますか。  
正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。
  - A ピープルインテグレーション
  - B メソッドインテグレーション
  - C プロセスインテグレーション
  - D ソリューションの認識
  - E インフォメーションインテグレーション
  - F アプリケーションプラットフォーム
  
2. SAP NetWeaver Application Server に関する次の記述のうち、正しいものはどれですか。  
正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。
  - A SAP NetWeaver Application Server は、以前の SAP 実行時環境を進化発展させたものです。
  - B SAP NetWeaver Application Server で実行できるのは、SAP プログラミング言語 ABAP で記述されたアプリケーションのみです。
  - C SAP NetWeaver Application Server は、Microsoft Windows プラットフォームのみで実行可能です。
  - D SAP NetWeaver Application Server には、SMTP インタフェースなどが装備されています。
  - E SAP NetWeaver Application Server では、Oracle または Microsoft のデータベースのみ使用することができます。
  
3. ユーザが Web ブラウザからポータルにアクセスすることはできません。  
この文章の内容は正しいですか。
  - 正
  - 誤
  
4. ポータルのブラウザウィンドウの主要領域と見なされるものを、次の中から答えてください。  
正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。
  - A コンテンツエリア
  - B 明細メモ
  - C ナビゲーションパネル
  - D クレジットメモ
  - E ヘッダエリア

5. ナレッジマネジメント(KM)は、SAP NetWeaver Portal の主要コンポーネントです。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
6. SAP NetWeaver Business Intelligence では、SAP システムから発生したデータのレポートのみを作成することができます。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
7. SAP NetWeaver は、次のどれのための統合およびアプリケーションプラットフォームですか。  
正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。  
 A カスタマリレーションシップマネジメント  
 B SAP アプリケーション  
 C 会計管理
8. SAP NetWeaver Exchange Infrastructure の総合的な主要コンセプトは、異種および高度に動的な IT ランドスケープに広がるビジネスプロセスの統合を推進することです。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤



## 解答

- SAP NetWeaver にはどのようなサブエリアがありますか。

解答: A, C, E, F

SAP NetWeaver は、ピープルインテグレーション、プロセスインテグレーション、インフォメーションインテグレーション、アプリケーションプラットフォームの 4 つのサブエリアにもとづいています。

- SAP NetWeaver Application Server に関する次の記述のうち、正しいものはどれですか。

解答: A, D

SAP NetWeaver Application Server は、以前の SAP アプリケーションサーバをさらに開発したものです。SAP J2EE Engine を使用しているため Java で記述されたアプリケーションも実行可能で、これまでにサポートしているすべてのオペレーティングシステム/データベースの組合せで実行することができます。SMTP インタフェースなど多くのインターフェースをサポートしています。

- ユーザが Web ブラウザからポータルにアクセスすることはできません。

解答: 誤

一般に、ユーザは Web ブラウザでポータルにアクセスします。この場合、シングルサインオンによって他のシステムへのログオンが処理されるため、ユーザは 1 回ログオンするだけで済みます。

- ポータルのブラウザウィンドウの主要領域と見なされるものを、次の中から答えてください。

解答: A, C, E

標準出荷 (カスタマの要件によって容易に設定変更が可能) では、ブラウザウィンドウが 3 つの主要領域に分割されています。ヘッダーエリアは第一のエントリポイントとして使用され、ナビゲーションパネルは詳細なナビゲーションに使用されます。コンテンツエリアは、実際に作業に使用されるインターフェースです。

5. ナレッジマネジメント (KM) は、SAP NetWeaver Portal の主要コンポーネントです。

解答: 正

オープンアーキテクチャにより、各種のソースから取得した構造化されていないコンテンツをまとめて、論理的かつわかりやすくユーザに示すことができます。

6. SAP NetWeaver Business Intelligence では、SAP システムから発生したデータのレポートのみを作成することができます。

解答: 誤

SAP NetWeaver BI では、本稼動システムの SAP アプリケーションや他のビジネスアプリケーション、およびデータベース、オンラインサービス、インターネットなどの外部データソースのデータを評価することができます。

7. SAP NetWeaver は、次のどれのための統合およびアプリケーションプラットフォームですか。

解答: B

SAP NetWeaver は SAP アプリケーションの統合およびアプリケーションプラットフォームです。SAP NetWeaver XI は、NetWeaver スタックの統合レイヤの機能を果たし、エンタープライズサービスアーキテクチャ (ESA) の重要な要素となっています。

8. SAP NetWeaver Exchange Infrastructure の総合的な主要コンセプトは、異種および高度に動的な IT ランドスケープに広がるビジネスプロセスの統合を推進することです。

解答: 正

SAP アプリケーションでの SAP NetWeaver Exchange Infrastructure の利用、およびカスタマランドスケープへの SAP NetWeaver XI の導入が広がってきました。管理が容易でコスト効率の高いインフラストラクチャであるという利点があります。

# 9 章

## カスタマサービスネットワーク

### 章の概要

この章では、SAP のサービスについて概説します。



### 章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- SAP サービスマーケットプレイスの機能の説明

### 章の内容

レッスン: SAP サービス ..... 304

## レッスン: SAP サービス

### レッスンの概要

このレッスンでは、SAP がお客様のライフサイクルを通じてお客様とパートナに提供するさまざまなサービスについて学習します。



### レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- SAP サービスマーケットプレイスの機能の説明

### ビジネスシナリオ

IDES 社では、SAP サポートサービスについてさらに認識を深めたいと考えています。

### SAP サービスマーケットプレイス

#### すべての SAP サービスへの共通オンラインアクセス

高品質のソリューションを設計、構築、管理するには、SAP やその他のプロバイダが提供するさまざまなサービスに効率的にアクセスできなければなりません。SAP サービスマーケットプレイスでは、必要とするサービスが確実に見つかります。SAP サービスマーケットプレイスに一度アクセスすれば、わかりやすいナビゲーションによって、そこから SAP の広範なサービスのすべてに簡単にアクセスすることができます。そのため、ライフサイクルのすべての段階で、高品質を維持しながら低い所有コストで迅速にソリューションを実現できます。

SAP サービスマーケットプレイスは、SAP ソリューションのサービスのインターネットポータルです。SAP サービスマーケットプレイスでは、SAP コミュニティの他のユーザと直接コラボレートすることができます。SAP のオンラインサービスや情報サービスのほかに、SAP サービスマーケットプレイスでは SAP パートナーの情報やサービスも提供しています。SAP および SAP パートナーのカタログを簡単に参照し、SAP やパートナーのサービスを発注することができます。SAP サービスマーケットプレイスは、それぞれのユーザのニーズや関心に合わせてパーソナライズできます。マーケットプレイスには、SAP Enterprise Portal から、または <http://service.sap.com> から直接アクセスすることができます。

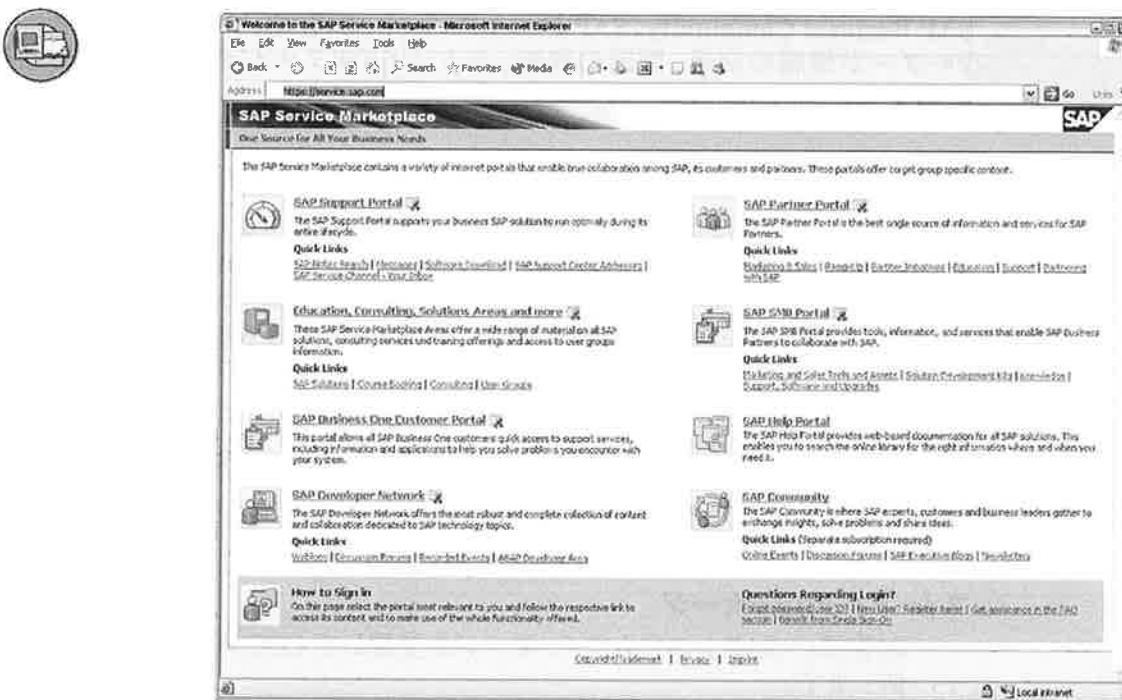


図 162: SAP サービスマーケットプレイス

### サービスマーケットプレイスが提供するサービス

**SAP Support Portal:** SAP ソリューションがライフサイクル全体を通じて最適な状態で実行されるようにサポートします。

**SAP Partner Portal:** SAP パートナーがパートナー向けの情報とサービスをすべて入手するための最適な場所です。

**SAP Channel Partner Portal:** SAP ビジネスパートナーと SAP とのコラボレーションを可能にするツール、情報、およびサービスを提供します。

**Education, Consulting, Solutions Areas, and more:** すべての SAP ソリューション、コンサルティングサービス、およびトレーニングに関する広範な資料を提供します。ユーザグループ情報にもアクセスすることができます。

**SAP Business One Customer Portal:** SAP Business One をお使いのすべてのお客様向けのサポートポータル。システムで発生した問題の解決に役立つ情報やアプリケーションなどのサポートサービスに迅速にアクセスすることができます。

**SAP Developer Network:** SAP の技術トピックに特化した堅固なコンテンツやコラボレーションがすべて収集されています。

**SAP Help Portal:** すべての SAP ソリューションの Web ベースのヘルプ文書を揃えています。必要なときに必要な場所で、オンラインライブラリで適切な情報を検索することができます。

**SAP Business Community:** SAP のエキスパート、お客様、およびビジネスリーダーが情報の交換、問題の解決、およびアイデアの共有を行うための場所です。

## SAP サポートライン

SAP サポートラインは、SAP ユーザが SAP とコンタクトをとることのできるプロセスです。SAP 金額契約カスタマの場合、カスタマコンピテンスセンタ (CCC) を利用することができます。情報またはアドバイスのどちらを依頼するか、問題メッセージまたはフィードバックメッセージのどちらを登録するかにかかわりなく、SAP ユーザは以下の必要なオプションを選択することができます。

### SAP メッセージ

SAPNet フロントエンドでメッセージを登録して SAP に送信します。

SAP サービスマーケットプレイスで、カスタマメッセージウィザードを使用してメッセージを登録および送信することもできます。

### フィードバックメッセージ

お客様の SAP システムでメッセージを登録して CCC または SAP に送信します。

### コードペレートメッセージ

SAPNet でコードペレートメッセージを登録し、CCC に送信します。CCC でこれらのメッセージを SAP メッセージに変換して、SAP に転送することができます。

SAP サポートラインには、メッセージと依頼に回答するユーティリティもあります。その代表的なものは SAP ノートデータベースです。

### 利点

SAP サポートラインには次のような利点があります。

- メッセージの容易な登録
- サポートユニットのメッセージ処理の改善
- SAP ユーザのフィードバックプロセスの改善

## サービスサポートオプション

### SAP ノート

SAP のオンラインサービスおよびサポートシステムから、問題と回答についてノートを検索します。

### ホットニュース

サポートに関する重要なニュースおよび問題

### カスタマメッセージ

SAPのお客様は、使用しているSAPシステムで問題が発生した場合、ここでメッセージを登録することができます。メッセージは、SAPサポート組織に転送されて処理されます。SAPへのメッセージ送信の権限を持っている場合は、カスタマメッセージウィザードを使用して問題メッセージを入力することができます。一度保存してメッセージを再び開くには、受信ボックスにアクセスします。メッセージは、以下のステータスに分類されています個人タスクに含まれています。

- カスタマメッセージ - SAP に未送信
- カスタマメッセージ - SAP に送信済
- カスタマメッセージ - SAP 提案ソリューション
- カスタマメッセージ - 登録者のアクション

ワークフローアイテムモジュールのパーソナライズしたホームページでメッセージを見つけることもできます。

SAPがメッセージに回答すると、電子メールまたはSMSメッセージによって通知されます。SAPの回答は、受信ボックスまたはパーソナライズしたホームページ上で読むことができます。

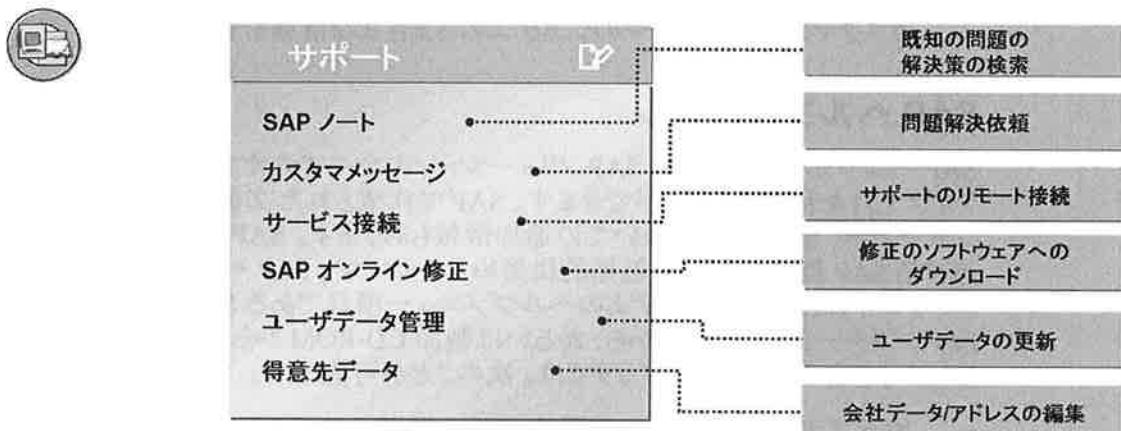


図 163: サポート

### サービス接続

SAP EarlyWatch やリモートコンサルティングなど SAP のリモートサービスを利用するには、リモートサービス接続を開く必要があります。SAP サポートコンサルタントにシステム上で直接作業する許可を与えて、問題を正確に診断してもらうこともできます。このアプリケーションを使用して、特定期間 SAP へのリモート接続を開き、システムへのアクセスを可能することもできます。

### オンライン修正サポート

SAP はソリューションのパフォーマンスや機能を今後も引き続き向上させていきます。最適なパフォーマンスと安定性を保証するために、SAP では定期的にサポートパッケージ(以前のパッチにかわるもの)を発行しています。SAPNet の統合機能を使用して、リモート接続を介してサポートパッケージにアクセスすることができます。オンライン修正サポートは、サポートパッケージを簡単かつ便利な方法で取得し、自動的に導入するさまざまなツールで構成されています。

### ユーザデータ管理

カスタマおよびパートナーはこのサービスを使用して、担当するエリアのユーザデータを管理することができます。

使用できる機能は、以下のとおりです。

- 既存ユーザの検索
- ユーザデータの管理と権限のサポート
- 新規ユーザの申請
- ユーザパスワードの変更またはリセット

### カスタマデータ

カスタマおよびカスタマのシステムのさまざまな情報を管理します。

## SAP ヘルプポータル

SAP ヘルプポータルでは、SAP ソリューションのすべてのオンライン文書(SAP ライブドリ)を利用することができます。SAP で作成された文書、エデュケーションサービス、情報設計についての追加情報もあります。SAP ライブドリは、関連する SAP 製品の情報を包括的に集めたものです。SAP ヘルプポータルのコンテンツには、SAP システムのヘルプメニュー項目である SAP ライブドリまたはアプリケーションヘルプから、あるいは製品 CD-ROM から直接アクセスすることができます。SAP ライブドリでは、次のことが可能です。

- すべての SAP システムの機能概要の把握
- システムコンポーネント、オブジェクト、機能、プロセス、段階的手順などの情報クラスに従って編成された情報の取得
- 高機能検索エンジンを使用した SAP ライブドリ全体の検索
- SAP 用語集での用語の意味の検索

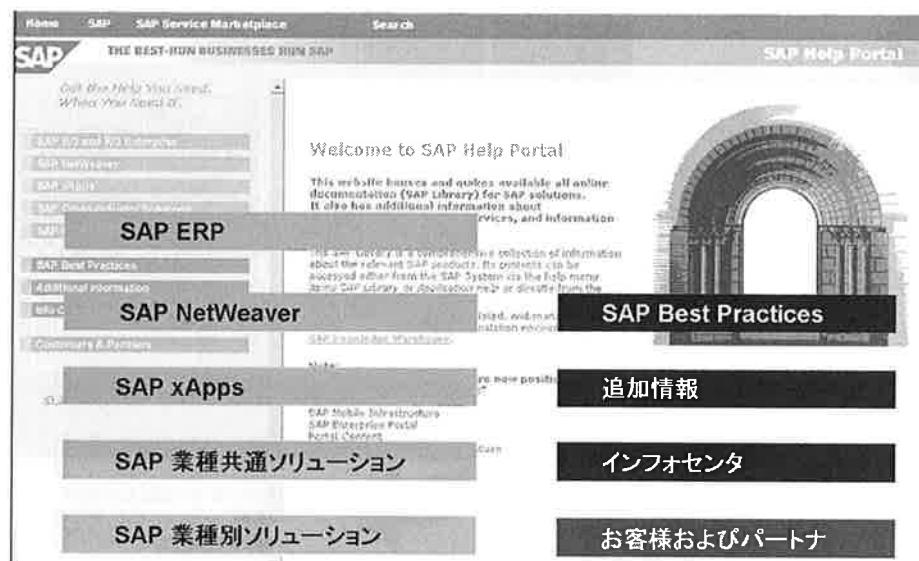


図 164: [help.sap.com](http://help.sap.com)

SAP ライブライブラリは、SAP の標準編集/翻訳環境である SAP ナレッジウェアハウスを使用して登録、翻訳、管理されています。SAP ライブライブラリは無料で提供されており、SAPNet またはサービススマートプレイスのパスワードなしで <http://help.sap.com> にアクセスして利用することができます。

## サービスソリューションマップ

SAP サービスマップは、ビジネスソリューションが、そのライフサイクルを通じて、SAP と SAP パートナーのサービスによっていかに効率的かつ包括的にサポートされるかを示します。このマップは、あらゆる規模と業種の企業に対応しています。

SAP サービスマップでは、3 段階のアプローチが使用されます。まず最初に、サービスを必要とするお客様の主要プロセスの定義が行われます。このトップダウン方式を採用することで、より深い分析が可能になるため、潜在的なサービス範囲を明確に描くことができます。SAP では、プロセスを詳細に構築するために、評価、導入、運用、および継続的改善フェーズから成る一般的なライフサイクルフェーズに沿ってマップを作成しました。このアプローチでは、ライフサイクル内の現時点で最も緊急とされるニーズがまっさきに識別されます。

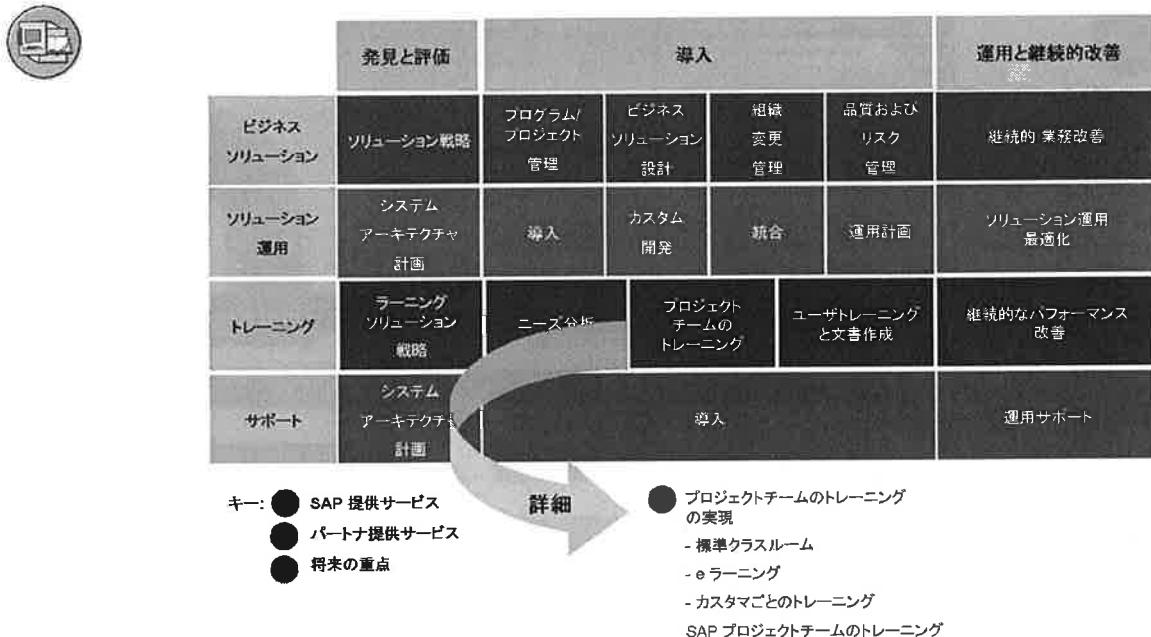


図 165: サービスマップ

サービスは、SAP 提供サービスとパートナ提供サービスに分類されます。

- 利用可能な SAP サービス
- 今後のリリースで利用可能な SAP サービス
- 将来の重点
- 利用可能なパートナサービス
- 今後のリリースで利用可能なパートナサービス

SAP サービスマップには、提供するサービスごとに次の情報が含まれます。

- サービス概要
- サービスの顧客価値提案
- 詳細情報
- 文書化
- 成功事例
- サービスのオンライン注文(該当サービス用)

## リモートおよびオンサイトサービス

専門家のコンサルティングは必ずしもオンラインで実施しなくともかまいません。SAP のリモートコンサルティングサービスでは、SAP の導入時または本稼動操作時に発生したあらゆる種類のコンサルティング依頼に対して、短期間のコンサルティングを提供します。SAP ソリューションが SAP によって

サポートされているか、SAP パートナによってサポートされているかにかかわりなく、リモートコンサルティングの経験豊富なコンサルタントが解決策および回答を提示します。

### 利点

リモートコンサルティングには次のような利点があります。

- SAP コンサルティングが提供する専門知識への迅速なアクセス
- 特定領域の専門家によるサポート
- コスト効率のよいコンサルティング（出張費用不要）

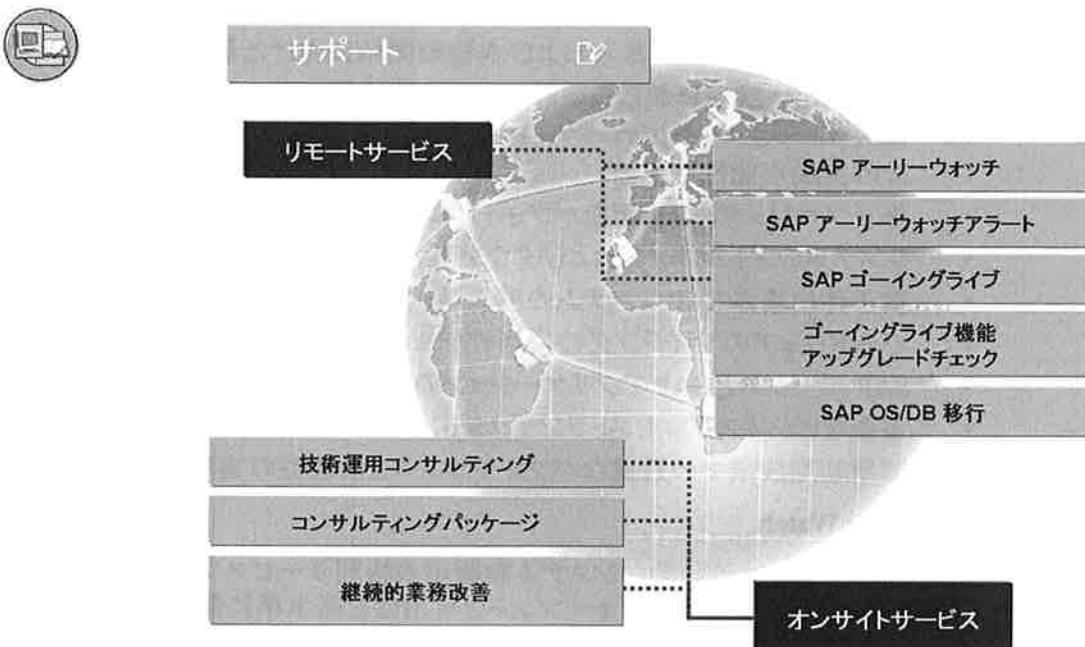


図 166: リモートおよびオンサイトサービス

### SAP GoingLive Check

SAP GoingLive Check は、スムーズな本稼動開始のための定評のある方法です。SAP では、SAP プロジェクトの準備フェーズにおいて実行するセッション、および導入フェーズ開始時に実行するセッションの 2 つのセッションによって SAP GoingLive Check を拡張しました。これらのセッションにおいて、ビジネス設計の実現可能性や新しい SAP ソリューションの要件など、導入を成功させるための決め手となるすべての要素が分析されます。それにより、最後の 3 つの GoingLive セッションを、検証されたプロジェクトデータにもとづいて、焦点を明確にして効率的に実行することができます。

サイトの 3 つのサービスセッションでは、SAP システムのパフォーマンスにとつて重要なすべての構成要素の潜在的な最適化指標が分析されます。これには、SAP ベースコンポーネントおよび必須ビジネスプロセスランザクションのパフォーマンス分析（技術的なアプリケーション最適化）が含まれます。

各セッション後、最適な導入とスムースな本稼動開始を保証するアクション一覧と推奨事項が記載された詳細レポートがお客様に送信されます。

SAP GoingLive Check には、SAP がこれまでの数千件に及ぶ導入事例から得た豊富な経験が反映されています。SAP システム全体のインストールまたは追加 SAP アプリケーションのインストールを問わず、すべての SAP インストールで SAP GoingLive Check を使用することをお奨めします。SAP GoingLive Check は、導入プロジェクトおよびシステムの本稼動開始に向けた最適な準備となります。

### 利点

SAP GoingLive Check には次のような利点があります。

- SAP ソリューションの導入および本稼動開始に向けた最適な準備
- プロジェクト設定における定評のある方法論と経験
- 導入プロジェクト全体のパフォーマンスという観点からの、ビジネス設計の実現可能性の保証
- 修正プロジェクトの最適なパフォーマンス
- システムのボトルネックおよびダウンタイムリスクの最小化
- 数千件に及ぶ SAP システムの導入事例にもとづく専門知識の利用
- ハードウェアのサイジングの妥当性チェック
- SAP ベーシスと SAP アプリケーションのパフォーマンスの最適化
- 重要なビジネスプロセス特朗ザクションのパフォーマンスの最適化
- 運用初期段階での最適なパフォーマンスと信頼性の実現

### SAP EarlyWatch

SAP EarlyWatch は予防的なシステム診断用の特別サービスです。このサービスの目的は、システムのパフォーマンスと可用性を高水準に保つことです。専門家チームが本稼動 SAP ソリューションを分析し、SAP ベーシスと SAP コンポーネント両方の技術的な分析を行います。集中バックグラウンド処理やひんぱんに使用するクエリの段階的な最適化などが分析されます。結果はステータスレポートに記録され、ソリューションチューニングの推奨事項になります。

SAP EarlyWatch サービスはリモート接続を介して提供されます。

TeamSAP がお客様を支援することにより、SAP GoingLive チェック、SAP GoingLive Functional Upgrade Check、SAP OS/DB マイグレーションサービス、SAP EarlyWatch、SAP EarlyWatch Alert で構成される TeamSAP の事前対応のサービスパッケージを利用することができます。これらのサービスによって SAP ソリューションの本稼動開始の準備が整い、パフォーマンスが監視され、最適化のための推奨事項が提供されるため、ライフサイクル全体での効率的で信頼性の高い運用が保証されます。

### 利点

SAP システムの本稼動開始後は、定期的に SAP EarlyWatch を使用してください。これは SAP のすべてのお客様に適用されます。次のような利点があります。

- ボトルネックの予防
- 潜在的な問題の早期検出
- パフォーマンスとシステム可用性の最適化

### SAP EarlyWatch Alert

SAP では、新たな SAP インフラストラクチャにおいて、新しいサービス方式を展開しています。ここでは、予防サービスが重要な役割を果たします。予防サービスは時間、リソース、コストの節約につながります。SAP システムの最適なパフォーマンスと可用性を実現するために、EarlyWatch Alert サービスには幅広いパフォーマンス分析と重要な管理領域が組み込まれています。このサービスは自動で実行されるもので、無料で提供され、SAP システムのライフサイクル全体にわたってその他のサービスの基盤となります。

#### 利点

SAP システムの本稼動開始後は、定期的に SAP EarlyWatch Alert を使用してください。これは SAP のすべてのお客様に適用されます。次のような利点があります。

- SAP システムのボトルネックおよびダウンタイムリスクの最小化
- SAP システムの定期的な自動モニタリング
- 事前対応的な問題分析と予防
- IT 管理をサポートする定期的なステータスレポート
- SAP サービスマーケットプレイス内の SAP システムデータの自動更新
- その他の SAP サービスの基盤

### SAP EarlyWatch Alert サービスの取得

SAP EarlyWatch Alert はすべての SAP カスタマに無料で提供されます。このサービスは SAP リモートサーバの新しいインフラストラクチャに完全に統合されており、サービスデータコントロールセンタ（本稼動システムのトランザクション SDCC）を使用します。

→ **注記:** SAP EarlyWatch Alert を使用するには、SAP ノート 207223 のインストール手順に従ってください。

### SAP GoingLive Functional Upgrade Check

ビジネスソリューション要件の日々の増加により、SAP ソリューションでは絶えずその機能を拡張する必要があります。アップグレードによって、これらの拡張機能を利用するすることができます。SAP GoingLive Functional Upgrade Check サービスを利用することで、システムを最も適切にアップグレードし、新しい環境でも引き続き効率的に動作させることができます。

#### 利点

SAP GoingLive Functional Upgrade Check には次のような利点があります。

- 数千件の導入事例から得た経験にもとづく、専門家チームの専門知識の利用
- アップグレードのセーフガードのためのシステムチェック
- ジャストインタイムの専門知識
- 費用のかかるダウントIMEの回避
- めったに必要にならない専門技術のアウトソーシング

### OS/DB マイグレーション

SAP ではさまざまなハードウェアプラットフォームおよびデータベースシステムをサポートしています。製品ライフサイクルのいずれかの段階でオペレーティングシステムまたはデータベースを変更する必要が生じた場合は、SAP OS/DB マイグレーションサービスが移行の支援とノウハウを提供します。このサービスには、プロジェクト文書テンプレート、SAP マイグレーションツール (CD で提供)、SAP GoingLive Migration Check が含まれます。マイグレーションプロジェクトは、特別認定パートナと協力してお客様が実行するか、移行に関する必要な専門知識を持つコンサルティング会社が実行します。

### 利点

OS/DB マイグレーションサービスは、スムーズな移行のための経験とノウハウを提供します。

- データのコピーとチェックをサポートするマイグレーションツール
- 計画のサポート
- 技術的な問題のサポート
- 新しいプラットフォームでの問題のない効率的な運用

### コンサルティングパッケージ

導入コンサルティングでは、ビジネスプロセスとその技術環境の設計方法に関する SAP の広範な知識にもとづいて築かれた、信頼性の高いパートナーシップを提供します。導入コンサルティングの主な目標は、SAP ソリューションを時間とコストをかけずに導入することです。SAP コンサルタントでは、強力なツール、方法論、および体系化された手順モデルを使用します。このため、お客様のビジネス要件に合わせて SAP 製品の導入およびカスタマイジングを迅速に実施することができます。

### 利点

導入コンサルティングは、SAP ソリューションの迅速で効率的な導入を保証します。

- 導入プロジェクトのあらゆる局面で包括的な支援を提供
- 実績ある方法論および導入ツールの使用による高度なプロフェッショナルスタンダードを保証
- 包括的な最新の製品知識により、お客様にメリットのある方法での SAP ソリューション導入を実現

### 継続的業務改善

継続的業務改善のコンサルティングによって、IT ソリューションからビジネス上のメリットを享受し、ビジネスプロセスをさらに最適化して競合他社に打ち勝つことができます。お客様のニーズはそれぞれ異なるため、継続的業務改善のコンサルティングでは各お客様のビジネス環境に合わせてカスタマイズされた推奨事項を提供します。

### 利点

継続的業務改善のコンサルティングにより時間とコストを節約することができます。このサービスを利用することで、SAP への投資の回収率を高め、所有コストを削減することができます。他にも、次のような利点があります。

- システムの安定性の向上
- 操作性の改善によるエンドユーザーの満足度の向上
- 継続的な改善のためのプロセス
- 優れたビジネスプラクティスからのベンチマー킹主要業績評価指標



ヒント: 詳細なサポートオプションについては、SAP サービスマーケットプレイス <http://service.sap.com> にアクセスしてください。

## SAP Solution Manager

SAP Solution Manager は、SAP ソリューションの技術導入および運用のためのすべてのコンテンツ、ツール、方法論を統合するプラットフォームです。SAP Solution Manager では、コアビジネスプロセスに焦点を当てて、サードパーティシステムへのインターフェースを含むお客様の SAP ソリューションランドスケープ全体の管理を支援します。SAP Solution Manager は、サービスの発注と実行、ソリューション監視セクション、および SAP ノート検索や自動実装などの活動を行うサポート領域で構成されており、SAP ソリューションの導入および運用を支援するプラットフォームとして機能します。SAP Solution Manager は、導入および運用のためのコンテンツ、ツールおよび方法論を統合します。ビジネスプロセスを視覚化し、ソリューションランドスケープをグラフィカルにマッピングして、製品環境の全体像を示します。また、監視によって問題発生前と問題発生時にお客様に警告を送信することで、コアビジネスプロセスの運用を保証します。

SAP Solution Manager は次のサービスで構成されています。

- 導入: SAP Solution Manager は、SAP ソリューションの導入および機能面および技術面両方の最適化のために必要なツール、コンテンツ、方法論へのアクセスを提供します。
- ソリューション監視: SAP Solution Manager は、複数のコンポーネントにわたるビジネスプロセス全体を監視するソリューション監視によって、パフォーマンスおよび可用性に対する期待に応えます。使用可能なモニタリング機能は、SAP EarlyWatch Alert,、システムモニタリング、インターフェースモニタリングおよびビジネスプロセスマニタリング、およびサービスレベルレポートです。
- 運用: SAP Solution Manager の運用領域では、リモートサービス、オンラインサービス、セルフサービス、ベストプラクティス文書などの SAP サポートサービスへのアクセスを提供します。ソリューション設定に応じて、これらのサービスの推奨が動的に提案されます。
- サポート領域: SAP Solution Manager のサービスデスクは、お客様サイトでソリューション全体のサポート組織を編成および運用するための完全なインフラストラクチャを提供します。それにより、エンドユーザから内部サポート組織、また必要に応じて SAP に至るまでのすべての段階で、SAP ソリューションランドスケープのユーザサポートの効率化を図ります。Solution Manager 診断は、SAP 全体を一元的に分析および監視するすべての機能を提供します。
- アップグレード: SAP Solution Manager は、アップグレードの準備、構成、実行を支援します。SAP コンポーネントのアップグレードを容易にする方法論、ツール、サービスなどを備えています。

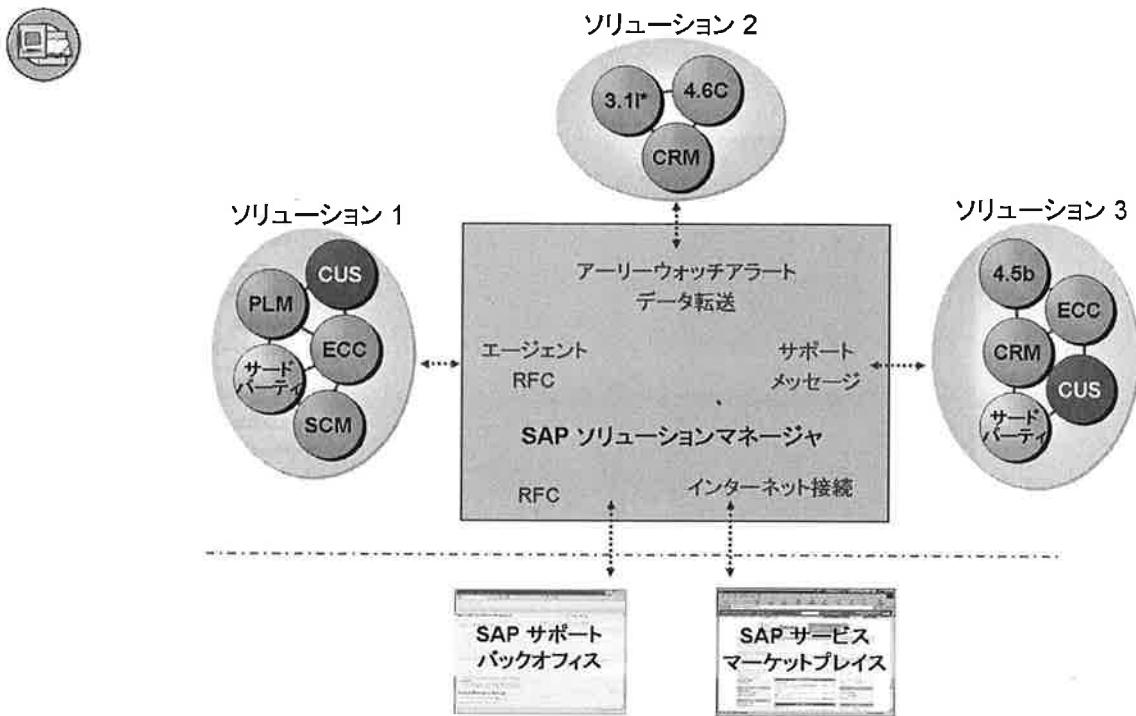


図 167: SAP Solution Manager

→ **注記:** 追加情報については、<http://www.service.sap.com/solutionmanager> にアクセスしてください。また、<http://www.service.sap.com/swcat> にあるサービスカタログから SAP Solution Manager を発注することもできます。

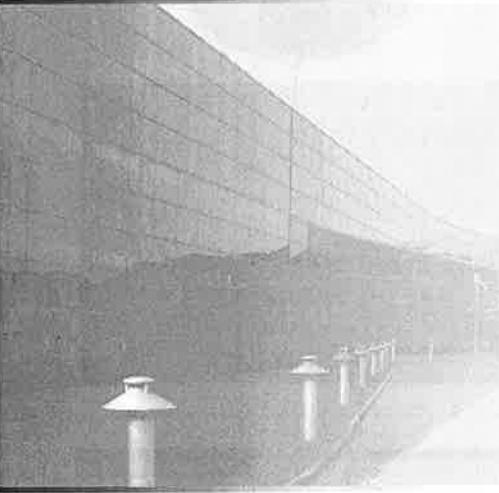
## ナレッジトランスファー

導入開始時のプロジェクトチームの研修から本稼動前のエンドユーザの研修まで、SAP は業務をスムーズに行うためのさまざまな研修オプションを用意しています。

SAP エデュケーションサービスでは、適切な時期に適切な情報を適切なユーザーに提供することで、企業に次のようなメリットを提供します。

- 初期導入の迅速化とコスト低減
- エンドユーザによる受入れおよび生産性の向上とサポートコストの削減
- ビジネスプラクティスの導入と変更に対する迅速な適応を促進することで、ソフトウェア投資からの最適なリターンの実現

SAP では、導入チームの研修を行う導入マネージャ、数千人のエンドユーザの研修を行う研修マネージャ、特定分野のハウツー情報を探しているコンサルタントなどのニーズを満たす製品およびサービスを用意しています。

**クラスルームトレーニング**

- 250 以上のコース
- 高度なプラチナワークショップ
- グローバルに標準化されたトレーニング

---

**自習オプション**

- デルタスタディガイド
- ベーシスナレッジプロダクト

---

**e ラーニング**

- SAP パーチャルクラスルーム
- 録画再生
- Web ベーストレーニング

---

**エンドユーザトレーニング**

- エンドユーザサポート
- トレーニング管理
- 変更管理

---

**SAP アカデミー**

- 2 ~ 5 週間の集中プログラム
- SAP 認定
- 新人教育

---

**得意先サイトでのトレーニング**

- カスタマイズされたクラスルームトレーニング

図 168: ナレッジransファー

### 教室での研修を補強する e ラーニング

従業員に対するライブイベントや集合研修を補強するために、企業は柔軟性に富むタイムリーなオプションを求めています。SAP の e ラーニングソリューションは、企業の求めるオプションを提供します。e ラーニングソリューションにより、企業は出張費用を削減し、作業を離れる時間を短縮し、専門家をグローバルに利用し、情報をタイムリーに展開し、情報を継続的に配信し、必要なときに適切な量の情報を入手することができます。

e ラーニングでは、多種多様なユーザニーズ、および異なる種類の情報ニーズに応えるさまざまなソリューションを用意しています。たとえば、SAP パーチャルクラスルームの e ラーニングは、新製品のデモンストレーション、製品トレーニング、従業員の動機付けとなる情報セッションなど、即座に発信する必要のある情報に適しています。ライブセッションに参加できなかったユーザは、録画を見て情報を入手することができます。

他方、自習型 e ラーニングは、あまり変化がなく、ユーザの日常業務に関連し、デモンストレーションや練習の要素によって高めることが可能な情報向けに設計されています。たとえば、自習型 e ラーニングでは、組織の重要ロールに関連する活動について学習します。

## ライブ

ライブでは、多くのユーザにすばやく大量の情報を伝えることができます。このソリューションでは、グローバルなインターネットインフラストラクチャを使用して、講師と多人数の受講者との間のライブトレーニングセッションを提供します。

内容を魅力的なものにするために、バーチャルクラスルームは次の機能を提供します。

- クラスへの参加と対話を支援する講師と受講者間の双方向音声
- ライブデモンストレーションのためのアプリケーション共有
- プrezenteーションに変化をつけるための補足説明
- 受講者からのリアルタイムのフィードバックおよび質問
- ライブセッションを後で利用するための録画機能

ユーザがセッションに参加するためには、マイク付きヘッドフォンと受講生バージョンのソフトウェアが必要です。講師のインターフェースは、ログオンしている全受講生の概要、受講生のフィードバックとリクエストの概要、個々のユーザに接続する方法、アンケートの結果表示、ポイントを強調するための画面上に描画するツールを備えています。

受講者は、講師または他の受講者に話しかけたり、メモを書いたりできるほか、スライド上の領域をポイントしたり、講師のアンケートに答えたりすることもできます。

## 録画

ライブセッションの情報をできるだけ多くの受講者が利用できるように、SAP では録画セッションのライブラリを提供しています。各セッションにはライブセッションの質問やコメントが収録されているため、ユーザはセッションで行われたやりとりを活用することができます。

## セルフペース

業務内容にかかわらず、組織では、多くのユーザを SAP システムに慣れさせるためのトレーニングを実施しなければなりません。

現在、セルフペースコースでは、主要ロールのトレーニング、対応するビジネスシナリオ、および関連する主要タスクを提供しています。

ユーザが自分のロールに関連した主要コンセプトおよび活動について学習できるように、SAP では次の機能を持つコースを用意しています。

- ユーザのペースで必要なときに実施できる短期学習ユニット
- 関連マテリアルにアクセスする環境
- デモンストレーションおよび学習内容を練習する環境
- 受講者にフィードバックを提供する質問とテスト

## プロジェクトチームのトレーニング

プロジェクトチームのトレーニングは、導入の成功に必要なスキルをお客様のプロジェクトチームに提供することを目的として設計されています。受講者は上級管理職、ビジネスプロセス責任者、設定チームおよびパワー/スーパーユーザ、その他の導入チームメンバーを対象としています。アプリケーションと技術カリキュラムでは、認識、準備、習熟の観点からお客様要件に対処します。標準クラスルーム、お客様サイトでのオンラインクラス、遠距離学習(ライブ、録画、Webベース)などのオプションがあります。

SAP プロジェクトチームトレーニングコースには数多くのカリキュラムがあります。プロジェクトチームトレーニングには、教材、ビジネスモデル、演習問題、オンラインヘルプ、文書が取り入れられています。これらのクラスのコース編成およびコース内容は、学習工程と実地作業の両方に応しています。このアプローチは、実際の導入プロジェクトチームの活動をシミュレーションしたもので、現実的なシナリオを使用することで、受講生はビジネスプロセスフローおよびテストケースに従って迅速に SAP について学習することができます。

### SAP ソリューションアカデミー

SAP ソリューションアカデミーは、世界全体に広がる、高度なトレーニングのための国際的な教育機関です。SAP ソリューションアカデミーは、SAP 全製品のためのコスト効率のよい包括的なトレーニングソリューションです。SAP の使用経験がないか、経験豊富なコンサルタントかにかかわらず、アカデミーではユーザのスキル開発を支援するさまざまなコースを取り揃えています。アカデミーでは、実地のクラスルーム環境と、SAP ソリューションの導入要件を検討する徹底的なケーススタディを提供しています。マーケットプレイスに対する知識を証明する認定試験もあります。

SAP 経験豊富なユーザまたは研修プログラムを終了したユーザは、認定試験を受けることができます。標準試験の範囲は、特定の製品リリースやビジネスプロセス、これらの機能領域での効率的な導入などです。試験は通常アカデミーのコースと一緒に行われますが、SAP 経験豊富なユーザは誰でも、試験を受けて認定を取得することができます。

### 変更依頼管理

SAP の変更管理サービスの一環として、SAP User Training and Performance Solution チームは企業のスタッフおよび経営陣と密接に連携し、変更プロセス、組織再編の重要性、組織内の問題に対処するために必要なツールや技術についての理解を促します。変更管理手順では、次の点において従業員をサポートします。

- 作業の快適な実施
- 変化の必要性および内容の理解
- 期待内容および必要な変化の妥当性の理解
- 新しいスキルを最高レベルのパフォーマンスで実行するための十分なトレーニング

SAP では、組織の目標や目的を達成するために、リーダーシップ、組織、技術、および文化に関する主要な問題の調整および統合に力を入れています。さらに、組織内のリーダーシップおよび意表をつく担当者変更に対する支援を行い、リーダーが変更の心理および従業員に対する影響を理解できるようにします。

### 教育領域の上位レベル評価

上位レベル評価の目的は、必要な SAP アプリケーションの導入や既存の導入のアップグレードをスムーズに実施するために、お客様の上級管理職がトレーニング活動の実際の規模と範囲を把握できるようにすることです。

### 教育ニーズ分析

SAP エデュケーションサービスは、すべての教育サービス要件に対する要求分析プログラムを提供します。

変更管理計画サービスでは、お客様の組織が認識する、組織および個人の変更管理要件を評価します。

プロジェクトチーム計画サービスでは、受講者別、配信方法別(クラスルーム、オンライン、Web)、所要期間別のアプリケーションおよび技術トレーニングコース要件など、お客様プロジェクトチームのトレーニングニーズをオンラインで評価します。

ユーザトレーニングおよびサービスチームは、お客様のユーザトレーニング要求をオンラインで評価し、ユーザロール定義、カリキュラム開発、IT インフラストラクチャ、トレーニングコンテンツ開発、配信ツールおよび配信方法に関する推奨事項を提供します。評価の結果にもとづき、SAP から完全なユーザトレーニング計画を提供します。

これらの評価の結果、お客様は関連コスト見積もり含めたトレーニングソリューション計画を受け取ります。

### 自習オプション

柔軟なトレーニングオプションと情報への随時アクセスの需要に応えるために、SAP は集合研修のほか、さまざまな自習オプションを提供しています。自習オプションには、機能エキスパートおよびテクニカルエキスパート用の教材、およびエンドユーザー用の教材などがあります。

自習オプションは、企業にとって、柔軟性に富みコスト効率がよいという利点があります。個々のコンサルタントや企業は、出張費用を節約し、生産性に与える影響を最小限に抑えるトレーニングを計画することができます。ユーザに

とては、都合が良いときに、および情報を最も必要とするときに学習できる、という利点があります。また、知識をリフレッシュしたいときに、いつでもレッスンを反復することができます。

- Made-Easy Guidebook
- SAP ベーシスナレッジプロダクト
- デルタスタディガイド
- インタフェースアドバイザナレッジプロダクト

#### カスタマサイトトレーニング

SAP では、お客様サイトでの完全なプロジェクトチームトレーニングの実施に対応しています。SAP のオンライントレーニングでは、柔軟なスケジュールによってコストや時間を大幅に節約することができます。SAP ソリューションのすべてのテクニカルおよび実務向けアプリケーションにおいて、訓練された資格のある講師を派遣します。次のような提供オプションがあります。

- Info-DB のライセンスを通じて、トレーニング教材とトレーニングデータベースを提供します。Info-DB によって、お客様はオンラインでトレーニング情報にアクセスし、個別ニーズに合わせてコース教材を柔軟に編集することができます。追加情報については、SAP アカウントエグゼクティブまたはトレーニング顧客マネージャにお問い合わせください。
- いずれかの SAP トレーニングシステムへのリモートアクセスを提供します。このオプションは、さまざまなオプションを通じて実施することができます。これらの配信オプションは、コストピックが非常に特殊な場合、またはクラスの規模や期間が限られている場合や出張費用が問題となる場合に適しています。



## レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- SAP サービスマーケットプレイスの機能の説明

### 関連情報

- SAP サービスマーケットプレイスは <http://service.sap.com> にあります。他の関連 Web サイトは、[www.sap.com](http://www.sap.com)、[www.saplabs.com](http://www.saplabs.com)、<http://service.sap.com/solutionmanager>、および[help.sap.com](http://help.sap.com) です。
- ヘルプリンクには、サイトのパーソナライズオプションのチュートリアルなど、SAP サービスマーケットプレイスに関するその他の有用情報があります。
- SAP サービスマーケットプレイスへの質問やフィードバックの送信には、*Contact Us* リンクを使用します。



## 章のまとめ

以下について学習しました。

- SAP サービスマーケットプレイスの機能の説明



## テスト

1. お客様やパートナは SAP サービスマーケットプレイスでインターネットを介して SAP サービスを発注することができます。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
  
2. 次のサービスのうち、管理活動でないものはどれですか。  
正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。  
 A 作業管理  
 B データ移行  
 C 戦略定義  
 D プロジェクト管理  
 E 品質管理
  
3. SAP EarlyWatch および SAP EarlyWatch Alert はリモートサービスです。  
この文章の内容は正しいですか。  
 正  
 誤
  
4. 次の SAP サービスマップのサービスカテゴリのうち、リモートサービスの SAP EarlyWatch および SAP EarlyWatch Alert が含まれるカテゴリはどれですか。  
正しい答えを選択してください。正解が複数の場合もあります。  
 A ビジネスソリューション  
 B サポート  
 C ソリューション運用とサポート  
 D ビジネスソリューションとサポート



## 解答

- お客様やパートナは SAP サービスマーケットプレイスでインターネットを介して SAP サービスを発注することができます。

解答: 正

SAP サービスマーケットプレイスでは、SAP やそのパートナのさまざまなサービスにアクセスして、インターネット上でサービスを依頼することができます。

- 次のサービスのうち、管理活動でないものはどれですか。

解答: B

データ移行は開発活動と見なされています。

- SAP EarlyWatch および SAP EarlyWatch Alert はリモートサービスです。

解答: 正

SAP EarlyWatch および SAP EarlyWatch Alert は、システムの技術上の問題やボトルネックを監視する SAP のリモートサービスです。

- 次の SAP サービスマップのサービスカテゴリのうち、リモートサービスの SAP EarlyWatch および SAP EarlyWatch Alert が含まれるカテゴリはどれですか。

解答: C

SAP サービスマーケットプレイスの *Solutions Operation and Support (ソリューション運用とサポート)* 領域内をナビゲートすると、SAP EarlyWatch と SAP EarlyWatch Alert が見つかります。



## コースのまとめ

以下について学習しました。

- SAP ソリューションの範囲の識別
- より詳細な SAP クラスへの参加
- SAP 用語の有効な使用



# 目次

## 数字/記号

- 出荷, 95, 97–98, 119, 124, 138, 142–143, 192–193, 203, 205, 215  
最上層, 6–7, 54, 66  
参照顧客, 9, 45, 77, 95, 97, 109, 121–123, 131–133, 140, 149, 159, 164,  
167–168, 174–175, 191–192, 196, 201–202, 213, 215–216, 219, 222,  
224–225, 245–246  
　個人, 78  
　ジョブ, 77  
　ポジション, 78  
総勘定元帳, 191, 193, 201–202, 226  
販売事業計画, 121, 159–160, 200–202, 320  
仕入先管理在庫, 134, 199–200  
活動基準原価計算, 201  
固定資産勘定, 193  
収益性分析, 203  
設備資産管理, 168  
財務会計, 99, 109, 142, 191–192, 203–204  
損益計算書, 191–192  
固定資産管理, 192  
貸借対照表勘定, 191  
請求書照合, 142, 203–204  
貸借対照表項目, 203  
活動基準原価計算, 203  
受注確約, 133, 150, 170–171, 193  
消費財調達, 150, 172–173, 193  
環境安全衛生, 171–172  
貸借対照表項目, 193  
統合, 165  
製品構成管理, 165  
経営管理 - 連結, 192  
資材所要量計画 (MRP), 121  
在庫/購買管理, 132  
調達/建設, 170  
財務/資金管理, 193  
電子請求/決済, 196  
輸送計画/配車計画, 133, 168  
投資計画/設計, 170  
生産計画/詳細計画, 131  
財務/資金管理, 197

- 変更/構成管理, 165
- 電子請求/決済, 197
- 顧客/コンタクト管理, 109
- 40CFR, 173
- ABAP, 22, 259
- AIS, 200
- B2C, 111, 197
- Basel II, 199, 201
- BtoB, 111, 197
- Business to business (BtoB), 111
- Business to consumer (B2C), 111
- BW-BPS, 243
- CAD, 165
- CATS, 223
- cFolder, 163, 166
- CO-OM, 201
- CO-OM-CEL, 201
- CO-PA, 202
- CO-PC, 202
- CPFR, 130, 134
- CPFR (Collaborative Planning, Forecasting and Replenishment), 134
- cProject, 162, 166
- DP, 131
- e ラーニング, 318–319
- e-コマース, 111
- EC-CS, 192
- EC-PCA, 202–203
- EH&S, 171
- EnjoySAP, 5
- Environmental Protection Act and Codes of Practice, 173
- ERP, 22
- ESS, 223, 227
- F1 ヘルプ, 55
- F4 ヘルプ, 56
- G/L, 191
- G/L 勘定, 191
- Hektor, Hans Werner, 2
- help
  - SAPNet, 66
- Hopp, Dietmar, 2
- IAS, 246
- IBM WebSphere, 256, 263
- International Accounting Standards (IAS)
  - IAS, 192
- iView, 270

J2EE, 256, 259  
Kreislaufwirtschafts- und Abfallgesetz, 173  
LES, 97  
MIC, 200  
Microsoft .NET, 256, 263  
MPS, 121  
MRO, 138  
MRP, 121  
MSS, 229  
mySAP Business Suite, 6  
mySAP ERP, 6  
mySAP ERP Corporate Services, 20  
mySAP ERP Financials, 20  
mySAP ERP Human Capital Management, 20  
mySAP ERP Operations, 20  
mySAP.com, 6  
OLAP, 237  
OLTP, 236  
OS/DB マイグレーションサービス, 314  
Plattner, Hasso, 2  
PLM, 156  
PP/DS, 131  
PSP, 161  
RFID, 130, 135  
SAP 戦略的企業経営, 244  
SAP (International) AG, 4  
SAP AG, 4  
SAP AII, 135  
SAP All-in-One, 16, 30  
SAP Business Information Warehouse (SAP BW), 225  
SAP Business One, 7, 17, 31  
SAP Business Suite, 16, 23  
SAP BW, 225, 227  
SAP CRM, 24, 105  
SAP CRM On-Demand, 112  
SAP Customer Relationship Management, 24, 105  
SAP EarlyWatch, 312–313  
SAP EarlyWatch Alert, 313  
SAP Easy Access, 42  
SAP ECC, 23  
SAP Enterprise Portal (SAP EP), 227  
SAP ERP, 16, 20  
SAP ERP Central Component, 23  
SAP ERP Financials, 21, 225  
SAP ERP HCM, 212  
SAP ERP Human Capital Management, 21, 77, 212

SAP ERP の総勘定元帳, 195  
SAP for Automotive (自動車), 26  
SAP for Banking (銀行), 26  
SAP for Chemicals (化学産業), 26  
SAP for Healthcare (医療機関), 26  
SAP for Logistics Service Providers (物流), 26  
SAP for Mining (鉱業), 27  
SAP for Oil and Gas (石油、ガス), 27  
SAP for Public Sector (官公庁、公共機関), 27  
SAP for Retail (小売), 27  
SAP GmbH, 2  
SAP GoingLive Check, 311–312  
SAP GoingLive Functional Upgrade Check, 313–314  
SAP GoingLive Migration Check, 314  
SAP GUI, 38  
SAP Hosting AG & Co. KG, 7  
SAP Labs, 7  
SAP Logon, 38  
SAP Manage, 7  
SAP NetWeaver, 18, 256  
SAP NetWeaver Application Server, 20, 260  
SAP NetWeaver Auto-ID Infrastructure, 135  
SAP NetWeaver BI, 240, 259  
SAP NetWeaver BI 事業計画とシミュレーション, 243  
SAP NetWeaver Business Intelligence, 19  
SAP NetWeaver Business Intelligence (SAP NetWeaver BI), 239  
SAP NetWeaver Exchange Infrastructure, 19, 259  
SAP NetWeaver Master Data Management, 19, 286  
SAP NetWeaver Portal, 19, 258, 268  
SAP NetWeaver によるコラボレーション, 276  
SAP PLM, 24, 156  
SAP Product Lifecycle Management, 24  
SAP R/1, 2  
SAP R/2, 3  
SAP R/3, 4, 22  
SAP R/3 Enterprise, 23  
SAP SCM, 24, 127  
SAP SEM, 225, 240, 244  
SAP SEM 事業計画, 244  
SAP SRM, 24, 147  
SAP Supplier Relationship Management, 24, 147  
SAP Supply Chain Management, 24  
SAP Web 請求, 196, 198  
SAP xApp Cost and Quotation Management, 29  
SAP xApp Emissions Management, 29  
SAP xApp Product Definition, 29

SAP xApps, 27, 257  
SAP xAPPs Resource and Portfolio Management, 29  
SAP xCQM, 29  
SAP xEM, 29  
SAP xPD, 29  
SAP xRPM, 29  
SAP サポートライン, 306  
SAP サービスマップ, 309  
SAP サービスマーケットプレイス, 55, 304  
SAP システム  
　　オンラインヘルプ, 54  
　　ヘルプ, 54  
SAP ソリューションアカデミー, 320  
SAP ヘルプポータル, 308  
SAP 標準メニュー, 45  
SAP ライブラリ, 54, 66, 308  
SAPNet, 66  
SCEM, 133  
SEM-BCS, 246  
SEM-BPS, 245  
SEM-CPM, 247  
SEM-SRM, 247  
SMI, 130, 134  
SOP, 121  
Steeb, 8  
SWOT, 240  
TP/VS, 133  
TREX, 275  
Tschira, Klaus, 2  
US GAAP, 246  
VMI, 130, 134  
Walldorf, 3  
Web 決済プロバイダ, 196, 198  
Wellenreuther, Claus, 2  
WM, 133  
WMS, 97  
www.sap.com, 12

## あ

人事アクション, 218  
アプリケーション, 17  
アプリケーションツールバー, 45  
アプリケーションプラットフォーム, 20  
アプリケーションヘルプ, 54, 66

## い

インセンティブおよびコミッション管理, 109

インターラクションセンタ, 111  
インターラクションチャネル, 110  
インターネット, 111, 197  
インハウスキャッシュ, 196  
インフォタイプ, 216  
インフォメーションインテグレーション, 19

## え

エデュケーションサービス, 321  
エンタープライズサービスアーキテクチャ, 6

## お

見積および受注管理, 109  
販売計画および需要予測, 109  
戦略的購買およびソーシング, 149  
組織および販売テリトリ管理, 109  
オンライン分析処理, 237  
オンライン修正サポート, 308  
オンライントランザクション処理, 236

## か

カスタマコンピテンスセンタ (CCC), 306  
カスタマサービス/サポート, 109  
カスタマリレーションシップマネジメント, 103  
カタログ管理, 150  
受注から入金まで, 93, 119, 138  
ガントチャート, 162

## き

キャンペーン管理, 108

## く

連結グループ, 192  
クレーム管理, 196  
クローズドループ型のマーケティング分析, 108  
グローバル ATP, 133, 135  
グローバル ATP (Available-to-Promise), 133, 135

## こ

コマンドフィールド, 44  
発注コラボレーション, 152–153, 166–167  
コラボレーティブプロジェクトマネジメント, 162, 166  
導入コンサルティング, 314–315  
コンテンツエリア, 270  
コンテンツマネジメント, 275  
コンポーネント, 17  
会社コード, 192  
勘定コード表, 191  
コーポレートガバナンス, 199

**さ**

- サプライチェーン計画, 131
- サプライチェーン実行系, 132
- サプライチェーンイベント管理, 133
- サプライチェーンコラボレーション, 134
- サプライチェーンコーディネーション, 133
- サプライチェーンパフォーマンス管理, 133
- サプライチェーンマネジメント, 127
- サプライヤ登録, 152–153
- サプライヤ選定, 150
- サプライヤ主導型在庫管理, 134
- サプライヤコラボレーション, 151
- サポートパッケージ, 308
- サポートライン, 306
- サービス, 109
- サービス調達, 151
- サービス計画/予測, 110
- サービスオペレーション管理, 110

**し**

- 監査情報システム, 200
- シック決済プロバイダ, 198
- ジョブ, 214
- シン決済プロバイダ, 198

**す**

- ステークホルダ管理, 247
- ステータスバー, 45, 49

**せ**

- 顧客セグメンテーション, 108
- セグメント, 203
- 市場セグメント, 202, 204–205
- 収益性セグメント, 205
- セミナー管理, 219–220
- セルフサービス調達, 141, 150
- 従業員セルフサービス (ESS), 223, 227
- 原価センタ, 201–203
- 利益センタ会計, 202
- 利益センタ会計, 203
- セールス, 108

**た**

- タイムシート, 223
- タイムレコーディング, 223
- タブ, 45

**ち**

- チェックボックス, 45
- チャネル管理, 111
- チャネルコマース, 112
- チャネルサービス, 112
- チャネルセールス, 112
- チャネルマーケティング, 112

**つ**

- 標準ツールバー, 44

**て**

- テレセールス, 116

**と**

- 検索と分類 (TREX), 275
- 事業計画とシミュレーション, 242, 245
- トップレベルナビゲーション, 270
- ドラッグ & リレート, 272
- トランザクション, 78
- トランザクションコード, 44, 48–49
- トレードプロモーション管理, 108

**な**

- 詳細ナビゲーション, 270
- ナビゲーションオプション, 48
- ナビゲーションパネル, 270
- ナレッジトランスマスター, 317
- ナレッジマネジメント, 275

**に**

- 一般に公正妥当と認められた会計原則  
US-GAAP, 192

**の**

- 供給方針の開発, 149
- 計画主導型の調達, 150
- 継続的業務改善のコンサルティング, 315
- 経営管理の利益センタ会計, 202

**は**

- 業種別パッケージ, 25
- パラレル会計基準, 192
- バランススコアカード, 245, 248
- 表題バー, 44
- パーソナライズ, 57
- パーソナライゼーション, 108
- パートナ管理/分析, 111

**ひ**

ビジネスパッケージ, 273  
 ピッキング, 97  
 ピープルインテグレーション, 19

**ふ**

ファイナンシャルサプライチェーンマネジメント, 196  
 フィールドアプリケーション, 111  
 プログラム/プロジェクト管理, 159–160  
 プロジェクト計画表, 161  
 プロジェクト構造計画, 161  
 プロジェクトシステム, 160  
 プロジェクトチームのトレーニング, 320  
 プロセス, 203  
 受注プロセス, 93, 203  
 プロセスインテグレーション, 19  
 プロダクトライフサイクルマネジメント, 156  
 決済プロバイダ, 198  
 プロフェッショナルサービス, 110  
 伝票フロー, 100

**へ**

ヘルプ, 54  
 設定, 55, 66  
 用語集, 54, 66  
 F1, 55  
 F4, 56  
 SAP サービスマーケットプレイス, 55  
 SAP ライブラリ, 54, 66  
 アプリケーションヘルプ, 54, 66  
 サポートメッセージ, 55  
 サポートメッセージ登録, 66  
 リリースノート, 54, 66

**ほ**

ポジション, 214  
 ボタン, 45  
 ポータル開発キット, 275  
 ポータルコンテンツポートフォリオ, 274

**ま**

得意先マスター  
 会社コードデータ, 75  
 一般データ, 75  
 マスターデータ, 78  
 マネジメントコックピット, 245, 248–249  
 マネージャセルフサービス, 229  
 勤怠マネージャワークプレイス, 223

マルチセッション, 51  
マルチチャネルサービス, 109  
マーケティング, 108  
マーケティングプランニング, 108

## め

メニュー, 48–49  
メニューバー, 44

## も

企業業績モニタ, 245  
企業業績モニタ, 247  
モバイルセールス, 116

## ゆ

組織ユニット, 214  
ユニフィケーション, 272  
ユーザ定義, 49  
ユーザ定義, 47  
ユーザメニュー, 49

## ら

ライフサイクルコラボレーション, 159, 165  
ライフサイクルデータマネジメント, 159, 163  
ラジオボタン, 45

## り

リスク管理, 197  
リソース計画/最適化, 110  
リモートコンサルティングサービス, 310  
リモートサービス接続, 307  
リリースノート, 54, 66  
リード管理, 108

## れ

レシピ管理, 164  
上位レベル評価, 321  
レポート, 205

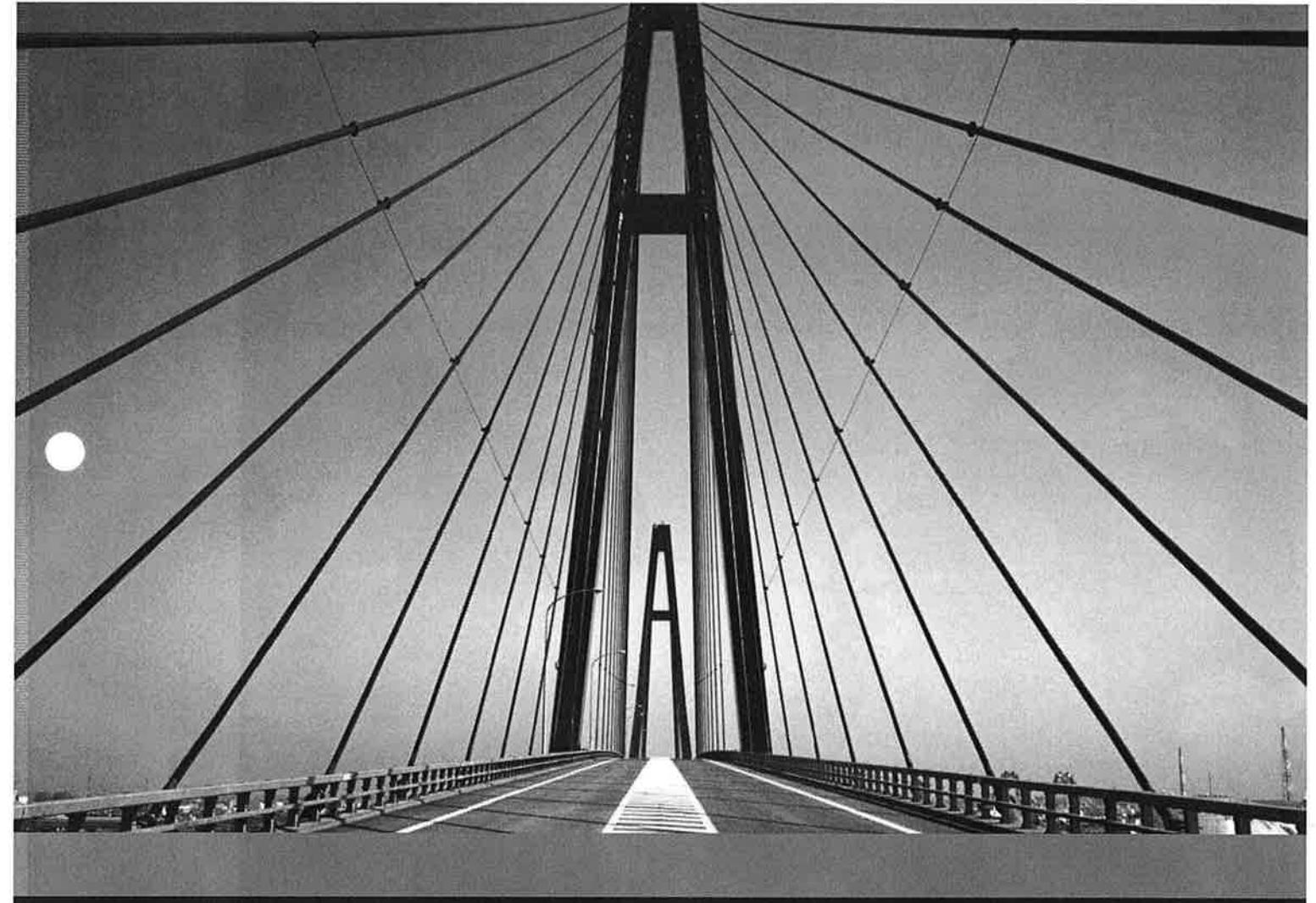
## ろ

多重ログオン, 50  
ロジスティクス実行システム, 97  
ロール, 46  
ロールベースメニュー, 45

# フィードバック

SAP AG 社は、本コース開発において、内容の正確さに尽力しております。ご意見/ご質問等がございましたら、コース評価の該当箇所にご記入ください。





# SAP01E Appendix

SAP eAcademy 基礎課程 補足資料

本書の一部または全部を、SAP AG および SAP ジャパン(株)からの書面による事前の許可なしに、複製、翻訳、検索システムへの格納あるいは  
伝達することを、電子的、機械的、フォトコピー、録音などを含むその形態もしくは手段を問わず、禁じます。  
本書は、SAP AG および SAP ジャパン(株)により明示的な同意がある場合のみ使用することができます。  
本書の一部または全部を用いて、その形態もしくは手段ならびに有償無償の如何、社内外等その対象を問わず、教育等に使用することを禁じます。  
本書は著作権法およびその他の知的財産に関する法令により保護の対象となる著作物です。



THE BEST-RUN BUSINESSES RUN SAP™

戦略的に活用できるIT基盤が



「SAP ERPにより、当社はビジネス環境の課題に十分対応しています。  
SAPなどの効果を發揮する企業と製品は、市場を見わたしてもほかにありません」

Biotnet Europe BV社、バイスプレジデント兼CFO、Paul Renaud氏

本書の一部または全部を、SAP AG および SAP ジャパン(株)からの書面による事前の許可なしに、複製、翻訳、検索システムへの格納あるいは  
伝達することを、電子的、機械的、フリーコピー、録音などを含むその形態もしくは手段を問わず、禁じます。  
本書は、SAP AG および SAP ジャパン(株)により明示的な同意がある場合のみ使用することができます。  
本書の一部または全部を用いて、その形態もしくは手段ならびに有償無償の如何、社内外等その対象を問わず、教育等に使用することを禁じます。  
本書は著作権法およびその他の知的財産に関する法令により保護の対象となる著作物です。

## SAP ERP：

### 企業のビジネス、未来、成功を切り開くソリューション

SAP ERP アプリケーションは、ビジネスにおける優位性と革新性を実現する確かな基盤であり、戦略上の洞察力、競争優位、生産性の向上、ビジネスの俊敏性獲得に不可欠なERPソリューションです。SAPは、企業の効率性向上というビジョンをSAP ERP アプリケーションに反映させています。すなわち、エンドツーエンドのビジネスプロセスを自動化し、そのプロセスを顧客、パートナー、サプライヤが構成するビジネスエコシステム全体に拡張するための支援を、SAP ERPを通して実現しているのです。SAP ERPにより、従業員は生産性の向上だけでなく、的確な意思決定に必要な洞察力を獲得することが可能になり、企業に競争優位性がもたらされます。

サービス化したエンタープライズ・アプリケーション・スイートであるSAP ERPは、SAP NetWeaver® プラットフォームを基盤としています。SAP NetWeaverは複数のテクノロジーコンポーネントを単一プラットフォームに統合し、組織がITの複雑性を緩和してIT投資からより大きなビジネスバリューを実現できるようにするだけでなく、SAPやSAP以外のソフトウェアを実行するすべてのシステムを統合する最適な方法を提供します。

また、SAP NetWeaverが支援するITとビジネスの連携により、組織はエンタープライズサービスを使用してビジネスソリューションを迅速に構成し、拡張できるようになります。エンタープライズ・サービス指向アーキテクチャ(エンタープライズ SOA)の基盤であるSAP NetWeaverにより、現在のIT環境が、ビジネスイノベーションに対応する戦略的環境に変わります。



## 今日のビジネス課題への対応

現在のビジネス環境においては、グローバル化、ビジネスサイクルの短縮、顧客の期待、収益性向上といったさまざまな要求に応えなければなりません。これは、企業にとって大きなプレッシャーです。またその中で、収益性、透明性、内部統制をおろそかにすることなく、ビジネスの変化に柔軟に対応していくなければなりません。

企業には、次のような課題に対応できるERPアプリケーションが必要です。

- 企業の持つ構造、市場との関係、ビジネスプロセスの複雑性を緩和する。

- 業務を簡素化し、企業のリソースや資産を最大限に活用する。
- 製品化と収益実現にかかる時間を短縮する
- サービスレベルを高め、製品やサービスの差別化を進める。
- 顧客満足度を高める。

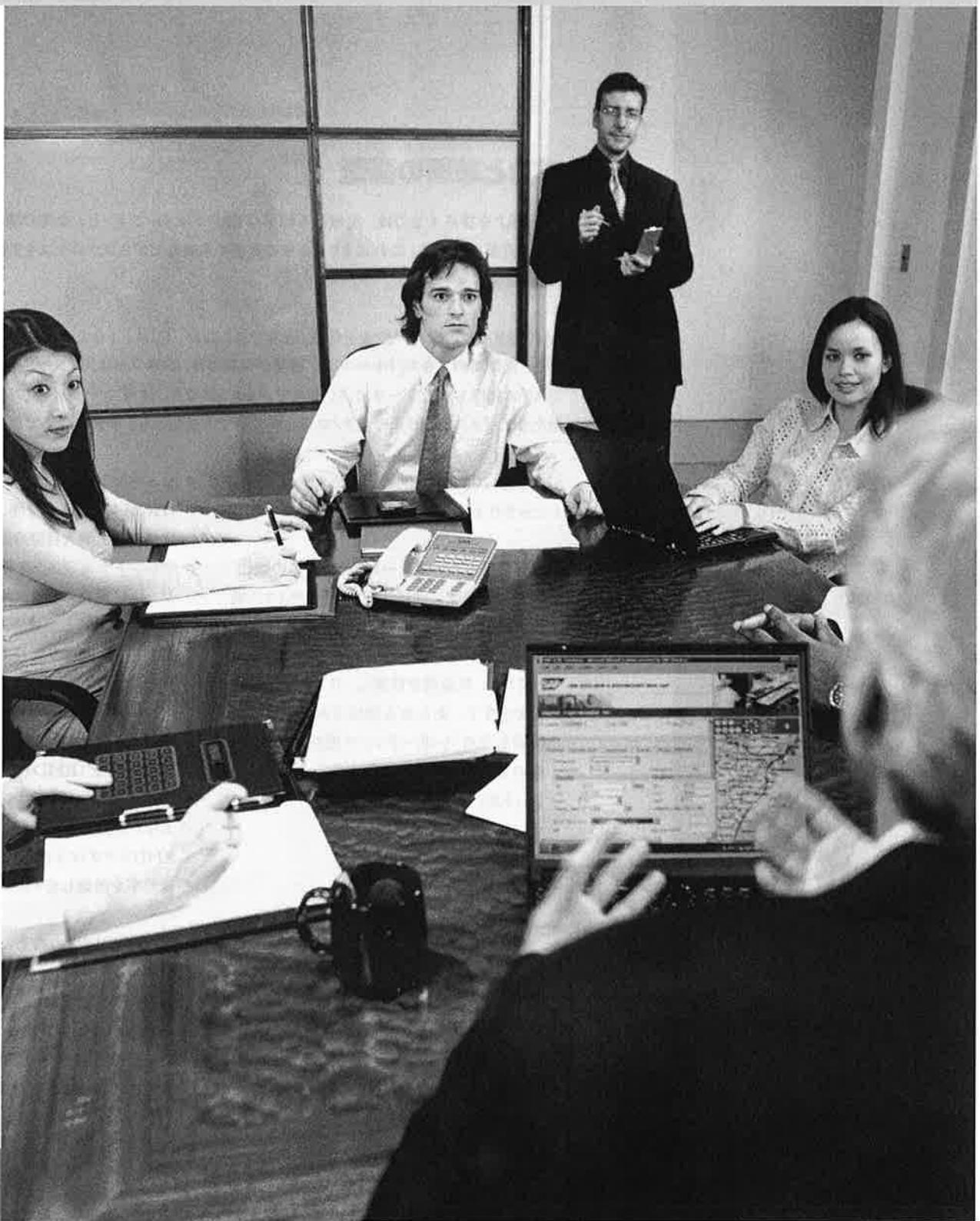
SAP ERPは、あらゆる課題に対応するためのサポートを提供するとともに、SAP NetWeaver プラットフォームを基盤とする高度な統合機能を提供します。また広範な機能を提供するだけでなく、情報アクセスやレポート機能のパーソナライズに対応します。

さらに、業種や規模を問わず利用できるため、中堅企業や大企業、それぞれのビジネス要件に的確に対応します。SAP ERPは、顧客管理(CRM)、サプライ・チェーン・マネジメント(SCM)、サプライヤ・リレーションシップ・マネジメント(SRM)、プロダクト・ライフサイクル・マネジメント(PLM)といった基幹業務プロセスを十分にサポートして、企業の成長促進、革新性強化、プロセス改善の基盤を築きます。

## 効率性と生産性の強化

ビジネスの成長期において、企業のマネジメント層に無駄な時間は存在しません。ビジネスの成功と失敗は、ビジネスプロセスの質と効率性によって左右されるのです。しかし、質や効率性を高めるのは容易なことではありません。これを実現するためには、企業のビジネス戦略/計画と運営方針を連携させ、従業員の生産性を高め、さらには企業情報へのアクセス性を改善するなど、さまざまな作業を実施する必要があります。いかに適切なERPソリューションを選択するかが、今日の経済で勝ち抜けるかどうかを左右することになります。

SAP ERPの最新バージョンは、変化する市場環境にビジネスプロセスを適応させると同時に、今までにない方法で生産性を最大化します。30年以上におよぶSAPの豊富な経験から生まれたSAP ERPは、業種別のベストプラクティスに基づき、異種混在システム環境におけるさまざまなビジネスプロセスを包括的に統合します。SAP ERPが提供する豊富な機能、グローバルな順応性、柔軟な拡張オプションが、効率化、生産性の最大化、競争優位の維持を実現し、企業を成長に導きます。



本書の一部または全部を、SAP AG および SAP ジャパン(株)からの書面による事前の許可なしに、複製、翻訳、検索システムへの格納あるいは伝達することを、電子的、機械的、 фотコピー、錄音などを含むその形態もしくは手段を問わず、禁じます。

本書は、SAP AG および SAP ジャパン(株)により明示的な同意がある場合のみ使用することができます。

本書の一部または全部を用いて、その形態もしくは手段ならびに有償無償の如何、社内外等その対象を問わず、教育等に使用することを禁じます。

本書は著作権法およびその他の知的財産に関する法令により保護の対象となる著作物です。



## 成功と革新の基盤

SAP ERPを構成するのは、実績ある堅牢なERPソリューションと、企業の境界を越えて活用できる拡張機能です。これにより、企業の資産や主要なビジネスプロセスを的確に管理できるようになります。

SAP ERPでは、既存の投資を保護/活用できるため、ITコストをより効果的に管理できます。また、従業員のスキル/トレーニング開発が促進され、レガシーシステムやSAP以外のソフトウェアシステムに埋もれたデータにアクセスできるようになり、運用コストをさらに削減できます。また、新たなビジネスナリオやテクノロジーが要請する変化にも、十分に対応できるようになります。

SAP ERPにより、以下のようなメリットがもたらされます。

■ 財務管理とコーポレートガバナンスの強化  
管理会計機能にはビジネスアナリティクス機能が搭載されているため、組織や組織内の各領域をマネージャが正確に理解できるようになり、収益性を改善し、リスク管理を強化できます。あらゆる領域を対象とした包括的な分析/レポーティング機能により、情報の可視性とアクセス性が向上し、コーポレートガバナンスを強化できます。

■ ヒューマン・キャピタル・マネジメント  
(HCM:人的資本管理)の強化、  
全体目標と個人目標の連携

タレントマネジメント機能により、マネージャは従業員の目標、方針、トレーニング計画を企業戦略と連携させ、各従業員がどのように価値創造や収益向上に貢献しているか理解できるようになります。

■ モバイルテクノロジー/  
無線ICタグ(RFID)のサポート強化

モバイルソリューションのサポート強化によって従業員の生産性を向上するとともに、RFIDとタグ付与技術のサポートによって業務効率を改善します。

■ ユーザビリティの向上

ロール(役割)ベースのアプリケーション設計を持つSAP ERPでは、必要な情報が組織内の適切な従業員に提供されるため、市場の変化や競争上の課題に効率的かつ積極的に対応できるようになります。

#### ■ アドオンソリューションの増加

SAP ERPでは、SAPの全アプリケーションと同じ品質基準が適用されたSAP® xApps™コンポジットアプリケーション群を追加して、機能やビジネスプロセスを拡張できます。企業は、SAP xApps、または、ソフトウェアパートナーが提供するコンポジットアプリケーションを選択できます。

#### ・コラボレーションの強化

SAP ERPは、ビジネスプロセスの対象範囲を大幅に拡大することにより、顧客、サプライヤ、パートナーなど、社内外を問わずより多くの人々とリアルタイムで対話/接続できます。各ビジネスプロセスは統合された共通の形式で表示できるため、アクセスも簡単です。これによりビジネスプロセスの浸透とコラボレーション拡大が促進されます。

- ビジネスに対する洞察力と透明性の向上

SAP ERPは、アナリティクス、ビジネスインテリジェンス、業績管理の主な機能を組み合わせ、ビジネスチャンスの迅速な特定と、ビジネスにおける包括的な戦略連携を支援します。さらに、企業情報へのアクセスが簡素化され、戦略/運用ダッシュボードをスムーズに設計/導入できるようになります。

## ■ 拡張性の強化

SAP ERPは、ビジネスニーズの進化に合わせ、CRM、SCM、PLM、その他の機能を最適に組み合わせ、拡張することが可能です。

#### ■ 総合コストの削減

オープンな統合アプリケーションプラットフォームSAP NetWeaverにより、ビジネス要件への迅速な対応と、総所有コスト(TCO)の大大幅な削減が実現します。SAP ERPでは、企業規模にかかわらず、SAPのアプリケーションとSAP以外のソフトウェアに対する既存の投資を保護/活用でき、必要なコンポーネントのみを導入できるため、ITコストを削減できます。



## 全社規模のプロセス最適化を実現する、 SAP ERPの機能



■ ロールベースのセルフサービスで情報とサービスにアクセスできるため、従業員への権限委譲が促進され、生産性と効率性が向上する。

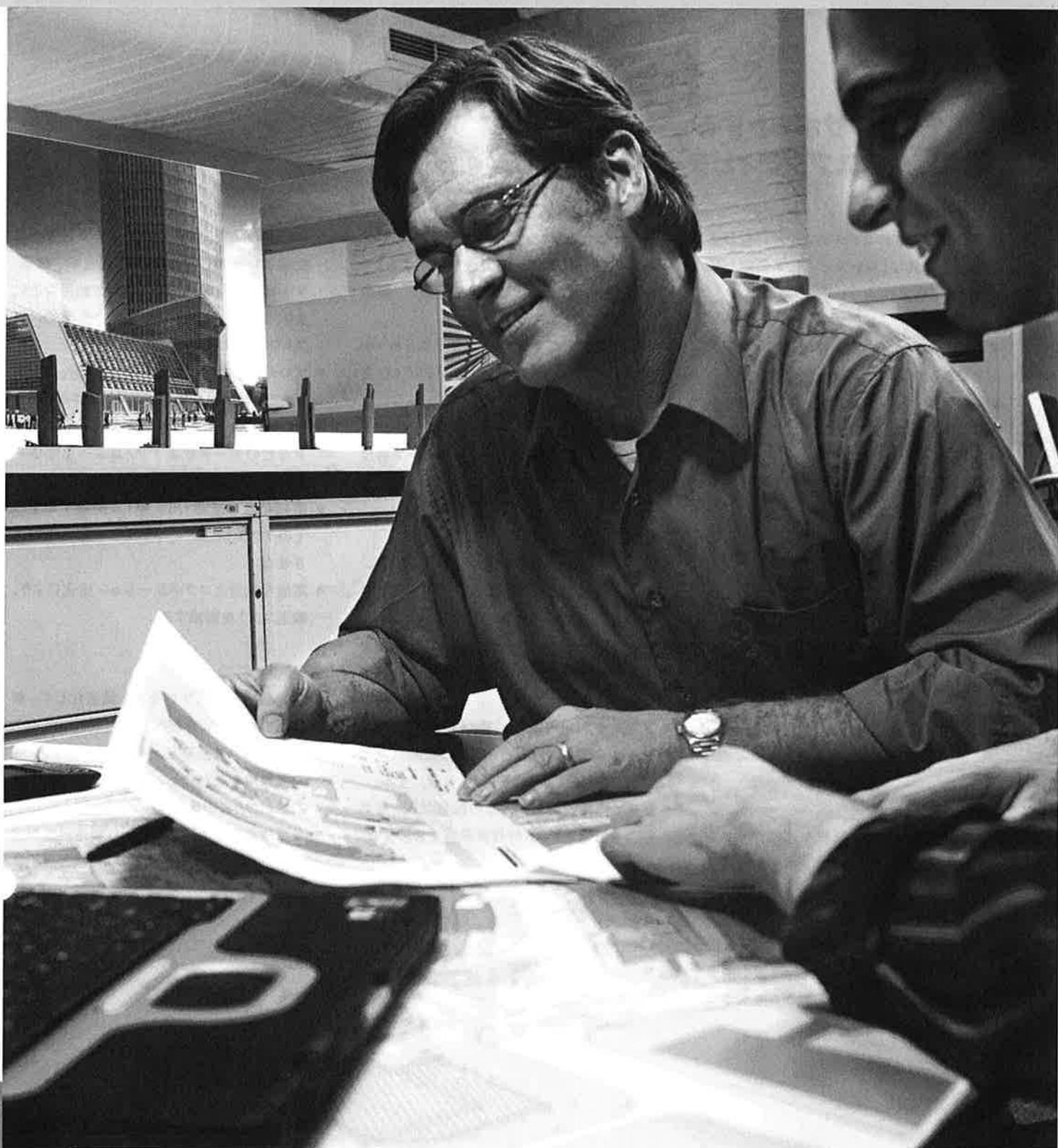
- 業績管理機能により、ビジネスパフォーマンス評価や、運用、人事、財務に対する企業/個人レベルでの分析が可能になるため、運用上/戦略上必要なビジネスインサイト(洞察力)が得られる。
- ファイナンシャルズにより、企業の財務機能を管理できるだけでなく、厳格な規制要件を遵守するためのサポートも提供される。
- HCMが、従業員の収益能力を最大化するとともに、タレントマネジメント、要員計画、コア人事業務をサポートする。
- 包括的な調達/物流管理サポートにより、低コストを維持し、顧客サービスを向上できる。

- 製品開発/製造プロセスのサポートにより、製品化までの期間を短縮し、適切なタイミングで適切な製品を提供できるようになる。
- 販売/サービス支援機能により、受注の内容を質/量ともに強化して、管理コストを削減する。
- コーポレートサービスにより、不動産、プロジェクトポートフォリオ、経費、環境・衛生・安全、品質などを管理する集中管理サービスと個別管理サービスが最適化される。

「このアップグレードは、当社がSAP ERPの価値を高め、ビジネスプロセスをさらに生産的、革新的なものにしていくための第1段階となります。アップグレードは、簡単、迅速、かつコスト効率良く完了し、業務の中止も最小限で済みました」

NOVA Chemicals社、CIO、John Wheeler氏

... 最適な機能で実現する



本書の一部または全部を、SAP AG および SAP ジャパン(株)からの書面による事前の許可なしに、複製、翻訳、検索システムへの格納あるいは  
伝達することを、電子的、機械的、フォトコピー、録音などを含むその形態もしくは手段を問わず、禁じます。  
本書は、SAP AG および SAP ジャパン(株)により明示的な同意がある場合のみ使用することができます。  
本書の一部または全部を用いて、その形態もしくは手段ならびに有償無償の如何、社内外等その対象を問わず、教育等に使用することを禁じます。  
本書は著作権法およびその他の知的財産に関する法令により保護の対象となる著作物です。

## SAP ERPがサポートする 主要なビジネスアクティビティ

### セルフサービス

- 従業員それぞれのビジネスロールに合わせた情報を提供し、ロールごとに革新的なサポートを実現する。
- HCM、ファイナンシャルズ、オペレーションズ、アナリティクスの関連情報に簡単にアクセスできるようになるため、従業員とマネージャのモチベーション、生産性、効率性を大幅に高めることができる。



### 業績管理

- パーソナライズされた指標や基準がリアルタイムに提供されるため、ビジネスの実情を把握し、生産性を改善できる。
- 企業の経営者層、マネージャ、ビジネスワーカーが、ビジネスタスクのコンテキストに即したかたちで、ビジネスの統計情報や主要業績指標 (KPI) などの情報にアクセスできるようになる。

### ファイナンシャルズ

- コンプライアンスを徹底するとともに、ビジネスパフォーマンスの予見性を実現する。
- 企業全体の詳細な財務情報を把握し、財務管理を厳格化する。
- 財務会計、管理会計、ファイナンシャル・サプライ・チェーン・マネジメント (FSCM) を自動化する。
- 財務報告と、Sarbanes-Oxley (SOX) 法や Basel II などのコーポレートガバナンス要件を、正確にサポートする。

### HCM

- 適切な人材を獲得して能力を開発/活用し、その取り組みと企業目標とを連携させ、優秀な人材を定着させる。
- 人事業務の標準化/自動化により効率性を高め、変化する海外/国内法規制への準拠を支援する。
- スキルや利用可能性に基づくプロジェクトチームの構築、プロジェクトの進捗状況の監視、時間追跡、結果分析を可能にする。
- 業績、従業員の傾向とその配置状況、要員計画を分析して、人材投資業務を管理する。

### 調達と物流管理

- 供給元の決定、購買依頼から購買発注への変換といった日常業務の自動化や、製品/サービス発注時の電子カタログ利用などにより、あらゆる支出カテゴリで長期的にコストを削減する。
- プロセス自動化、サプライヤの統合、コラボレーション強化を通じてコストを削減する。
- クロスドッキングプロセスと RFID/バーコードなどのデータ収集テクノロジーをサポートして、リソースの利用率を高める。
- 棚卸在庫の移動（出入庫）に関するすべてのアクティビティについて、生産性を向上させる。
- 高度な統合とコラボレーション強化により、輸送コストを削減する。

### 製品開発/製造

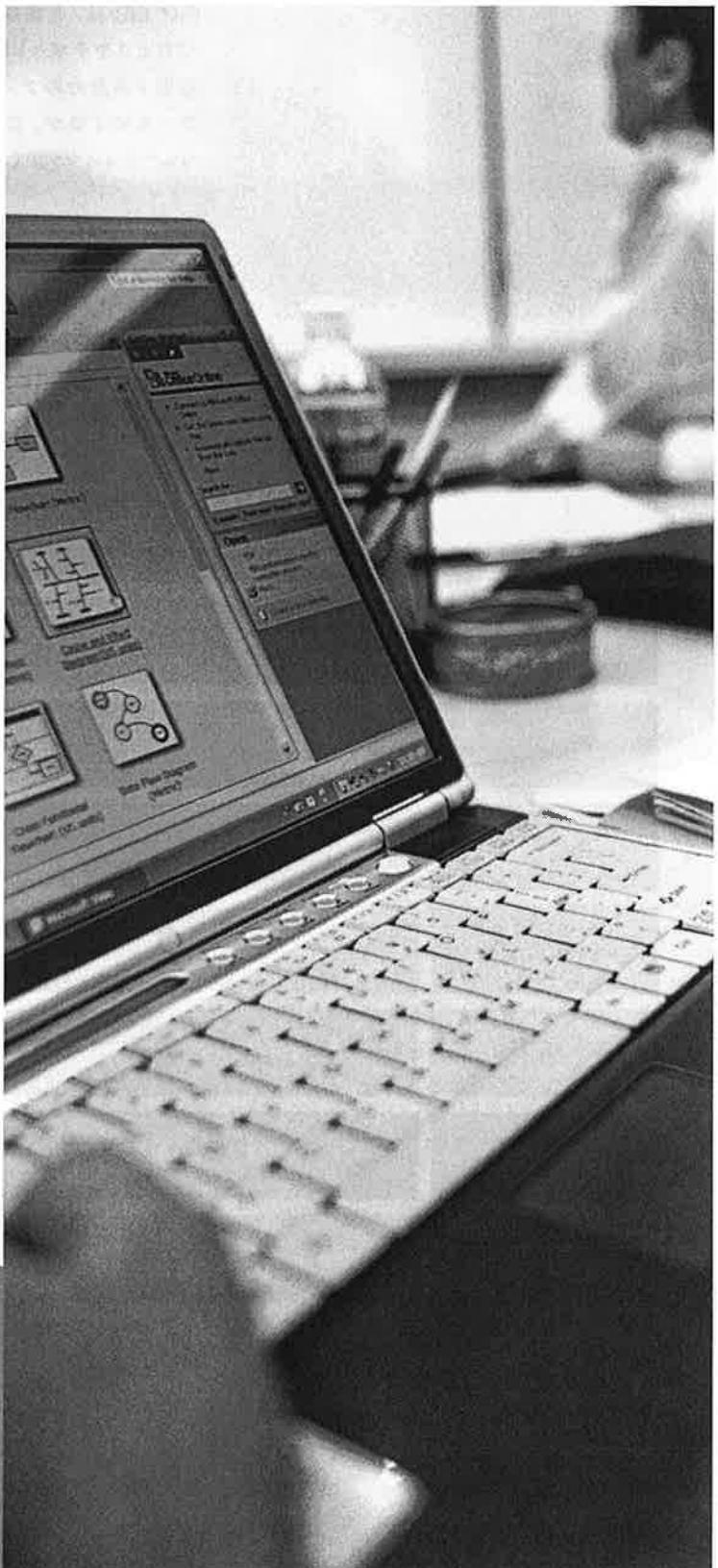
- 新製品開発導入プロセスを簡素化して、製品化までの時間を短縮する。
- 製造現場の計画策定、スケジューリング、優先度設定を最適化し、高品質な製品を受注内容どおりに出荷する。
- 在庫確認やコスト計算を含む製造現場の全プロセスに、リアルタイムの可視性と透明性を実現する。

## 販売/サービス

- 受注管理の自動化や、収益性の高いインターネットベースのソリューション（電子商取引など）を使用して、受注処理件数を増やし、管理コストを削減する。
- 正確でタイムリーな情報への簡易なアクセスを提供して、顧客満足度を向上する。
- プロセスを簡素化し、現場担当者に低コストのモバイルアクセスを提供する。  
インセンティブ/手数料管理を強化し、生産性を最大化するとともに販売件数を伸ばす。

## コーポレートサービス

- 計画、予約、経費計算をオンライン化して従業員経費を削減すると同時に、あらゆるプロセスへの企業ポリシー適用を徹底する。
- 不動産ライフサイクルの各段階を合理化/管理するツールにより、効果的な不動産管理を実現する。
- 環境・衛生・安全に関する報告要件を遵守する。



本書の一部または全部を、SAP AG および SAP ジャパン(株)からの書面による事前の許可なしに、複製、翻訳、検索システムへの格納あるいは伝達することを、電子的、機械的、フットコピー、録音などを含むその形態もしくは手段を問わず、禁じます。  
本著は、SAP AG および SAP ジャパン(株)により開示的な同意がある場合のみ使用することができます。  
本書の一部または全部を用いて、その抄写もしくは手写ならびに有償無償の如何、社内外等との対象を問わず、教育等に使用することを禁じます。  
本書は著作権法およびその他の知的財産権に関する法律に上づく限りの対象となる著作物です。

## SAP ERPソリューションマップ： ビジネスバリュー最大化に向けて

SAP ERPは、企業の最も重要なビジネスプロセスをサポートし、各プロセスの機能を理解するためのツールを提供します。そのツールの1つが、このページで紹介するソリューションマップです。

ソリューションマップは、ユーザや業界アリストの声、および広範な導入経験/調査研究に基づくSAPの技術的な専門知識をもとに作成された、複数レベルから成るさまざまなプロセスのブループリントです。整合性、統合性、包括性を備えたITソリューションの具体化、

計画、導入を、ソリューションマップがサポートします。またこれにより、各プロセス(SAPのプロセスとパートナー企業がサポートするプロセスの両方)の対応状況を把握できます。つまり、ソリューションマップがあれば、さまざまなビジネスソリューションとそれらが実現する価値をすばやく理解することができます。SAP ERPソリューションマップは、以下のサイトでも提供しています。  
<http://www.sap.com/japan/solutions/businessmaps/>

| エンドユーザー・サービス・デリバリー |                          |                  |                  |                 |          |
|--------------------|--------------------------|------------------|------------------|-----------------|----------|
| アナリティクス            | 戦略的企業経営                  | ファイナンシャル アナリティクス | オペレーション アナリティクス  | ワークフォース アナリティクス |          |
| ファイナンシャルズ          | ファイナンシャル・サプライチェーン・マネジメント | 財務会計             | 管理会計             | コーポレートガバナンス     |          |
| ヒューマン・キャピタル・マネジメント | タレントマネジメント               | コア人事業務           | 要員計画             |                 |          |
| 調達と物流管理            | 調達                       | サプライヤ コラボレーション   | 在庫/倉庫管理          | 出庫/入庫管理         | 輸送管理     |
| 製品開発/製造            | 生産管理                     | 製造実行             | 製品開発             | ライフサイクルデータ管理    |          |
| 販売/サービス            | 受注管理                     | 補修部品販売/サービス      | プロフェッショナル サービス   | インセンティブ/手数料管理   |          |
| コーポレートサービス         | 不動産管理                    | 全社設備資産管理         | プロジェクト/ポートフォリオ管理 | 従業員経費管理         | 環境・衛生・安全 |
|                    |                          |                  |                  |                 | 品質管理     |
|                    |                          |                  |                  |                 | 国際貿易サービス |

図:SAP ERPソリューションマップ

## SAP:信頼できるビジネスパートナーとして

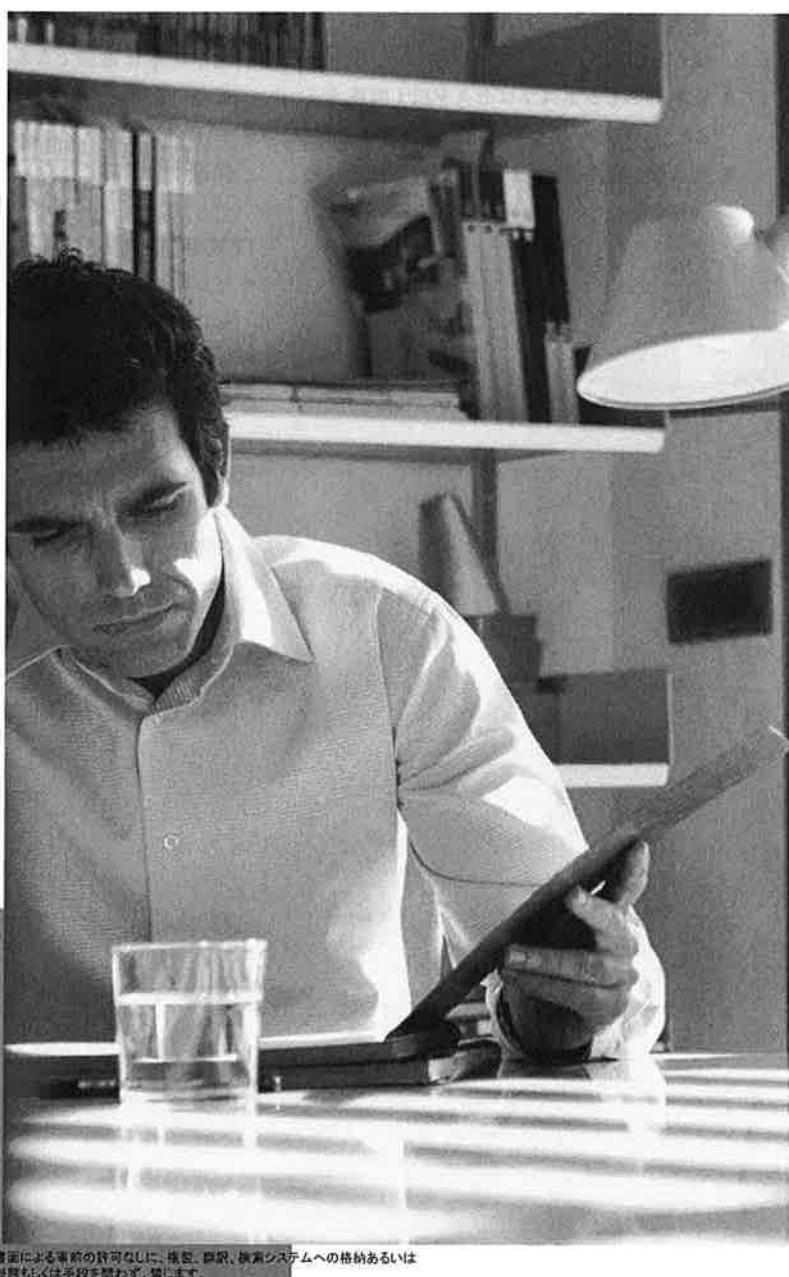
SAPは、30年以上にわたるERP分野の経験を生かして、全社規模のソリューションを模索する企業や現在のIT環境の標準化を求める企業に対して、企業とともに成長する独自のERPアプリケーションを開発してきました。現在、旧バージョンのSAPのソフトウェアや、他のERPアプリケーションを使用している場合でも、SAP ERPへの移行は容易です。これにより、ERPインフラストラクチャに新たなレベルのビジネス効率性と柔軟性が実現されます。

他のシステムとSAPのソリューションとの統合は、SAP NetWeaver プラットフォームによって、どのような場合でも容易に実行できます。SAP NetWeaverは複数のITシステムを相互接続するだけでなく、ユーザ、情報、ビジネスプロセスをテクノロジーや組織の境界を越えて連携させ、既存のITインフラストラクチャを活用します。

さらに、追加のソリューションや拡張機能の段階的な導入が可能になります。この漸進的なアプローチによって既存のIT投資が保護され、コストを大幅に削減できます。SAP ERPをモジュール型のビルディングブロックとして使用して、ソフトウェア、ベストプラクティス、サービスなどを組み合わせることも可能です。

SAP Servicesのサービスポートフォリオは、プロジェクトを効率的に完了し、投資回収を短期間で実現するための専門知識やアドバイスを提供します。SAP Servicesは、SAPのエンタープライズソリューションの導入、運用、拡張、アップグレードを支援するSAPのサービスグループをすべて含む、動的なネットワークです。何千もの導入事例の経験に基づいてビジネスプロセス・イノベーションを促進し、業務効率の大幅な向上を実現するSAP Services

を活用すれば、コンサルティング、教育、サポート、カスタム開発、ホスティング、ビジネスプロセス・アウトソーシングなど、業界で最も広く、また深い専門知識にアクセスできるようになります。SAPとパートナー企業が提供するこれらのサービスは、企業のビジネス要件に合わせてカスタマイズできます。このため、メリットを最大化し、TCO、業務の中止、リスクを最小限に抑えながら、SAP ERPにアップグレードすることができます。



## 確実な収益性向上に向けて

SAP ERPにより、あらゆる領域において優れた運用パフォーマンスを実現し、ニーズの変化に迅速かつコスト効率良く適応し、ビジネス分析能力を備えた生産性の高い広範なコミュニティを構築できるようになります。また、運用コストを削減でき、ビジネスの柔軟性も強化されるため、業種に特化したビジネス戦略を迅速に展開できます。

SAP ERPが実現する迅速な投資回収率(ROI)について、次に説明します。

### 広範なビジネスコミュニティにおける生産性と分析能力の強化

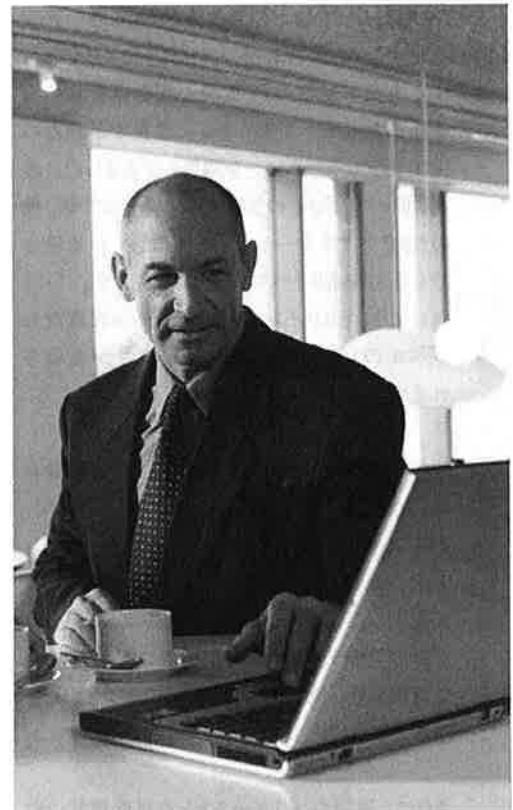
- 主要なビジネスプロセス組織全体で高度に管理し、生産性向上とコスト統制強化を実現する。
- 社内外のビジネスプロセスを広く網羅することで、業務効率や生産性を向上する。
- 効率性、市場の変化への対応力、競争力を強化する。

### 柔軟性の強化とコストの削減

- エンタープライズSOAにより、プロセスの標準化を促進し、効率性と順応性を向上させる。
- トランザクション、情報、コラボレーション機能に、広範なビジネスコミュニティのどこからでもアクセスできるようにする。
- ビジネスニーズの進化に対応するための機能を簡単に追加できるため、コスト削減が可能になる。
- SAPのソリューションに対する既存投資を保護/活用することで、ITコストを削減する。

### IT支出の最適化

- ビジネスプロセスを緊密に統合し最適化することで、統合コストの上昇を防ぐ。
- 広範囲かつ専門性の高い機能により、サードパーティ製のソフトウェアが不要になるため、設備投資を削減できる。
- SAP Business Suite ビジネスマルチベンダーによる柔軟なオプションによって製品を段階的に追加できるようになるため、キャッシュフローを改善し、借入金を削減できる。



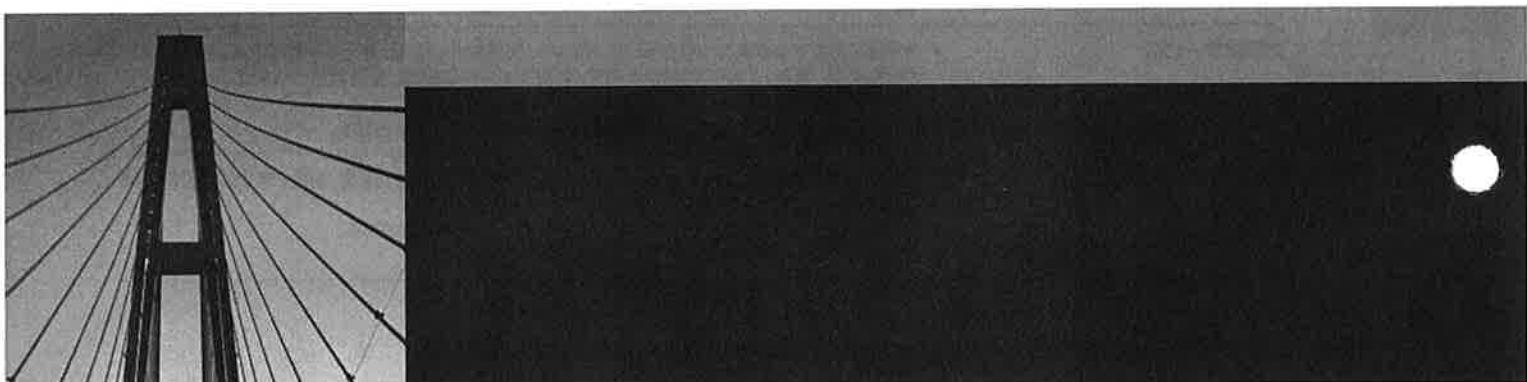
### 短期間で高いROIを実現

- 従来の半分以下のコストで済む迅速な導入技術が、短期間でROIを実現する。
- 初期値の事前設定や業種別バージョンのパッケージ提供によって、必要な機能に迅速にアクセスできる。
- 利用率を全社的に高めることができるため、既存のソフトウェア投資の価値が高まる。

| アクティビティ    | メリット   |
|------------|--|
| セルフサービス    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ マネージャや従業員に、関連機能への迅速かつパーソナライズされたアクセスを提供し、時間と手間を削減する。</li> <li>■ 革新的なロールベースのポータルによって、従業員の生産性を向上させる。</li> <li>■ ユーザビリティの強化と、関連情報への簡単なアクセスを提供する。</li> </ul>                           |
| 業績管理       | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ あらゆるビジネスプロセスを詳細に理解できるため、ビジネスの変化に対する応答性が向上し、意思決定のサポートが強化される。</li> <li>■ ビジネスオブジェクトと高度な分析機能、評価機能、KPI を関連付けることで、企業プロセスの計画、測定、統制機能が強化される。</li> </ul>                                  |
| ファイナンシャルズ  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 財務会計、管理会計、FSCM 機能が広く統合されるため、企業全体の詳細な財務情報を把握し、より効果的な財務統制を実現できる。</li> <li>■ コーポレートガバナンスの広範なサポートと財務報告の透明性実現により、コンプライアンス違反のリスクを削減する。</li> </ul>                                       |
| HCM        | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人事プロセスやベストプラクティスの標準化により、人事管理と法規制遵守を効率化できる。</li> <li>■ 従業員の生産性と定着率を高める。</li> <li>■ e-リクルーティング、e-ラーニング、セルフサービスなどを提供するため、従業員の意欲や満足度を向上できる。</li> </ul>                                |
| 調達と物流管理    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ セルフサービスによる依頼から柔軟な請求/支払処理まで、ビジネスサイクル全体でエンドツーエンドの調達サポートが提供されるため、あらゆる支出カテゴリーで長期的にコストを削減する。</li> <li>■ 倉庫管理、輸送管理、出庫/入庫管理に実績ある統合ロジスティクスソリューションを使用でき、サービスレベルの向上とコスト削減が実現される。</li> </ul> |
| 製品開発/製造    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 製品開発やライフサイクルデータ管理に包括的でコラボレーティブなソリューションを採用することで、革新技術を短時間で製品化できる。</li> <li>■ 全業種向けの包括的で実績ある製造ソリューションにより、生産計画や製造実行を製造現場システムと連携して行えるため、適切なタイミングで適切な製品を提供できる。</li> </ul>               |
| 販売/サービス    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全業種に対応する柔軟なソリューションにより、受注の内容を質/量ともに強化して、販売コストを削減する。また、収益につながる販売/対話チャネルの促進、受注管理の自動化、正確でタイムリーな情報提供による顧客満足度の向上を実現する。</li> <li>■ 社内資産用のサービスにより、稼働時間、生産量、生産性を向上させる。</li> </ul>          |
| コーポレートサービス | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 不動産管理、プロジェクトポートフォリオ管理、従業員経費管理、環境・衛生・安全などの各領域において、コーポレートサービスの管理コストを削減する。</li> <li>■ 透明性を向上し、手作業のデータ入力によるエラーを大幅に削減する。</li> <li>■ 企業ガイドラインや法規制への遵守を徹底する。</li> </ul>                  |

SAP ERP の詳細、および SAP ERP によって効率的で収益性の高い業務を実現する方法については、下記をご覧ください。

<http://www.sap.com/japan/solutions/erp/>



50081002J(SE06/11)

©2006 SAP AG. All rights reserved. SAP, R/3, SAP, SAP.com, xApp, xApp, SAP NetWeaver やび本書で引用されている SAP 標記およびサービス商標するに付ける SAP AG の商標または登録商標です。なお、本書に記載の製品、サービスの名前、商標は各社のものと看板にて、専門機関として、あるいは日本国外に製品仕様が変わった場合があります。SAP の製品、包括等の著作権は SAP AG やび SAP ジャパンに帰属します。また、本書で書及されている他の全ての製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

本書の一部または全部を、SAP AG やび SAP ジャパン(株)からの書面による事前の許可なしに、複製、翻訳、検索システムへの格納あるいは伝達することを、電子的、機械的、フォトコピー、録音などを含むその形態もしくは手段を問わず、禁じます。  
本書は、SAP AG やび SAP ジャパン(株)により明示的な同意がある場合のみ使用することができます。  
本書の一部または全部を用いて、その形態もしくは手段ならびに有償無償の如何、社内外等その対象を問わず、教育等に使用することを禁じます。  
本書は著作権法およびその他の知的財産に関する法令により保護の対象となる著作物です。

THE BEST-RUN BUSINESSES RUN SAP™



SAP ジャパン株式会社

本社 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル TEL 03-3273-3333 (代表)

<http://www.sap.com/japan/>

# エンドユーザ向けプロジェクトサポート

## SAP Productivity Composer by RWD

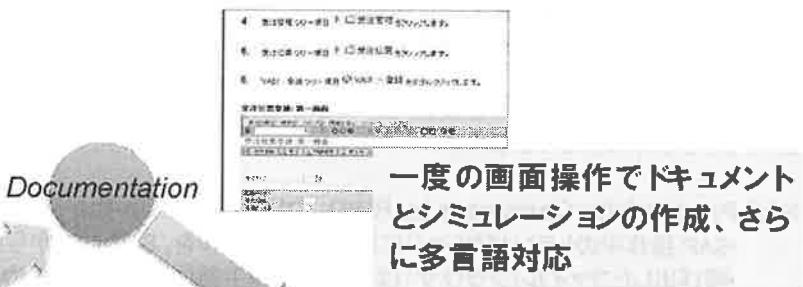
～個人のパフォーマンス向上とチームの成功、企業業績の向上をサポートする「企業内情報ナビゲーションの登場」

現代の知識集約型経済における企業の最大の資産は社員です。貴重な社員のパフォーマンスを最大化させるにあたって、必要な社内外の情報にどうアクセスし、その情報コンテンツをどう最新のものにアップデートしていくべきでしょうか。今日のビジネスにおいて、マーケットリーダーとそれ以外の企業との差は、結局のところ一人ひとりの社員のパフォーマンスを最大化できる仕組みを企業内に持っているかどうかで決定されてしまうのです。

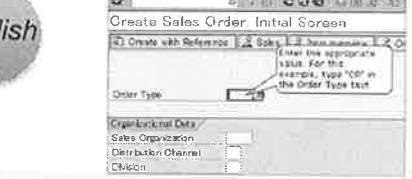
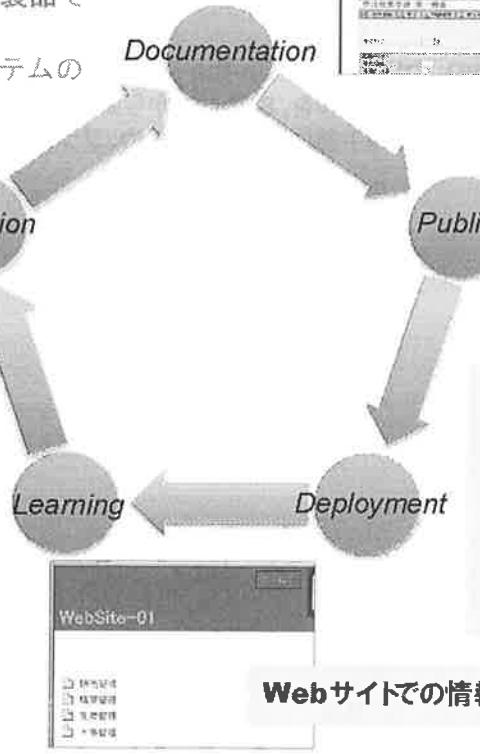
### SPC Value Cycle

SPCはユーザー教育と情報公開を最小限のコストで実現するために必要な機能を備えた製品です。

統一されたフォーマット、情報共有はシステムのユーザー定着を実現します。



### 実運用環境で最新のドキュメントをSAP画面から参照



- ドキュメント
- シミュレーション
- e-Learningコンテンツ
- オンライン参照

### Webサイトでの情報一元管理と公開

#### 企業を取り巻く環境1:社員にとって複雑で多様なビジネスアプリケーションの習得

企業は、業務向上のためにあらゆるビジネスアプリケーション(システム)に膨大な投資を行います。このようなビジネスアプリケーションがもたらす高効率化や顧客満足の向上およびその結果としての增收増益を実現するためには、実際にそれらを使うエンドユーザが社内に導入されているビジネスアプリケーションを効率的に活用し、所属部署別、職務役割別に適切な情報に常にアクセスできる環境、つまり継続的にエンドユーザのパフォーマンスをサポートする環境を構築し、維持していくことが求められます。

#### SAP Productivity Composer by RWD の機能1 ~ XMLベースのコンテンツ作成、管理、および公開

- ・一度の画面操作でドキュメントとシミュレーション(動画)の両方を記録可能
- ・シングルソースコンテンツのため、ドキュメント作成画面、またはシミュレーション作成画面を簡単に切り替え可能
- ・さまざまなフォーマット、およびファイル形式でドキュメントとシミュレーションを一括発行可能
- ・カスタムテンプレートの作成により、ドキュメントとシミュレーションのデザインを変更可能
- ・用語と用語に対する定義文を管理する用語集の作成機能を提供

#### 企業を取り巻く環境2:一貫性のあるビジネスプロセスの維持・徹底の実現

世界中で同じ方法・同じプロセスに則ってビジネスを進めていく、すなわちビジネスプロセスの一貫性を維持・徹底していくためには、同じ資料、同じ内容のトレーニング、さらには同じレベルのパフォーマンスサポートを受けられる環境を構築する必要があります。

## SAP Productivity Composer by RWD の機能2 ~ 多言語対応、e-Learning コースの作成

- ・作成したコンテンツで他言語変換設定を行うだけで、指定した言語で自動的にドキュメント、シミュレーション共にテンプレートテキストと画像が自動的に置換可能
- ・コンセプト、評価、ポップアップ、シミュレーションを組み込んだ e-Learning コースを作成可能
- ・スンシル(e-Learning 用テンプレート)を使用して、一貫性のあるレイアウトの e-Learning コースを作成可能
- ・Microsoft PowerPoint から e-Learning コースにコンテンツをインポート可能
- ・独立型の Flash ファイルを e-Learning コースにインポート可能
- ・e-Learning コースのストーリーボードを印刷可能
- ・LMS(ラーニングマネジメントシステム)への対応

## 企業を取り巻く環境3: 加速する人材の流動化への対応

新卒新入社員、他社からの転職社員、社内部署間異動社員等、人材の流動化はめまぐるしく加速する一方です。新規加入の新しいメンバーによる新しいアイディアによって新しいビジネスチャンスが生まれる一方で、こういった新しい社員を組織やチームに適応させ、また地理的にも分散している社員をトレーニングし、今までの社員も含め知識をアップデートさせ、結果として社員のパフォーマンスを最大化させなければなりません。

## SAP Productivity Composer by RWD の機能3 ~ On-the-job のパフォーマンスサポート

- ・SAP 操作中のトランザクションに関連したファイルを、SAP GUI から直接呼び出すオンラインヘルプ機能
- ・呼び出したファイル(ブラウザ)は常に画面の手前に表示されるため、ブラウザ画面を見ながらの操作が可能

---

2008年 8月 4日 版  
発行 SAPジャパン株式会社



## SAP 製品コンポーネント名称 一 正誤表



本テキストに於きまして、SAP 製品コンポーネントが古い名称のまま記載されているものが御座います。

下記 3 名称に於きましてコーステキストに記載されている際は、その名称を右側の現名称に置き換えて頂きます様、宜しく御願い致します。

| 旧名称(テキストに記載)   | 現名称   |
|--|---|
| SAP NW XI<br>(SAP NetWeaver Exchange Infrastructure) | SAP NW PI<br>(SAP NetWeaver Process Integration ) |
| SAP NW BI<br>(SAP NetWeaver Business Intelligence )  | SAP NW BW<br>(SAP NetWeaver Business Warehouse)   |
| eSOA<br>(Enterprise Service-Oriented Architecture)   | SOA<br>(Service-Oriented Architecture)            |



# SAP01E ご受講の皆様へ

## SAP Solution Manager e-ラーニングのご案内



この度は SAP オンラインレクチャーをご受講頂き、誠に有り難うございます。

認定試験では、「SAP Solution Manager」についての内容が含まれます。この SAP Solution Manager については、別途ご用意しております電子媒体で提供させて頂いており、認定試験の受験前に学習されることをお願いしております。追加費用は発生しませんので、下記の手順にて学習をお願い致します。

### 注意点

- コンテンツへのアクセスには、受講申込時にご用意頂きました“S-ID”を使用します。
  - S-ID やパスワードがご不明の方は、弊社 Web サイトの FAQ にございます手順で確認をお願い致します。  
SAP ジャバントレーニングセンター・FAQ ページ >> <http://www.sap.com/japan/services/education/faq.epx>
- S-ID およびアクセスについてのご質問は、弊社 Web サイトよりお問い合わせ下さい。
- 追加費用は発生しません。

### 確認手順

- 以下の Web サイト(SAP Service Marketplace)にアクセスします。

◦ <http://service.sap.com/solutionmanager>

- 画面左側のリンクから、「メディアライブラリー」をクリックします。

You are here:

- ▼ SAP Solution Managerとツール
  - ▶ SAP Solution Manager
  - ▶ SAP Support Infrastructure
  - ▶ SAP Test Data Migration Server
  - SAP Test Acceleration and Optimization
  - SAP IT Service Management
  - SAP Solution Manager Adapter for SAP Quality Center by HP
  - Process Scheduling adapter for SAP Solution Manager
  - SAP ProductivityPak by RWD adapter for SAP Solution Manager
  - サービスデスク xt
  - ▶ SAP Solution Support Enablement Package
  - ▶ メディアライブラリー
  - ▶ FAQ(よく寄せられるご質問)

### SAP Solution Managerとツール

#### SAP SOLUTION MANAGER およびツール

アプリケーションライフサイクル管理に必要な機能を提供するための重要な基盤となります。

アプリケーションライフサイクル管理では、多数の SAP ツールおよび非 SAP のツールが組み合わさって、さまざまな ALM アクティビティーで必要となる機能を備えています。

#### SAP Solution Manager

アプリケーションライフサイクル管理(ALM)プラットフォームである SAP Solution Manager は、ALM 機能を提供するだけでなく、さまざまなツールとの統合を実現するための重要な基盤となります。さらに、SAP Solution Manager は、お客様が SAP と締結するサポート契約の価値を最適化します。

#### その他の関連ツール

SAP Solution Manager 以外にも、SAP は ALM サービスをサポートするツールとして、サードパーティ製の ALM ツールを統合することもできます。

- さらに、「概要プレゼンテーション」をクリックして、「SAP ソリューションマネージャ入門」という行を確認します。
  - アイコンを右クリックして、「対象をファイルに保存」を選択することで、ローカル PC 上にダウンロードが可能です。

|   |
|---|
| • SAP Solution Manager Adapter for SAP Quality Center by HP   |
| • Process Scheduling adapter for SAP Solution Manager         |
| • SAP ProductivityPak by RWD adapter for SAP Solution Manager |
| • サービスデスク XT  |
| ▶ SAP Solution Support Enablement Package                     |
| ▼ メディアライブラリー  |
| • 概要プレゼンテーション   |
| • 記事  |
| • その他のドキュメント  |
| • 技術文書  |
| • How-To Documents  |
| • SAP ベストプラクティス   |
| • ニュースレターやウェブセミナー   |

| File Type | Title  | Lang. |
|-----------|--|-------|
|           | <a href="#">SAP E2E Integration Testing Overview</a>             | E     |
|           | <a href="#">SAP Solution Manager - Application Management</a>    | E     |
|           | <a href="#">SAP Solution Manager - Value Proposition</a>         | E     |
|           | <a href="#">SAP Solution Manager 7.0 SP15</a>                    | E     |
|           | <a href="#">SAP Solution Manager - シナリオ</a>                      | J     |
|           | <a href="#">SAP TAO Overview</a>                                 | E     |
|           | <a href="#">SAP ソリューションマネージャ概要(e-Learning)</a>                   | J     |
|           | <a href="#">SAPソリューションマネージャ - 概要</a>                             | J     |
|           | <a href="#">SAPソリューションマネージャ 入門</a>                               | J     |
|           | <a href="#">SAPソリューションマネージャエンタープライズエディション概要</a>                  | J     |
|           | <a href="#">Where to find PPT versions of the presentations?</a> | E     |
|           | <a href="#">Work Centers for SAP Solution Manager - Overview</a> | E     |
|           | <a href="#">何ができる？SAP Solution Manager Enterprise Edition</a>    | J     |

## お問い合わせ先

- アクセス方法について、その他ご質問は、SAP ジャパントレーニングセンター Web サイトよりお問い合わせください。
  - SAP トレーニングセンターホームページ: <http://www.sap.com/japan/services/education/>